

2018年度

社会健康医学系専攻シラバス

京都大学大学院医学研究科

平成 30 年度 京都大学アカデミックカレンダー

前期始まり	◇	4月1日(日)
年度当初調整期間	◇	4月2日(月)～6日(金)
入学式	◇	4月6日(金)
前期授業	◇	4月9日(月)～7月20日(金)
創立記念日	◇	6月18日(月)
前期授業・試験期間	◇	7月23日(月)～7月27日(金)
前期授業・フィードバック期間	◇	7月30日(月)～8月3日(金)
夏季休業	◇	8月4日(土)～9月30日(日)
前期終わり	◇	9月30日(日)
後期始まり	◇	10月1日(月)
後期授業	◇	10月1日(月)～1月22日(火)
11月祭	◇	11月下旬 授業休止(予定): 11月22日(木)・26日(月)
冬季休業	◇	12月29日(土)～1月3日(木)
後期授業・試験期間	◇	1月23日(水)～1月29日(火)
後期授業・フィードバック期間	◇	1月30日(水)～2月5日(火)
修士・博士学位授与式	◇	3月25日(月)
卒業式	◇	3月26日(火)
後期終わり	◇	3月31日(日)

注：調整期間は原則として次の内容を考慮する。

年度当初調整期間：ガイダンス等を行う。

※学部入試に伴う授業休止について

前期日程試験

準備日：平成31年2月22日(金)

試験日：平成31年2月25日(月)～27日(水)

◇目 次◇

社会健康医学系専攻について	1
社会健康医学系専攻専門職学位課程 全授業科目一覧表	5
専門職学位課程特別コース及び特別プログラムについて	
〈特別コース〉	
I. 臨床研究者養成 (MCR) コース	9
臨床研究者養成 (MCR) コース 授業科目一覧表	10
II. 遺伝カウンセラーコース	11
遺伝カウンセラーコース 授業科目一覧表	12
III. 臨床統計家育成 (CB) コース	13
臨床統計家育成コース 授業科目一覧表	14
〈特別プログラム〉	
I. 知的財産経営学プログラム	15
知的財産経営学プログラム 授業科目一覧表	16
II. 医療経営ヤングリーダー・プログラム	17
III. 産業毒性学管理者プログラム	17
IV. 医療統計専門職プログラム	18
V. ゲノムインフォマティクスプログラム	18
社会健康医学系専攻 前期時間割 全教科	21
社会健康医学系専攻 後期時間割 全教科	22
社会健康医学系専攻 授業科目内容	24
【MPHコア】	
疫学Ⅰ (疫学入門)	25
疫学Ⅱ (研究デザイン)	25
医療統計学	26
感染症疫学	26
産業・環境衛生学	27
医療制度・政策	27
社会健康医学と健康政策	27
医薬政策・行政	28
保健・医療の経済評価	28
世界における医療制度・政策	29
行動科学	29
基礎医療倫理学	30
医学コミュニケーション・基礎	30
【MPH必修】	
医学基礎Ⅰ	31
医学基礎Ⅱ	31
臨床医学概論	32
【MPH選択】	
社会疫学Ⅰ	32
医療統計学実習	33
観察研究の統計的方法	33

観察疫学研究	34
研究デザイン演習	34
文献検索法	35
文献評価法	35
ヘルスサイエンス研究の進め方	36
医療の質評価	36
中毒学入門	37
医療社会学・基礎	37
統計遺伝学Ⅰ	38
臨床試験	39
統計家の行動基準	39
健康デザイン論	40
英語論文の書き方	40
統計的推測の基礎	41
生存時間解析	41
統計モデルとその応用	42
行政医学・産業医学	42
遺伝医療と倫理・社会	43
基礎人類遺伝学	43
臨床遺伝学・遺伝カウンセリング	44
遺伝医学特論（集中講義）	44
社会疫学Ⅱ	45
環境・感染論	45
人間生態学	46
交絡調整の方法	46
解析計画実習	47
地域保健医療福祉論	47
国際保健学	47
中毒学	48
ベンチトレーニングコース	48
医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査	49
医薬品の開発と評価	49
医療倫理学各論	50
統計遺伝学Ⅱ	50
健康情報学Ⅰ	51
健康情報学Ⅱ	51
医学コミュニケーション演習	52
エビデンスユーザ入門	52
臨床試験の統計的方法	53
フィールドワーク	53
社会健康医学課外実習	54
【限定】	
医療経営特別カリキュラムⅠ	54
医療経営特別カリキュラムⅡ	55
医療経営ケーススタディ	55

臨床研究者養成（MCR）コース 授業科目内容	58
【MCR必修】	
臨床研究計画法Ⅰ	59
臨床研究計画法演習Ⅰ	59
医療技術の経済評価	60
臨床研究計画法Ⅱ	60
【MCR選択】	
臨床研究計画法演習Ⅱ	61
EBM・診療ガイドライン特論	61
臨床研究データ管理学	62
臨床研究特論Ⅰ	62
臨床研究特論Ⅱ	62
系統的レビュー	63
データ解析法特論	63
遺伝カウンセラーコース 授業科目内容	64
【GC必修】	
基礎人類遺伝学演習	65
臨床遺伝学演習	65
遺伝カウンセラーコミュニケーション概論	66
遺伝カウンセリング演習1	66
遺伝カウンセリング演習2	67
遺伝カウンセリング実習1	67
遺伝カウンセリング実習2	68
臨床統計家育成（CB）コース 授業科目内容	70
【CB必修】	
臨床研究実地研修Ⅰ	71
【CB選択】	
臨床統計家の実務スキル	71
知的財産経営学プログラム 授業科目内容	74
【知財必修】	
アントレプレナーシップ	75
メディカル分野技術経営学概論	75
特許法特論・演習（前期）	76
特許法特論・演習（後期）	77
契約実務演習	77
知的財産法演習	78
【知財選択】	
知的財産経営学 基礎	78
アントレプレナーシップ特論	79

FY 2018 Syllabi for Master Course	80
Mission and educational program of the Kyoto University School of Public Health	81
Curriculum for Master degree program in the fiscal year of FY2018	85
Epidemiology I	93
Epidemiology II	93
Fundamentals of Biostatistics	94
Infectious Disease Epidemiology	94
Occupational health and environmental health sciences	95
Healthcare System and Policy	95
Health Policy and Academia	96
Drug Policy and Regulation	96
Economic Evaluation in Health Care	97
Healthcare Systems and Policies around the World	97
Behavioral Science	98
Basic Medical Ethics	98
Medical Communication: Introduction	98
Basic Medicine I	99
Basic Medicine II	99
Introduction to Clinical Medicine	100
Socio-epidemiology I	100
Introduction to Statistical Computing and Data Management	101
Statistical Methods for Observational Studies	101
Observational Epidemiology	102
Practicum in Research Design	102
Literature Research	103
Critical Appraisal	103
Methods of Health Science Research	104
Evaluation of Quality in Health Care	104
Introduction to Toxicology	105
Medical Sociology	105
Statistical Genetics I	106
Clinical Trial	107
Statisticians Standard of Conducts	107
Designing Health communication	108
How to write papers in English	108
Fundamentals of Statistical Inference	109
Survival Analysis	109
Statistical Modeling and Applications	110
Medical Doctors in Government and Occupational Settings	110
Genetic Medicine, Ethics and Society	111
Introduction to Human Genetics	111
Clinical Genetics and Genetic Counseling	112
Special Seminar for Genetic Medicine	113
Socio-epidemiology II	113
Environment and Infection	114

Field Medicine	114
Intermediate Biostatistics	115
Health Data Processing Laboratory	115
Health, Medical and Welfare System	116
International Health	116
Toxicology	117
On the Bench Training Course	117
Development strategy, plan, and regulatory affairs of drugs and medical devices	118
Drug Development, Evaluation and Regulatory Sciences	118
Practicum for Clinical Genetics	119
Statistical Genetics II	119
Health informatics I	120
Health informatics II	121
Applied Medical Communication	121
Introduction to EBM: How to use evidence in your daily life	122
Statistical Methods in Clinical Trials	122
Fieldwork	123
Field Training for Public Health Practice	123
Healthcare management Special Curriculum I	123
Healthcare management Special Curriculum II	124
Case Studies in Healthcare Management	124
Seminar in Study Design I	125
Special Seminar in Study Design I	125
Economic Evaluation of Medical Technologies	126
Seminar in Study Design II	126
Special Seminar in Study Design II	127
Special Lectures on EBM and clinical practice guidelines	127
Data Management for Clinical Research	128
Clinical research advanced I	128
Clinical research advanced II	129
Systematic Reviews	129
Special Seminar of Data Analysis	129
Practical Skills for Clinical Biostatisticians	130
Clinical Research Training I	130
Entrepreneurship	131
Special Lecture and Practicum for the Patent Law I	132
Special lecture and practicum for the Patent Law II	133
Business Contract Practice	133
Practicum for Intellectual Properties Protection Law	134
Intellectual Property Management in Medical Science	134
Special Lecture for Entrepreneurship	135

平成30年度人間健康科学系専攻科目及び他部局開講科目（公共政策大学院科目）における 社会健康医学系専攻学生の受講について	136
博士課程教育リーディングプログラム（安全安心）	
「グローバル生存学大学院連携プログラム」 授業科目	138
リスク学通論	139
科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業	
「公共圏における科学技術・教育研究拠点」	
教育プログラム 授業科目	140
現代社会と科学技術	141
現代社会と科学技術入門	141
科学技術イノベーション政策総合演習	142
研究プロジェクト	142
政策のための研究方法論（政策）	142
「医療政策のELSI」〔ELSI イシュー科目群〕（政策）	143
科学技術コミュニケーション演習	143
「グローバルヘルス学際融合ユニット」教育プログラム 授業科目	144
社会起業とグローバルヘルス	145
グローバルヘルス通論	145
Social entrepreneurship and global health	147
Global health	147

◆社会健康医学系専攻について

(<http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/>)

1. 本専攻の概要

社会健康医学系専攻の使命は、医学・医療と社会・環境とのインターフェースを機軸とし以下の活動とその相互作用を通じて、人々の健康と福祉を向上させることである。

○教育 (Teaching)

社会健康医学に関わる実務、政策、研究、教育において専門的かつ指導的役割を身につける幅広い教育を行う。

○研究 (Research)

人々の健康に関わる経済、環境、行動、社会的要因についての知識を深め、新しい知識と技術を生み出す。

○成果の還元 (Translating Research into Practice and Policy)

その成果を健康・医療に関わる現実社会の実践方策と政策に還元する。

○専門的貢献 (Professional Practice)

専門の知識と技術を持って、個人・組織・地域・国・世界レベルで貢献する。

健康に関する問題は非常に広い範囲にわたっており、本専攻の教員、学生のテーマや専門性も多岐に渡っている。本専攻には、定量的評価に不可欠な疫学、統計に関する基礎領域から、ゲノムや環境とのかかわり、医療の質の評価や経済的評価、倫理的側面、社会への健康情報の発信、健康増進と行動変容、社会とエイズ、健康政策と国際社会との関わりなど、さまざまな教育・研究を推進する分野が設置されている。

2. 教育課程

本専攻は、専門職学位課程（実務者レベル）2年と博士後期課程（研究者、教育者レベル）3年に区分され、専門職学位課程は、さらに、基幹課程である2年制 MPH コースをはじめ、1年制 MPH コース、臨床研究者養成（MCR）コース（1年制）、遺伝カウンセラーコース（2年制）、臨床統計家育成コース（2年制）を含めて5コースに分かれている。

教育内容として、下記のコア5領域が定められており、これらの領域を構成する科目を、必修（コア領域1、2）、選択必修（コア領域3、4、5）と指定している。いずれのコースでも5領域から最低1科目（コア領域1は2科目）の履修を必要とする。

区分		科目コード	科目名	責任者	単位	備考
MPH コア 5領域	コア領域1	H118000	疫学Ⅰ（疫学入門）	中山	1	必修
		H119000	疫学Ⅱ（研究デザイン）	福原	1	必修
	コア領域2	H001000	医療統計学	佐藤	2	必修
	コア領域3	H070000	感染症疫学	木原	1	
		H124000	産業・環境衛生学	原田	1	
	コア領域4	H125000	医療制度・政策	今中	1	
		H128000	世界における医療制度・政策	今中	1	
		H126000	保健・医療の経済評価	今中	1	MCR コース 受講不可
		H127000	社会健康医学と健康政策	健康政策の 運営委員会	2	
	コア領域5	H109000	医薬政策・行政	川上	1	後期
		H075000	行動科学	渡辺	1	
		H076000	基礎医療倫理学	小杉	1	
			H077000	医学コミュニケーション基礎	岩隈	1

※平成29年度以前開講科目の科目変更については、「(別表) 科目変更対応表」を確認すること。

医学研究科人間健康科学系専攻、公共政策大学院、経営管理大学院、法学研究科、アジア・アフリカ地域研究研究科、工学研究科、「グローバル生存学大学院連携プログラム」、「政策のための科学プログラム」の予め定められた科目の履修・単位取得が可能。ただし、修了に必要な単位とはならない。具体的にはシラバス巻末およびホームページを参照。

URL: <http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/syllabus.html>

(1) 専門職学位課程

専門職学位課程に2年以上(2年制コース)もしくは1年以上(1年制コース)在学し、下記の30単位以上を修得し、本専攻が定める教育課程を修了することが「社会健康医学修士(専門職)」取得の要件である。

なお、1年間に履修科目として登録することができる単位数の上限は、原則42単位とする。ただし、特別コース・特別プログラム(1年制MPHコース、臨床研究者養成(MCR)コース、遺伝カウンセラーコース、臨床統計家育成コース、知的財産経営学プログラム)の履修者が、特別コース・特別プログラムにおける必修科目等を履修する場合は超過を認める。その他、やむを得ない事情により履修登録上限単位数を緩和する必要がある場合には、指導教員の申し出により超過を認めることがある。

[2年制MPHコース]

科目	「医療系」出身者*	「医療系」以外出身者
MPH コア 5 領域 (コア領域 1 - 5 のすべての領域を含む) (注1)	10	10
MPH 必修 (医学基礎 I・II、臨床医学概論) (注2)	—	6
課題研究	4	4
選択 (特別プログラムで指定されるものを含む)	16	10
計	30	30

※「医療系」出身者：医学部・看護学部・歯学部・薬学部(6年制)などの医療系学部の出身者

上記以外(生物系等学部、医療系の短期大学及び医療系の専門学校出身者)で「医療系」出身者として認定を希望する場合は、入学時に申請が必要である。

(注1) MPH コア科目を10単位を超えて取得した場合は、選択科目として算入する。

(注2) MPH 必修(医学基礎 I・II、臨床医学概論)を、「医療系」出身者の学生が取得した場合、学位取得に必要な30単位に算入することはできない。

課題研究：専門職学位課程共通。テーマ毎に、最も適切な研究室に配属し、研究アイデアから研究プロトコルの作成、データ収集と解析、結果の考察などを経験し、プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションを行う者は、プレゼンテーションを行う当該年度に修了見込みの者に限られる。

既修得単位の認定：他大学院における取得単位について、コア領域1～5に相当する科目を対象に最大10単位以内を既修得単位として認定する場合がある。認定を希望する場合は、入学時に申請が必要である。

[専門職学位課程特別コース・特別プログラム]

本専攻は、下記の特別コースを有する。これらの特別コースは入試枠が異なり、入学後にコース間の移動はできない。加えて、下記の如く、本専攻が修了を認める特別プログラムがある。

これらの詳細は、別途、「◇専門職学位課程特別コース及び特別プログラムについて」に後述する。

<特別コース>

1) 1年制MPHコース (1年で修了しうるが、修了要件は上記の2年制MPHコースと同じ。)

2) 臨床研究者養成(MCR)コース

3) 遺伝カウンセラーコース

4) 臨床統計家育成コース

<特別プログラム>

1) 知的財産経営学プログラム

2) 医療経営ヤングリーダー・プログラム

3) 産業毒性学管理者プログラム

4) 医療統計専門職プログラム

5) ゲノムインフォマティクスプログラム

(2) MPH-DrPH 課程について

出願資格：1) 修士相当の学位を有する者 あるいは、2) 医師・歯科医師の内、2年以上の臨床経験あるいは卒後臨床研修を修了した者。

上記出願資格1)、2)の条件を満たし、専門職学位課程に引き続き本専攻博士後期課程に進学を希望する者で、学部あるいは修士の履修成績、入学試験および専門職学位課程入学後の成績も優秀であり、意欲と能力のある者は、審査を受け、本専攻博士後期課程の受験資格を認定された場合、専門職学位課程の修了要件を満し、かつ上記の博士後期課程入学試験に合格することにより、1年次修了時点で博士後期課程に進学できる。

受験資格の認定を希望する者は、前期にコア科目8単位以上を取得(見込)したうえで、MPH-DrPH課程の願書、志望理由書、指導教員の推薦書(注)と、修士相当の者は、1) 修士学位の証明と修士および学部の成績、あるいは医師・歯科医師の者は、2) 臨床経験あるいは卒後臨床研修と在職証明書を添えて8月17日(金)までに教務課大学院教務掛に提出すること(認定を希望する者は、提出に先立ち、教務課大学院教務掛に事前に相談すること)。

本課程は、あくまで、博士後期課程への進学を前提としたものであり、進学しない場合は、1年次修了は無効となる。

(注) 課題研究に関する情報(課題名、プロトコール、進捗状況を示す資料等)は必須ではないが、推薦書に添付することができる。

(3) 博士後期課程

博士後期課程に3年以上在学し、研究指導を受け、下記の所定単位を修得し、博士論文の審査および試験に合格することが「博士(社会健康医学)」取得の要件である。なお、1年間に履修科目として登録することができる単位数の上限は、原則42単位とする。

科目		本専攻専門職学位課程修了者以外		本専攻専門職学位課程修了者
		「医療系」出身者※	「医療系」以外出身者	
博士課程セミナー		6	6	6
専門職学位課程 授業科目	MPH コア5領域 (コア領域1-5のすべての領域を含む)	7 (領域1と領域2は、それぞれ2単位)	7 (領域1と領域2は、それぞれ2単位)	—
	MPH 必修 (医学基礎 I・II、臨床医学概論)	—	6	—
計		13	19	6

※「医療系」出身者：医学部・看護学部・歯学部・薬学部(6年制)などの医療系学部の出身者

上記以外(生物系等学部、医療系の短期大学及び医療系の専門学校出身者)で「医療系」出身者として認定を希望する場合は、入学時に申請が必要である。

平成30年度 社会健康医学系専攻 専門職学位課程 全授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考	レベル
			前期	後期				
MPH コア 必修	H118000	領域1 疫学Ⅰ(疫学入門)	○*		中山教授	1		基礎
	H119000	領域1 疫学Ⅱ(研究デザイン)	○前詳		福原教授	1		基礎
	H001000	領域2 医療統計学	○		佐藤教授	2		基礎
MPH コア 選択 必修	H070000	領域3 感染症疫学	○後半		木原教授	1		基礎
	H124000	領域3 産業・環境衛生学	○前詳		原田准教授	1		基礎
	H125000	領域4 医療制度・政策	○後半		今中教授	1		基礎
	H127000	領域4 社会健康医学と健康政策	○		健康政策の運営委員会	2		基礎
	H109000	領域4 医薬政策・行政		○前詳	川上教授	1		中級
	H126000	領域4 保健・医療の経済評価	○前詳		今中教授	1	MCR コース生は 受講不可	中級
	H128000	領域4 世界における医療制度・政策	○後半		今中教授	1	non-Japanese OR TOEFL iBT≥100点相当	中級
	H075000	領域5 行動科学	○前詳		渡辺准教授	1		基礎
	H076000	領域5 基礎医療倫理学	○前詳		小杉教授	1		基礎
	H077000	領域5 医学コミュニケーション基礎	○前詳		岩隈准教授	1		基礎
MPH 必修	H006000	医学基礎Ⅰ	○		萩原講師	2	「医療系」以外 の出身者のみ必 修。(医療系は選 択)	基礎
	H007000	医学基礎Ⅱ		○	上嶋教授・細川講師	2		
	H008000	臨床医学概論		○	渡辺講師・千葉講師	2		
	(別表)	課題研究	2年次		所属分野の指導員	4		
MPH 選択	H009000	社会疫学Ⅰ	○		木原准教授	2		応用
	H011000	医療統計学実習	○		佐藤教授	2		中級
	H084000	観察研究の統計的方法	○*		佐藤教授	2		応用
	H122000	観察疫学研究	○後半		福原教授	1		基礎
	H123000	研究デザイン演習	○		福原教授	1		基礎
	H093000	文献検索法	○前詳		高橋准教授	1		基礎
	H094000	文献評価法	○後半		中山教授	1		基礎
	H115000	ヘルスサイエンス研究の進め方	○*		中山教授	1		基礎
	H129000	医療の質評価	○後半		今中教授	1		中級
	H014000	中毒学入門	○		原田准教授	2		基礎
	H103000	医療社会学・基礎	○後半		岩隈准教授	1		基礎
	S004000	統計遺伝学Ⅰ	○		山田教授	2		中級
	H112000	臨床試験	○		田中司朗教授	2		中級
	H134000	統計家の行動基準	○*		佐藤教授	1		応用
	H143000	健康デザイン論	通年・集中*		中山教授	1		応用
	H141000	英語論文の書き方	通年・集中		古川教授	1		応用
	H136000	統計的推測の基礎	○		佐藤教授	2		中級
	H137000	生存時間解析	集中		佐藤教授	1		応用
	H138000	統計モデルとその応用	集中		佐藤教授	1		応用
	H142000	行政医学・産業医学	集中		今中教授	2		応用
	M001000	アントレプレナーシップ	○		寺西教授	2		基礎
	M026000	メディカル分野技術経営学概論	○		山本講師	2		基礎
	M017000	知的財産経営学基礎	○		早乙女教授	2		基礎
	M021000	アントレプレナーシップ特論	集中		早乙女教授	2		応用
	M024000	特許法特論・演習(前期)	○		藤井講師	2		基礎
	N015000	遺伝医療と倫理・社会	○*		小杉教授	2		基礎
	H040000	基礎人類遺伝学	○		小杉教授	2		基礎
	N021000	臨床遺伝学・遺伝カウンセリング	○*		小杉教授	3		基礎
	N017000	遺伝医学特論(集中講義)	2年次		小杉教授	2		応用
	H019000	社会疫学Ⅱ		○	木原准教授	2		応用
	H088000	環境・感染論		○*	西淵教授	2		中級
	H020000	人間生態学		○	坂本准教授	2		基礎
	H021000	交絡調整の方法		○	佐藤教授	2		中級

区分	科目コード*	科目名	期間		主担当教員	単位	備考	レベル	
			前期	後期					
MPH 選択	H022000	解析計画実習		○	佐藤教授	2		応用	
	H133000	地域保健医療福祉論		○前半	里村准教授	2		基礎	
	H028000	国際保健学		○後半	里村准教授	2		基礎	
	H029000	中毒学		○	原田准教授	2		中級	
	H032000	ベンチトレーニングコース (On the Bench Training Course)		○	原田准教授	2		応用	
	H099000	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査		○	川上教授	2		応用	
	H079000	医薬品の開発と評価		○後半	川上教授	1		中級	
	M004000	契約実務演習		○	阿部教授	2		基礎	
	M007000	知的財産法演習		○	當麻講師	2		中級	
	M025000	特許法特論・演習 (後期)		○	田中順也講師	2		中級	
	M022000	ゲノム科学と医療		○	松田教授	2		応用	
	N018000	医療倫理学各論		○*	小杉教授	2		応用	
	S005000	統計遺伝学Ⅱ		○	山田教授	2		中級	
	H130000	健康情報学Ⅰ		○	中山教授	2		中級	
	H131000	健康情報学Ⅱ		○*	高橋准教授	1		中級	
	H098000	医学コミュニケーション演習		○	岩隈准教授	2		中級	
	H132000	エビデンスユーザ入門	通年*		古川教授	2		基礎	
	H135000	臨床試験の統計的方法		○後半	田中教授	1		応用	
	H063000	フィールドワーク	通年・集中*		長浜PRO支援委員会田原准教授	2		中級	
	H061000	社会健康医学課外実習	集中		所属分野の指導教員等	1-2	インターンシップ	-	
	Z201000	社会起業とグローバルヘルス		○	木原教授	2	グローバルヘルス学総合センター トータル組		
	Z203000	グローバルヘルス通論		○	木原教授	2	グローバルヘルス学総合センター トータル組		
	限定 科目	H082000	医療経営特別カリキュラムⅠ	集中		今中教授	2	医療経営や「リーダー・プログラム」 限定	応用
		H083000	医療経営特別カリキュラムⅡ		集中	今中教授	2		応用
		H053000	医療経営ケーススタディ	通年・集中		今中教授	2		応用
		K026000	臨床研究計画法Ⅰ	○		福原教授	1	MCR 限定必修	応用
K028000		臨床研究計画法演習Ⅰ	○		福原教授	1	MCR 限定必修	応用	
K030000		医療技術の経済評価	○		今中教授	1	MCR 限定必修	応用	
K027000		臨床研究計画法Ⅱ		○	福原教授	1	MCR 限定必修	応用	
K029000		臨床研究計画法演習Ⅱ		○	福原教授	1	MCR 限定選択	応用	
K020000		EBM・診療ガイドライン特論		○	中山教授	1	MCR 限定選択	応用	
K025000		臨床研究データ管理学		○前半	竹内准教授	1	MCR 限定選択・ CB 限定必修	応用	
K031000		臨床研究特論Ⅰ		○前半	川村教授	1	MCR 限定選択	応用	
K032000		臨床研究特論Ⅱ		○後半	石見教授	1	MCR 限定選択	応用	
K016000		系統的レビュー	通年*		渡辺准教授	2	MCR 限定選択	応用	
K033000		データ解析法特論	○後半		山本准教授	1	MCR 限定選択	中級	
N022000		基礎人類遺伝学演習		1年次	小杉教授	1	GC 限定	応用	
N006000		臨床遺伝学演習 (ロールプレイ演習)		1年次*	小杉教授	1	GC 限定	応用	
N020000		遺伝カウンセラーコミュニケーション概論	通年*		浦尾講師	3	GC 限定	基礎	
N007000		遺伝カウンセリング演習Ⅰ	1年次 (隔週)		小杉教授	2	GC 限定	基礎	
N008000		遺伝カウンセリング演習Ⅱ	2年次 (隔週)		小杉教授	2	GC 限定	応用	
N009000		遺伝カウンセリング実習Ⅰ	1年次		小杉教授	2	GC 限定	基礎	
N010000		遺伝カウンセリング実習Ⅱ	2年次		小杉教授	4	GC 限定	応用	
H139000		臨床統計家の実務スキル	集中		佐藤教授	1	CB 限定選択	基礎	
H140000		臨床研究実地研修Ⅰ	集中		田中教授	2	CB 限定必修	応用	

MCR＝臨床研究者養成コース、知財＝知的財産経営学プログラム、GC＝遺伝カウンセラーコース、CB＝臨床統計家育成コース

限定科目：該当する特別プログラムの者に限り履修可。

※平成29年度以前開講科目の科目変更については、「(別表) 科目変更対応表」を確認すること。

[期間] *マークは、開講日注意。 [レベル] 基礎：予備知識を必要としないレベル、中級：一定の予備知識や経験を求めるレベル、応用：社会での実践や研究へ応用できるレベル、空欄：各シラバス参照

(別表) 科目変更対応表

平成30年度開講科目		平成29年度以前開講科目
科目コード	科目名(新)	科目名(旧)
H124000	産業・環境衛生学(コア領域3)	環境衛生学(コア領域3)(平成27年度以前開講科目)
H126000	保健・医療の経済評価(コア領域4)	医療評価・経済評価(コア領域4)(平成27年度以前開講科目)
H129000	医療の質評価	
H125000	医療制度・政策(コア4領域)	医療政策・マネジメントI(コア領域4)(平成27年度以前開講科目)
H127000	社会健康医学と健康政策(コア4領域)	健康政策・行政管理学(コア領域4)(平成27年度以前開講科目)
H130000	健康情報学I	健康情報学(平成27年度以前開講科目)
H131000	健康情報学II	Eヘルス概論(平成27年度以前開講科目)
M026000	メディカル分野技術経営学概論	技術経営学概論(平成27年度以前開講科目)
H133000	地域保健医療福祉論	健康政策学(平成27年度以前開講科目)
H118000	疫学I(疫学入門)	疫学(平成26年度以前開講科目)
H119000	疫学II(研究デザイン)	
K026000	臨床研究計画法I	研究プロトコール作成マネジメント法I(平成26年度以前開講科目)
K027000	臨床研究計画法II	研究プロトコール作成マネジメント法II(平成26年度以前開講科目)
S004000	統計遺伝学I	ゲノム疫学のためのインフォマティクスI(平成24年度開講科目) オミックス統計学入門I(平成26年度開講科目) 統計遺伝学基礎I(平成27・29年度開講科目) 統計遺伝学I(平成28年度開講科目)
S005000	統計遺伝学II	ゲノム疫学のためのインフォマティクスII(平成24年度開講科目) オミックス統計学入門II(平成26年度開講科目) 統計遺伝学基礎II(平成27・29年度開講科目) 統計遺伝学II(平成28年度開講科目)
K020000	EBM・診療ガイドライン特論	EBM診療ガイドライン特論(平成29年度以前開講科目)

(別表) 課題研究及び博士課程セミナー科目コード

研究分野	科目コード		
	課題研究(専門職学位課程)	[MCR]	博士課程セミナー(博士後期課程)
医療統計学	I001000		J001000
医療疫学	I002000	L002000	J002000
薬剤疫学	I003000	L003000	J003000
ゲノム情報疫学	I004000		J004000
医療経済学	I005000	L005000	J005000
医療倫理学	I006000	L006000	J006000
健康情報学	I007000	L007000	J007000
医学コミュニケーション学	I016000		J016000
環境衛生学	I009000		J009000
健康増進・行動学	I010000	L010000	J010000
予防医療学	I011000	L011000	J011000
社会疫学	I012000		J012000
健康政策・国際保健学	I013000		J013000
環境生態学	I014000		J014000
人間生態学	I015000		J015000
知的財産経営学	M018000		
遺伝医療学(遺伝カウンセラー)	N901000		
臨床統計学	I017000		

◇専門職学位課程特別コース及び特別プログラムについて

<特別コース>

I. 臨床研究者養成 (MCR) コース

(<http://www.mcrkyoto-u.jp/>)

(1) 学習達成目標

- ① 臨床研究を支える種々の基本理論、知識、実践技術に習熟すること。
- ② 自分の臨床上の疑問に基づいた臨床研究を計画し、研究プロトコルの作成、研究の実施・マネジメント、得られたデータの基本的な解析処理、結果の解釈、論文にまとめる、などの一連の作業を独力でできる。
- ③ 自分の臨床研究の計画・実施・解析・解釈の過程で生じる疑問について、適切な時期に、適切な専門家に、適切な相談・照会ができる。

(2) 本コースのカリキュラムの特徴

- ① 集中的な授業・実習
本コースでは、臨床研究の基本（理論、知識、方法、実践）を1年間で体系的に学習できるよう全体のカリキュラムが構成されている。加えて、本コース推奨科目以外にも社会健康医学系専攻が提供する殆ど全ての科目を履修することができる。なお、学生が入学前に取得した科目があり、既修得単位として認められれば履修が免除される。
- ② 個別指導（メンタリング）の重視
本コースの学生には、入学時に1～2名の個別指導担当教員（メンター）を決定し、この担当教員が責任を持って担当学生の研究プロトコルの作成やデータの解析の指導、および実際の研究計画実施上の指導を行なう。研究の種類にもよるが、必要に応じて2名が指導教員となることもある。この個別指導は、本コース在学期間のみでなく、双方の合意のもとに、修了後も、研究実施、結果解析、論文作成まで継続的に行うことを念頭につくられている。指導教員の決定にあたっては、学生本人と本コース教員の間で協議を行ない決定する。
- ③ 修了時の課題研究発表と試問
本コース修了時に、全ての学生は、自分の臨床上の疑問に基づく臨床研究を完成させ（研究プロトコルも認める）、発表会で試問を受け、合格する必要がある。
なお専門職大学院のため、修士論文などは課さない。

(3) 修了要件

科目	単位数
MPH コア5領域（コア領域1－5のすべての領域を含む7単位以上*）およびMCR必修科目	16
選択科目	10
課題研究	4
計	30

*詳細は、「MCR コース授業科目一覧表」を参照。

平成28年度以降入学者は、上記を適用する。

照会先：臨床情報疫学分野および各担当分野

平成30年度 社会健康医学系専攻 臨床研究者養成（MCR）コース 授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考	
			前期	後期				
MCR 必修	K026000	★ 臨床研究計画法Ⅰ	○		福原教授	1	MCR 限定	
	K027000	★ 臨床研究計画法Ⅱ		○	福原教授	1	MCR 限定	
	K028000	★ 臨床研究計画法演習Ⅰ	○		福原教授	1	MCR 限定	
	H001000	医療統計学	○		佐藤教授	2	【コア領域2】	
	H118000	疫学Ⅰ（疫学入門）	○		中山教授	1	【コア領域1】	
	H119000	疫学Ⅱ（研究デザイン）	○		福原教授	1	【コア領域1】	
	H122000	観察疫学研究	○		福原教授	1		
	H123000	研究デザイン演習	○		福原教授	1		
	K030000	★ 医療技術の経済評価	○		今中教授	1	MCR 限定	
	H094000	文献評価法	○		中山教授	1		
	H112000	臨床試験	○		田中教授	2		
	-	コア領域3の科目を最低1単位*				1	【コア領域3】	
	-	コア領域4の科目を最低1単位**				1	【コア領域4】	
	-	コア領域5の科目を最低1単位***				1	【コア領域5】	
		L002000	課題研究：MCR（医療疫学）			通年 指導教員	4	指導教員が講義 する課題研究 を履修
		L003000	課題研究：MCR（薬剤疫学）					
	L005000	課題研究：MCR（医療経済学）						
	L006000	課題研究：MCR（医療倫理学）						
	L007000	課題研究：MCR（健康情報学）						
	L011000	課題研究：MCR（健康増進・行動学）						
	L010000	課題研究：MCR（予防医療学）						
MCR 推奨 選択	K016000	★ 系統的レビュー	通年†		渡辺准教授	2	MCR 限定選択	
	K033000	★ データ解析法特論	○後半		山本准教授	1	MCR 限定選択	
	K020000	★ EBM・診療ガイドライン特論		○	中山教授	1	MCR 限定選択	
	K029000	★ 臨床研究計画法演習Ⅱ		○	福原教授	1	MCR 限定選択	
	K025000	★ 臨床研究データ管理学		○	竹内准教授	1	MCR 限定選択・臨床統計家育成コース限定必修	
	K031000	★ 臨床研究特論Ⅰ		○	川村教授	1	MCR 限定選択	
	K032000	★ 臨床研究特論Ⅱ		○	石見教授	1	MCR 限定選択	
	H129000	医療の質評価	○		今中教授	1		
	H009000	社会疫学Ⅰ	○		木原准教授	2		
	H011000	医療統計学実習	○		佐藤教授	2		
	H076000	基礎医療倫理学	○		小杉教授	1	【コア領域5】	
	H075000	行動科学	○		渡辺准教授	1	【コア領域5】	
	H019000	社会疫学Ⅱ		○	木原准教授	2		
	H021000	交絡調整の方法		○	佐藤教授	2		
	H022000	解析計画実習		○	佐藤教授	2		
	H130000	健康情報学Ⅰ		○	中山教授	2		
	H109000	医薬政策・行政		○	川上教授	1	【コア領域4】	
	H079000	医薬品の開発と評価		○	川上教授	1		
	H099000	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査		○	川上教授	2		

★ MCR 限定科目は、MCR 専科生および受講生のみ受講可能である。聴講は不可。

*コア領域3の科目とは、感染症疫学（木原教授）および産業・環境衛生学（原田准教授）であり、修了要件としていずれかの科目から1以上の単位取得が必要。

**コア領域4の科目とは、社会健康医学と健康政策（健康政策の運営委員会）、医薬政策・行政（川上教授）、保健・医療の経済評価、医療制度・政策、世界における医療制度・政策（今中教授）であり、修了要件としていずれかの科目から1以上の単位取得が必要。

***コア領域5の科目とは、行動科学（渡辺准教授）、基礎医療倫理学（小杉教授）および医学コミュニケーション基礎（岩隈准教授）であり、修了要件としていずれかの科目から1以上の単位取得が必要。

†開講日注意

※上記以外のシラバスに掲載されている MPH 科目（他のコース等の限定科目を除く）を履修することができる（開講日時が同一の科目を同時に履修登録することは不可）。

II. 遺伝カウンセラーコース

(<http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/class-06.html>)

(1) 遺伝カウンセラーコースの概要

ゲノム・遺伝情報を利用した医療、遺伝薬理学情報に基づいたテーラーメイド医療に対応できる高度な専門的知識と技術ならびにコミュニケーション能力をもち、患者・家族の立場を理解して新医療とのインターフェースとなりうる人材を総合的に養成する。

(2) 遺伝カウンセラーコースの特徴

- ① 充実したスタッフ：この分野でトップレベルの多数の指導者が社会健康医学系専攻の教員とともに充実した専門教育を行う。
- ② 社会健康医学の幅広い素養：社会健康医学コア科目を履修する。修了時には、社会健康医学修士(専門職)(Master of Public Health; MPH)の学位が授けられる。
- ③ 充実した実習：現場での実習に特に重点を置いており、京都大学医学部附属病院遺伝子診療部などでの充実した実習が可能である。
- ④ 資格認定試験受験資格：遺伝カウンセラーコース：コース終了後、「認定遺伝カウンセラー」資格認定試験受験資格が得られる。

(3) 修了要件

科目	「医療系」 出身者**	「医療系」 以外出身者
MPH コア 5 領域 (コア領域 1 - 5 のすべての領域を含むこと)	7	7
医学基礎 I・II、臨床医学概論	—	6
遺伝カウンセラーコース必修	30	30
課題研究	4	4
合計	41	47

※「医療系」出身者：医学部・看護学部・歯学部・薬学部（6年制）などの医療系学部の出身者

上記以外（生物系等学部、医療系の短期大学及び医療系の専門学校出身者）で「医療系」出身者として認定を希望する場合は、入学時に申請が必要である。

平成 28 年度以降入学者は、上記を適用する。

(参考) 課題研究：

初年度の学習や実習経験に基づいて専門領域の発展にふさわしいテーマを見出し、テーマごとにもっとも適切な教員の指導のもと、遺伝医療および遺伝カウンセリングの臨床現場の質の向上に資するとともに、クライアントのQOLの改善につながるような研究を行い、とりまとめを行う。

照会先：遺伝医療学分野

平成30年度 社会健康医学系専攻 遺伝カウンセラーコース 授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考	
			前期	後期				
コア領域 1	H118000	疫学Ⅰ（疫学入門）	○		中山教授	1	必修	
	H119000	疫学Ⅱ（研究デザイン）	○		福原教授	1	必修	
コア領域 2	H001000	医療統計学	○		佐藤教授	2	必修	
コア領域 3	H070000	感染症疫学	○		木原教授	1	選択必修	
	H124000	産業・環境衛生学	○		原田准教授	1		
コア領域 4	H125000	医療制度・政策	○		今中教授	1	選択必修	
	H127000	社会健康医学と健康政策	○		健康政策の運営委員会	2	選択必修	
	H109000	医薬政策・行政		○	川上教授	1	選択必修	
コア領域 5	H075000	行動科学	○		渡辺准教授	1	推奨	
	H076000	基礎医療倫理学	○		小杉教授	1	GC 必修	
	H077000	医学コミュニケーション基礎	○		岩隈准教授	1	推奨	
MPH 必修	H006000	医学基礎Ⅰ	○		萩原講師	2	「医療系」以外の出身者のみ必修。	
	H007000	医学基礎Ⅱ		○	上嶋教授・細川講師	2		
	H008000	臨床医学概論		○	渡辺講師・千葉講師	2		
	N901000	課題研究（遺伝カウンセラー）	2年次		所属分野の指導教員	4		
GC 必修	H040000	基礎人類遺伝学	1年次		小杉教授	2		
	N015000	遺伝医療と倫理・社会	1年次		小杉教授	2		
	N021000	臨床遺伝学・遺伝カウンセリング	1年次		小杉教授	3		
	N022000	基礎人類遺伝学演習		1年次	小杉教授	1	GC 限定	
	N006000	臨床遺伝学演習（ロールプレイ演習）		1年次	小杉教授	1	GC 限定	
	N018000	医療倫理学各論		1年次	小杉教授	2		
	N017000	遺伝医学特論（集中講義）	2年次		小杉教授	2		
	N020000	遺伝カウンセラーコミュニケーション概論		1年次	浦尾講師	3	GC 限定	
	N007000	遺伝カウンセリング演習 1	1年次（隔週）		小杉教授	2	合同カンファレンス	
	N008000	遺伝カウンセリング演習 2	2年次（隔週）		小杉教授	2	合同カンファレンス	
	N009000	遺伝カウンセリング実習 1		1年次	小杉教授	2	GC 限定	
	N010000	遺伝カウンセリング実習 2		2年次	小杉教授	4	GC 限定	
	H093000	文献検索法	○		高橋准教授	1		
	H094000	文献評価法	○		中山教授	1		
	M022000	ゲノム科学と医療		1年次	松田教授	2		
	GC 推奨 選択	H009000	社会疫学Ⅰ	○		木原准教授	2	
		H019000	社会疫学Ⅱ		○	木原准教授	2	
S004000		統計遺伝学Ⅰ	○		山田教授	2	参考科目	
S005000		統計遺伝学Ⅱ		○	山田教授	2	参考科目	

※ GC = 遺伝カウンセラーコース

※平成29年度以前開講科目の科目変更については、「(別表) 科目変更対応表」を確認すること。

Ⅲ. 臨床統計家育成 (CB) コース

(<http://www.cbc.med.kyoto-u.ac.jp/>)

(1) 学習達成目標

- ① 臨床研究の科学的な質を保つために必要な統計学基礎および臨床統計学を修めること。特に「臨床試験のための統計的原則 (ICH E9 ガイドライン)」について十分に理解すること。
- ② 病院での臨床研究に関する実地研修を通じて、統計解析、データマネジメント等の実務を経験し、臨床統計家に求められる技術に習熟すること。
- ③ 臨床研究の倫理的な質を保つために必要な知識・態度を身に着けること。特に日本計量生物学会作成の「統計家の行動基準」について十分に理解すること。

(2) 本コースのカリキュラムの特徴

本コースは、臨床統計家の人材供給を求める日本の臨床研究現場からの強いニーズにより設置された2年制の専門職学位課程である。コース修了後は、臨床統計家育成コースを修了したことを証明する修了証とともに社会健康医学修士(専門職)が授与される。本コースでは、臨床統計家に必要な知識、技術、態度を2年間で体系的に学習できるように、臨床統計関連科目だけではなく、医学、疫学、研究倫理などから全体のカリキュラムが構成されている。これに加えて、臨床試験を実施している京都大学医学部附属病院・国立循環器病研究センターと連携し、on the job training による臨床研究に関する実地研修を提供する(1年次・2年次の夏季集中で行う臨床研究実地研修Ⅰ・Ⅱ)。この実務経験を通じて、計画立案、データマネジメント、解析等、臨床統計学の実践的な技術を学ぶことができる。また、本コース推奨科目以外にも社会健康医学系専攻が提供する多くの科目を履修することができる。

(3) 修了要件

科目	「医療系」 出身者**	「医療系」 以外出身者
MPH コア 5 領域 (コア領域 1 - 5 のすべての領域を含むこと)	10	10
医学基礎Ⅰ・Ⅱ、臨床医学概論	—	6
臨床統計家育成コース必修	19	19
課題研究	4	4
合計	33	39

※「医療系」出身者：医学部・看護学部・歯学部・薬学部(6年制)などの医療系学部の出身者

上記以外(生物系等学部、医療系の短期大学及び医療系の専門学校出身者)で「医療系」出身者として認定を希望する場合は、入学時に申請が必要である。

照会先：医療統計学分野および臨床統計学分野

平成30年度 社会健康医学系専攻 臨床統計家育成コース 授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考
			前期	後期			
コア領域 1	H118000	疫学Ⅰ（疫学入門）	○		中山教授	1	必修
	H119000	疫学Ⅱ（研究デザイン）	○		福原教授	1	必修
コア領域 2	H001000	医療統計学	○		佐藤教授	2	必修
コア領域 3	H070000	感染症疫学	○		木原教授	1	選択必修
	H124000	産業・環境衛生学	○		原田准教授	1	
コア領域 4	H125000	医療制度・政策	○		今中教授	1	選択必修
	H127000	社会健康医学と健康政策	○		健康政策の運営委員会	2	選択必修
	H109000	医薬政策・行政		○	川上教授	1	推奨
	H126000	保健・医療の経済評価	○		今中教授	1	推奨
	H128000	世界における医療制度・政策		○	今中教授	1	選択必修
コア領域 5	H075000	行動科学	○		渡辺准教授	1	選択必修
	H076000	基礎医療倫理学	○		小杉教授	1	選択必修
	H077000	医学コミュニケーション基礎	○		岩隈准教授	1	選択必修
MPH必修	H006000	医学基礎Ⅰ	○		萩原講師	2	「医療系」以外の出身者のみ必修。
	H007000	医学基礎Ⅱ		○	上嶋教授・細川講師	2	
	H008000	臨床医学概論		○	渡辺講師・千葉講師	2	
	I017000	課題研究（臨床統計学）	2年次		各指導教員	4	
CB必修	H136000	統計的推測の基礎	○		佐藤教授	2	
	H134000	統計家の行動基準	○		佐藤教授	1	
	H011000	医療統計学実習	○		佐藤教授	2	
	H112000	臨床試験	○		田中教授	2	
	H137000	生存時間解析	集中		佐藤教授	1	夏季集中講義
	H138000	統計モデルとその応用	集中		佐藤教授	1	夏季集中講義
	H021000	交絡調整の方法		○	佐藤教授	2	
	H022000	解析計画実習		○	佐藤教授	2	
	H135000	臨床試験の統計的手法		○	田中教授	1	
	K025000	臨床研究データ管理学		○	竹内准教授	1	MCR 限定選択・CB 限定必修
	H140000	臨床研究実地研修Ⅰ	集中		田中教授	2	夏季集中の病院での実地研修、CB 限定
		臨床研究実地研修Ⅱ	集中		田中教授	2	H30年度受講せず
CB 推奨 選択	H139000	臨床統計家の実務スキル	集中		佐藤教授	1	夏季集中講義
	H084000	観察研究の統計的方法	○		佐藤教授	2	
	H093000	文献検索法	○		高橋准教授	1	
	H094000	文献評価法	○		中山教授	1	
	H079000	医薬品の開発と評価		○	川上教授	1	
	H099000	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査		○	川上教授	2	
	M022000	ゲノム科学と医療		○	松田教授	2	
	H130000	健康情報学Ⅰ		○	中山教授	2	
H131000	健康情報学Ⅱ		○	高橋准教授	1		

※ CB = 臨床統計家育成コース

<特別プログラム>

I. 知的財産経営学プログラム

(1) 知的財産経営学プログラムの概要

大学の研究成果をもとに新規産業を興し経営するには、これまでの日本の企業風土で蓄積された企業文化、経営のノウハウとは異なるものが要求される。その一つが技術経営であり、特に知的財産を最大限に活用する知的財産戦略を担うディレクター（知的財産ディレクター）の仕事である。ここで期待される人材は、複数の異なるベクトルを持つ必要がある。

- ① 自然科学の分野において、医学研究科で先端医学領域の研究を実施している教員や産業界における探索・開発研究の経験が豊富な教員による講義により、トップレベルの科学的な知識とその活用にあたっての社会的受容性の知識を習得してもらう。
- ② 人文・社会健康医学系専攻科学の分野において、知的財産権 6 法やその他社会科学の基礎は、各専門分野により選ばれた教員の講義から知識を学ぶと共に、実業界でのキャリアを持つ講師（ベンチャーキャピタル分野）から、企業会計や知的財産の市場評価・流通の実務的なスキルと知識を学ぶ。
- ③ 上記により習得した知識をベースとして、実務経験を通じた知識の深化と、即戦力としての実務能力の養成を行う。具体的には、京都大学医学領域拠点業務との連携やエクスターンシップの実施も含めて、テーマ毎に適切な指導教員のもとで研究者とも連携し、研究成果の権利化と活用の実務を手伝う。実施項目としては、発明の抽出、周辺特許調査、明細書作成、ビジネスプラン作成、契約実務作業等を経験する。これらにより発明の開示から知的財産としての活用までの全体の流れを把握し、出願妥当性の判断に至る経緯の考察や産業界との連携における問題点と解決法に関する考察などのプレゼンテーションまで実際に経験させる。
これらにより専門職大学院として問題解決能力、実践・実務能力を身に付け、生命科学分野における知的財産経営、技術経営に関する高度な専門性を有する人材養成のための教育研究を行う。

(2) 修了要件

本プログラムの修了要件は、2年以上在学し、下記の 30 単位を修得し、本プログラムが定めるカリキュラムを修了することである。

	「医学部医学科」出身者	「医学部医学科」以外出身者
MPH コア 5 領域(コア領域 1-5 のすべての領域を含む)	7	7
知的財産領域必修	1 2	1 2
課題研究 (知的財産経営学)	4	4
医学領域選択必修	3 (学部取得単位の認定も一部可)	3
選択	4	4
計	3 0	3 0

(参考) 課題研究：テーマ毎に最も適切な指導教員のもとで、発明の抽出、特許調査、明細書作成、特許出願、ビジネスプラン作成、契約実務などを行い、プレゼンテーションまで実際に経験させる。

照会先：知的財産経営学分野

平成30年度 社会健康医学系専攻 知的財産経営学プログラム 授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考
			前期	後期			
コア領域1	H118000	疫学Ⅰ（疫学入門）	○		中山教授	1	必修
	H119000	疫学Ⅱ（研究デザイン）	○		福原教授	1	必修
コア領域2	H001000	医療統計学	○		佐藤教授	2	必修
コア領域3	H070000	感染症疫学	○		木原教授	1	選択必修
	H124000	産業・環境衛生学	○		原田准教授	1	
コア領域4	H125000	医療制度・政策	○		今中教授	1	
	H126000	保健・医療の経済評価	○		今中教授	1	
	H128000	世界における医療制度・政策	○		今中教授	1	
	H127000	社会健康医学と健康政策	○		健康政策の運営委員会	2	
コア領域5	H109000	医薬政策・行政		○	川上教授	1	
	H075000	行動科学	○		渡辺准教授	1	
	H076000	基礎医療倫理学	○		小杉教授	1	
MPH 必修	H077000	医学コミュニケーション基礎	○		岩隈准教授	1	
	H006000	医学基礎Ⅰ	○		萩原講師	2	「医療系」以外の出身者のみ必修。
	H007000	医学基礎Ⅱ		○	上嶋教授・細川講師	2	
H008000	臨床医学概論		○	渡辺講師・千葉講師	2		
M018000	課題研究（知的財産経営学）	2年次		各指導教員	4		
知的財産領域必修	M001000	アントレプレナーシップ	○		寺西教授	2	一部科目で集中講義や不規則開講の形式をとるものもあり。各シラバスなどを確認すること。
	M026000	メディカル分野技術経営学概論	○		山本講師	2	
	M024000	特許法特論・演習(前期)	○		藤井講師	2	
	M025000	特許法特論・演習(後期)		○	田中順也講師	2	
	M004000	契約実務演習		○	阿部教授	2	
	M007000	知的財産法演習		○	當麻講師	2	
医学領域	M008000	病理学総論 ^(医)	(春学期)		松田(道)教授	2	医学部医学科出身者は、「医薬品の開発と評価」は必修。他の科目は学部取得単位の認定も可能。その他の出身者の取得単位推奨科目は、下表参照。
	M009000	薬理学 ^(医)	(春学期)		渡邊(直)教授	2	
	M011000	生理学 ^(医)		(秋学期)	岩井教授	2	
	M027000	生化学 ^(医)	(春学期)		岩田教授	2	
	M013000	発生学 ^(医)		(秋学期)	篠原教授	2	
	N017000	遺伝医学特論（集中講義）	2年次		小杉教授	2	
	H079000	医薬品の開発と評価		○	川上教授	1	
選択	M017000	知的財産経営学基礎	○		早乙女教授	2	
	M021000	アントレプレナーシップ特論	集中		早乙女教授	2	夏期集中講義
	M022000	ゲノム科学と医療		○	松田(文)教授	2	

注1：^(医)は医学部医学科の科目

注2：選択科目にはこの他にも、経済学研究科、法学研究科の関連科目を個別に単位認定する可能性があるため、指導教員に確認すること。

※平成29年度以前開講科目の科目変更については、「(別表) 科目変更対応表」を確認すること。

※ 医学領域選択必修 出身別の単位取得推奨科目

○：取得すべき科目、△：できるだけ取得すべき科目

科目名	生命科学系出身者 ^(注)	その他の出身者
病理学総論	○	△
薬理学	○	△
生理学	△	△
生化学	△	△
発生学	△	△
医薬品の開発と評価	○	○
遺伝医学特論（集中講義）	△	△

(注) 生命科学系の学部学科の例：理学部生物学科・生化学科、薬学部、歯学部、医学部保健学科、獣医学部、農学部応用生命科学科・食品生物科学科・理工学部生命科学科・生物工学科など

II. 医療経営ヤングリーダー・プログラム

(1) 医療経営ヤングリーダー・プログラムの概要

医療経営ヤングリーダー・プログラムは、高度専門職である医療経営幹部候補生およびこの領域の将来のリーダーを育成するためのプログラムであり、財務、会計、経営分析、市場分析、組織論・組織行動、組織文化の把握、質保証・業務改善、情報システム、法と倫理、関連ビジネス、政策・制度などについて学び、新たな教材や教育方法の創造にも参加し、経営実力者の人格と出会い、現場に身を置いて演習、調査、ケーススタディ等を行う。

当プログラムは、面接、審査の上、経営の素養と意欲のある人材、各年若干名を対象に開講する。ケーススタディに加えて、プロジェクト形式で、経営実例に直結する調査、分析、支援活動などを進め、情報収集、分析、妥当な計画立案、説得力ある討議、環境適応、変革・創造、行動の力を高めるべく訓練を行う。これらを通じて現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において将来に主導的役割を担いようとする人材の養成をめざす。

(2) 医療経営ヤングリーダー・プログラムの修了要件

- ① 社会健康医学系専攻専門職学位課程の修了のための要件を満たすこと
- ② 下記を全て履修すること

区分	科目コード	科目名	単位	時期
コア領域4	H125000	医療制度・政策	1	前期後半
コア領域4	H126000	保健・医療の経済評価	1	前期前半
MPH 選択	H129000	医療の質評価	1	前期後半
限定	H082000	医療経営特別カリキュラムⅠ	2	前期
限定	H083000	医療経営特別カリキュラムⅡ	2	後期
限定	H053000	医療経営ケーススタディ	2	通年
MPH 必修	I005000	課題研究（医療経済学分野）	4	—

※平成29年度以前開講科目の科目変更については、「(別表) 科目変更対応表」を確認すること。

- 社会健康医学系専攻の多くの科目の選択を自ら設計して積極的に履修することを強く推奨する。
 - さらに、経営管理大学院、公共政策大学院、または経済学研究科の科目を履修することを強く推奨する。
 - また、当該分野でのセミナーに積極的に参加することが求められる。
- ③ 課題研究で医療経営に関わる課題に取り組むこと

照会先：医療経済学分野

III. 産業毒性学管理者プログラム

(1) 産業毒性学管理者プログラムの概要

本プログラムは、専門職学位取得者のうち、一定の内容のコースワークを履修したものに対して、専攻として「産業毒性学管理者」修了を認めるものである。所属する分野・コースを問わない。

リスク管理は、従来は環境汚染物質による健康影響を主として問題としてきたが、近年はあらゆる行政施策に関わるテクノロジー全域に拡大しつつある。本コースの最終目標は、リスク管理の基本的知識と素養を身につけることを目的とする。

(2) 産業毒性学管理者プログラムの修了要件

MPH コアで産業・環境衛生学を履修し以下の選択科目を取ること

- ① 選択科目として下記を全て履修すること

科目コード	科目名	主担当教員	単位	時期
H014000	中毒学入門	原田	2	前期
H029000	中毒学	原田	2	後期
H032000	ベンチトレーニングコース (On the bench training)	原田	2	後期

② 選択科目として推奨するもの

科目コード	科目名	主担当教員	単位	時期
S004000	統計遺伝学 I	山田教授	2	前期
H099000	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査	川上教授	2	後期
H079000	医薬品の開発と評価	川上教授	1	後期後半

※平成29年度以前開講科目の科目変更については、「(別表) 科目変更対応表」を確認すること。

- ③ 課題研究については、所属分野で実施すること
- ④ 社会健康医学系専攻専門職学位課程を修了すること

照会先：環境衛生学分野

IV. 医療統計専門職プログラム

(1) 医療統計専門職プログラムの概要

医療統計専門職プログラムは専門職学位取得者のうち、下記に示すコースワークを履修したものに対して、専攻として「医療統計専門職」修了を認めるものである。

疫学研究、臨床研究、医薬品開発などにおける研究・開発の初期の段階から医療統計専門家が参加することが求められており、専門家としての高い技術と倫理観を身につけることを目的とする。

本プログラムでは、国内の医療統計プログラムを有する大学間の交流に参加することを必須とする。

(2) 医療統計専門職プログラムの修了要件

① 選択科目として下記をすべて履修すること

科目コード	科目名	科目責任者	単位数	時期
H011000	医療統計学実習	佐藤	2	前期
H084000	観察研究の統計的方法	佐藤	2	前期
H021000	交絡調整の方法	佐藤	2	後期
H022000	解析計画実習	佐藤	2	後期

- ② 医療統計セミナーに参加、発表すること
- ③ 久留米大学バイオ統計センター、総合研究大学院大学統計科学専攻（統計数理研究所）、東京大学生物統計学、東京理科大学経営工学専攻と合同で毎年開催している Biostatistics Network に参加すること
- ④ 社会健康医学系専攻専門職学位課程を修了すること

照会先：医療統計学分野

V. ゲノムインフォマティクスプログラム

(1) ゲノムインフォマティクスプログラムの概要

本プログラムは、専門職学位取得者のうち、一定の内容のコースワークを履修したものに対して、専攻として「ゲノムインフォマティクス」修了を認めるものである。所属する分野・コースを問わない。

次世代シーケンサなどのゲノム解析技術の爆発的進歩という状況を受けて、膨大な情報を適切に取り扱う「ゲノムインフォマティクス」としての基本的知識と素養を身につけることを目的とする。社会健康医学系専攻において遺伝カウンセラーを養成している遺伝医療学分野と幅広いゲノム解析を行っているゲノム情報疫学分野（ゲノム医学センター）の協力によるプログラムである。

(2) ゲノムインフォマティクスプログラムの修了要件

① 選択科目として下記を全て履修すること

科目コード	科目名	主担当教員	単位	時期
S004000	統計遺伝学Ⅰ	山田教授	2	前期
S005000	統計遺伝学Ⅱ	山田教授	2	後期
H040000	基礎人類遺伝学	小杉教授	2	前期
M022000	ゲノム科学と医療	松田教授	2	後期

※平成29年度以前開講科目の科目変更については、「(別表)科目変更対応表」を確認すること。

- ② 課題研究については、所属分野で実施すること
- ③ 社会健康医学系専攻専門職学位課程を修了すること

(参考) 関連科目：産業・環境衛生学(コア3)、医薬政策・行政(コア4)、基礎医療倫理学(コア5)、遺伝医療と倫理・社会、遺伝医学特論(2年次)

照会先：遺伝医療学分野およびゲノム情報疫学分野

◇ 社会健康医学系専攻 平成30年度 前期時間割 (4~9月) : 全教科

月	火	水	木	金
1限 8:45~10:15	【MCR限定 推奨選択】 【知財選択】 【MPH推奨選択】 行動科学 (前期前半) 渡辺 [A]	【コア選択必修】 【MCR推奨選択】 【知財選択必修】 【MPH推奨必修】 【G/D】 医学基礎1*(注) 萩原 [A]	【政策のための科学 限定選択】 現代社会と科学技術 入門 川上 【国際高等教育院棟 演習室24】(履修制限 注意)	【コア必修】 疫学II (前期前半) 福原 [A]
2限 10:30~12:00	【MPH選択】 エビデンスエッセイ (通年・開講日 注意) 古川 [B]	【コア選択必修】 Healthcare Systems and Policies around the World (前期前半) 今中 [C/D]	【コア選択必修】 【環境衛生必修】 産業・環境衛生学 (前期前半) 原田 小杉 [先端]	【MPH選択】 【MCR必修】 疫学I (前期後半) 福原 [A]
3限 13:00~14:30	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 【G/D】 社会疫学I 木原(雅) 【先端】	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 【G/D】 医療の経済 評価 (前期前半) 今中 [C/D]	【コア選択必修】 【環境衛生必修】 産業・環境衛生学 (前期前半) 原田 小杉 [先端]	【MPH選択】 【MCR必修】 疫学I (前期後半) 福原 [A]
4限 14:45~16:15	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 【G/D】 文獻疫学 (前期前半) 高橋 [A]	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 【G/D】 医療技術の経済 評価 (前期前半) 今中 [C/D]	【コア選択必修】 【環境衛生必修】 産業・環境衛生学 (前期前半) 原田 小杉 [先端]	【MPH選択】 【MCR必修】 疫学I (前期後半) 福原 [A]
5限 16:30~18:00	【MCR限定必修】 臨床研究計画法 福原 [B]	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 【G/D】 医療技術の経済 評価 (前期前半) 今中 [C/D]	【コア選択必修】 【環境衛生必修】 産業・環境衛生学 (前期前半) 原田 小杉 [先端]	【MPH選択】 【MCR必修】 疫学I (前期後半) 福原 [A]
6限 18:15~19:45	【MCR限定選択】 【MPH選択】 【知財必修】 【MPH選択】 【G/D】 データ解析法特論 スクリーン、LAN使用可 山本 [演習]	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 【G/D】 医療技術の経済 評価 (前期前半) 今中 [C/D]	【コア選択必修】 【環境衛生必修】 産業・環境衛生学 (前期前半) 原田 小杉 [先端]	【MPH選択】 【MCR必修】 疫学I (前期後半) 福原 [A]

* (注) これらの科目を医療系の学生が取得した場合、学位取得に必要な30単位に算入することはできない。 **MPHコア科目を30単位を超えて取得した場合は、選択科目として算入する。

【G種講義室 設備について】 2F セミナー室(A) フロアエクター、マイクシステム、プロジェクター、AV機器 2F セミナー室(B) ホワイトボード (他の設備は特になし) 2F セミナー室(C/D) ホワイトボード (他の設備は特になし) 3F 演習室 スクリーン、LAN使用可 (他の設備は特になし)	【先端】: 先端科学研究棟1F セミナー室 (使用可能人数) 【A】: G棟2F セミナー室(A) 約70名 【B】: G棟2F セミナー室(B) 約100名 【C/D】: G棟2F セミナー室(C/D) 約24名 【演習】: G棟3F セミナー室 約42名	【集中講義など】 【MPH選択・知財選択】 アントレプレナーシップ特論 (夏季集中) 早乙女、メテカカイノバベンションセンター 【医療経営やクリエーター・DPO/DM限定】 医療経営ケーススタディ (通年) 今中 【G/D必修】 医療経営特別カリキュラム1 今中 【G/D限定】 運伝カウセンリング実習1、2 小杉 【政策のための科学限定必修】 科学技術イノベーションイノベーション政策総合演習 (夏季集中) 8月28日~8月30日) 川上 【政策のための科学限定選択】 科学技術イノベーションイノベーション政策総合演習 (夏季集中) 8月28日~8月30日) 川上 【MPH選択】 フィールドワーク (通年・集中) 長浜PRO支援委員会(田原) 【MPH選択】 社会健康医学実践実習 (集中) 教務委員会 【MPH選択】 社会健康医学特論 (夏季集中) 佐藤 【MPH選択】 統計モデルとその応用 (夏季集中) 佐藤 【G/D限定選択】 臨床統計家の実務スキル(集中) 佐藤 【G/D限定必修】 臨床研究実地研修1 (夏季集中) 田中(同) 【MPH選択】 行政医学・産業医学 (夏季集中) 今中 【MPH選択】 健康デザイン論 (通年・集中) 中山
---	---	--

◇ 社会健康医学専攻 平成30年度 後期時間割 (10~3月) : 全教科

月	火	水	木	金
1眼 8:45~10:15		【グローバル生存学大学院連携プログラム提供科目】 リスノ学通論 木原(正) 【東一条館必修館ホール】	【GC限定必修】 遺伝ガウンセラ コミュニケーション 浦尾 【演習】	
2眼 10:30~12:00	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 【GC推奨選択】 交絡調整の方法 佐藤 【A】	【コア選択必修】 【MCR推奨選択】 【GC必修】 【知財選択必修】 【医薬品の開発と評価】 【政策・行政】 【後期前半】 川上(A)	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 【知財選択必修】 【医薬品の開発と評価】 【政策・行政】 【後期後半】 川上(A)	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 【GC推奨選択】 健康情報学Ⅰ 中山 【A】
3眼 13:00~14:30	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 【GC推奨選択】 社会疫学Ⅱ 木原(雅) 【先端】	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 【GC推奨選択】 解剖計画実習 佐藤 【演習】	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 【GC必修】 ゲノム科学と医療 松田 【B】	【MCR限定選択】 EBM・診療ガイドライ ン特論 中山 【演習】
4眼 14:45~16:15	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 【GC推奨選択】 臨床研究計画法演習Ⅱ 福原 【B】	【MPH必修(医療系以外)】 【知財選択必修】 【臨床医学概論】 【注】千葉 【先端】	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 【GC必修】 【政策のための科学限定必修】 現代社会と科学技術 川上 【国際高等教育院履修制注意】	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 【GC必修】 【環境衛生必修】 【環境衛生必修】 【先端】 原田 【先端】
5眼 16:30~18:00	【MCR限定必修】 臨床研究計画法Ⅱ 福原 【B】	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 【GC推奨選択】 統計演習Ⅱ 山田 【南部総合研 究棟】	【MCR限定必修・CB限定必修】 臨床研究学Ⅰ 竹内 【後期前半】 【B】	【GC限定必修】 【MPH選択】 【MCR推奨選択】 【GC推奨選択】 【環境衛生必修】 【環境衛生必修】 【先端】 原田 【先端】
6眼 18:15~19:45	【MCR限定必修】 【MCR推奨選択】 【GC推奨選択】 臨床研究特論Ⅰ 川村 【B】	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 【GC推奨選択】 環境・感染論 西淵 【東南アジア地 域研究所 棟2階203】	【MCR限定必修】 臨床研究学Ⅱ 小杉 【1年次・閉講日注意】	【GC限定必修】 【MPH選択】 【MCR推奨選択】 【GC推奨選択】 【環境衛生必修】 【環境衛生必修】 【先端】 原田 【先端】

*【注】これらの科目を医療系の学生が取得した場合は、学位取得に必要な30単位に算入することはない。 **MPHコア科目を10単位を超えて取得した場合は、選択科目として算入する。

【G棟講義室 設備について】
2F セミナー室(A) スクリーン、マイクシステム、プロジェクター、AV機器
2F セミナー室(B) ホワイトボード (他の設備は特になし)
2F セミナー室(C/D) ホワイトボード (他の設備は特になし)
3F 演習室 スクリーン、LAN使用可 (他の設備は特になし)

【先端】:先端科学研究棟1F セミナー室 (使用可能人数)
【A】 :G棟2F セミナー室(A) 約100名
【B】 :G棟2F セミナー室(B) 約24名
【C/D】:G棟2F セミナー室(C/D) 約24名
【演習】:G棟3F 演習室 約42名
【MIC】:メディアカレッジ/コミュニケーションセンター (医学部付属病院西構)

【集中講義など】
【医療経営やリダーシッププログラム限定】 医療経営ケーススタディ (通年)今中
【医療経営やリダーシッププログラム限定】 医療経営特別カリキュラムⅡ 今中
【GC限定】 遺伝ガウンセラ演習Ⅰ・Ⅱ 小杉
【政策のための科学限定必修】科学技術コミュニケーション(集中)川上
【MPH選択】ワールドワーク 【通年・集中】 長浜PRC支援委員会(田原)
【MPH選択】社会健康医学課外実習 (集中) 教務委員会
【CB限定選択】臨床統計家の実務スキル(集中)佐藤

社会健康医学系専攻授業科目内容

社会健康医学系専攻科目

授業科目名 <英語>	疫学 I (疫学入門) 【領域1】 Epidemiology I	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫 医学研究科 教授 佐藤 俊哉 環境安全保健機構 教授 川村 孝 滋賀医科大学 教授 三浦 克之 京都府健康長寿医療センター 石崎 達郎 研究開発部								
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度 開講期	2018・ 前期不定	曜時限	金3・4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
<ul style="list-style-type: none"> ・本コースは医学研究科社会健康医学系専攻の必須科目の一つです。 ・臨床研究を含む社会健康医学（パブリックヘルス）領域において、最も基本となる疫学の考え方、方法論についての入門的な講義を行います。 ・原則として金曜3限ですが、3限と4限の2コマ連続で講義をおこなう場合があります。 											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・疫学の基本的考え方、用語、概念、方法論を説明できる。 ・疫学の発展的な知識を学ぶための基礎を身に付ける。 											
【授業計画と内容】											
第1回 4月13日 (3限) インTRODクシヨン (中山) 第2回 4月13日 (4限) コホート研究・症例対照研究 (中山) 第3回 4月20日 (3限) 疫学とはなにか? (佐藤) 第4回 4月27日 (3限) 介入研究 (川村) 第5回 4月27日 (4限) 対象者の追跡 (川村) 第6回 5月11日 (3限) 記述疫学・高齢者の疫学研究 (石崎) 第7回 5月18日 (3限) 疫学をめぐる最近の話題 (中山) 第8回 5月18日 (4限) 視聴覚教材「大いなる航海」(中山) 5月25日 (3限) テスト 特別講義予定あり											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
テスト (80%)、毎回の小レポート提出 (20%)											
【教科書】											
講義資料は配布											
【参考書等】											
(参考書) 川村孝『エビデンスをつくる』(医学書院) 中山健夫・津谷喜一郎『臨床研究と疫学研究のための国際ルール集』(ライフサイエンス出版)											

疫学 I (疫学入門) 【領域1】 (2)
矢野栄二・橋本英樹『ロスマンの疫学』(篠原出版社) 厚生統計協会編集『図説・国民衛生の動向』(厚生統計協会)
【授業外学習(予習・復習)等】
予習は特に必要でないが、講義の復習には十分時間をあててください。
【その他(オフィスアワー等)】
<ul style="list-style-type: none"> ・症例研究や基礎的研究と異なる「人間集団を対象とする」という疫学研究の意義と可能性を理解してもらえればと願っています。 ・本コースの内容の多様性と一貫性を保つために、担当教員はシラバス作成時、学期中、終了後など、適宜、意見交換を行い、講義資料を共有して連携を図っています。 ・留学生対応として、講義資料の事前提供、Key termの日英併記を進めます。 ・平成27年度から疫学(2単位)を疫学I・II(各1単位)に分割し、疫学IIはIIよりも先に開講して、研究デザインの基本事項を講義することになりました。 ・特別講義の予定は初回の講義で説明します。 人間健康科学系専攻学生の受講可否：可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英語>	疫学 II (研究デザイン) 【領域1】 Epidemiology II	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 福原 俊一								
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度 開講期	2018・ 前期前半	曜時限	金1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
社会健康医学領域の研究の「基本設計図」を作成するための研究デザインに必要な理論や基本的知識を、7つのステップに分けて学ぶ。質的な研究は含まれない。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の疑問を構造化抄録形式にまとめ、最終的に「研究の基本設計図」を完成できる 1)自分の疑問を、リサーチ・クエスチョンに構造化できる 2)概念および概念の変数化を理解している 3)RQを概念モデルの形にできる 4)変数測定理論と実際を理解している 5)第3の因子について理解している 6)比較の質を落とす原因、および比較の質を高める方法を理解している 											
【授業計画と内容】											
第1回 4月13日 (1限) 研究デザイン7つのステップ (福原) 第2回 4月13日 (2限) 疑問を構造化する (福原) 第3回 4月20日 比較の質を落とす原因 (福原) 第4回 4月27日 比較の質を高める方法 (福原) 第5回 5月11日 (1限) 測定をデザインする (福原) 第6回 5月11日 (2限) 存在・発生・効果の指標 (福原) 第7回 5月18日 検査を評価する (山本) 第8回 5月25日 試験											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> ・MPHコア(必修)MCR必修科目 ・「疫学」(MPHコア)を履修済み、または「疫学I」を履修中であることが履修要件です。 											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<ul style="list-style-type: none"> ・講義平常点(出席を含む) 40% ・筆記試験 60% 											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 福原俊一『臨床研究の道標：7つのステップで学ぶ研究デザイン』(認定NPO法人 健康医療評価研究機構)											

疫学 II (研究デザイン) 【領域1】 (2)
Hulley S『Designing Clinical Research 2nd ed.』(William & Wilkins) (和訳：臨床研究のデザイン 医学書院MYW) 福原俊一『リサーチ・クエスチョンの作り方』(認定NPO法人 健康医療評価研究機構) 松村真司『概念モデルをつくる』(認定NPO法人 健康医療評価研究機構)
【授業外学習(予習・復習)等】
講義および討論 講義前・後の学習
【その他(オフィスアワー等)】
<ul style="list-style-type: none"> ・人間健康科学系専攻学生の受講可否：不可 ・4/13、5/11は1、2限となります。ご注意ください。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 ＜英訳＞	医療統計学 (コア) 【領域2】 Fundamentals of Biostatistics	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 佐藤 俊哉								
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
医療統計学は社会健康医学の実務・研究に必須であることは広く認識されています。が、医療統計の教科書には怪しげな数式ばかりでてきてとっつきにくく、一部の愛好家以外には敬遠されています。しかし、しかしです、本当は医療統計学っておもしろいのです。「医療統計学はおもしろい」ということをみなさんに伝えたいと、医療統計学では、数学的、技術的な問題に立ち入ることなく、平易なことばで医療統計学の考え方を解説しています。予習は必要ありません。ともかく授業にきて、話しを聞き、スライドをみて、一緒に考えてください。講義終了時にスライド資料を配りますので、ノートなんかとらなくても結構です。その代わり、必ず復習をしてください。講義中にはわかった気分になりますが、それが自分のものとなるためには、自分の中で何度も何度も確認する必要があります。毎回、講義の始めに前回のおさらいをしますので、復習してわからなかったことはそこでどんでん質問してください。技術的な内容については、午後の医療統計学実習で補います。 【パワーポイントスライドによる講義形式】											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・医療統計アレルギーの改善 ・因果関係とコントロール（対照）について理解を深める ・疫学研究、臨床試験の代表的なデザインを学ぶ ・医療統計の基礎的な考え方を自分なりに説明できる 											
【授業計画と内容】											
第1回 4月10日 コントロールの重要性 第2回 4月17日 ビロリ菌と胃がん 第3回 4月24日 疫学研究デザイン概論 第4回 5月1日 骨粗鬆症治療薬市販後臨床試験 第5回 5月8日 臨床試験デザイン概論 第6回 5月15日 曝露効果、治療効果の指標 第7回 5月22日 統計的仮説検定の考え方 第8回 5月29日 検定と信頼区間の関係 第9回 6月5日 研究に必要なサンプルサイズ 第10回 6月12日 続 検定の考え方 第11回 6月19日 コホート研究の妥当性 第12回 6月26日 ケース・コントロール研究の妥当性 第13回 7月3日 新しい疫学研究デザイン 7月10日 休講 第14回 7月17日 交絡とはなにか											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> ・人間健康科学系専攻の学生さんの受け入れはしていません ・医科学専攻、医学博士課程の受講希望者は事前に必ずメールで連絡してください ・受講者は単位不要でも必ずミニテストを受け、レポートを提出してください 											

医療統計学 (コア) 【領域2】(2)へ続く↓ ↓

医療統計学 (コア) 【領域2】(2)
・医療統計学を履修していないと後期「交絡調整の方法」は履修できません
【成績評価の方法・観点及び達成度】
ミニテスト (30%) とレポート (70%) ・6月末に一度ミニテストを実施 ・複数のテーマ (7月はじめに提示します) から一つを選び、指定された関連文献をレビューして自分の意見をレポートにまとめる
【教科書】
講義終了後にスライド資料を配布します。
【参考書等】
(参考書) 佐藤俊哉『宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ』(岩波科学ライブラリー114) ISBN:978-4-00-007454-7 佐藤俊哉『宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ 検定の巻』(岩波科学ライブラリー194) ISBN:978-4-00-029594-9 榎広計、藤田利治、佐藤俊哉『これからの臨床試験』(朝倉書店) ISBN:978-4-254-32185-6 ロスマン, KJ『ロスマンの疫学, 第2版』(條原出版社) ISBN:978-4-8841-2372-7
【関連URL】
http://www.kbs.med.kyoto-u.ac.jp/ (医療統計ホームページ)
【授業外学習 (予習・復習) 等】
前回の復習を忘れずに。
【その他 (オフィスアワー等)】
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 ＜英訳＞	感染症疫学 【領域3】 Infectious Disease Epidemiology	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 木原 正博								
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2018・ 前期集中	曜時限	前職幹木・2	授業 形態	講義	使用 言語	英語
【授業の概要・目的】											
感染症の問題を人間文明との相互作用として理解することにより、現代の感染症の人類史的意義を学び、また、エイズ問題を事例としながら、感染症流行の世界的現状・背景・影響を理解することにより、感染症流行の社会・文化・経済・政治的文脈を学ぶ。さらに、感染症疫学という学術分野で用いられる、基礎概念・調査方法・数学的方法を学ぶとともに、具体的におわらで実施されている感染症対策についてその概要を学ぶ。											
【到達目標】											
(1)感染症と人間の歴史の関係を省察し、感染症の現代的意義を理解する。 (2)世界の感染症流行の現状、背景、その影響について理解する。 (3)エイズ流行の現状と、脆弱性の社会的構造を理解する。 (4)感染伝播の生物学的基礎、理論的基礎について理解する。 (5)感染症アウトブレイクの調査方法の基礎を理解する。 (6)日本の感染症対策を理解する。											
【授業計画と内容】											
前期木曜日2限目											
第1回 6月7日感染症と人間の歴史 (Teeranee Techarivichien) 第2回 6月14日世界の感染症流行の現状(Pilar Sugimoto) 第3回 6月21日グローバルエイズ(木原正博) 第4回 6月28日薬害エイズ問題 (木原正博) *薬害エイズ 問題では、患者さんに実際にお話をしてもらいます (日本語)。 第5回 7月5日感染症疫学の基礎：基本概念と数理モデル (Patou M.Masika) 第6回 7月12日フィールドエビデミオロジー (1) (Patou M.Masika) 第7回 7月19日フィールドエビデミオロジー (2) (Patou M.Masika) 第8回 7月26日日本の感染症対策について (井内田科子) 試験 8月2日筆記試験											
講義担当者 ・ Patou M. Musumari, MD, PhD. Assistant Professor, Department of Global Health and Socio-epidemiology School of Public Health, Kyoto University ・ Pilar Sugimoto MD, PhD. Junior Associate Professor, Center for Medical Education Graduate School of Medicine, Kyoto University ・ Teeranee Techarivichien MSc, PhD. Assistant Professor, Department of Global Health and Socio-epidemiology School of Public Health, Kyoto University											

感染症疫学 【領域3】(2)へ続く↓ ↓

感染症疫学 【領域3】(2)
【履修要件】
MPHコア (選択必修)
【成績評価の方法・観点及び達成度】
出席30点、試験70点 (単位取得のためには、合計で60%以上の得点を得ていることが必要)。
【教科書】
使用しない
【参考書等】
(参考書) (1)Kramer A, Kretzschmar M, Krickeberg. Modern infectious disease epidemiology: Concepts, methods, mathematical models and public health. Springer, 2010 (適度の長さで内容も簡潔でかつ充実した教科書です。) (2)Nelson KE and Williams CM. Infectious disease epidemiology- Theory and practice. 2nd edition. Jones and Barlett, 2007 (感染症の歴史から数理モデル、感染症各論を含む意、現在最も包括的で優れた感染症疫学の教科書と考えられます。) (3)別冊日経サイエンス「感染症の脅威ーパンデミックへの備えは万全か？」 日経サイエンス編集部, 2008年 (現代的感染症の課題をわかりやすく解説しています)。 (4)マクニール WH. 疫病と世界史 上・下 (佐々木昭夫訳) . 中公文庫, 2007年 (人間の歴史を感染症の観点から考察した世界的名著です)。
【授業外学習 (予習・復習) 等】
フィールドエビデミオロジーの講義までには、ケースコントロール研究の概念を熟知しておくこと。
【その他 (オフィスアワー等)】
講義場所：先端科学研究棟1階セミナー室 連絡先：内線4350
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	産業・環境衛生学 【領域3】 Occupational health and environmental health sciences	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 原田 浩二								
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2018・ 前期前半	曜時限	木2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
現代の環境問題、産業衛生について概説し、毒性学を基礎にした健康影響評価について講義する。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・現代の環境問題、産業衛生について述べることができる。 ・用量反応関係、LD50、閾値、種差および毒性学の基礎的事項について述べるができる。 ・リスクアセスメントについて述べるができる。 ・化学物質の規制の種類について述べるができる。 ・代表的な化学物質の代謝過程を予測できる。 											
[授業計画と内容]											
コース予定・内容 第1回 4月12日 Guidance and general principle Environmental Health Sciences 第2回 4月19日 Climate 第3回 4月26日 Water pollution 第4回 5月10日 Air pollution 第5回 5月17日 Occupational health 第6回 5月24日 Gene and environment 第7回 5月31日 Examination 第8回 8月9日予備日（講義内容未定）											
[履修要件]											
MPHコア選択 環境衛生学分野必修											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点（出席を含む）50%、試験50%											
[教科書]											
講義中の配布資料											
[参考書等]											
（参考書） 分子予防環境医学研究会『改訂分子予防環境医学』（本の泉社）											
[授業外学習（予習・復習）等]											
後期の「中毒学」および「On the Bench Training」を受講するためには、この講義を受講することが必須です											
[その他（オフィスアワー等）]											
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 上限10人まで可能											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	医療制度・政策 【領域4】 Healthcare System and Policy	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特定講師 佐々木 典子 医学研究科 特定講師 國澤 進 医学研究科 特定講師 大坪 徹也								
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2018・ 前期集中	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
日本の医療に関する政策・制度に関して、国・地方自治体から医療施設に至る諸々の場における重要課題を扱い、基本的事項を理解する。 <内容> ・医療・福祉に関する政策、制度、事業、その沿革 ・医療の財源 ・医療制度（提供・保険・支払）と医療費 ・医療の質・安全・効率におけるマネジメントシステムと政策 ・医療の評価 ・地域医療構想・計画など諸々の医療関連計画 ・医療マネジメントの骨格：組織、財務											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・医療の領域の政策・制度とマネジメントに関する沿革、現状、理論・概念、研究・評価手法、課題と対策について、重要事項を理解し、他者に説明できるようにすること。 ・基本的な研究や社会制度の意義を系統的、批判的に解釈できるようになること。 ・社会健康医学の研究及び実務上の問題解決に、関連しうる知識等を活用できるようになること。 											
[授業計画と内容]											
第1回 6月6日 医療政策：国の財政と医療 第2回 6月13日 医療と財源：保険制度 第3回 6月27日 政策と経営：医療の質と安全 第4回 7月4日 保健政策：健康の決定要因 第5回 7月11日 Evidence-Based Policyと制度全体を把握する枠組み 第6回 7月18日 諸外国と日本の医療の経済評価・HTAの利用 第7回 7月25日 医療政策の構築プロセス-地域医療構想について-											
* 医学部生チュートリアル、外部講師他の諸状況により日程変更あります。初回に予定を説明します。											
医療制度・政策【領域4】(2)へ続く↓ ↓ ↓											

医療制度・政策 【領域4】(2)											
[履修要件]											
社会健康医学系専攻の院生											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
1. レポート（配点比重 70%） 2. 日々の講義へのコミットメント（配点比重 30%）											
[教科書]											
適宜、資料を講義にて配布する											
[参考書等]											
（参考書） ・医療制度・医療政策・医療経済（丸善出版,2013） ・Handbook of Health Services Research（Springer Science+Business Media） ・病院の教科書（医学書院,2010） ・医療安全のエビデンス-患者を守る実践方策（医学書院,2005） ・医療の原価計算（社会保険研究所,2003） ・Economics for Health Care Management(Prentice Hall,1998)											
[授業外学習（予習・復習）等]											
予習・復習は必要											
[その他（オフィスアワー等）]											
当分野では、医療政策、医療経営、医療の質・安全・コスト研究に深く関わりたい人を募っています（医療経済学分野：http://med-econ.umin.ac.jp） ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	社会健康医学と健康政策 【領域4】 Health Policy and Academia	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 教授 川上 浩司 医学研究科 教授 佐藤 俊哉 医学研究科 教授 福原 俊一 医学研究科 准教授 和田 敬仁 医学研究科 教授 中山 健夫 医学研究科 准教授 渡辺 範雄 医学研究科 助教 Musumari Patou Masaki 類7774類編講師 西沢 光昭 医学研究科 准教授 岩隈 美穂 医学研究科 特定教授 早乙女 周子 附属病院 特定准教授 山田 崇弘								
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
社会健康医学（Public Health）における、健康・医療に関わる制度・政策、ならびにそれらに貢献・関連する研究、人材育成、その他の専門的活動について学ぶ。 社会健康医学系専攻を構成する各分野から、担当している研究・教育等領域の視点・見識、実績・経験などに基づき、健康・医療に関連する制度・政策や社会の仕組みがどのようにになっているか、また、健康・医療に関連する制度・政策や社会の仕組みに、研究、人材育成、その他の専門的活動がどのように関わり貢献しているかを、講義する。											
[到達目標]											
各分野による講義の全体を通して、健康や医療に係る制度・政策の全貌を多角的に把握できるようにする。											
[授業計画と内容]											
第1回 4月12日 社会健康医学と健康政策：総論（今中） 第2回 4月19日 ヘルスコミュニケーションと健康政策（岩隈） 第3回 4月26日 グローバルメンタルヘルス（渡辺） 第4回 5月10日 健康政策の近現代史（小泉） 第5回 5月17日 大気環境基準の作り方（佐藤） 第6回 5月24日 産業保健に関する政策（小泉） 第7回 5月31日 学校保健や母子保健情報の利活用による地域健康政策（川上） 第8回 6月07日 健康長寿のためのプライマリ・ケア（福原） 第9回 6月14日 食中毒とその予防対策：国際的視点の重要性（西沢） 第10回 6月21日 母子保健と制度・政策（和山/山田） 第11回 6月28日 国際保健政策（Patou） 第12回 7月05日 成人における疾病予防：特定健診とがん検診（中山） 第13回 7月12日 社会健康医学と知的財産（早乙女） 第14回 7月19日 地域保健医療行政（今中） 第15回 7月26日 健康医療介護政策とエビデンス（今中）											
* 予定は変更となることがあります。初回に予定を説明します。											
社会健康医学と健康政策【領域4】(2)へ続く↓ ↓ ↓											

社会健康医学と健康政策 【領域4】(2)

【履修要件】 社会健康医学系専攻の院生
【成績評価の方法・観点及び達成度】 1. レポート (配点比重 70%) 2. 日々の講義へのコミットメント (配点比重 30%)
【教科書】 適宜、資料を講義にて配布する
【参考書等】 (参考書) 適宜、資料を講義にて配布する
【授業外学習(予習・復習)等】 予習・復習は必要
【その他(オフィスアワー等)】 健康政策学に関わる領域の教育を、専攻全体でカバーする。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	医薬政策・行政 【領域4】 Drug Policy and Regulation	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司								
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2018・ 前期前半	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】 本コースは医学研究科社会健康医学系専攻のMPHコア科目の一つです。医薬品、医療機器を軸に、日本および海外の健康政策、産業政策と行政を俯瞰します。社会福祉、財務、食品衛生、医薬経済の観点から、国際的な医薬品認可行政、経済性との整合、ライフサイエンス研究とトランスレーショナルリサーチの実践についても学びます。 (科目責任者) 川上浩司(薬剤疫学・教授)、目黒芳朗(厚生労働省)、西嶋康弘(厚生労働省)、Christian Elze (Catenion社・シニアパートナー)、松林恵介(京大薬剤疫学・特定助教(予定))											
【到達目標】 ・ 医薬政策・行政、食品衛生行政、社会福祉に関連した政策の基本的考え方、方法論を理解している。 ・ 医薬経済、トランスレーショナルリサーチの政策上の取組の基本的考え方、方法論を理解している。											
【授業計画と内容】 第1回 10月3日 医薬政策、行政の潮流 (川上) 第2回 10月10日 米国連邦政府における医薬行政 (川上) 第3回 10月17日 日本における医薬行政と最近の動向 (目黒) 第4回 10月24日 食品衛生行政 (西嶋) 第5回 10月31日 医療機器の行政、研究開発と課題 (川上) 第6回 11月7日 Healthcare Systems - Challenges and Reform (Elze) 第7回 11月14日 先端医薬品の開発と規制 (松林)											
【履修要件】 本コース終了の翌週から継続して講義が行われるH079「医薬品の開発と評価」と連続、一括した内容となっており、原則として通して受講できない方は受け入れ不可とします。また、同日3・4限のH099「医薬品・医療機器の開発計画、業事と審査」も本講義の内容を掘り下げたもので、合わせて受講することを推奨します。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】 講義の場への参加 (50%)、レポート (50%)											
【教科書】 推奨テキスト 安生紗枝子ら『新業創製への招待：開発から市販後の監視まで』(共立出版) 川上浩司編著『遺伝子医学MOOK 別冊はじめての臨床応用研究』(メディカルドゥ社)											
----- 医薬政策・行政 【領域4】(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

医薬政策・行政 【領域4】(2)
【参考書等】 (参考書)
【授業外学習(予習・復習)等】 予習は特に不要であるが、復習については十分に行うことを期待する。
【その他(オフィスアワー等)】 川上浩司 G棟3階・内線：9469(代表) 面談希望は必ずメールでご連絡下さい。 kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp 人間健康科学系専攻学生の受講可否： 可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	保健・医療の経済評価 【領域4】 Economic Evaluation in Health Care	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特定講師 佐々木 典子 医学研究科 特定講師 國澤 進 医学研究科 特定講師 大坪 徹也								
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2018・ 前期前半	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】 ・ 保健・医療における経済評価を支える理論・フレームワークについての講義を行い、保健・医療の経済性評価のための主な研究方法を学習します。 ・ 保健・医療の経済評価は、通常、現実的な制約の中で評価をすることになりますが、その際の研究のあり方についても学習します。 ・ 保健・医療に関する幅広いテーマの経済評価の検討を行います。											
【到達目標】 ・ 保健・医療における経済評価を支える理論・フレームワークや研究方法等について、重要事項を説明できる。 ・ 医療の経済評価研究に関するバイアスについて理解している。 ・ 治療技術・薬剤・医療材料・検査・健康政策プログラムなどに関する経済分析に用いられる主な研究方法として、費用分析・費用効果分析・費用効用分析・費用便益分析の違いやそれぞれの適応、費用算定・アウトカム測定・時間の概念・割引率・感度分析、増分費用効果比といった中心的な概念を理解して説明でき、分析結果の適切な解釈ができる。 ・ 上記を踏まえてこの領域の研究文献を批判的にレビューし、その意義を説明できる。研究プロトコルの作成や研究実施時に、習得した知識・技術を活用できる。											
【授業計画と内容】 第1回 4月11日 保健・医療における経済性の評価(1) 第2回 4月18日 保健・医療における経済性の評価(2) 第3回 4月25日 医療経済評価研究の評価法 第4回 5月02日 費用効果/効用分析の方法論1 第5回 5月09日 経済評価のモデリング 第6回 5月16日 費用効果/効用分析の方法論2 第7回 5月23日 保健・医療の経済評価：論文レビュー&討議1 第8回 5月30日 保健・医療の経済評価：論文レビュー&討議2 * 医学部生チュートリアル、外部講師他の諸状況により日程変更あります。初回に予定を説明します。											
【履修要件】 非MCR限定 人間健康科学系専攻学生の受講可否： 否											
【成績評価の方法・観点及び達成度】 講義・討論・グループワーク・発表におけるコミットメント(配分30%)、課題レポート・期末な											
----- 保健・医療の経済評価 【領域4】(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

保健・医療の経済評価 【領域4】(2)	
どのレポート(配分70%)により、総合的に評価する。	
[教科書] 適宜、資料を講義に配布する	
[参考書等] (参考書) ・ Drummond MF, et al. Methods for the Economic Evaluation of Health Care Programmes, 3rd Ed. Oxford, 2005. ・ Myriam Hunink. Decision Making in Health and Medicine: Integrating Evidence and Values. Cambridge, 2001. ・ 医療制度・医療政策・医療経済(丸善出版,2013) ・ Handbook of Health Services Research (Springer Science+Business Media)	
[授業外学習(予習・復習)等] 予習・復習は必要	
(その他(オフィスアワー等)) 経済学の学習経験は問いません。 当分野では医療の経済性、質・安全・原価の実証研究政策研究、医療の政策や経営に深く関わりたい人を募っています。(医療経済学分野: http://med-econ.umin.ac.jp) 注) 医療のプロセス、アウトカム等の質指標、診療のばらつき、医療の質の評価・改善、医療機能評価、医療の質・安全に係わる制度・政策については、水曜3限「医療の質評価」(前期後半)(1単位)(MCR推奨選択・コア選択必修)を選択してください。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

授業科目名 <英訳>	世界における医療制度・政策 【領域4】 Healthcare Systems and Policies around the World	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特定講師 佐々木 典子 医学研究科 特定講師 國澤 進 医学研究科 特定講師 大坪 徹也								
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2018・ 前期集中	曜時限	前期前半	授業 形態	講義	使用 言語	英語
[授業の概要・目的] Through studies of various healthcare systems, the students will learn mechanisms how they work and strategic options how to improve them. A healthcare system is a social system with multiple functions, multiple players and multiple drivers to change.											
[到達目標] 1) To understand frameworks to grasp and assess healthcare systems 2) To understand and assess various healthcare systems around the world 3) To understand strategic options how to improve them											
[授業計画と内容] 1 Apr 11 Universal Health Coverage & Health Care System in Japan 2 Apr 18 International Comparative Analyses of Health Systems 3 Apr 25* Health Insurance in Japan 4 May 02* International Support for Strengthening Health System 5 May 09* Evidence-Based-Informed Policy 6 May 16* Community Based Integrated Care System 7 May 23* Health Informatics and (Health) Policy 8 May 30 Group work & Presentation *Includes students' short presentations about the healthcare system of their own country Note: This schedule is subject to change.											
[履修要件] ・ non-Japanese speakers ・ Japanese with TOEFL iBT score ≥100											
[成績評価の方法・観点及び達成度] Classroom participation (40%) Presentation (30%) Report (30%)											
[教科書] Reading materials will be distributed as needed.											
世界における医療制度・政策 【領域4】(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

世界における医療制度・政策 【領域4】(2)	
どのレポート(配分70%)により、総合的に評価する。	
[参考書等] (参考書) ・ Tracking Universal Health Coverage - First Global Monitoring Report - (WHO,2015) ・ The World Health Report 2000- Health Systems: Improving Performance (WHO,2000)	
[授業外学習(予習・復習)等] Good preparation and review are necessary.	
(その他(オフィスアワー等)) Our department has been accepting graduate students who are interested in research related to health care policies, health care management, and health care quality/safety/cost. (http://med-econ.umin.ac.jp/int/) ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

授業科目名 <英訳>	行動科学 【領域5】 Behavioral Science	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 渡辺 範雄 医学研究科 教授 古川 壽亮 医学研究科 助教 小川 隼石								
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2018・ 前期前半	曜時限	火1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的] I. コースの概要 人間行動に関連する理論の基礎について学習する。特に実践的に有用であることが示されている理論を中心に学習する。 II. 教育・学習方法 パワーポイントスライドによる講義、グループディスカッション											
[到達目標] ・ 主な行動理論について説明することができる。 ・ 行動理論の応用・適用を考えることができる。											
[授業計画と内容] 第1回 4月17日 イントロダクション、ヘルスピリーフモデル 第2回 4月24日 トランスセオレティカルモデル、計画的行動理論 第3回 5月1日 社会的認知理論 第4回 5月15日 認知行動理論、認知行動療法 第5回 5月22日 ストレスとコーピング 第6回 5月29日 メンタルヘルス(精神および行動の障害) 第7回 6月12日 まとめ(1) 第8回 6月19日 まとめ(2)、試験											
[履修要件] MPHコア(選択必修)											
[成績評価の方法・観点及び達成度] 平常点(出席を含む)50点、試験50点(単位取得のためには、合計で60点以上が必要。)											
[教科書] 毎回、講義資料を配布する。											
[参考書等] (参考書) 必須テキスト: なし 推奨テキスト: ・ Glanz et al. Health Behavior and Health Education-theory, research and practice. 4th edition. Jossey-Bass, 2008 (行動科学の定番的教科書です。部分訳が出版されています。「健康行動と健康教育ー理論、研究、実践」(曽根智史ら、医学書院、2006年)) ・ 松本千明. 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎. 医歯薬出版、2002 (簡略に要領よ)											
行動科学 【領域5】(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

行動科学 【領域5】(2)
く行動科学の種々の理論がまとめられています
[授業外学習(予習・復習)等]
毎回復習をしてください。
(その他(オフィスアワー等))
その他メッセージ 人間健康科学系専攻学生の受講可否：不可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	基礎医療倫理学 【領域5】 Basic Medical Ethics	担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 小杉 眞司
配当学年	専門職	単位数	1
開講年度・開講期	2018・前前半	曜時間	木5
[授業の概要・目的]			
【基本情報】 授業日時：木曜5限(前前半) 教室：G棟セミナー室A レベル：基礎 担当者：小杉眞司・和田敬仁・山田崇弘・竹之内沙弥香・桐谷麻美・大守伊織(岡山大学)			
【コースの概要】 社会健康医学における研究と実践の基礎となる医療倫理の考え方、研究倫理申請などについて、その骨子を学ぶ			
[到達目標]			
・社会健康医学における研究と実践の基礎となる医療倫理上の問題に適切に対応できる。 ・主な医療倫理理論について説明できる。 ・自身の研究倫理申請が適切にできる。 ・産婦人科医療・小児医療・終末期医療などにおける医療倫理上の問題を説明できる。			
[授業計画と内容]			
【第1回】4/19<小杉>「医療倫理学総論・医療倫理における考え方」 【第2回】4/26<竹之内>「終末期医療の倫理」 【第3回】5/10<和田>「新生児・小児医療と倫理など(1)」 【第4回】5/17<小杉>「研究倫理・倫理審査委員会」 【第5回】5/24<大守>「生命倫理の歴史」 【第6回】5/31<桐谷>「個人情報保護・研究不正・利益相反」 【第7回】6/7<山田>「産婦人科医療と倫理」 【第8回】6/14<和田>「新生児・小児医療と倫理など(2)」			
(変更の可能性があるので開講日に確認してください)			
[履修要件]			
MPHコア科目(選択必修) 自身の研究計画を倫理申請する予定がある場合は必ず履修すること(MCR含む) 人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡			
[成績評価の方法・観点及び達成度]			
平常点(出席を含む)(約40%)、レポート(約60%)などを総合的に判定する。 <レポート提出期限> ・中間レポート締切：5月16日 ・最終レポート締切：6月30日 メールで提出。 受領確認メールはいたしません。			
基礎医療倫理学【領域5】(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

基礎医療倫理学 【領域5】(2)
[教科書]
講義中の配布資料
[参考書等]
(参考書)
[授業外学習(予習・復習)等]
適宜指示する
(その他(オフィスアワー等))
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	医学コミュニケーション・基礎 【領域5】 Medical Communication: Introduction	担当者所属・職名・氏名	医学研究科 准教授 岩隈 美穂
配当学年	専門職	単位数	1
開講年度・開講期	2018・前前半	曜時間	火5
[授業の概要・目的]			
コースの概要 本コースは医学研究科社会健康医学系専攻のMPHコア科目の一つです。 医学コミュニケーションの基礎講座として、さまざまなバックグラウンド、専門、興味を持つ学生への対応を目的とした基本的事項を網羅し理解、検討を行います。			
[到達目標]			
学習到達目標(このコース終了時までに習得が期待できること) 医学コミュニケーションの基本的枠組み、コンセプトを理解する。 社会学・コミュニケーション学を手掛かりに、社会医学について理解する。			
[授業計画と内容]			
1) 4/10 イントロダクション 2) 4/1 医療と社会とコミュニケーション1 3) 4/2 医療と社会とコミュニケーション2 4) 5/精神医療の歴史(佐藤泰子氏 京都大学) 5) 5/8コミュニケーション学の基本の「き」：非言語x言語xチャネル 6) 5/15 医療と時間と空間：統・非言語コミュニケーション 7) 5/22 予備日 8) 5/29 講義まとめ			
[履修要件]			
選択必修			
[成績評価の方法・観点及び達成度]			
平常点(授業参加度も含む) 50% レポート 50% 「一言宣言」 5% + タイトル10% + 最終版 35%			
[教科書]			
ハンドアウトを配布する			
医学コミュニケーション・基礎【領域5】(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

医学コミュニケーション・基礎 【領域5】(2)
[参考書等] (参考書)
[授業外学習(予習・復習)等] コミュニケーション学の中で興味のあるリーディングを読むことを推奨する。
(その他(オフィスアワー等)) 「授業参加・貢献」を重視しているため、自発的発言を求める。 医療・医学への社会的アプローチに興味のある学生向け。 障害があり、授業あるいは課題への取り組みに配慮(Accommodation)が必要な場合、早めに相談に来ること。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	医学基礎 I Basic Medicine I	担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 福原 俊一 非常勤講師 萩原 暢子
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度・開講期	2018・前期	曜時限	水1
授業形態	講義	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]			
担当教員 萩原 暢子(京都ノートルダム女子大学 現代人間学部こども教育学科 教授)			
コースの概要 ・生活習慣病などの疾病を学ぶために必要な医学的基礎知識として、人体の構造や内分泌などの器官・器系の生理機能と調節機構、および生体の恒常性や生体リズム、体温調節、生体防御機構などについて講義を行う。			
教育・学習方法 ・講義形式			
[到達目標]			
生命現象と人体のつくり(細胞、組織、器官、器系)、体液の意義を理解する ・ホメオスタシスと生体リズムについて理解する ・内分泌系について理解する ・生殖系について理解する ・血液の成分と機能および、血液凝固系について理解する ・呼吸器系について理解する ・消化器系について理解する ・尿の生成と排尿について理解する ・体温調節について理解する ・生体の防御機構と免疫について理解する。			
[授業計画と内容]			
第1回 4月11日 オリエンテーション 2章 恒常性(ホメオスタシス)と生体リズム、1章 細胞、組織、器官、器系 第2回 4月18日 8章 体液、15章 内分泌系 総論 第3回 4月25日 15章 内分泌系 各論(1) 第4回 5月2日 15章 内分泌系 各論(2) 第5回 5月9日 16章 生殖と老化 第6回 5月16日 7章 血液 第7回 5月23日 10章 呼吸器系 総論、各論(1) 第8回 5月30日 10章 呼吸器系 各論(2) 第9回 6月6日 13章 泌尿器系 総論、各論(1) 第10回 6月13日 13章 泌尿器系 各論(2) 第11回 6月27日 14章 体温調節 第12回 7月4日 9章 生体の防御機構 第13回 7月11日 11章 消化器系 総論、各論(1) 第14回 7月18日 11章 消化器系 各論(2) 第15回 7月25日 総括(テストを予定)			
----- 医学基礎 I(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----			

医学基礎 II(2)
[履修要件] 特になし
[成績評価の方法・観点及び達成度] 平常点30%、テスト70%
[教科書] 必須テキスト(各自購入のこと) ・内田さえ・佐伯由香・原田玲子 編著「人体の構造と機能 第4版」 発行年月：2015年1月 医歯薬出版
[参考書等] (参考書) 参考テキスト ・A.シェフラー、S.シュミット(三木明徳、井上貴央訳)からだの構造と機能.西村書店、2002. ・浦野哲盟、窪田隆裕、丸中良典他6名人体生理学 朝倉書店、2006. ・小澤諒司、福田康一郎総編集、標準生理学.医学書院、2014.
[授業外学習(予習・復習)等] 適宜予習復習を求める。
(その他(オフィスアワー等)) 人間健康科学系専攻学生の受講可否：可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	医学基礎 II Basic Medicine II	担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 福原 俊一 附属病院 特定教授 上嶋 健治
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度・開講期	2018・後期	曜時限	木2
授業形態	講義	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]			
担当教員 細川 昌則(京都光華女子大学 健康科学部 看護学科 教授)神経生理学、解剖学 上嶋 健治(京大病院臨床研究総合センターEBM推進部特定教授)循環			
コースの概要 生活習慣病などの疾病を学ぶために必要な医学的基礎知識として、循環系などの器官・器系の生理機能と調節機構、老年性疾患、中枢神経系疾患の病態形成のメカニズムなどについて講義を行う。			
学習到達目標(このコース終了時までに習得が期待できること) ・循環系について理解する ・神経系の構成と機能について理解する ・老化と老年病について理解する ・疾患のモデル動物について理解する			
教育・学習方法 講義形式			
[到達目標]			
医療系学部等での該当する教育を受けていない学生向けに開講している科目である。社会健康医学系専攻における多様な研究活動を行っていくための基盤的な学びを得る。			
[授業計画と内容]			
第1回 10月4日 循環器総論 ポンプとしての構造と機能を知る 第2回 10月11日 循環器各論1 構造的異常を知る：弁膜症・先天性心疾患と血管疾患の理解のために 第3回 10月18日 循環器各論2 構造的異常を知る：虚血性心疾患・救急医療の理解のために 第4回 10月25日 循環器各論3 機能的異常を知る：高血圧・不整脈の理解のために 第5回 11月1日 老化と老年病学1 老年性疾患の基礎を知る 第6回 11月8日 老化と老年病学2 老年症候群を理解するために 第7回 11月15日 老化と老年病学3 メタボリック症候群を理解するために 第8回 11月22日 老化と老年病学4 ロコモティブ症候群を理解するために 第9回 11月29日 老化と老年病学5 サルコペニアとフレイルティーを理解するために 第10回 12月6日 病理学1 炎症と組織の退行変性の基礎を知る 第11回 12月13日 病理学2 疾患モデル動物を知る 第12回 12月20日 病理学3 神経系の構造的異常を理解するために 第13回 12月27日 病理学4 神経系の機能異常を理解するために 第14回 1月10日 神経科学1 認知症の理解のために 第15回 1月17日 神経科学2 PVL(脳室周囲白質軟化症)の理解のために			
----- 医学基礎 II(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----			

医学基礎 II(2)
[履修要件] 特になし
[成績評価の方法・観点及び達成度] 平常点30%とレポート70%
[教科書] 教科書は特に指定しない。
[参考書等] (参考書) 佐藤昭夫、佐伯由香編、人体の構造と機能、医歯薬出版、2006。 テイボドー、バットン(コメディカルサポート研究会訳)、カラーで学ぶ解剖生理学、医学書院、2002。 A.シェフラー、S.シュミット(三木明徳、井上貴夫訳)からだの構造と機能、西村書店、2002。 クロスマン、ネアリー(野村敏、水野昇訳)神経解剖カラーテキスト第2版、医学書院、2008 生理学テキスト 大地隆男(著) 文光堂、2013 標準生理学 福田康一郎(監修) 医学書院、2014 Eric Kandel, James Schwartz 他 Principles of Neural Science, McGraw-Hill Professional; 5版、2012 (日本語版) 金澤一郎、宮下保司(監修)、カandel神経科学、メディカルサイエンスインターナショナル、2014 泰羅雅登、中村克樹(監修、翻訳)カールソン神経科学テキスト脳と行動、丸善出版、2013
[授業外学習(予習・復習)等] 適宜予習復習を求むる。
(その他(オフィスアワー等)) 人間健康科学系専攻学生の受講可否:可(教室の収容人数による) ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	臨床医学概論 Introduction to Clinical Medicine	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 福原 俊一
配当 学年	専門職	単位数	2
開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	水4
[授業の概要・目的]			
担当教員 渡邊 洸(渡辺記念長命研究所所長、京都府立医科大学名誉教授、明治国際医療大学名誉教授) 千葉 勉(関西電力病院 院長、京都市大学名誉教授)			
コースの概要 医学は今日まで多くの疾病の原因を解明し、その予防法と治療法を発見し人間社会に貢献してきた。しかし、現代社会は人口問題、環境問題、高齢者問題などが相まって、人間の疾病と関連する多くの課題に直面している。本講義では、保健、医療、福祉に携わる保健医療従事者(医師、看護師、その他のコメディカルスタッフ)が連携していく上で不可欠な医学に関する基礎知識と今日の課題について講義する。			
教育・学習方法 ・講義 ・グループワーク			
[到達目標]			
・現代医学・医療の基本的な内容や方向性を理解できる。 ・社会における臨床医学の役割や抱える問題点とその背景を、様々な立場から理解できる。			
[授業計画と内容]			
第1回 10月3日 ひと・社会・病気 第2回 10月10日 膀胱結石治療の歴史 第3回 10月17日 医学・教育・医療 第4回 10月24日 がん予防の新展開 第5回 10月31日 毒物学・麻薬学入門 日本人の精神構造と医療 (受講生の希望によりどちらか選択) 第6回 11月7日 腎・泌尿器疾患通論 第7回 11月14日 脳・神経系疾患概論 第8回 11月21日 脊髄・脳幹と疾患 第9回 11月28日 運動制御系と疾患 第10回 12月5日 感覚系と疾患 第11回 12月12日 体内調節系と疾患 第12回 12月19日 情動・報酬系と薬物濫用 第13回 12月26日 高次脳機能障害 第14回 1月9日 神経神話とその問題点 第15回 1月16日 グループ発表とまとめ *1回～6回・15回、渡邊 洸、7回～15回 千葉 勉			
臨床医学概論(2)へ続く↓↓↓			

臨床医学概論(2)
[履修要件] 特になし
[成績評価の方法・観点及び達成度] 平常点(出席を含む) 50%、レポート50%
[教科書] 講義時に配布される資料あるいは紹介される文献。 推薦テキスト(購入は必須ではない) ・河田光博、武田英二編、臨床医学入門人体の構造と機能及び疾病の成り立ち第2版(栄養科学シリーズNEXT)、講談社サイエンティフィク、2009。 ・渡邊 洸、勝見泰和、山村義治編、チーム医療従事者のための臨床医学全科、金芳堂、2006
[参考書等] (参考書) ・Harrison's Internal Medicine 19th edition, McGraw Hill Education ・Goldman-Cecil, Medicine, 25th edition, Elsevier ・ガイトン 生理学、エルセヴィアジャパン ・ハーバー 生化学、丸善 ・渡辺洸 良性がんの発見―過剰診断時代の予防がん学―、晶文社、2018
[授業外学習(予習・復習)等] 適宜予習復習を求むる。
(その他(オフィスアワー等)) 必修である非医療系学部出身者はもちろん、医師はじめ医療系学部出身者の受講も歓迎します。 人間健康科学系専攻学生:可(教室の収容人数による) ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	社会疫学 I Socio-epidemiology I	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 木原 雅子
配当 学年	専門職	単位数	2
開講年度・ 開講期	2018・ 前期	曜時限	月3
[授業の概要・目的]			
● コースの概要 ・社会疫学(socio-epidemiology)とは、量的方法と質的方法、疫学と社会科学を統合的に用いて、現実社会で可能な予防方法の開発を目指す学際的で実践的学問分野である。 ・社会疫学I(前期)では社会疫学的方法論的背景や社会疫学のフレームを形作る基本的方法(ソーシャルマーケティング、行動科学、社会的サンプリング・実験デザイン)を扱う。 ・社会疫学II(後期)では、量的方法と質的方法の統合的パラダイムの重要性を前提に量的方法(質問紙法)と質的方法(面接法と分析法)の実践的教育を行なう。			
● 教育・学習方法 ・講義、小グループ形式による演習			
[到達目標]			
● 学習到達目標(このコース終了時までに習得が期待できること) 1.社会疫学という学問分野の方法と意義を理解する。 2.疾病の発症が社会的要因によって影響を受けることを理解する。 3.ソーシャルマーケティング(SM)の概念・方法・適用範囲を理解する。 4.SMの中に取り入れられている行動理論の基礎を理解する。 5.商業的マーケティングとソーシャルマーケティングの類似性・違いを理解する。 6.社会的サンプリング法や社会実験的デザインの種類と利点・限界を理解する。			
[授業計画と内容]			
第1回 4月09日(月3) イントロダクション 第2回 4月16日(月3) 社会科学の歴史と社会疫学 第3回 4月23日(月3) ソーシャルマーケティング(1):基本概念と行動理論 第4回 5月07日(月3) ソーシャルマーケティング(2):形成調査 第5回 5月14日(月3) ソーシャルマーケティング(3):プロダクト開発パート1 第6回 5月21日(月3) ソーシャルマーケティング(4):プロダクト開発パート2 第7回 5月28日(月3) ソーシャルマーケティング(5):プロモーション:パート1 第8回 6月04日(月3) ソーシャルマーケティング(6):プロモーション:パート2 第9回 6月11日(月3) 社会的サンプリング・実験法(1) 第10回 6月18日(月3) 社会的サンプリング・実験法(2) 第11回 6月25日(月3) 社会疫学的研究デザイン(1):演習(発表) 第12回 7月02日(月3) 社会疫学的研究デザイン(2):演習(発表) 第13回 7月09日(月3) 社会疫学的研究デザイン(3):演習(発表) 第14回 7月23日(月3) 社会疫学的研究デザイン(4):演習(発表) 第15回未定 総合討議 試験未定			
*注意;講義内容やスケジュールは、当該年度の学生の要望や進捗状況により変更になる場合がございます。			
社会疫学 I(2)へ続く↓↓↓			

社会疫学 II(2)
[履修要件] MPH選択 MCR推奨選択 GC推奨選択
[成績評価の方法・観点及び達成度] 平常点(出席を含む)(30%)、レポート(40%)、試験(30%)
[教科書] 使用しない
[参考書等] (参考書) 推奨テキスト:参考書(より深く勉強したい人のためのテキスト) 1.A.R.Andreasen. Marketing social change. Jossey-Bass, San Francisco, 1995 2.Stephen I, Michael WB. Handbook in research and evaluation. 3rd ed. EdITS, San Diego, CA
[授業外学習(予習・復習)等] 特になし
[その他(オフィスアワー等)] その他メッセージ ・将来、疾病の予防、健康指導に関わる可能性のある人、予防や健康指導に興味の深い人の受講が望ましい。 後期の社会疫学IIとセットになっているので通年で受講することが望ましい 人間健康科学系専攻学生の受講可否:受講可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳> Introduction to Statistical Computing and Data Management	医療統計学実習	担当者所属・職名・氏名 医学研究科 教授 佐藤 俊哉 医学研究科 助教 米本 直裕			
配当学年 専門職	単位数 2	開講年度・開講期 2018・前期	曜時限 火3,4	授業形態 実習	使用言語 日本語
[授業の概要・目的] 医療統計学実習では、医療統計学講義で学んだ医療統計の考え方を実際に目で見、体験することを目的とします。医療統計学の理解を深めるためにはお勧めの実習です。統計ソフトJMPによる簡単な集計、解析、プログラミングを実習します。実習のレポートはワープロソフトWordで作成してもらいます。図表などは表計算ソフトExcelを使って作成します。プレゼンテーションはプレゼンテーションソフトPowerPointを用いて行います。これらのソフトの使い方も学びます。 統計ソフトJMPは京都大学でライセンス契約しています。医学研究科の学生さんは医学研究科ホームページの、 http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/ から、実習で使用するノートパソコンにJMPをダウンロード・インストールしてください。みなさんの個人のパソコンにもインストールできますので、ノートパソコンなどにインストールして実習に持ってきてください。					
[到達目標] ・データチェック、データマネジメントの重要性を理解する ・ワープロ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを使って、すばらしい図表を作成し、すばらしい発表をし、すばらしいレポートを作成する ・統計ソフトを使って集計と簡単な統計計算を行うことで、医療統計の基礎的な考え方の理解を深める					
[授業計画と内容] 第1回 4月10日 インテロダクション、表計算ソフトを使う 第2回 4月17日 統計ソフトJMPを使う 第3回 4月24日 グループ実習1: テーマ選択・データ収集 第4回 5月1日 グループ実習2: データ収集 第5回 5月8日 グループ実習3: 集計、解析 第6回 5月15日 グループ実習4: プレゼンテーション 第7回 5月22日 ランダムにわけよう 第8回 5月29日 リスク比、リスク差、オッズ比の不思議 第9回 6月5日 割合の差の検定と帰無仮説のほんとうの意味 第10回 6月12日 「95%信頼区間は95%の確率で真の値を含む」わけではない 第11回 6月19日 2×2表を解析する 第12回 6月26日 サンプルサイズを計算していかに多くの対象者が必要があるか 第13回 7月3日 ランダムサンプリングしてみる 第14回 9月18日 発表会1(セミナー室A) 第15回 9月19日 発表会2(セミナー室A)					
[履修要件] ・演習室のスペースが32名までですので、社会健康医学系専攻の履修者を優先します ・毎年スペース以上の履修希望者がいて、希望通りに受け入れられない状況ですが、例年、途中か					
医療統計学実習(2)へ続く ↓ ↓ ↓					

医療統計学実習(2)
ら「参加できなくなった」という学生さんがいます。参加できなくなる可能性のある人は受講を遠慮してください。 ・人間健康科学系専攻の学生の受け入れはしていません ・医学修士、医学博士課程の受講希望者は事前に連絡してください ・レポートを書いたことのない人は、レポートの書き方に関する書籍などを読んでおいてください
注 この実習は9月に発表があります
[成績評価の方法・観点及び達成度] レポートとプレゼンテーション ・毎回レポートを提出してもらいます ・班ごとのプレゼンテーション ・個人ごとのプレゼンテーション(9月)
[教科書] 必須ソフト: JMP 毎回「実習の手引き」を配布します
[参考書等] (参考書)
[授業外学習(予習・復習)等] 毎回レポート提出があります
[その他(オフィスアワー等)] ・医療統計学実習を履修していないと後期「解析計画実習」は履修できません ・途中からの参加は認めません、必ず初回から出席してください ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳> Statistical Methods in Observational Studies	観察研究の統計的方法	担当者所属・職名・氏名 医学研究科 教授 佐藤 俊哉 医学研究科 特定教授 田中 司朗 医学研究科 助教 米本 直裕			
配当学年 専門職	単位数 2	開講年度・開講期 2018・前期集中	曜時限 金・3-6	授業形態 講義	使用言語 日本語
[授業の概要・目的] 臨床研究と疫学研究では様々な観察研究が行われています。臨床試験に代表される実験研究を実施できない状況は数多くあり、観察研究は臨床研究・疫学研究において重要な役割を演じています。しかし、観察研究は実験研究とことなっており、さまざまなバイアスが入りやすく、観察研究に特有の留意すべき事項も多くあります。 本コースでは観察研究のデザイン、統計解析の方法を解説し、観察研究を計画、実施、解析ならびに報告するための統計学の知識を習得することを目標とします。 【6月8日、15日、22日、29日(金)の集中講義】					
[到達目標] ・バイアスを避けるための研究デザイン上の工夫を理解する ・バイアスを調整するための統計的方法を理解する ・観察研究における因果推論の考え方を理解する ・様々な研究デザインによる対象者のサンプリング方法と解析方法を理解する					
[授業計画と内容] 集中講義6月8日、15日、22日、29日(金)3限〜6限(29日のみ3限・4限) 第1回 6月8日 3限 2×2表の数理と解析 第2回 6月8日 4限 観察研究におけるバイアス 第3回 6月8日 5限 層別解析 第4回 6月8日 6限 演習1 第5回 6月15日 3限 マッチング 第6回 6月15日 4限 一般化線形モデル 第7回 6月15日 5限 生存時間解析 第8回 6月15日 6限 演習2 第9回 6月16日 3限 新しい疫学研究デザイン1 第10回 6月16日 4限 新しい疫学研究デザイン2 第11回 6月16日 5限 ベイズ流の解析 第12回 6月16日 6限 演習3 第13回 6月23日 3限 傾向スコアによる解析 第14回 6月23日 4限 操作変数法					
観察研究の統計的方法(2)へ続く ↓ ↓ ↓					

観察研究の統計的方法(2)	

[履修要件]	
<ul style="list-style-type: none"> ・統計学の基本的な知識（尤度、漸近分散、確率分布、など）を前提とした難しいコースなので、前期「統計的推測の基礎」を履修済みであること ・受講希望者は登録前に必ず相談してください ・人間健康科学系専攻の学生さんの受け入れはしていません 	
[成績評価の方法・観点及び達成度]	
数値・解析に関する演習のレポート	
[教科書]	
毎回講義資料を配布します。	
[参考書等]	
<p>(参考書)</p> <p>佐藤俊哉 『宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ 検定の巻』(岩波書店) ISBN:978-4-00-029594-9 宮原英夫、丹後俊郎 『医学統計学ハンドブック』(朝倉書店) ISBN:978-4-254-12099-0 Rothman KJ, Greenland S, Lash TL 『Modern Epidemiology, 3rd ed.』(Lippincott, Williams & Wilkins) ISBN:978-0-7817-5564-1</p>	
[授業外学習(予習・復習)等]	
演習の課題を解くこと	
(その他(オフィスアワー等))	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

授業科目名		観察疫学研究		担当者所属・職名・氏名		医学研究科 教授 福原 俊一	
<英訳>		Observational Epidemiology					
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2018・前期集中	曜時限	前期後半:金1
[授業の概要・目的]		近年、データベース研究が盛んとなり、観察疫学的重要性が増している。このコースは、社会健康医学領域の研究のうち、特に観察疫学研究の基本的な理論・知識を学ぶ。従ってこのコースには、介入研究は含まれない。					
[到達目標]		1)それぞれのRQに最も適した観察研究のデザインの「型」を選ぶことができる 2)変数を測定するための尺度を開発し検証することができる 3)研究に適した調査研究法を設計することができる 4)傾向スコアを理解する					
[授業計画と内容]		第1回 6月1日 観察疫学研究の可能性(福原) 第2回 6月15日 観察疫学研究デザインの「型」の種類と特徴(大西) 第3回 6月22日(1限) 調査研究の設計と実際1(竹上) 第4回 6月22日(2限) 調査研究の設計と実際2(竹上) 第5回 7月6日 傾向スコアの理論と実際(川村) 第6回 7月13日(1限) 尺度研究の開発と検証(総論)(岩田) 第7回 7月13日(2限) 尺度の開発と検証(各論)(脇田) 第8回 7月27日(8:45~10:00) 試験 補講 8月3日(9:30~12:00) 尺度の開発と検証(各論)-2(脇田)					
[履修要件]		<ul style="list-style-type: none"> ・MPH選択・MCR必修 ・「疫学」を履修済み、または「疫学Ⅰ」を履修中であること、かつ「疫学Ⅱ」(MPHコア)を履修することを必須条件とします 					
[成績評価の方法・観点及び達成度]		<ul style="list-style-type: none"> ・講義平常点(出席を含む) 40% ・筆記試験 60% 					
[教科書]		授業中に指示する					
[参考書等]		<p>(参考書)</p> <p>福原 俊一 『臨床研究の道標：7つのステップで学ぶ研究デザイン』(認定NPO法人 健康医療評価研究機構) Hulley S 『Designing Clinical Research 2nd ed.』(William & Wilkins) (和訳：臨床研究のデザイン 医学書院MYW)</p>					
		観察疫学研究(2)へ続く ↓ ↓ ↓					

観察疫学研究(2)	
竹上 未紗, 福原 俊一 『誰も教えてくれなかったQOL活用法』(認定NPO法人 健康医療評価研究機構)	
[授業外学習(予習・復習)等]	
講義および討論 講義前・後の学習	
(その他(オフィスアワー等))	
<ul style="list-style-type: none"> ・人間健康科学系専攻学生の受講可否：不可 ・6/22と7/13は、1、2限となります。ご注意ください。 	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

授業科目名		研究デザイン演習		担当者所属・職名・氏名		医学研究科 教授 福原 俊一	
<英訳>		Practicum in Research Design					
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2018・前期	曜時限	金1開講日注連
[授業の概要・目的]		社会健康医学領域の「研究の基本設計図」を作成するための研究デザインの技能や実践方法を学ぶ。質的研究は含まれない					
[到達目標]		<ul style="list-style-type: none"> ・漠然とした疑問を最終的に構造化抄録形式の「研究の基本設計図」にできる 1)曖昧な疑問を、解答可能なりサーチクエスチョン(RQ)の形に構造化できる 2)RQを概念モデルの形にできる 3)第3の因子とバイアスについて理解している 4)概念および概念の変数化を理解している 5)RQに最適な研究デザインを選択できる 6)調査研究を設計できる 					
[授業計画と内容]		第1回 4月20日 RQ作成(PECO)、FIRM2NESSチェック 第2回 4月27日 第3の因子を見つける 第3回 5月18日 RQ作成(PECO)(グループのテーマを決める) 第4回 5月25日 測定をデザインする 第5回 6月1日 バイアスを考える 第6回 6月15日 デザインの型を選択する 第7回 7月6日 調査研究を設計する 第8回 7月20日(1,2限)発表会					
[履修要件]		<ul style="list-style-type: none"> ・MPH選択・MCR必修 ・「疫学」を履修済み、または「疫学Ⅰ」を履修中であること、かつ「疫学Ⅱ」および「観察疫学」を履修中であることが必須要件です 					
[成績評価の方法・観点及び達成度]		<ul style="list-style-type: none"> ・出席・グループ学習への貢献度(50%) ・プロトコル概要の発表(50%) 					
[教科書]		授業中に指示する					
		研究デザイン演習(2)へ続く ↓ ↓ ↓					

研究デザイン演習 (2)
[参考書等]
(参考書) 福原 俊一 『臨床研究の道標：7つのステップで学ぶ研究デザイン』 (認定NPO法人 健康医療評価研究機構) Hulley S 『Designing Clinical Research 2nd ed.』 (William & Wilkins) (和訳：臨床研究のデザイン 医学書院MYW) 福原 俊一 『リサーチクエスチョンの作り方』 (認定NPO法人 健康医療評価研究機構) 松村 真司 『概念モデルをつくる』 (認定NPO法人 健康医療評価研究機構)
[授業外学習 (予習・復習) 等]
小グループによるグループ作業・ディスカッション、発表
(その他 (オフィスアワー等))
人間健康科学系専攻学生の受講可否：不可 7/20は、1、2限となります。ご注意ください。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳> 文献検索法 Literature Research	担当者所属・職名・氏名 医学研究科 准教授 高橋 由光								
配当学年	専門職	単位数 1	開講年度・開講期	2018・前期前半	曜時限 月4	授業形態	講義	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]									
<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究を含む社会健康医学 (パブリックヘルス) 領域において、基本的なスキルの1つである文献検索の方法論について講義を行います。 疫学・EBM (根拠に基づく医療) の知識をもとに、各種の健康・医療情報を検索する方法を学習します。 PubMed、コクラン・ライブラリー、医学中央雑誌など代表的な医学文献データベース、有用なWebサイト、本学で利用可能な情報リソースの基礎的事項を紹介し、その活用法の習得を目指します。 EBMや疫学の基礎知識を学びながら、社会健康医学の学習・研究を進める基礎として、系統的な情報検索法の習得を目指します。 教育・学習方法：パワーポイントスライドによる講義と実習 									
[到達目標]									
各種データベースを活用して、社会健康医学に関する情報を検索するスキルを習得する。									
[授業計画と内容]									
第1回 4月9日 オリエンテーション (中山・高橋)									
第2回 4月16日 PubMed入門 (医学図書館)									
第3回 4月23日 医中誌Web入門 (医中誌)									
第4回 5月7日 クリニカル・クエスチョン、診療ガイドライン、システマティック・レビュー (中山)									
第5回 5月14日 コクラン・ライブラリー (ワイリー・ジャパン)									
第6回 5月21日 PubMed応用編 (中山・高橋)									
第7回 5月28日 文献評価の基本&各種声明 (中山)									
第8回 6月4日 文献管理ソフト (EndNote basic) 入門 (ユサコ)									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・観点及び達成度]									
毎回の小レポート (30%) および課題レポート提出 (70%)									
[教科書]									
特になし									
[参考書等]									
(参考書) 中山健夫、津谷喜一郎編著 『臨床研究と疫学研究のための国際ルール集』 (ライフサイエンス出版)									
----- 文献検索法(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----									

文献検索法(2)
[授業外学習 (予習・復習) 等]
・ECS-ID (学生アカウント) が必要です。 http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/cer/ecs_id/
(その他 (オフィスアワー等))
人間健康科学系専攻学生の受講可否：受講可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳> 文献評価法 Critical Appraisal	担当者所属・職名・氏名 医学研究科 教授 中山 健夫 医学研究科 准教授 高橋 由光 名古屋第二赤十字病院 副院長 野口 善令 三重県立一志病院 院長 四方 哲 奈良県立医科大学 講師 田中 優 京都府健康長寿医療センター 石崎 達郎								
配当学年	専門職	単位数 1	開講年度・開講期	2018・前期集中	曜時限 前期後半：月4	授業形態	講義	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]									
<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究を含む社会健康医学 (パブリックヘルス) 領域において、基本的なスキルの1つである文献の評価方法について講義を行います。 疫学・EBM (根拠に基づく医療) の知識をもとに、各種の健康・医療情報を検索し、適切に評価した上で利用する方法を学習します。 									
教育・学習方法									
<ul style="list-style-type: none"> パワーポイントスライドによる講義と実習 一部グループワークあり 									
[到達目標]									
得られた文献・情報を批判的に吟味し、主体的に活用する能力を習得する。									
[授業計画と内容]									
第1回 4月9日オリエンテーション (中山・高橋)									
第2回 6月11日CASPによる臨床試験論文の評価 (中山)									
第3回 6月25日ケースを用いたバイアスの評価 (1) (石崎)									
第4回 7月2日 ケースを用いたバイアスの評価 (2) (石崎)									
第5回 7月9日コクラン共同計画によるコクラン・レビューを通して (田中・中山)									
第6回 7月23日CASPによるメタアナリシス論文の評価 (中山)									
第7回 7月30日 (4・5限) メタアナリシスセミナー (野口・四方・田中・中山)									
第8回 8月6日AGREE法による診療ガイドラインの評価 (中山)									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・観点及び達成度]									
毎回の小レポート (30%) および課題レポート提出 (70%)									
[教科書]									
講義資料は配布									
[参考書等]									
(参考書) 中山健夫、津谷喜一郎編著 『臨床研究と疫学研究のための国際ルール集』 (ライフサイエンス出版)									
----- 文献評価法(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----									

文献評価法(2)	

[授業外学習（予習・復習）等]	
予習より復習に時間を取ること	
[その他（オフィスアワー等）]	
EBMや疫学の基礎知識を学びながら、社会健康医学の学習・研究を進める基礎として、系統的な文献評価法の習得を目指します。	
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 可	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

授業科目名 <英訳>	ヘルスサイエンス研究の進め方 Methods of Health Science Research	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫 非常勤講師 宮崎 貴久子 スタッフコム株式会社 植谷 可恵 非常勤講師 小泉 昭夫								
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2018・ 前期集中	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
・医療・ヘルスサイエンス研究を進めるにあたって必要な、明確で正確なコミュニケーションの基本的知識を学びます。 ・研究者として「知らなかった」ではすまされない研究と出版の倫理について学びます。 ・研究成果公表にあたって分かりやすい、科学的・論理的文章、図表、スライドやポスターの作成法を学びます。											
[到達目標]											
・ヘルスサイエンス研究をする意味への理解を深める。 ・研究者として遵守すべき研究と出版の倫理について理解する。 ・研究を進めるにあたって必要な学会発表、論文出版の進め方、助成金申請の準備について基本的な手順を理解する。 ・研究成果を公表するにあたって必要な科学的な文章作成方法と、一般的な文章表現方法の違いを理解する。											
[授業計画と内容]											
第1回 5月25日4限 イントロダクション・論理的文章作成法（中山・植谷） 第2回 6月1日3限 ヘルスサイエンス研究の歴史と意義、公正な科学研究（中山・宮崎） 第3回 6月1日4限 研究と出版の倫理I（総論）（宮崎） 第4回 6月8日3限 京都大学における医学研究の歴史（小泉） 第5回 6月15日3限 研究と出版の倫理II（ICMJE）（宮崎） 第6回 6月15日4限 論理的文章作成法：効果的・効率的な書き方、論文と抄録の書き方（宮崎） 第7回 6月22日3限 表とグラフでのデータ表示法（宮崎） 第8回 6月22日4限 ポスターとスライド発表、助成申請と研究計画書（宮崎）											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
授業への積極的な参加・発言（60%） レポート（40%）											
-----ヘルスサイエンス研究の進め方(2)へ続く↓↓↓											

ヘルスサイエンス研究の進め方(2)	

[教科書]	
講義資料は配布	
[参考書]	
(参考書) Thomas Lang 『トム・ラングの医学論文「執筆・出版・発表」実践ガイド』（シナジー） Thomas Lang 『わかりやすい医学統計の報告：医学論文作成のためのガイドライン』（中山書店） 中山健夫 ほか 『臨床研究と疫学研究のための国際ルール集』（ライフサイエンス社） 購入は必須ではありません。	
[授業外学習（予習・復習）等]	
・各回授業につき1時間程度。 ・第一回の授業前に、ICMJE Recommendationsを読んでください。 (http://www.icmje.org/recommendations/)	
[その他（オフィスアワー等）]	
・授業中は自分の表現で意見表明できるように常に考えていてください。 ・開講日と時限に注意してください。	
人間健康科学系専攻学生の受講可否：可ですが、授業中のディスカッションに参加することを認識しておいてください。	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

授業科目名 <英訳>	医療の質評価 Evaluation of Quality in Health Care	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特定講師 佐々木 典子 医学研究科 特定講師 國澤 進 医学研究科 特定講師 大坪 徹也								
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2018・ 前期集中	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
医療の質、医療安全、公正と効率に関して、医療スタッフ・医療施設・地方自治体・国に至る諸々の現場レベルにおける重要課題を扱い、基本的事項を理解する。 <内容> ・医療の質、公正と効率 ・Quasi-Experimental Designの基本について説明できる ・医療の質・安全・効率におけるマネジメントシステムと政策 ・医療の評価・病院機能評価 ・医療情報と医療の質評価 ・医療の質指標（QI）とその活用											
[到達目標]											
・医療の質を評価する際に必要な理論・概念、研究・評価手法、課題と対策について、重要事項を理解し、他者に説明しできるようにすること。 ・基本的な研究や社会制度の意義を系統的、批判的に解釈できるようにすること。 ・社会健康医学の研究及び実務上の問題解決に、関連する知識等を活用できるようにすること。											
[授業計画と内容]											
第1回 6月06日 医療の質、効率、そして公正 第2回 6月13日 医療の質・安全と組織文化 第3回 6月27日 医療の質の指標化（QI、CI） 第4回 7月04日 医療の質の評価法、アウトカム研究・リスク調整 第5回 7月11日 情報システムと医療評価 第6回 7月18日 医療の質評価：論文レビュー&討議1 第7回 7月25日 医療の質評価：論文レビュー&討議2											
* 医学部生チュートリアル、外部講師他の諸状況により日程変更あります。初回に予定を説明します。											
-----医療の質評価(2)へ続く↓↓↓											

医療の質評価 (2)	

[履修要件]	
社会健康医学系専攻院生 他専攻院生 (人間健康科学系専攻等含む) の受講可否: 3名程度まで可 (ただし、社会健康医学系専攻院生を前提とした講義となります。)	
[成績評価の方法・観点及び達成度]	
1. レポート (配点比重 70%) 2. 日々の講義へのコミットメント (配点比重 30%)	
[教科書]	
適宜、資料を講義にて配布する。	
[参考書等]	
(参考書) ・医療安全のエビデンス・患者を守る実践方策 (医学書院,2005) ・病院の教科書 (医学書院,2010) ・Handbook of Health Services Research (Springer Science+Business Media)	
[授業外学習 (予習・復習) 等]	
予習・復習は必要	
(その他 (オフィスアワー等))	
・当分野では、医療政策、医療経営、医療の質・安全・コスト研究に深く関わりたい人を募っています。(医療経済学分野: http://med-econ.umin.ac.jp) ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

授業科目名 <英訳>	中毒学入門 Introduction to Toxicology	担当者所属・職名・氏名	医学研究科 准教授 原田 浩二 医学研究科 助教 奥田 裕子					
配当学年	専門職	単位数 2	開講年度・開講期 2018・前期	曜時限 水4	授業形態	講義	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]								
I. コースの概要 化学物質の健康影響を考えると、「正」の面である薬と「負」の面である毒がある。本コースでは、環境汚染物質や身近にある金属、有機物質の毒性を有名な事件や古典を題材として考察し、初級中毒学を学ぶ。予習の必要はありませんが、高校化学の知識は必要です。題材から事件を推理するのではなく、現代化学文明の獲得した利便性の、ヒト健康に及ぼす負の作用を考えます。ケーススタディをもとに、薬物、毒物の影響を教授しますが、自らも考え、積極的に意見発表を行ってください。								
[到達目標]								
II. 学習到達目標 (このコース終了時までに習得が期待できること) ・化学物質の毒性を知ることができる ・毒物に関して、症状から文献検索ができる。 ・症状と経過から毒物を予想できる。中毒学の基礎を知ることができる								
[授業計画と内容]								
コース予定・内容 第1回 4月11日オリエンテーション Orientation 第2回 4月18日アルコールの毒性と遺伝 Alcohol 第3回 4月25日インスリン殺人事件 Insulin 第4回 5月2日ハチが消えた。ネオニコチノイド農薬Neonicotinoid pesticide 第5回 5月9日 Maximum Life span 第6回 5月16日過労死 Karoushi 第7回 5月23日伝統医学と現代医療、治療薬としての砒素: Arsenic 第8回 5月30日寒冷と痛み そのメカニズム: Pain 第9回 6月6日麻薬の毒性、大麻と肥満 Opioid and cannabisinoid 第10回 6月13日インドの小児の夏の死亡の原因を推理する Cause of Chiredren' s Death in India during summer 第11回 6月20日トリカブト殺人事件 Aconitine 第12回 6月27日生薬から生まれた現代医療 Medicines from natural products 第13回 7月4日史書に記載された毒物 Group work 第14回 7月11日史書に記載された毒物 講評 Group work 第15回 7月18日レポート講評								
[履修要件]								
MPH選択、環境衛生学分野必修								

中毒学入門(2)へ続く↓↓↓								

中毒学入門(2)	

[成績評価の方法・観点及び達成度]	
平常点 (出席と質問等の積極性を含む) 70%、レポート30%	
[教科書]	
講義中の配布資料	
[参考書等]	
(参考書)	
[授業外学習 (予習・復習) 等]	
III. 教育・学習方法 ・パワーポイントスライドによる講義 ・適宜、ビデオやスライドを使用します	
(その他 (オフィスアワー等))	
その他メッセージ 後期の「中毒学」および「On the Bench Training」を受講するためには、この講義を受講することが必須です。 人間健康科学系専攻院生の受講可否: 上限10人まで可能 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

授業科目名 <英訳>	医療社会学・基礎 Medical Sociology	担当者所属・職名・氏名	医学研究科 准教授 岩隈 美穂					
配当学年	専門職	単位数 1	開講年度・開講期 2018・前期集中	曜時限 前期中半 水	授業形態	講義	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]								
コースの概要 医療社会学とは「健康・病気と保健・医療に関わる世界の問題を、行動や生活、家族や集団、地域や社会、文化などに関する社会学の理論と方法を用いて解明する学問分野」崎吉比古 (編)、2001、「健康と医療の社会学」まえがき より) このクラスの射程として、社会学はもちろんだが人類学、コミュニケーション学、歴史、哲学、倫理学なども含む予定で、「人文学・社会科学」から医学を考える。								
[到達目標]								
学習到達目標 (このコース終了時までに習得が期待できること) 医療社会学とは何か、を説明できる。 医療社会学の概念、理論、方法論を理解する。 自分の興味のある研究テーマにひきつけて医療社会学を考えることができる。 「人文学・社会科学」からの医療・医学への視点や語彙を提供し、履修者たちの描く「理想の医療」への改革へのヒントにすることができる。								
[授業計画と内容]								
1) 6/5 イントロダクション 2) 6/12医療社会学の基礎 3) 6/19病と疾病ほか 4) 6/26病人役割・スティグマ・その他 5) 7/3 IPF IPW (酒井郁子氏 千葉大) 6) 7/10人文・社会科学的医学とは 7) 7/17予備日 8) 7/24 発達障害とニューロダイバーシティ (美馬達哉氏 立命館大学)								
[履修要件]								
特になし								
[成績評価の方法・観点及び達成度]								
出席 25% 授業参加度 25% レポート 50% タイトル 15% + 最終版 35%								
[教科書]								
ハンドアウトを配布する								

医療社会学・基礎(2)へ続く↓↓↓								

医療社会学・基礎(2)

[参考書等] (参考書)
[授業外学習(予習・復習)等] 各自の興味関心に関連した医療社会学のリーディングを読むことを薦める
(その他(オフィスアワー等)) 「授業参加・貢献」を重視しているため、自発的発言を求める。 医療・医学への社会科学的アプローチに興味のある学生向け。 障害があり、授業あるいは課題への取り組みに配慮(Accommodation)が必要な場合、早めに相談に来ること。 講師の都合によって、日程が変わることもある。 人間健康科学系専攻学生の受講可否： 10名まで可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	統計遺伝学 I Statistical Genetics I	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 山田 亮
配当 学年	博士	単位数	2
開講年度・ 開講期	2018・ 前期	曜時限	火5
[授業の概要・目的]			
統計遺伝学の学修にあたり3つの要素に分けて取り組む。基礎数学、統計解析の基礎、統計解析の応用の3つである。 基礎数学は線形代数、微分積分学、グラフ理論、情報幾何学の4つを扱う。基礎ではデータ型・検定・推定の考え方を扱う。応用では、メンデル型遺伝、癌症候群、複合遺伝性疾患、発現解析を取り上げる。 これらを以下のような6つのモジュールとして提供する。 基礎数学A(線形代数とグラフ理論)、基礎数学B(微分積分学と情報幾何) 統計解析基礎A(データ型と検定)、統計解析B(推定) 統計解析応用A(メンデル型遺伝、癌症候群)、統計解析応用B(複合遺伝性疾患と発現解析)			
統計遺伝学I、IIはそれぞれ前期、後期に開講するが、年度ごとにその提供内容は変わる。 2018年度からの提供予定は以下のとおりとする。			
2018 前期 基礎数学A、後期 統計解析基礎A 2019 前期 基礎数学B、後期 統計解析応用B 2020 前期 基礎数学A、後期 統計解析基礎B 2021 前期 基礎数学B、後期 統計解析応用A			
また、統計遺伝学IIの講義では、プログラミング言語Rを使い、計算、データ解析、データ視覚化、データシミュレーションの技術も学ぶ。			
[到達目標]			
基礎数学A：行列演算による、二乗法・PCAがわかる。グラフ理論の基礎を習得する。 基礎数学B：確率密度関数の微分積分の式が理解できる。尤度関数と最尤推定のための微分演算が理解できる。近似のための微積分が理解できる。情報幾何の基礎を理解する。 統計解析基礎A：統計遺伝学分野におけるデータ型、検定、漸近近似検定、正確確率検定、分割表検定を理解する。 統計解析基礎B：点推定・区間推定、ベイズ推定、最尤推定、尤度関数を理解する。 統計解析応用A：メンデル遺伝形質のリスク評価、癌症候群のリスク評価を理解する。 統計解析応用B：複合遺伝性疾患の遺伝モデルとそのリスク評価、遺伝子発現プロファイルとバイオマーカーについて理解する。 いずれのモジュールにおいても、コンピュータ言語Rを用いて基礎的な計算・プログラミングの技術を習得する。			
[授業計画と内容]			
数学基礎A 前半に線形代数を、後半にグラフ理論を扱う。 線形代数では、行列計算、分散共分散行列、最小二乗法、連立方程式、PCA、最適解を順に取り上			
統計遺伝学Ⅰ(2)へ続く↓↓↓			

統計遺伝学Ⅰ(2)

ける。 グラフ理論では、グラフの定義、グラフオブジェクトのRでの取り扱い、木、最小全域木、ランダムグラフ、ネットワークを順に取り上げる。 数学基礎B 前半に微分積分学を、後半に情報幾何を扱う。 微分積分学では、確率密度分布の期待値、尤度関数と最尤推定のための微分、確率密度関数・累積分布関数・ハザード関数のための微分積分、偏微分とHWE、最小二乗法、テイヤ展開を順に取り上げる。 情報幾何では、その基礎、フィッシャー情報量、双対平坦、指数型分布族、KLダイバージェンスを取り上げる。 統計解析基礎A データ型、カテゴリと正単体、2x2表のカイ二乗検定と正確確率検定、HWE検定とその正確確率検定、2x3表検定と遺伝モデル、一様分布とマルチプルテストとボンフェロニ補正を順に取り上げる。 統計解析基礎B 点推定と区間推定、ベイズ推定、二項分布とベータ分布、ハプロタイプ頻度推定とEMアルゴリズム、連鎖不平衡ブロックを順に扱う。 統計解析応用A 前半にメンデル遺伝を、後半に癌症候群を扱う。 メンデル遺伝では、家系図、メンデル遺伝のジェノタイプとフェノタイプ、NGSと疾患責任変異を扱う。 癌症候群では、その基礎、リスク評価、決断支援ツール、ベイズ推定、ベイジアンネットワークを扱う。 統計解析応用B 前半に複合遺伝性疾患を、後半にトランスクリプトーム・発現プロファイルによる癌のサブタイプを扱う。 複合遺伝性疾患では、遺伝モデル、集団・コホート、2x3表の関連検定、多座位モデルを扱う。 トランスクリプトーム・発現プロファイルでは、その基礎、Differential expression analysis、クラスタリングとヒートマップ、教師ありクラスタリング、バリデーション法を扱う。
[履修要件] 生物学・遺伝学の基礎を習得していることが望ましいが、意欲があれば必須ではない。 無線LAN接続の可能なノートパソコンを持参すること。計算機・プログラミングの知識は要求しないが、初学者は復習が必須となる。前期・後期併せての受講が望ましいが、必須ではない。
[成績評価の方法・観点及び達成度] 授業中の質疑応答の発言を評価する。 宿題の提出内容を評価する。 最終日に試験を実施する。
統計遺伝学Ⅰ(3)へ続く↓↓↓

統計遺伝学Ⅰ(3)

[教科書] 統計解析基礎A,Bでは、『遺伝統計学の基礎』 ISBN 978-4274068225とその英訳プリントを用いる。
[参考書等] (参考書) 基礎数学A、Bでは、配布資料(http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2018)を用いる。 統計解析応用A、Bでは配布資料(http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2017)を用いる。
[授業外学習(予習・復習)等] フリーソフトウェアRに習熟するには講義時間のみでは十分でないことが多い。日常のデータ処理などに積極的に活用するなど、使用機会を各自確保することが望まれる。 宿題が出る。
(その他(オフィスアワー等)) 特になし ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	臨床試験 Clinical Trial		担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 特定教授 田中 司朗 医学研究科 教授 古川 寿亮 医学研究科 特定助教 大前 勝弘 医学研究科 講師 西山 知佳 京都府立医科大学 教授 手良向 聡 名古屋医療センター臨床疫学研究室 齋藤 明子							
	配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]												
臨床試験の方法論について、海外の標準的教科書「クリニカルトリアル よりよい臨床試験を志す人たちに」の3章、5章、6章、9章、10章、12-15章に沿って講義する。循環器、がん、Translational Research領域の医師主導型臨床試験に実績のある講師3人により、臨床試験の実践について講義する。また、仮想的な臨床試験のプロトコル作成を小グループで行う。MCR必修、CB必修、MPH選択。												
[到達目標]												
・臨床試験の方法論を理解する。 ・臨床試験プロトコルの記載内容を理解し、プロトコル作成の考え方について、実習を通じて身につける。												
[授業計画と内容]												
・講義形式と実習形式、実習はプロトコル作成など。実習のチューターは、臨床統計学 相田麗・今井匠が担当。 第1回 4月11日 臨床試験概論 (古川) 第2回 4月18日 組織作りと計画 (田中) 第3回 4月25日 循環器領域の教育介入試験の実践 (西山) 第4回 5月9日 がん臨床試験実施上の問題とその対策 (齋藤) 第5回 5月16日 がん第1相～第III相臨床試験 (田中) 第6回 5月23日 エンドポイント・ランダム化とブラインドの方法 (田中) 第7回 5月30日 結果の発表と解釈 (古川) 第8回 6月6日 プロトコルの統計学的考慮点 (手良向) 第9回 6月13日 検定の多重性・中間解析・試験経過の把握・試験結果の解釈1 (田中) 第10回 6月20日 プロトコルの逸脱・非劣性試験・試験結果の解釈2・実習班分け (田中) 第11回 6月27日 実習 (プロトコル作成、田中、相田、今井) 第12回 7月4日 実習 (プロトコル作成、田中、相田、今井) 第13回 7月11日 実習 (プロトコル作成、田中、相田、今井) 第14回 7月18日 実習 (プロトコル作成、田中、相田、今井) 第15回 7月25日 実習 (プロトコル検討会、古川、田中、相田、今井)												
[履修要件]												
特になし												
-----臨床試験(2)へ続く↓↓↓↓-----												

臨床試験(2)												
[成績評価の方法・観点及び達成度]												
平常点 (50%)、レポート (50%)												
[教科書]												
S.J.ボック『クリニカルトリアル よりよい臨床試験を志す人たちに』(篠原出版)教科書の入手については第1回でアナウンスする。												
[参考書等]												
(参考書)												
[授業外学習 (予習・復習) 等]												
教科書「クリニカルトリアル よりよい臨床試験を志す人たちに」を適宜読むこと。												
(その他 (オフィスアワー等))												
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 可												
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

授業科目名 <英訳>	統計家の行動基準 Statisticians Standard of Conducts		担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 教授 佐藤 俊哉 附属病院 特任准教授 佐藤 恵子 医学研究科 特定教授 田中 司朗 医学研究科 助教 米本 直裕							
	配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2018・ 前期集中	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]												
19世紀の英国の首相ディズレーリ氏に言わせれば「嘘には、“嘘”、“大きな嘘”、“統計”がある」そうですが、統計は、さまざまな領域で政策や意思決定するための基礎情報として用いられ、人間の福利や環境を保持・向上させるために必要なものです。統計が嘘まばわりされないためには、統計に関わる業務や研究を行う専門家である統計家は、相応の知識や技能はもろろんのこと、プロフェッショナリズムを有してはなりません。 と言われると、なにやら堅苦しい感じがして、とくに最近では研究不正のおかげで、規範を守れぬ研究倫理セミナーを受けろなど、外からの縛りがきつくなるばかりですが、本講義は、「自分を縛るのは自分しかない」を基本コンセプトに、統計家はどうかあるべきかを自ら考えて心に持つことを目的とします。 人間を対象にした臨床試験をデザインする際には、科学性だけではなく心が必要であること、健康を願って作ったはずの薬が悲劇を招き、それに統計家が荷担する可能性があることなどの事例を学びます。そして、統計家はどうかあるべきか、自分はどうありたいのかについて、討議やワークを通じて考えます。 【7月6日、20日、27日(金)の集中講義】												
[到達目標]												
・臨床研究における科学性と倫理性の相克を理解する ・薬の評価において過去に統計家がしてきたことを理解する ・臨床研究における統計家の役割を説明できる ・統計家としての行動基準を考えて身の内に持つ												
[授業計画と内容]												
集中講義 7月6日(金、3,4限)、20日(金、3,4限)、27日(金、3,4,5限) 第1回 7月6日 3限 正当な臨床試験を計画する 1 第2回 7月6日 4限 正当な臨床試験を計画する 2 第3回 7月20日 3限 薬と安全性 第4回 7月20日 4限 サリドマイド薬害における統計家の関わり 第5回 7月27日 3限 ICH統計ガイドラインの心 第6回 7月27日 4限 統計家のプロフェッショナリズム演義の 第7回 7月27日 5限 グループワーク												
[履修要件]												
特になし												
-----統計家の行動基準(2)へ続く↓↓↓↓-----												

統計家の行動基準(2)												
[成績評価の方法・観点及び達成度]												
レポート												
[教科書]												
毎回講義資料を配布します												
[参考書等]												
(参考書) Friedman LM, Furberg CD, DeMets DL, Reboussin DM, Granger CB 『Fundamentals of Clinical Trials, 5th ed.』(Springer, 2015) 國頭英男, 佐藤恵子, 吉村健一 『誰も教えてくれなかった臨床試験の正しい作法』(中外医薬社, 2016)												
[授業外学習 (予習・復習) 等]												
日本計量生物学会「統計家の行動基準」、ICH E9「臨床試験における統計的原則」を読んでおくこと。 http://www.biometrics.gr.jp/news/all/standard_20150310.pdf https://www.pmda.go.jp/int-activities/int-harmony/ich/0031.html												
(その他 (オフィスアワー等))												
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

授業科目名 <英訳>	健康デザイン論 Designing Health communication	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫								
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2018・ 通年集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
<ul style="list-style-type: none"> ・「ヘルスケアにおけるコミュニケーション・デザインアプローチ」のコンセプトと基本的枠組みを理解する。 ・当該アプローチを手がかりに、メッセージの受け手を「期待する成果」に誘うための「理解」「行動」を促進するコミュニケーション・デザインの考え方について学ぶ。 ・「講義+ワークショップ」形式を基本とする。 教育・学習方法 講義・演習 ※アクションラーニング形式（双方向型）な授業を想定。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・健康アウトカムの最大化を果たすための「ヘルスコミュニケーション」の在り方について「インサイト」「理解/行動促進」「共創・協働」等の概念とアプローチ方法の理解を図る。 											
[授業計画と内容]											
(上期)											
第1回 イントロダクション ～健康デザイン概論											
第2回 コミュニケーション・デザイン ～コミュニケーションをデザインするということ											
第3回 生活者インサイト ～ターゲットインサイトの考え方・向き合い方											
第4回 プランニング ～健康に誘うための仕掛けを企てるということ											
(下期)											
第5回 前期の復習											
第6・7回 ワークショップ											
第8回 ①プレゼンテーション ②講義まとめ											
(実施予定：8月2日・3日3・4時限 2019年2月中旬予定 3・4時限)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
課題レポート (50%)、発表 (50%)											
[教科書]											
講義の際に指定予定											
-----健康デザイン論(2)へ続く↓↓↓↓-----											

健康デザイン論(2)
[参考書等] (参考書) 講義の際に指定予定
[授業外学習 (予習・復習) 等] 講義内容の復習と課題への取り組み
(その他 (オフィスアワー等)) プロジェクト研究員の協力を得る予定 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	英語論文の書き方 How to write papers in English	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 古川 壽亮								
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2018・ 通年集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
基本的に、MPH2回生またはそれよりも上級のレベルの学生とした、量的な臨床研究論文を英語で書くための講義・演習です。											
[到達目標]											
こういう臨床研究論文は、5本ほど書くと、だいぶパターンが分かかってきて、1本目2本目よりはるかに書きやすくなります。今回の講義・演習は2本目くらいの人に、いっきに5本目の境地に達することができるとを、目指しています。											
[授業計画と内容]											
夏季休暇の始めに1日、夏季休暇の最後に1日の合計8時間の集中講義です。 第1日(8月7日)には、あらかじめ受講生をグループ分けして分担を決めますので、康永秀生『必ずアクセプトされる医学英語論文完全攻略50の鉄則』(金原出版)および『JEMNet論文作成マニュアル第2版』(http://jemnet.asia/wp/?page_id=84から無料でダウンロードできます)をテキストにして、 1. Methodsの書き方 2. Resultsの書き方 3. Introductionの書き方 4. Discussionの書き方 5. AbstractとTitleの書き方 6. 書き出す前に：論文のストーリーの組み立て方 7. 投稿する前に cover letterの書き方：投稿先の選び方、査読者の推薦のコツ といったテーマごとに発表をしていただきます。そして、古川から、 ・さまざまな経験談、失敗談 ・受講生の困り事へ、質疑応答を通してアドバイスを加えます。 第1日から第2日への間の宿題として ・上記の基本知識を元に、自分の書きかけの論文を書き進めて下さい ・第1日から第2日までの間には8週間ありますから、きっと何本も論文を読まれるでしょう。その中から、実際の論文ではどんな構成になっていたか、また上手な言い回しをピックアップしてくるという作業を、グループ毎にやってもらいましょう 第2日(9月25日)には、 ・ボランティアの数人の方の論文を具体的にグループでブラッシュアップしましょう ・その過程、そして各人が8週間で自分の論文を書き進めるに当たって困った点の質疑応答 ・上手な言い回し集の完成 ・査読者への対応のコツを演習形式で進めます。											
-----英語論文の書き方(2)へ続く↓↓↓↓-----											

英語論文の書き方(2)
[履修要件] <ul style="list-style-type: none"> ・TOEFL iBT 70点以上 (iBT以外のTOEFLも可)、またはIELTS 5.5点以上を取っていること ・何年前のものでも構いませんが、正式レポートのコピーの提出が必要です。 ・英文論文(症例報告でも、総説でも良いが、英文の書き物)を1本は出版していること ・そしてできれば現在執筆中の英文論文があること
[成績評価の方法・観点及び達成度] 講義への参加、講義中の発表および課したレポートによって評価する
[教科書] 康永秀生『必ずアクセプトされる医学英語論文完全攻略50の鉄則』(金原出版) ISBN:978-4-307-00478-7 後藤巨啓『JEMNet論文作成マニュアル第2版』(JEMNet) (http://jemnet.asia/wp/?page_id=84からダウンロードできます)
[参考書等] (参考書)
[授業外学習 (予習・復習) 等] グループ分け、およびその分担は、第1日の1ヶ月くらい前をメドに連絡します。
(その他 (オフィスアワー等)) 人間健康科学専攻学生の受講可否：不可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英語>	統計的推測の基礎 Fundamentals of Statistical Inference				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 佐藤 俊哉 統計数理研究所 逸見 昌之 医学研究科 特定助教 田中 司朗 医学研究科 特定助教 大前 勝弘						
	配当 学年	専門職	単位数	2		開講年度・ 開講期	2018・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	講義・演習	使用 言語
[授業の概要・目的]												
この授業では、統計関連科目を学ぶ上でその基礎となる事項について学習する。具体的には、前半で統計的推測法の上台となる確率論の基礎事項について取り扱い、後半では統計的推定・仮説検定・信頼区間などの統計的推測の基礎概念について取り扱う。 前半の確率論では、数学的に厳密な測度論に基づくものではなく、微積分や線形代数（大学学部教養レベルの数学）を用いる範囲で、統計的推測法の理解に必要な確率に関する基本事項の習得を目指す。後半の統計的推測では、基礎概念に対する原理的な考え方や理論的な側面に重点を置く。この授業は、他の統計関連科目の授業ではなかなか立ち止まってじっくりと考える余裕のない基礎的な部分に焦点を当て、準備と足固めをするのが目的である。 受講生のバックグラウンドは様々であると想定されるため、可能な限りその事情を考慮しながら授業を進める。 【パワーポイントスライドによる講義形式】												
[到達目標]												
<ul style="list-style-type: none"> 確率と統計に関する基礎概念の意味や考え方をしっかり理解し、自分の言葉で説明することができる 統計量や確率分布などに関する計算を、必要に応じて自分で考えながら実行できる 他の統計関連科目を学ぶ際に、各種の統計手法をブラックボックスとはせずに、自ら考えながら学んで、その仕組みを理解することができる 												
[授業計画と内容]												
第1回 4月12日 講義の概要と確率・確率変数の概念（逸見） 第2回 4月19日 離散型確率変数とその分布に関する基本事項（逸見） 第3回 4月26日 連続型確率変数とその分布に関する基本事項（逸見） 第4回 5月10日 複数の確率変数の取り扱い（逸見） 第5回 5月17日 正規分布に関する確率分布（逸見） 第6回 5月24日 総合演習・復習【確率編】（逸見、佐藤、田中、大前） 第7回 5月31日 統計的推測の枠組み（佐藤） 第8回 6月7日 統計的推定の基本事項（佐藤） 第9回 6月14日 統計的仮説検定の基本事項（田中） 第10回 6月21日 信頼区間の基本事項（田中） 第11回 6月28日 漸近的方法の基本事項I（最尤法とその性質）（逸見） 第12回 7月19日 漸近的方法の基本事項II（最尤法に基づく検定と最尤法以外の推定法）（逸見） 第13回 7月26日 線形代数の基礎と線形回帰分析序論（逸見） 第14回（未定） 総合演習・復習【統計編】（佐藤、田中、大前）												
統計的推測の基礎(2)へ続く ↓ ↓ ↓												

統計的推測の基礎(2)												
[履修要件]												
<ul style="list-style-type: none"> 微積分と線形代数の基本的な知識があること 人間健康科学系専攻の学生さんの受け入れはしていません 												
[成績評価の方法・観点及び達成度]												
レポート												
[教科書]												
講義資料を配布します												
[参考書等]												
(参考書) 講義中に紹介します												
[授業外学習（予習・復習）等]												
<ul style="list-style-type: none"> この授業を利用しながら、自分が良く理解できていない部分について重点的に学習していただきたい 受講生のバックグラウンドによって、授業外に学習すべき事項は異なると思われるので、その場合は可能な限り相談に応じます 												
[その他（オフィスアワー等）]												
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

授業科目名 <英語>	生存時間解析 Survival Analysis				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 佐藤 俊哉 大阪大学大学院医学系研究科 服部 聡						
	配当 学年	専門職	単位数	1		開講年度・ 開講期	2018・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語
[授業の概要・目的]												
生存時間解析は関心のある事象が生じるまでの期間（生存時間）の統計的分析をする方法であり、抗悪性腫瘍薬の臨床試験など、様々な医学研究において重要な役割を果たしています。研究の実施上の制約から生存時間がすべての被験者で観察されないことが通常で、そのような打ち切りデータに基づいて推測を行うための独特の方法論が発達しています。本講義では、生存時間解析の基本的な考え方を学習し、統計解析用プログラム言語であるSASによる実習を通じて理解の定着を図ります。 【8月7日、9月4日（火）の集中講義】												
[到達目標]												
<ul style="list-style-type: none"> 打ち切りを伴う生存時間解析における尤度とパラメトリックモデルに対する最尤推定法を理解する Kaplan-Meier法、logrank検定の考え方を理解する ハザードの概念を理解し、Cox比例ハザードモデルを理解する 生存時間解析の方法をSASにより適用できる 												
[授業計画と内容]												
第1回 8月7日（火） 2限 生存時間データの事例と特徴 第2回 8月7日（火） 3限 ノンパラメトリック推定 第3回 8月7日（火） 4限 Logrank検定 第4回 9月4日（火） 2限 前半の講義の復習とSASによる演習 第5回 9月4日（火） 3限 Cox比例ハザードモデル 第6回 9月4日（火） 4限 生存時間解析における残差解析 第7回 9月4日（火） 5限 ランダム化試験におけるサンプルサイズ設計												
[履修要件]												
<ul style="list-style-type: none"> 前期「統計的推測の基礎」を履修済みであること 微積分の基本的な計算に慣れていること 												
[成績評価の方法・観点及び達成度]												
レポート												
[教科書]												
毎回講義資料を配布します												
[参考書等]												
(参考書) 大橋靖雄、浜田知久馬『生存時間解析－SASによる生物統計』（東京大学出版会）ISBN:978-												
生存時間解析(2)へ続く ↓ ↓ ↓												

生存時間解析(2)												
4130602006 Collett D（宮岡悦良 監訳）『医療統計のための生存時間データ解析 原著第2版』（共立出版）ISBN:978-4320110359 Klein J, Moeschberger ML（打波守訳）『生存時間解析』（丸善出版）ISBN:978-4621061886 Therneau TM, Grambsch PM『Modeling Survival Data: Extending the Cox Model』（Springer）ISBN:978-1-4419-3161-0												
[授業外学習（予習・復習）等]												
前回の復習												
[その他（オフィスアワー等）]												
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

授業科目名 <英訳> 統計モデルとその応用 Statistical Modeling and Applications		担当者所属・ 職名・氏名 医学研究科 教授 佐藤 俊哉 東北大学 高橋 史朗									
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2018・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】 「交絡」を調整する方法の一つに回帰モデルがある。代表的な回帰モデルは、1つの連続的な結果変数に対するものである。しかし医学研究では、リスクの有無に興味がある場合や興味のある結果がくり返し測定される場合もあり、結果の特徴に応じたより複雑なモデルが必要となる場合がある。本コースでは、実例を交えながら、様々な結果変数に対する回帰モデルとその解析方法を説明する。 【8月6日、9月3日(月)の集中講義】											
【到達目標】 ・回帰モデルの役割を理解する ・様々なデータの特徴に応じた回帰モデルと解析方法を理解する ・統計解析ソフトを用いて解析を実施し、結果を解釈できる											
【授業計画と内容】 集中講義 第1回 8月6日(月) 2限 線形回帰分析 第2回 8月6日(月) 3限 分散分析 第3回 8月6日(月) 4限 相関する連続データに対する一般線形モデル(1) 第4回 8月6日(月) 5限 相関する連続データに対する一般線形モデル(2) 第5回 9月3日(月) 2限 相関するカテゴリカルデータに対する一般化線形モデル(1) 第6回 9月3日(月) 3限 相関するカテゴリカルデータに対する一般化線形モデル(2) 第7回 9月3日(月) 4限 演習											
【履修要件】 ・前期「統計的推測の基礎」を履修済みであること ・線形代数の基本的な知識											
【成績評価の方法・観点及び達成度】 レポート											
【教科書】 毎回講義資料を配布します											
【参考書等】 (参考書) Dobson AJ. 『一般化線形モデル入門 原著第2版』(共立出版) ISBN:978-4320018679 McCulloch C., Searle S., and Neuhaus J. 『Generalized, Linear, and Mixed Models』(Wiley) ISBN:978-0-											
統計モデルとその応用(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

統計モデルとその応用(2)	
470-07371-1	
【授業外学習(予習・復習)等】 前回の復習をすること	
【その他(オフィスアワー等)】 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

授業科目名 <英訳> 行政医学・産業医学 Medical Doctors in Government and Occupational Settings		担当者所属・ 職名・氏名 医学研究科 教授 今中 雄一 環境安全保健機構 教授 川村 孝 非営勤講師 小泉 昭夫 医学研究科 教授 中山 健夫									
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】 労働医学の実践、行政医学の実践について、集中的に学ぶ。 1) 実践現場での問題解決および社会的な問題解決への展開を志向する。 2) 行政の場における医師(行政医師)の専門的実務について概要を学ぶ。 3) 労働の場における医師(産業医師)の専門的実務について概要を学ぶ。 担当教員:今中雄一(医学研究科教授)、川村 孝(環境安全保健機構教授)、小泉昭夫(医学研究科教授)、中山健夫(医学研究科教授) 外部講師:渡邊能行(京都府保健医療対策監/京都府立医科大学教授)、廣畑 弘(京都府南丹保健所長)、森口次郎(京都工場保健会 所長)、京都市保健所長予定											
【到達目標】 ・課題と対策について深い理解と知識を有し、他者に説明できるようになること。 ・何か問題なのか洞察できるようになること。 ・課題の解決に向けて必要に応じ専門家の支援を得ることができるようになること。											
【授業計画と内容】 8月1日(水)、8月2日(火) 各日1~5限or6限 別日程でフィールド学習の機会がある。 以下の内容の講義・グループワークを行う予定。 【行政医学】 行政医学の実践 行政医学実践:概論 成人・高齢者保健、母子保健、学校保健、歯科保健 地域包括ケアシステムの推進、地域医療構想・計画の実装 精神保健、疾病・障害者対策、難病対策 健康づくり、生活習慣病対策、要介護高齢者・障害者対策 感染症対策、食中毒、災害時の対策、健康危機管理など 行政医学:演習、グループワーク 実践現場に係る参加・学習 【産業医学】 産業医学の実践 産業医学実践:概論 職場の環境衛生、生活や地域の環境衛生 化学物質の管理、有害要因の曝露予防・健康障害対策 労働時間管理、特に医師の労働時間 健診を通じた健康管理 職場のメンタルヘルス 労働医学:演習、グループワーク 実践現場に係る参加・学習											
行政医学・産業医学(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

行政医学・産業医学(2)	
* 外部講師他の諸状況により変更の可能性あり。初回に予定表を配布する。	
【履修要件】 社会健康医学系専攻院生 他専攻院生(人間健康科学系専攻等含む)の受講可否:若干名	
【成績評価の方法・観点及び達成度】 講義・グループワークにおけるコミットメント(配分50%)、レポート(配分50%)により、総合的に評価する。	
【教科書】 適宜、資料を講義にて配布する。	
【参考書等】 (参考書) 適宜、講義中に紹介する。	
【授業外学習(予習・復習)等】 別日程でフィールド学習の機会があるため、「学生教育研究災害障害保険」等に必ず加入すること。	
【その他(オフィスアワー等)】 社会医学系専門医制度研修プログラムの副分野「行政・地域」、「産業・環境」の研修(各々15時間相当)にもみなすことができる。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

授業科目名 遺伝医療と倫理・社会 ＜英訳＞ Genetic Medicine, Ethics and Society		担当者所属 職名・氏名		医学研究科 教授 小杉 眞司	
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度 開講期	2018・ 前期集中
				曜時限	水2
				授業 形態	講義
				使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】					
【基本情報】 授業日時：水曜2限を原則とする（例外予定にご注意ください） 教室：G棟3階演習室 レベル：基礎 担当者：小杉眞司・和田敏仁・山田崇弘・澤井英明（兵庫医科大学）					
【コースの概要】 遺伝医療・先端医療においては、倫理的な配慮は不可欠である。遺伝医療を中心とした医療倫理の基本について学ぶ。特に種々のガイドラインの理解は極めて重要である。また、社会的な基盤を含む日本の遺伝医療の現状について理解する。					
【到達目標】 遺伝医療・医学に関する倫理指針、遺伝学的検査、小児・産婦人科遺伝医療における倫理問題の基本、社会基盤について理解する。					
【授業計画と内容】					
【第1回】4/11<和田1>「小児遺伝性疾患の診断・告知と代諾」小児期発症の遺伝性疾患に対する倫理的問題を考える					
【第2回】4/18<小杉1>「遺伝医療総論」遺伝カウンセラーコースの必修科目として、必ずしも「倫理」にかかわらず、全般的なイントロダクションを行う。また、遺伝医療における倫理問題の特性、遺伝情報の共有、意図しない遺伝情報の開示などについて考える					
【第3回】4/25<小杉2>「ヒトゲノム・遺伝子解析研究の倫理指針と他のガイドライン」研究として行われるヒト遺伝子解析における倫理的問題点、研究と臨床の境界と区別について考える					
【第4回】5/9<小杉3>「企業で行われる遺伝子解析について」遺伝学的検査を臨床検査会社等の外部委託する場合の問題点、非医療機関で行われる遺伝子検査の問題点について考える					
【第5回】5/16(臨床第一講義)<小杉4>「遺伝医療に関するガイドラインについて」					
【第6回】5/23<小杉5>「遺伝学的検査に関するガイドライン・遺伝子検査の意義、臨床的に行われる遺伝子検査の実施に際して考慮されなければならない倫理的問題について、遺伝子診断の意味とその問題点について、発端者・血族における違いを明確にしながら考える。					
【第7回】5/24<小杉6>「発症前遺伝子診断について」発症前遺伝子診断・易罹性診断の意味とその問題点について、神経変性疾患、家族性腫瘍など疾患における違いを明確にしながら考える					
【第8回】6/1 金5限<山田1>「人工妊娠中絶」本邦における人工妊娠中絶について、その倫理問題について考える					
【第9回】6/1 金6限<山田2>「出生前診断・生殖補助医療」出生前診断の倫理的問題について理解する。不妊・不育症治療としての生殖補助医療の倫理的問題点について詳細に検討する					
【第10回】6/6<和田2>「生命倫理観の多様性」患者やクライアントの持つさまざまな生命倫理観を理解し、対応する方法を考える					
【第11回】6/13<小杉7>「多因子疾患易罹性診断・遺伝学的検査のACCE・ゲノムコホート研究について」遺伝学的検査についてはA(Analytical Validity), C(Clinical Validity), C(Clinical Utility), E(Ethical, Legal and Social Implications)が重要である。特に、多因子疾患においては今後の研究によるその確立が必要である。そのためにはゲノムコホートによる長期的な取り組みが必要である					
【第12回】6/27<山田3>「ゲノム医療における二次的所見の取り扱い」網羅的ゲノム解析が実現					
遺伝医療と倫理・社会(2)へ続く ↓ ↓ ↓					

遺伝医療と倫理・社会(2)	
床に導入されて来たことにより得られた本来の目的とは別の二次的所見に対応する際の倫理的な問題を考える	
【第13回】7/4<小杉8>「キャリア診断・保因者診断について」常染色体・X連鎖性劣性遺伝性疾患・均衡型染色体相互転座などにおける保因者診断の意味と問題点について考える	
【第14回】7/4 5限<澤井>「少子化対策(すこやか親子21)等の政策について」少子化の進行は社会の活性を低下させるため、従来から様々な対策がなされてきた。成果を上げたものもあるがそうでないものもある。何か問題であるのかを検討する	
【第15回】7/11<和田3>「障がい」と生命倫理」「障がい」から生命倫理を考える	
【第16回】7/18<山田>「筆記試験」	
【第16回】8/8<山田>「再試験」	
【履修要件】 遺伝カウンセラーコース1回生必修科目 人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡	
【成績評価の方法・観点及び達成度】 試験、レポート、授業への積極的な参加、発表、出席等を総合的に評価する	
【教科書】 随時配布する	
【参考書等】 (参考書)	
【授業外学習(予習・復習)等】 適宜指示する	
【その他(オフィスアワー等)】 講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

授業科目名 基礎人類遺伝学 ＜英訳＞ Introduction to Human Genetics		担当者所属 職名・氏名		医学研究科 教授 小杉 眞司	
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度 開講期	2018・ 前期
				曜時限	水3
				授業 形態	講義
				使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】					
【基本情報】 授業日時：水曜3限を原則とする（例外予定にご注意ください） 教室：G棟3階演習室 レベル：基礎 担当者：小杉眞司・和田敏仁・山田崇弘					
【コースの概要】 遺伝カウンセラーとしてあるいは遺伝医学・遺伝医療を志す者として最も基本的な事項について理解するための講義である。今後、遺伝情報を治療に役立てていくテーラーメイド医療のためにも重要である。細胞遺伝学、分子遺伝学、メンデル遺伝学、非メンデル遺伝、集団遺伝学などについて系統的な講義を行う。					
【到達目標】 ヒト遺伝学の基本的事項について完全に理解し、専門家でない人にもわかりやすく説明できる。					
【授業計画と内容】					
【第1回】4/11<和田>「メンデル遺伝総論・家系図の描き方」メンデル遺伝と非メンデル遺伝総論・常染色体と性染色体・対立遺伝子の概念・遺伝性疾患の概念の理解・家系図の描き方					
【第2回】4/11(4限)<山田>「細胞遺伝学(1)」染色体と細胞分裂・分染法による染色体分析・染色体の核型記載方法・染色体異常概論4					
【第3回】4/18<小杉>「常染色体優性遺伝」常染色体優性遺伝 疾患の概念・特徴・浸透度・表現度・遺伝性と新生突然変異・anticipation(次世代の表現促進現象)					
【第4回】4/18(4限)<小杉>「常染色体劣性遺伝」常染色体劣性遺伝 疾患の概念・特徴・保因者の概念					
【第5回】4/18(5限)<小杉>「X連鎖性遺伝」X連鎖性遺伝の概念・X染色体とY染色体の特異性・性の決定機構・X連鎖性遺伝を示す具体的疾患					
【第6回】4/25<山田>「細胞遺伝学(2)」染色体数異常の概念と発生機構・染色体構造異常の概念と発生機構・保因者の概念と次世代への影響					
【第7回】4/25(4限)<和田>「遺伝的リスクの推定」再発確率の推定、ベイズの定理、近親婚に関する問題、先天代謝異常についても触れる					
【第8回】5/9<小杉>「遺伝学的検査(1)」遺伝子変異の検索方法：シーケンス法、サザンブロット法					
【第9回】5/16(第一臨床講義)<小杉>「薬理遺伝学」既にはじまりつつあるテーラーメイド医療で最も重要な領域であるpharmacogenetics/pharmacogenomicsの基本を正確に理解する					
【第10回】5/23<小杉>「遺伝学的検査(2)」変異のスクリーニング方法、変異と多型、変異の種類					
【第11回】5/30<和田>「多因子遺伝、集団遺伝」多因子遺伝の概念、量的形質と易罹病性、薬理遺伝学とオーダーメイド医療、遺伝と環境因子、ハーディー・ワインバーグの法則					
【第12回】6/6<小杉>「遺伝学的検査(3)」代表的な疾患の遺伝子検査のストラタジー、疾患の原因としての遺伝子の変化					
【第13回】6/13<和田>「非メンデル遺伝(1)」ミトコンドリア遺伝、免疫遺伝学、形質遺伝学					
【第14回】6/27<山田>「ヒトゲノムの基礎」ヒトゲノムの情報について学ぶ、遺伝子の構造、機能、遺伝学的多様性について知る					
基礎人類遺伝学(2)へ続く ↓ ↓ ↓					

基礎人類遺伝学(2)	
【第15回】7/4<和田>「非メンデル遺伝(2)」エビジェネティクス、ゲノム刷り込み現象、片親性ダイソミー	
【第16回】7/11<和田>「筆記試験」	
【第17回】8/1<山田>「再試験」	
【履修要件】 遺伝カウンセラーコース1回生必修科目 選択科目として履修する場合は、「遺伝医療と倫理・社会」ととも履修することをお勧めします 人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡	
【成績評価の方法・観点及び達成度】 試験、レポート、発表、出席等を総合的に評価する	
【教科書】 トンプソン&トンプソン『遺伝医学(第2版)』(メディカルサイエンスインターナショナル) ISBN:978-4-89592-875-5 (2017年4月発行) 福岡義光編『遺伝カウンセリングマニュアル』(南江堂) ISBN:978-4-524-26667-8	
【参考書等】 (参考書) 新川詔夫『遺伝医学への招待(改定5版)』(南江堂) ISBN:978-4-524-26562-6 「症例でわかる新しい臨床遺伝学」 ISBN:978-4-89592-574-7	
【関連URL】 http://www.geneclinics.org/(GeneReviews)	
【授業外学習(予習・復習)等】 適宜指示する	
【その他(オフィスアワー等)】 講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

授業科目名 <英訳>	臨床遺伝学・遺伝カウンセリング Clinical Genetics and Genetic Counseling	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 小杉 眞司								
配当 学年	専門職	単位数	3	開講年度 開講期	2018・ 前期集中	曜時限	水4・5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
【基本情報】 授業日時：水曜4限、5限を原則とする（例外予定にご注意ください） 教室：G棟3階演習室、レベル：基礎 担当者：小杉眞司・和田敏仁・山田崇弘・澤井英明（兵庫医科大学）・高橋政代（理化学研究所） ・藤村聡（京都府医師会） 【コースの概要】 遺伝カウンセリングの基本的な考え方、モデル、現状などの総論的な講義を行う。 また、代表的な疾患について、チーム医療としての遺伝医療に参加することのできるレベルの知識 と考え方を身につけ、遺伝医療の現場で行われている問題を解決するため、臨床遺伝学の講義を行 うとともに家族関係やチーム医療としての遺伝カウンセリングにもフォーカスをおく。各論として、 単一遺伝性疾患、染色体異常、多発奇形、習慣性流産、家族性腫瘍、神経変性疾患、多因子疾患な どについて講義する。											
【到達目標】											
主要な遺伝性疾患の病態、原因、遺伝形式、遺伝の問題について説明できる。また、それらの疾患 に関する遺伝カウンセリングの基本的な考え方、主な留意点について説明できる。											
【授業計画と内容】											
【第1回】 4月25日5限<和田>「先天異常症候群」主要な先天奇形症候群の診断・療育や遺伝カウ ンセリングを学ぶ 【第2回】 4月25日6限<山田>「不妊症・生殖補助医療」歴史的背景・現状・具体的技術・法的規 制・倫理問題とガイドライン常染色体異常症、遺伝カウンセリング 【第3回】 5月9日4限<和田>「常染色体異常(1)」概念・病態・診断 数的異常と構造異常、遺伝カ ウンセリング、13,18,21トリソミーの診断治療と療育を学ぶ 【第4回】 5月9日5限<和田>「常染色体異常(2)」微細欠失症候群やクロマチン病の診断・治療と療 育を学ぶ 【第5回】 5月16日4限(臨床第一講義)<小杉>「家族性腫瘍(1)総論」家族性腫瘍の概念・体細胞系 列変異と生殖細胞系変異、癌抑制遺伝子と癌遺伝子、発症前診断 【第6回】 5月16日5限<小杉>「家族性腫瘍(2)」家族性大腸がん家族性腫瘍の代表疾患としての家 族性大腸ポリポースと遺伝性非腺腫性大腸癌、それらの遺伝カウンセリングについて学ぶ 【第7回】 5月16日6限<山田>「不妊症(習慣流産)」不妊症と習慣流産 概念・病態・原因・治療 ・乏精子症による造精機能障害と転座型保因者における染色体異常妊娠等の遺伝学的要因の関与と 遺伝カウンセリング 【第8回】 5月23日4限<小杉>「家族性腫瘍(3)」多発性内分泌腫瘍症他 家族性腫瘍の具体的疾患と して、多発性内分泌腫瘍1型および2型を中心にとりあげ、概念・病態・遺伝形式・診断・治療、 及び遺伝カウンセリングについて概説する 【第9回】 5月23日5限<山田>「出生前診断」現状・具体的技術・法的規制・倫理問題について学 ぶとともに、遺伝カウンセリングの実際について学ぶ 【第10回】 5月23日6限<山田>「胎児診断と周産期管理」胎児情報をもとに実施される実施される 産科周産期管理について学ぶ 【第11回】 5月30日4限<小杉>「家族性腫瘍(4)」家族性乳がん・卵巣がん 【第12回】 5月30日5限<和田>「性染色体異常」病態・診断 具体的疾患：ターナー女性とクラ インフェルター男性・病態・診断・治療と療育・生殖医療、遺伝カウンセリング 【第13回】 5月30日6限<和田>「遺伝性神経疾患(1)」遺伝性神経疾患 概念・病態・診断：トリ プ											

臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(2)へ続く↓ ↓ ↓

臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(2)											
レットリビート病、ファブリー病の遺伝カウンセリング 【第14回】 6月6日4限<山田>「遺伝診療と医療システム」臨床遺伝の医療システムについて学ぶ 【第15回】 6月6日5限<山田>「PC情報検索(1)」ネットセキュリティの基本 【第16回】 6月6日6限<山田>「PC情報検索(2)」検索エンジン、遺伝情報データベース 【第17回】 6月13日4限<和田>「遺伝性神経疾患(2)」知的障害、自閉症、神経皮膚症候群などの遺 伝カウンセリング 【第18回】 6月13日5限<和田>「筋ジストロフィー」ドゥシャンヌ型筋ジストロフィー、筋緊張性 ジストロフィー、福山型筋ジストロフィー、ボンベ病の遺伝カウンセリング 【第19回】 6月13日6限<山田>「PC情報検索(3)」データベース、webツール、患者会情報 【第20回】 6月27日4限<藤村聡>「遺伝性難聴」遺伝性難聴 概念・病態・遺伝形式・診断（症候 性難聴と非症候性難聴）遺伝的異質性・治療と療育、遺伝カウンセリング 【第21回】 6月27日5限<高橋政代>「遺伝性網膜疾患と再生医療」網膜色素変性・加齢黄斑変性 概念・病態・遺伝形式・診断・遺伝的異質性・治療・再生医療 【第22回】 7月4日4限<和田>「遺伝性循環器疾患」Long QT症候群、マルファン症候群などの遺 伝性循環器疾患の遺伝カウンセリング 【第23回】 7月11日4限<藤村聡>「内科系疾患」突然死、高血圧、糖尿病などの臨床遺伝学と遺 伝カウンセリング 【第24回】 7月25日4限<和田>「筆記試験」 【第25回】 8月8日4限<山田>「再試験」											
【履修要件】											
遺伝カウンセラーコース1回生必修科目 選択科目として履修する場合は、「基礎人類遺伝学」とともに履修することをお勧めします 人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡（基礎人類遺伝学とあわせて履修する必要あり）											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
試験、レポート、発表、出席等を総合的に評価する											
【教科書】											
「基礎人類遺伝学」参照											
【参考書等】											
（参考書）											
【授業外学習（予習・復習）等】											
適宜指示する											
【その他（オフィスアワー等）】											
講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	遺伝医学特論（集中講義） Special Seminar for Genetic Medicine	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 小杉 眞司								
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度 開講期	2018・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
【基本情報】 授業日時：前期集中（開講日時にご注意ください） 教室：臨床第一講義 レベル：応用 担当者：小杉眞司・和田敏仁・山田崇弘・鳥嶋雅子・川村進吾・川崎秀徳 【コースの概要】 遺伝カウンセラーとして1年次に学んだ基礎的事項を確認し、医師と同レベルの高度な理解を得る ための講義である											
【到達目標】											
ヒト遺伝学の基本的事項について完全に理解し、医師とも正確な議論ができる											
【授業計画と内容】											
【第1回】 5/14月3限<小杉>「メンデル遺伝の基礎」 【第2回】 5/14月4限<小杉>「遺伝学的検査について」 【第3回】 5/16水2限<小杉>「遺伝医療に関するガイドラインについて」 【第4回】 5/16水3限<小杉>「薬理遺伝学」 【第5回】 5/16水4限<小杉>「家族性腫瘍の遺伝カウンセリング」 【第6回】 5/17木3限<和田>「家系図の書き方・遺伝的リスクの推定」 【第7回】 5/17木4限<和田>「先天奇形症候群の遺伝カウンセリング」 【第8回】 5/18金1限<和田>「遺伝性神経疾患の遺伝カウンセリング」 【第9回】 5/18金2限<山田>「細胞遺伝学と染色体異常の遺伝カウンセリング」 【第10回】 5/18金3限<山田>「出生前医療と遺伝カウンセリング」 【第11回】 5/18金4限<山田>「生殖補助医療と遺伝カウンセリング」 【第12回】 5/21月3限<小杉>「当事者と共に歩む遺伝医療」 【第13回】 5/21月4限<小杉>「遺伝カウンセリングの実際」 【第14回】 5/24木1限<鳥嶋>「遺伝カウンセリングの場面での医療コミュニケーションと自己評価 法(1)」 【第15回】 5/24木1限<鳥嶋>「遺伝カウンセリングの場面での医療コミュニケーションと自己評価 法(2)」 【第16回】 5/30水5限<小杉・川崎>「筆記試験」											
【履修要件】											
遺伝カウンセラーコース2回生必修科目 人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡											

遺伝医学特論（集中講義）(2)へ続く↓ ↓ ↓

遺伝医学特論（集中講義）(2)											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
試験、レポート、発表、出席等を総合的に評価											
【教科書】											
必須テキスト（必ず準備すること）： ・トンプソン&トンプソン 遺伝医学(第2版)（メディカルサイエンスインターナショナル)2017年4 月発行 ISBN: 978-4-89592-875-5 ・遺伝カウンセリングマニュアル(南江堂)ISBN:978-4-524-26667-8 *推奨テキスト・資料： ・遺伝医学への招待（南江堂）ISBN: 978-4-524-25332-6 ・症例でわかる新しい臨床遺伝学（ME D S I） ISBN: 978-4-89592-574-7 ・GeneReviews http://www.geneclinics.org/											
【参考書等】											
（参考書） 講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります。											
【授業外学習（予習・復習）等】											
適宜指示する											
【その他（オフィスアワー等）】											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 社会疫学 II <英語> Socio-epidemiology II		担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 准教授 木原 雅子							
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
●コースの概要 社会疫学socio-epidemiologyとは、量的方法と質的方法、疫学と社会科学を統合的に用いて、現実社会で可能な予防方法の開発を目指す学際的で実践的学問分野である。 社会疫学I(前期)では社会疫学的方法論的背景や社会疫学のフレームを形作る基本的方法(ソーシャルマーケティング、行動科学、社会的サンプリング・実験デザイン)を扱う。 社会疫学II(後期)では、量的方法と質的方法の統合的パラダイムの重要性を前提に量的方法(質問紙法)と質的方法(面接法と分析法)の実践的教育を行なう。											
●教育・学習方法 講義、小グループ形式による演習											
[到達目標]											
●学習到達目標(このコース終了時までに習得が期待できること) 1.量的方法と質的方法の統合の必要性を理解する。 2.質的研究方法の利点と限界を理解する。 3.フォーカスグループの理論・方法を理解し、実践できるようになる。 4.質的データの分析方法を理解し、実践できるようになる。 5.グラウンデッドセオリーを理解する。											
[授業計画と内容]											
第1回 10月01日イントロダクション 第2回 10月15日量的方法(1): 質問調査の技法:パート1 第3回 10月22日量的方法(1): 質問調査の技法:パート2 第4回 10月29日面接方法概論 第5回 11月05日フォーカスグループ演習(1) 第6回 11月12日フォーカスグループ演習(2) 第7回 11月19日フォーカスグループ演習(3) 第8回 11月26日質的データ分析概論 第9回 12月03日グラウンデッドセオリー概論 第10回 12月10日質的分析演習(1) 第11回 12月17日質的分析演習(2) 第12回 01月07日 質的分析演習(3)(発表) 第13回 01月21日 質問票作成演習(1)(発表) 第14回未定 質問票作成演習(2)(発表) 第15回未定 総合討議 試験未定											
*注意:講義内容は、当該年度の学生の要望や進捗状況により変更になる場合があります。											
社会疫学 II(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

社会疫学 II(2)											
[履修要件]											
MPH選択 MCR推奨選択 GC推奨選択											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点(出席を含む)(40%)、レポート(40%)、試験(20%)											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 推奨テキスト:参考書(より深く勉強したい人のためのテキスト) 1.リアンブトンP(木原雅子、木原正博訳)。現代の医学的研究方法—質的・量的方法、ミックスドメソッド、EBM/EBP。メディカルサイエンスインターナショナル、印刷中。(原著: Liamputtong P et al. Research in Medical Research-Foundations in evidence-based practice. Oxford University Press, 2010) 2.ライスPL、エジイドD(木原雅子、木原正博監訳)。ヘルスリサーチのための質的研究方法。三栄社、2006年(原著: Rice PL & Ezzy D. Qualitative research methods-a health focus. Oxford Univ. Press, 1999) 3.木下康仁、グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践。弘文堂、2003年											
[授業外学習(予習・復習)等]											
特になし											
(その他(オフィスアワー等))											
その他メッセージ ・将来、疾病の予防、健康指導に関わる可能性のある人、予防や健康指導に興味の深い人の受講が望ましい。 人間健康科学系専攻学生の受講可否:受講可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 環境・感染論 <英語> Environment and Infection		担当者所属・ 職名・氏名		薬学7号地域研究研究所 教授 西洲 光昭							
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期集中	曜時限	火曜5限	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
教官による講義および受講生による発表とそれに基づくグループディスカッションを通して、ヒトの感染症の発生・伝播に影響を与える要因の中で、特に環境中の種々の要因あるいはそれらの相互作用およびその他の要因との関連性を理解する。											
[到達目標]											
感染症を生態学的視点から捉えるために、病原体の生息する自然環境、ヒトの作り出す人為的環境、感染を受けるヒトの抵抗力などの様々な要因を総合的に解析するアプローチを習得する。											
[授業計画と内容]											
基本的に以下のスケジュールに従って授業を実施する。第1回～第9回は、講義(西洲)、第10回～第13回は、セミナー形式のレポート報告会、第14回は、(検疫所見学で検疫所の都合に合わせて日時が変更になる見込みであり、オープン参加者(受講していない大学院生)も定員内なら受け付ける。											
講義は、原則として火曜日5限、東南アジア地域研究研究所東棟2階203号室で行います。											
第1回 10月 2日 感染症学習に必要な背景要因(講義) 第2回 10月 9日 新興感染症:先進国で最も問題になっている感染症(講義) 第3回 10月 16日 発展途上国における開発と感染症の関係:インドネシア(講義) 第4回 10月23日 水と健康(講義) 第5回 10月31日 世界規模で伝播している感染症(講義) 第6回 11月 6日 最近話題になっている感染症(講義) 第7回 11月13日 感染症の分子疫学的解析(講義) 第8回 11月 20日 国内と国外の感染症(講義) 第9回 11月 27日 特定の感染症の発生・伝播に影響する要因の解析I(ゼミ) 第10回 12月 4日 特定の感染症の発生・伝播に影響する要因の解析II(ゼミ) 第11回 12月11日 特定の感染症の発生・伝播に影響する要因の解析III(ゼミ) 第12回 12月18日 特定の感染症の発生・伝播に影響する要因の解析IV(ゼミ) 第13回 1月 8日 特定の感染症の発生・伝播に影響する要因の解析V(ゼミ) 第14回 1月15日 感染症の伝播の防止(検疫所見学)											
[履修要件]											
●配布資料とパワーポイントのスライドは、日本語と英語を併記する。 ●グローバル生科学大学院(リーディング大学院)の科目に選定される、受講者の半数以上の母国語が日本語以外の場合など、授業で使用する言語は原則として英語にしたほうが良い場合、受講者の同意を得て、そのようにする。状況を鑑みて重要な部分は日本語と両方で説明する。 ●不可抗力によって授業を開催できない場合休講にするが、希望があれば別途集中講義などで補講をすることは可能である。 ●次年度以後の授業の改良の参考にするために、第13項目が完了した時点で、受講生に本授業に関するコメントを求める。 ●検疫所の見学(第14項目)には、ほとんど終日のスケジュールが必要である(京都→検疫所→											
環境・感染論(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

環境・感染論(2)											
京都の移動、検疫所での見学には午後の就業時間のほとんどが必要)ため、実際には2月中旬か下旬に実施される可能性が高い。1年目は関西空港検疫所、次年度は神戸検疫所次は関西空港検疫所というように、1年おきに関西の2つの主要検疫所を順次訪問する。両検疫所の見学が可能になるように、しかるべき大学院または研究所に2年以上在籍する大学院生・教員に対してオープン参加を認める。神戸検疫所では、輸入食品の安全性、関西空港検疫所では、主として海外旅行者が持ち込む輸入感染症の防止策について学ぶ。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
●下記の対象とする項目について、それらの内容を総合的に評価して判定する。 ●前半は教官による講義なので、成績評価は出席状況(配分40%)、後半は受講生によるレポート発表15分(成績評価配分40%)とそれに基づくグループディスカッション15分(成績評価配分20%)における知的理解度、積極性、観察力、洞察力、意思表現の能力をもとに判定する。 ●検疫所見学への参加・不参加は、成績提出時期に間に合わないため、オプション扱いとし、評価の対象に含めない。 ●レポート発表のない受講生は未受験扱いとし、成績は無しとする。											
[教科書]											
使用しない 教科書は使用しない、講義の内容の理解を補助する資料として、講義の骨子をまとめたプリント(日本語と英語併記)および学術論文等の写しを必要に応じて配布する。											
[参考書等]											
(参考書) Marc Gentilini. 1993. Translated into Jap. by T. Shimizu et al. 『Médecine Tropicale』(Nakayama-Shoten)(原著はフランス語で記載された。その日本語翻訳版が「熱帯医学」) Ed. R. L. Guerrant et al. 『Tropical Infectious Diseases 2nd ed.』(Churchill Livingstone Elsevier)(この分野の専門書では、かなり詳細で専門的である。)											
[授業外学習(予習・復習)等]											
予習・復習は必ずしも必要ない。講義内容に関連する情報を学びたいければ、講師(西洲)が適当な情報を提供する。											
(その他(オフィスアワー等))											
連絡先 〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町46 京都大学東南アジア地域研究研究所 東棟2階E205号室 西洲光昭 Tel. オフィス(075)753-7367, ラボ(075)753-7319, (075)761-2700 Fax. (075)753-7319, (075)761-2701 e-mail. nisibuti@cseas.kyoto-u.ac.jp											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	人間生態学 Field Medicine	担当者所属・ 職名・氏名	薬学777地域研究学 准教授 坂本 龍太								
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
フィールド医学は、疾病、老化のありさまを、自然環境、文化背景との関連でもう一度、捉えなおそうとする研究領域である。本授業では、フィールド医学の系譜をたどるとともに我が国及びヒマラヤ地域などで行ってきた研究活動を紹介する。病院から地域に出て生活の場を重んじるフィールド医学のよりよい実践を目指し、世界の中で我々が抱えている課題を共有し、今後のあり方をともに議論していきたい。											
[到達目標]											
先人たちが同時代を生きる人々のバイオアスピリッツや哲学を学び、自身で課題を発見し、自主的に物事に取り組む能力を育む。											
[授業計画と内容]											
第1回 自己紹介及び講座紹介 第2回 フィールド医学 第3回 自由とバイオアスピリッツ 第4回 目の前の一人の患者からはじまる研究 第5回 傍らに棲むレジオネラ 第6回 高所環境における老い 第7回 内なる地球環境問題 第8回 ドムカル谷における高齢者の健康としあわせ 第9回 地域研究における友好の意義 第10回 アータンにおける地域在住高齢者ケア計画 第11回 診療所から学ぶ人々の暮らし 第12回 医療の限界と役割 第13回 死生観と医療の意義 第14回 ヒマラヤの長寿者からの伝言 第15回 総合討論 試験 実施しない											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
出席と討論、ならびにレポートによって行う。											
人間生態学(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

人間生態学(2)
[教科書]
授業中に指示する
[参考書等]
(参考書) 坂本龍太 『アータンの小さな診療所』 (ナカニシヤ出版) ISBN:978-4779508974 奥宮清人 『生老病死のエコロジー』 (昭和堂) ISBN:978-4812210673
[授業外学習 (予習・復習) 等]
授業中に感じた疑問や課題を大切に、それに関することについて調べたり、自分自身の頭でよく考える。
(その他 (オフィスアワー等))
坂本龍太 京都大学東南アジア研究所 606-8501 京都市左京区吉田下阿達町 4 6 TEL:075-753-7368 FAX:075-753-7168 E-mail:sakamoto65@cseas.kyoto-u.ac.jp
面会希望者は、メールでアポイントをとってください。
人間健康科学系専攻学生の受講可否：可能（5名程度）
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	交絡調整の方法 Intermediate Biostatistics	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 佐藤 俊哉 医学研究科 助教 米本 直裕 厚生労働省 森 和彦								
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
前期コア科目である「医療統計学」で学んだ医療統計学の考え方を実践するための具体的な統計的方法について講義します。 本講義では、疫学研究などの観察研究において因果関係を調べる際に妨げとなる「交絡」を調整する方法として、層別解析、回帰モデルなどの解析方法を説明するとともに、解析計画を立てる上で必須である「研究計画書」での医療統計的なポイント、データ解析を実施する上で必要となる「解析計画書」作成のポイントをとり上げます。「医療統計学」よりも専門的な内容が増えますが、具体例を示しながら基本的な考え方を中心に講義します。 履修条件に注意してください。											
【パワーポイントスライドによる講義形式】											
[到達目標]											
・交絡について理解し、それを正しく説明できる ・交絡調整における層別解析と回帰モデルの意義を理解し、説明できる ・層別解析と回帰モデルの利点・欠点を説明できる ・研究計画書、解析計画書の重要性を理解し、説明できる											
[授業計画と内容]											
第1回 10月2日 交絡の復習と標準化 第2回 10月9日 共通効果の推定 第3回 10月16日 平均値の比較 第4回 10月23日 回帰モデル入門、第1回ミニテスト 第5回 10月30日 一般化線形モデル 第6回 11月6日 生存時間解析1 第7回 11月13日 生存時間解析2 第8回 11月20日 欠測データへの対処、第2回ミニテスト 第9回 11月27日 データマネジメントとレポーティング 第10回 12月4日 研究計画書の作成 第11回 12月11日 解析計画書の実際 第12回 12月18日 医薬品の審査と市販後安全対策 (森先生) (第12回のみ13:00から14:30) 第13回 1月8日 変数選択、第3回ミニテスト 第14回 1月15日 上級者の交絡調整の方法 第15回 1月22日 解析計画ディスカッション											
交絡調整の方法(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

交絡調整の方法(2)
[履修要件]
・前期コア科目「医療統計学」を履修済みであること ・人間健康科学系専攻の学生さんの受け入れはしていません
[成績評価の方法・観点及び達成度]
3回のミニテスト
[教科書]
前期 医療統計学 配布資料 講義終了後にスライド資料を配布します
[参考書等]
(参考書) Rothman KJ, Greenland S, Lash TL. 『Modern Epidemiology, 3rd ed.』 (Lippincott Williams & Wilkins) ISBN:978-1451190052
[授業外学習 (予習・復習) 等]
前期コア科目「医療統計学」資料を復習してください。
(その他 (オフィスアワー等))
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	解析計画実習 Health Data Processing Laboratory			担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 佐藤 俊哉 医学研究科 助教 米本 直裕 厚生労働省 森 和彦 医薬品医療機器総合機構 安藤 友紀 神戸大学 大森 崇							
	配当 学年	専門職	単位数		2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	火3,4	授業 形態	実習	使用 言語
[授業の概要・目的]												
疫学研究・臨床研究を実施する上で必要となる研究計画書や解析計画書を作成するための技法を、実習を通じて身につけます。 各種研究ガイドラインや倫理指針の内容をグループで検討・発表します。 「交絡調整の方法」で講義した内容に関して、統計ソフトJMPを用いて実データの解析を行います。 新医薬品承認審査の資料を用いて、新医薬品の審査を体験し、グループで検討した内容を発表してもらいます。 課題研究などで実施する際の解析計画書を作成し、その内容を発表してもらいます。 履修条件に注意してください。 【少人数の班に分かれた実習】												
[到達目標]												
・各種研究ガイドライン、倫理指針の内容を理解できる ・統計解析ソフトJMPを用いて層別解析、回帰モデルが実行でき、適切な結果を報告し、結果を解釈できる ・新医薬品承認申請の資料を読み、新医薬品の審査を体験する ・課題研究の解析計画書を作成できる												
[授業計画と内容]												
第1回 10月2日 ガイドライン・倫理指針実習1 第2回 10月9日 ガイドライン・倫理指針実習2 第3回 10月16日 ガイドライン・倫理指針実習3 発表会 第4回 10月23日 層別解析 第5回 10月30日 平均値の比較 第6回 11月6日 回帰分析 第7回 11月13日 一般化線形モデル 第8回 11月20日 生存時間解析 第9回 11月27日 欠測データ解析 第10回 12月4日 新医薬品の審査実習1 第11回 12月11日 新医薬品の審査実習2 第12回 12月18日 新医薬品の審査実習4 発表会 (第12回のみ14:45～18:00) 第13回 1月8日 解析計画書作成1 第14回 1月15日 解析計画書作成2 第15回 1月22日 解析計画書発表会												
----- 解析計画実習(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----												

解析計画実習(2)												
[履修要件]												
・前期選択科目「医療統計学実習」を履修済みであること ・人間健康科学系専攻の学生さんの受け入れはしていません												
[成績評価の方法・観点及び達成度]												
・班および個人のレポート ・班および個人による発表												
[教科書]												
前期 医療統計学講義・実習資料 毎回実習の手引きを配布します												
[参考書等]												
(参考書)												
[授業外学習(予習・復習)等]												
前期選択科目「医療統計学実習」を復習してください												
(その他(オフィスアワー等))												
統計ソフトJMPがインストールされたノートパソコンを持参してください。JMPは医学研究科の大学院生であれば利用できます(個人のパソコンにインストールできます)。 JMPの利用については、 http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/ を参照してください。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

授業科目名 <英訳>	地域保健医療福祉論 Health,Medical and Welfare System			担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 里村 一成							
	配当 学年	専門職	単位数		2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期前半	曜時限	木3,4	授業 形態	講義	使用 言語
[授業の概要・目的]												
日本における公衆衛生行政の過去、現在、未来についての知識を得る。 特に現在公衆衛生上問題となっている事柄を、歴史的経緯をふまえてとらえ、今後の展開について検討する。 保健医療福祉に関するプレゼンテーションを行い、各自の意見を提示し、それについての討論を行う。												
[到達目標]												
日本の公衆衛生行政の現状と問題点の把握ができる。												
[授業計画と内容]												
第1・2回 日本の公衆衛生の実情概論 第3・4回 日本の公衆衛生の実情と問題点(1) 第5・6回 日本の公衆衛生の実情と問題点(2) 第7・8回 日本の公衆衛生の問題点の検討(1) 第9・10回 日本の公衆衛生の問題点の検討(2) 第11・12回 日本の公衆衛生の問題点の検討(3) 第13・14回 日本の公衆衛生の問題点の検討(4) 第15回 フィードバック 日程は変更の可能性があるので開講日に確認のこと												
[履修要件]												
特になし												
[成績評価の方法・観点及び達成度]												
出席状況、プレゼンテーション、授業内での発言(50%) レポート(50%)												
[教科書]												
必要に応じて授業時にプリントを配布する。												
[参考書等]												
(参考書) 『国民衛生の動向』(厚生統計協会) 『国民の福祉の動向』(厚生統計協会) 『保険と年金の動向』(厚生統計協会) 『衛生行政大要』(日本公衆衛生協会)												
[授業外学習(予習・復習)等]												
新聞、TV、インターネット等の保健医療福祉行政に関する報道等を興味を持って視聴し、授業内容の理解に役立てること。												
(その他(オフィスアワー等))												
受講人数によって内容を変更することがある ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

授業科目名 <英訳>	国際保健学 International Health			担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 里村 一成							
	配当 学年	専門職	単位数		2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期集中	曜時限	木3・4	授業 形態	講義・演習	使用 言語
[授業の概要・目的]												
国際保健関連に従事している者、またはその経験者との討論。 国際保健における日本の役割を知る。 日本との比較による海外の保健医療について検討する。												
[到達目標]												
国際社会と日本社会の違いを知るとともに日本が可能な国際保健への貢献について考えられる。 今後の日本の保健医療のあり方について、参考となる海外の情報に謙虚に耳を傾けられる。												
[授業計画と内容]												
第1・2回 国際保健概論 第3・4回 国際保健各論(1) 第5・6回 国際保健各論(2) 第7・8回 国際保健各論(3) 第9・10回 国際保健各論(4) 第11・12回 国際保健各論(5) 第13・14回 国際保健各論(6) 第15回 フィードバック 日程は変更の可能性があるので開講日に確認のこと。												
[履修要件]												
地域保健医療福祉論との同時履修が望ましい												
[成績評価の方法・観点及び達成度]												
平常点(出席状況、授業内での発言等)(50%) レポート(50%)												
[教科書]												
必要に応じて授業時にプリントを配布する。												
[参考書等]												
(参考書) 『国民衛生の動向』(厚生統計協会)												
[授業外学習(予習・復習)等]												
新聞、TV、インターネット等の保健医療福祉行政に関する報道等を興味を持って視聴し、授業内容の理解に役立てること。												
(その他(オフィスアワー等))												
受講人数によって内容を変更することがある ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

授業科目名 <英訳>	中毒学 Toxicology	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 原田 浩二								
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
I. コースの概要 前期の中毒学入門の講義で得られた知識を背景に、中毒学研究に必要なGLP (Good Laboratory Practice) を学習し、さらに化学物質の体内動態と実際の化学分析に焦点を当てた、より進んだ中毒学を講義します。 前期の中毒学入門講義を履修していることが必要です。											
[到達目標]											
II. 学習到達目標 (このコース終了時までに習得が期待できること)											
<ul style="list-style-type: none"> GLPを理解する 体内動態と基本的なモデルを理解する 化学物質の分析手法を説明できる 主要な中毒の防止策を述べることができる 											
[授業計画と内容]											
第1回 Orientation 第2回 GLP "General Provisions" and "Organization and Personnel" 第3回 GLP "Facilities" and "Equipment" 第4回 GLP "Testing Facilities Operation" and "Test and Control Articles" 第5回 GLP "Protocol for and Conduct of a Non-clinical Laboratory Study" 第6回 GLP "Records and Reports" 第7回 GLP "Disqualification of Testing Facilities" 第8回 GLP "Timing of Pre-clinical Studies in Relation to Clinical Trials" 第9回 GLP "Preclinical Safety Evaluation of Biotechnology-Derived Pharmaceuticals" 第10回 GLP "Safety Pharmacology Studies for Human Pharmaceuticals" 第11回 Toxicokinetics 1 第12回 Toxicokinetics 2 第13回 Research ethics 第14回 Chemical analysis 1 第15回 Chemical analysis 2											
[履修要件]											
MPH選択、環境衛生学分野必修											
中毒学(2)へ続く↓↓↓											

中毒学(2)
[成績評価の方法・観点及び達成度]
<ul style="list-style-type: none"> Attendance and active participation 50% Presentation 50%
[教科書]
Handouts 1. Code of Federal Regulations ICH Guideline 2. Liu's BASIC TOXICOLOGY 4th edition Frank C. Lu and Sam Kacew, Taylor and Francis, 2002
[参考書等]
(参考書)
[授業外学習 (予習・復習) 等]
III. 教育・学習方法 <ul style="list-style-type: none"> 講義 小グループ学習
[その他 (オフィスアワー等)]
その他メッセージ Credits of "Introduction to Toxicology" and "Occupational health and environmental health sciences" are required. 人間健康科学系専攻学生の受講可否： 上限3人まで可能 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	ベンチトレーニングコース On the Bench Training Course	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 原田 浩二								
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	金3,4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
I. コースの概要 行政機関・化学工業における中毒学専門職として必要なGLPの実践を行ないます。 Gas Chromatography / Mass Spectrometry を使用した環境汚染物質研究の protocol writing, presentation, protocol meeting, sample collecting, sample measurement, audit, paper writing, review を実施します。											
[到達目標]											
II. 学習到達目標 (このコース終了時までに習得が期待できること)											
<ul style="list-style-type: none"> Gas Chromatography / Mass Spectrometry を使用することができる 文献等を調べて研究テーマの背景を説明できる GLPに基づいてプロトコルを書くことができる 明らかにすべき事柄に対する研究手段を選択することができる GLPに基づいてプロトコルを presentation することができる GLPに基づいて実験結果をまとめることができる GLPに基づいて研究結果を presentation することができる 研究成果を論文にまとめることができる 											
[授業計画と内容]											
第1回 Orientation 第2回 Gas Chromatography 24-1, 24-2, 24-3 第3回 Gas Chromatography 24-4, 24-5 第4回 Mass Spectrometry 22-1, 22-2 第5回 Mass Spectrometry 22-3, 22-4 第6回 Discussion of theme 第7回 Presentation of background 第8回 Protocol Writing 第9回 Protocol Presentation 第10回 Sample collecting 第11回 Sample measurement (1) 第12回 Sample measurement (2) 第13回 Summarize the data 第14回 Presentation the data 第15回 Writing Paper											
ベンチトレーニングコース(2)へ続く↓↓↓											

ベンチトレーニングコース(2)
[履修要件]
MPH選択 産業・環境衛生学、中毒学入門が履修済みで、中毒学を受講していること
[成績評価の方法・観点及び達成度]
Attendance and active participation 50%, Presentation 50%
[教科書]
Handouts 1. Code of Federal Regulations ICH Guideline 2. Quantitative Chemical Analysis 6th edition Daniel C. Harris, W. H. Freeman and Company, 2003
[参考書等]
(参考書)
[授業外学習 (予習・復習) 等]
III. 教育・学習方法 <ul style="list-style-type: none"> 講義 小グループ学習
[その他 (オフィスアワー等)]
その他メッセージ Credits of "Introduction to Toxicology" and "Occupational health and environmental health sciences" simultaneous registration of "Toxicology" are required. 人間健康科学系専攻学生の受講可否： 上限3人まで可能 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 ＜英訳＞	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査 Development strategy, plan, and regulatory affairs of drugs and medical devices				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司					
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	水3,4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
<p>（科目責任者）川上浩司（薬剤学・教授）、田中司朗（臨床統計学・特定教授）、小村純子（摂南大学・教授）、藤原康弘（国立がん研究センター・執行役員）、多田春江（京大病院臨床研究総合センター・准教授）、Christian Elze（Catenion社・シニアパートナー）、山本晴子（国立循環器病研究センター・部長）、吉中勇人（滋賀医科大学 臨床研究開発センター・助教）、堀井郁夫（英国ケンブリッジ大学・客員教授）、瓜生原葉子（同志社大学・准教授）、脇谷滋之（武庫川女子大学・教授）、漆原尚巳（慶應義塾大学・教授）、木村真也（日本医療データセンター・会長）、大西佳恵（CreativCeutical社・日本代表）</p> <p>コースの概要 本コースは医学研究科社会健康医学系専攻の選択科目の一つです。 医薬品開発の全体戦略、新薬創出や毒性への対応、標準治療確立のための臨床試験のプロトコル作成、臨床試験の計画と実施中のプロジェクトマネジメントの基礎と実際、PRO研究の実際、薬師の交渉、市販後臨床試験の考え方について学びます。また、医薬品や医療機器の開発と行政当局における開発の考え方と審査の考え方と薬事対応方法について、行政当局の元審査官の講師陣により理化学試験と製造、非臨床試験、臨床審査、および承認の考え方につき網羅的に講義と実習を通して学びます。 学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること） ・医薬品、バイオ医薬品（生物製剤）、医療機器の開発の戦略、臨床試験の立案、実施時のプロジェクトマネジメント、安全性・有効性の評価について、開発者の業事務と行政当局（審査側）の業務と考え方を理解する。 ・ヘルステクノロジーアセスメントの観点から、費用対効果、薬価についての実施を学ぶ。</p> <p>教育・学習方法 ・講義、審査・開発実習、討議</p>											
【到達目標】											
<p>学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること） ・医薬品、バイオ医薬品（生物製剤）、医療機器の開発の戦略、臨床試験の立案、実施時のプロジェクトマネジメント、安全性・有効性の評価について、開発者の業事務と行政当局（審査側）の業務と考え方を理解する。 ・ヘルステクノロジーアセスメントの観点から、費用対効果、薬価についての実施を学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 10月3日 アカデミアにおける医薬品開発とトランスレーショナルリサーチ（田中） 第2回 10月10日 臨床試験 開発と審査：非臨床試験（小村） 第3回 10月17日 臨床試験 開発と審査：CMC（川上） 第4回 10月24日 臨床試験 開発と審査：臨床評価（藤原） 第5回 10月31日 臨床試験のプロジェクトマネジメントの基礎と実習（多田） 第6回 11月7日 The Changing Dynamics of Bio-pharmaceutical Innovation（Elze） 第7回 11月14日 臨床試験 開発と審査：医療機器(1)（山本）</p>											
医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査(1)へ続く ↓ ↓ ↓											

医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査(2)											
<p>第8回 11月21日 臨床試験 開発と審査：医療機器(2)（吉中） 第9回 11月28日 医薬品開発におけるデータ評価と個別化医療（堀井） 第10回 12月5日 臨床試験 開発と審査：再生医療（脇谷） 第11回 12月12日 医薬品開発とライフサイクルマネジメント（瓜生原） 第12回 12月19日 臨床試験 開発と審査：製造販売承認後（漆原） 第13回 12月26日 医薬経済各論：費用対効果研究実習（大西） 第14回 1月9日 医療系データベースを用いた医療・健康評価の実績（木村） 第15回 1月16日 神戸医療産業都市構想の見学</p>											
【履修要件】											
臨床試験の実施や審査、医薬品や医療機器の事業戦略、開発やアウトカム研究トップの方々を講師にお迎えしています。後期2限に開講されるH109「医薬政策・行政」H079「医薬品の開発と評価」を受講していることを必須とします。本科目のみの受講は認めません。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
実習への参加（50％）、レポート（50％）											
【教科書】											
<p>推奨テキスト： 安生紗枝子ら『新薬創製への招待：開発から市販後の監視まで、共立出版、2006。 川上浩司編著『遺伝子医学MOOK別冊 はじめての臨床応用研究、メディカルドゥ社、2010。』</p>											
【参考書等】											
（参考書）											
【授業外学習（予習・復習）等】											
適宜予習復習を求める。											
【その他（オフィスアワー等）】											
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 可											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 ＜英訳＞	医薬品の開発と評価 Drug Development, Evaluation and Regulatory Sciences				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司					
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2018・ 後期集中	曜時限	後期後半 水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
<p>前週までの「医薬政策・行政」に引き続いて、医薬品、バイオ医薬品、医療機器の研究開発の過程について、前臨床研究、試験物の理化学試験と製造、動物を用いた非臨床試験、そして人を対象とした臨床試験、行政当局による承認、薬価の決定(費用対効果)、市販後評価というすべてのステップにおける安全性と有効性、経済性の評価について学びます。また、トランスレーショナルリサーチの実際、製薬産業の国際動向についても学びます。 （科目責任者）川上浩司（薬剤学・教授）、白沢博満（MSD株式会社・副社長）、堀井郁夫（英国ケンブリッジ大学・客員教授）、村上雅義（先端医療振興財団・専務理事）、漆原尚巳（慶應義塾大学・教授）、大西佳恵（CreativCeutical社・日本代表）、吉村玄（財務省主計局）</p>											
【到達目標】											
<p>・医薬品、医療機器、生物製剤の開発と評価の基本的考え方、方法論を理解している。 ・費用対効果、薬価とは何かについての基本的考え方、方法論を理解している。 ・薬剤学と市販後の基本的考え方、方法論を理解している。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 11月21日 グローバル製薬企業の動向と開発薬事（白沢） 第2回 11月28日 医薬品の創製、毒性と安全性（堀井） 第3回 12月5日 トランスレーショナル研究と医療産業都市構想（村上） 第4回 12月12日 医療リアルワールドデータと医薬品評価（川上） 第5回 12月19日 市販後調査、市販後臨床試験（漆原） 第6回 12月26日 医薬経済概論：費用対効果と薬価の考え方（大西） 第7回 1月9日 日本の財政状況と医療・福祉（吉村） 第8回 1月16日 神戸医療産業都市構想の見学</p>											
【履修要件】											
本コースの前週まで講義が行われるH109「医薬政策・行政」と連続、一括した内容となっており、原則として通して受講できない方は受け入れ不可とします。また、同日3・4限のH099「医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査」も本講義の内容を掘り下げたもので、合わせて受講することを推奨します。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
講義の場合への参加（50％）、レポート（50％）											
【教科書】											
使用しない											
医薬品の開発と評価(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

医薬品の開発と評価(2)											
【参考書等】											
<p>（参考書） Hartzema, A.C. et al. ed. 『Pharmacopidemiology: An Introduction 3rd ed.』 (HarveyWhitney) 安生紗枝子ら『新薬創製への招待：開発から市販後の監視まで』（共立出版） 川上浩司編著『遺伝子医学MOOK 別冊 はじめての臨床応用研究』（メディカルドゥ社）</p>											
【授業外学習（予習・復習）等】											
予習は特に不要であるが、復習については十分に行うことを期待する。											
【その他（オフィスアワー等）】											
<p>川上浩司 G棟3階・内線：9469(代表) 面談希望は必ずメールでご連絡下さい。 kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp</p>											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 ＜英訳＞	医療倫理学各論 Practicum for Clinical Genetics	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 小杉 眞司								
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期中	曜時限	金5・6:開講日	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
【基本情報】 授業日時：金曜5/6限（原則隔週） 教室：G棟3階演習室 レベル：応用 担当者：小杉眞司・和田敏仁・山田崇弘・竹之内沙弥香・山崎康佐（神戸大学）・浅井篤（東北大学）											
【コースの概要】 医療技術の進展にともなう生じる臨床上の問題、臨床研究実施上の問題の検討を行う。「自ら問題を考え、解決の方策を探り、臨床で実践する能力」を身につけ、実践行動型の医療者となることを目標とする											
【到達目標】											
1)医療倫理学の基礎を理解する ・医療倫理学の背景、医師患者関係の変容、患者の権利と医師の義務を理解する 2)倫理的問題の対処方法を習得する ・問題の存在を認識し、考える枠組みを使って実際の問題を検討する ・議論を通じて解決の道筋をたてる ・臨床での実践方法を考える											
【授業計画と内容】											
【第1/2回】11/2<小杉>「倫理委員会・移植医療と倫理」倫理審査委員会の歴史、現状、法的根拠、組織。生体肝移植を中心とする倫理について実例に基づいて考える 【第3/4回】11/16<和田>「小児科医療と倫理」小児医療における代話、重症障害新生児の治療、治療拒否と虐待などの問題点について考える 【第5/6回】12/7<山崎>「法と倫理」道徳・倫理・法の関係、自然法論と法実証主義などについて総合的に考える 【第7/8回】12/14<竹之内>「終末期医療」治療の中止、延命治療、安楽死、尊厳死、高齢者医療、DNRオーダー、事前指示、医学的無益性などについて考える 【第9/10回】1/18<山田>「産婦人科医療と倫理」産婦人科では、胚や胎児を対象とするために生じる倫理問題が存在する。これらの幅広い倫理的課題について考える 【第11/12回】2/1<浅井>「医療資源配分の問題」 【第13/14回】2/15<山田>「二次的（偶発的）所見の問題」網羅的なゲノム情報が用いられる時代となり常に直面する二次的（偶発的）所見の取り扱いについて学ぶ 【第15/16回】2/22<小杉>「自主研究発表」履修生による自己テーマについての研究発表											
-----医療倫理学各論(2)へ続く↓↓↓↓-----											

医療倫理学各論(2)
【履修要件】
遺伝カウンセラーコース1回必修科目 SPH選択科目 先修科目として「基礎医療倫理学」の履修を原則とする 人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡
【成績評価の方法・観点及び達成度】
研究発表、議論への参加の積極性、レポート、出席等を総合的に判定します。 自主研究発表(最後に実施)：医療倫理に関するどのようなテーマでも良いので、自ら問題点を探し、それについて調べたり、検討した結果を発表し、全体でディスカッションします。割り当て時間（発表+ディスカッション）は、発表者の数に依存しますが、15-20分程度です。（原則としてパワーポイントを用いて発表し、ハンドアウト配布をお願いします）。他の専攻や研究科からの受講、聴講の場合も必須です。
【教科書】
配布するハンドアウトなど
【参考書等】
（参考書）
【授業外学習（予習・復習）等】
適宜指示する
【その他（オフィスアワー等）】
その他メッセージ 事例検討は、ビデオ、漫画を用いることがあります 講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります かならず、正式な受講届を提出すること。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 ＜英訳＞	統計遺伝学Ⅱ Statistical Genetics II	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 山田 亮								
配当 学年	博士	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	講義・演習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
統計遺伝学の学修にあたり3つの要素に分けて取り組む。基礎数学、統計解析の基礎、統計解析の応用の3つである。 基礎数学は線形代数、微分積分学、グラフ理論、情報幾何学の4つを扱う。基礎ではデータ型・検定・推定の方眼を扱う。応用では、メンデル型遺伝、癌症候群、複合遺伝性疾患、発現解析を扱う。 これらを以下のような6つのモジュールとして提供する。 基礎数学A(線形代数とグラフ理論)、基礎数学B(微分積分学と情報幾何) 統計解析基礎A(データ型と検定)、統計解析B(推定) 統計解析応用A(メンデル型遺伝、癌症候群)、統計解析応用B(複合遺伝性疾患と発現解析)											
統計遺伝学Ⅰ、Ⅱはそれぞれ前期、後期に開講するが、年度ごとにその提供内容は変わる。 2018年度からの提供予定は以下のとおりとする。											
2018 前期 基礎数学A、後期 統計解析基礎A 2019 前期 基礎数学B、後期 統計解析応用B 2020 前期 基礎数学A、後期 統計解析基礎B 2021 前期 基礎数学B、後期 統計解析応用A											
また、統計遺伝学ⅠⅡの講義では、プログラミング言語Rを使い、計算、データ解析、データ視覚化、データシミュレーションの技術も学ぶ。											
【到達目標】											
基礎数学A：行列演算による、二乗法・PCAがわかる。グラフ理論の基礎を習得する。 基礎数学B：確率密度関数の微分積分の式が理解できる。尤度関数と最尤推定のための微分演算が理解できる。近似のための微積分が理解できる。情報幾何の基礎を理解する。 統計解析基礎A：統計遺伝学分野におけるデータ型、検定、漸近近似検定、正確率検定、分割表検定を理解する。 統計解析基礎B：点推定・区間推定、ベイズ推定、最尤推定、尤度関数を理解する。 統計解析応用A：メンデル遺伝形質のリスク評価、癌症候群のリスク評価を理解する。 統計解析応用B：複合遺伝性疾患の遺伝モデルとそのリスク評価、遺伝子発現プロファイルとバイオマーカーについて理解する。 いずれのモジュールにおいても、コンピュータ言語Rを用いて基礎的な計算・プログラミングの技術を習得する。											
【授業計画と内容】											
数学基礎A 前半に線形代数を、後半にグラフ理論を扱う。 線形代数では、行列計算、分散共分散行列、最小二乗法、連立方程式、PCA、最適解を順に取り上											
-----統計遺伝学Ⅱ(2)へ続く↓↓↓↓-----											

統計遺伝学Ⅱ(2)											
ける。 グラフ理論では、グラフの定義、グラフオブジェクトのRでの取り扱い、木、最小全域木、ランダムグラフ、ネットワークを順に取り上げる。 数学基礎B 前半に微分積分学を、後半に情報幾何を扱う。 微分積分学では、確率密度分布の期待値、尤度関数と最尤推定のための微分、確率密度関数・累積分布関数・ハザード関数のための微分積分、偏微分とHWE、最小二乗法、テ일러展開を順に取り上げる。 情報幾何では、その基礎、フィッシャー情報量、双対平坦、指数型分布族、KLダイバージェンスを取り上げる。 統計解析基礎A データ型、カテゴリと正単体、2x2表のカイ二乗検定と正確率検定、HWE検定とその正確率検定、2x3表検定と遺伝モデル、一様分布とマルチプルテストとボンフェローニ補正を順に扱う 統計解析基礎B 点推定と区間推定、ベイズ推定、二項分布とベータ分布、ハプロタイプ頻度推定とEMアルゴリズム、連鎖不平衡ブロックを順に扱う。 統計解析応用A 前半にメンデル遺伝を、後半に癌症候群を扱う。 メンデル遺伝では、家系図、メンデル遺伝のジェノタイプとフェノタイプ、NGSと疾患責任変異を扱う。 癌症候群では、その基礎、リスク評価、決断支援ツール、ベイズ推定、ベイジアンネットワークを扱う。 統計解析応用B 前半に複合遺伝性疾患を、後半にトランスクリプトーム・発現プロファイルによる癌のサブタイプを扱う。 複合遺伝性疾患では、遺伝モデル、集団・コホート、2x3表の関連検定、多座位モデルを扱う。 トランスクリプトーム・発現プロファイルでは、その基礎、Differential expression analysis、クラスタリングとヒートマップ、教師ありクラスタリング、バリデーション法を扱う。											
【履修要件】											
生物学・遺伝学の基礎を習得していることが望ましいが、意欲があれば必須ではない。 無線LAN接続の可能なノートパソコンを持参すること。計算機・プログラミングの知識は要求しないが、初学者は復習が必須となる。前期・後期併せての受講が望ましいが、必須ではない。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業中の質疑応答の発言を評価する。 宿題の提出内容を評価する。 最終日に試験を実施する。											
【教科書】											
統計解析基礎A,Bでは、『遺伝統計学の基礎』ISBN 978-4274068225とその英訳プリントを用いる。											
-----統計遺伝学Ⅱ(3)へ続く↓↓↓↓-----											

統計遺伝学 II (3)	

【参考書等】	
<p>(参考書)</p> <p>基礎数学A、Bでは、配布資料(http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2018)を用いる。 統計解析応用A、Bでは配布資料(http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2017)を用いる。</p>	
【授業外学習(予習・復習)等】	
<p>フリーソフトウェアRに習熟するには講義時間のみでは十分でないことが多い。日常のデータ処理などに積極的に活用するなど、使用機会を各自確保することが望まれる。 宿題が出る。</p>	
【その他(オフィスアワー等)】	
<p>特になし</p> <p>※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>	

授業科目名 <英訳>	健康情報学 I Health informatics I		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫 医学研究科 准教授 高橋 由光 非常勤講師 宮崎 貴久子								
	配当 学年	専門職		単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語
【授業の概要・目的】												
<p>健康・医療情報、データや知識の収集、蓄積、伝達、検索、評価法、情報リテラシー、ヘルス・コミュニケーション(リスクコミュニケーション含む)、個人情報保護などの情報倫理の課題について講義する。疫学やEBMを基本として、医学文献からマスメディア、インターネットによる健康情報まで、さまざまな情報の特徴を知り、それらを主体的、効果的に活用する方法を考える。さらに欧米の医療関係者に関心の高い性格テスト・MBTI(Myers-Briggs Type Indicator)のワークショップを通して、個人の情報処理・認知の特性とコミュニケーションに関して体験的理解を深める。</p> <p>教育・学習方法 講義形式と実習</p>												
【到達目標】												
<ul style="list-style-type: none"> ・疫学・EBMの知識を応用して、各種の健康・医療情報を適切に活用できる。 ・マスメディア情報、インターネット情報を収集し、適正な吟味を行った上で意思決定、問題解決、そしてコミュニケーションの素材とすることができる。 ・MBTIの視点から、個人の情報処理・認知、コミュニケーションの特性を理解する。 												
【授業計画と内容】												
<p>(※変更の可能性があるので開講日に確認して下さい)</p> <p>第1回 10月5日 疫学とEBMからの健康情報リテラシー入門(1)</p> <p>第2回 10月12日 疫学とEBMからの健康情報リテラシー入門(2)</p> <p>第3回 10月19日 患者視点の情報: Quality of life と Patient reported outcome</p> <p>第4回 10月26日 インターネットとe-ヘルス</p> <p>第5回 11月2日 質の高い医療情報の集約・共有・普及: 根拠に基づく診療ガイドラインを考える</p> <p>第6回 11月9日 ナラティブ情報の意義と可能性</p> <p>第7回 11月30日 「がん」をめぐる患者・国民・医療者向け情報の整備</p> <p>第8回 12月7日 疫学情報と因果関係論</p> <p>第9回 12月14日 ベネフィットとリスクのコミュニケーション</p> <p>第10回 12月21日 ヘルス・リテラシーとリスク・コミュニケーション</p> <p>第11回 12月28日 代替医療とプラセボ: 健康情報とコミュニケーションの視点から</p> <p>第12回 1月11日 パブリックヘルス・インフォマティクス</p> <p>第13回 1月17日 個人の情報処理・認知特性からコミュニケーションへ: MBTI(エムビーティーアイ: Myers-Briggs Type Indicator)セミオープンワークショップ 13時30分~17時30分</p> <p>第14回 1月18日 個人の情報処理・認知特性からコミュニケーションへ: MBTI(エムビーティーアイ: Myers-Briggs Type Indicator)セミオープンワークショップ 9時~12時、13時~16時</p> <p>第15回 1月25日 総合討論・個別発表「健康情報学Iを履修して」</p> <p>※「健康情報学II」の講義と重ならないように開講します。</p>												
健康情報学 I (2)へ続く↓↓↓												

健康情報学 I (2)	

【履修要件】	
<p>疫学または根拠に基づく医療 (evidence-base medicine: EBM) の基礎知識を持つことが望ましいが、必須ではない。</p>	
【成績評価の方法・観点及び達成度】	
<p>毎回の小レポート提出80%、発表20%</p>	
【教科書】	
<p>講義資料は配布、MBTIワークショップのテキストは各自購入(3,000円程度)</p>	
【参考書等】	
<p>(参考書)</p> <p>中山健夫著『健康・医療の情報を読み解く: 健康情報学への招待』(丸善書店) 中山健夫監修『ヘルスコミュニケーション実践ガイド』(日本評論社) 中山健夫・杉森裕樹監訳『FDA リスク&ベネフィットコミュニケーション』(丸善書店)</p>	
【授業外学習(予習・復習)等】	
<p>予習よりも復習に十分時間を取ること</p>	
【その他(オフィスアワー等)】	
<p>情報とは「意思決定において不確実性を減じるもの」と定義されます。社会における健康・医療に関する情報の適切なあり方、そして個人の特性理解の視点から、情報のコミュニケーションについて考えてみたいと思います。</p> <p>人間健康科学専攻学生への受講可否: 可</p> <p>※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>	

授業科目名 <英訳>	健康情報学 II Health informatics II		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 高橋 由光								
	配当 学年	専門職		単位数	1	開講年度・ 開講期	2018・ 後期不定	曜時限	金3・4	授業 形態	講義	使用 言語
【授業の概要・目的】												
<p>・インターネットの基礎知識およびヘルスの概念を説明し、ヘルスケアにおけるICT (Information and communication technology) の活用事例および研究について講義を行います。</p> <p>・ヘルスケアとICTに関する、各種ガイドライン・チェックリストを紹介し、批判的に吟味しつつ、適切に情報を利用する方法を学習します。</p> <p>・公的統計データ、各種二次データ、厚労省が推進しているレセプト情報・特定健診等情報データベース (NDB) などを例に、医療ビッグデータの現状および利活用について講義を行います。国民生活基礎調査匿名データを使った実習を行います。</p> <p>・ライフコース疫学の基礎を紹介するとともに、個人番号制度 (マイナンバー制度) が医療・保健分野に与える可能性について考えていきます。</p>												
【到達目標】												
<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの基礎知識・eヘルスの概念を習得 ・インターネット調査の特徴(利点および欠点)を習得 ・ヘルスケアとインターネットに関する、各種ガイドライン・チェックリストに関する知識の習得 ・公的統計データ、医療ビッグデータについての基礎知識を習得 ・ライフコース疫学および個人番号制度の基礎知識を習得 												
【授業計画と内容】												
<p>開講日(予定)</p> <p>第1回 12月7日4限 インターネットの基礎知識</p> <p>第2回 12月14日4限 ヘルスケアとICTに関する各種ガイドライン</p> <p>第3回 12月21日3限 ヘルスケアとICTの事例紹介(1)</p> <p>第4回 12月21日4限 ヘルスケアとICTの事例紹介(2)</p> <p>第5回 1月11日3限 医療ビッグデータ、二次データの利活用(1)</p> <p>第6回 1月11日4限 医療ビッグデータ、二次データの利活用(2)</p> <p>第7回 1月25日3限 インターネット調査フォーム作成</p> <p>第8回 1月25日4限 ライフコース疫学、まとめ</p> <p>予備日 12月7日(3限)、12月14日(3限)、12月28日(3-4限)、1月18日(3-4限)</p> <p>開講日は予定です。変更がある場合、履修者にメールで連絡をします。健康情報学分野担当の「健康情報学I」、「EBM・診療ガイドライン特論」の講義と重ならないように開講します。</p>												
【履修要件】												
<p>健康情報学Iを可能な限り履修するようにしてください。</p>												
健康情報学 II(2)へ続く↓↓↓												

健康情報学 II(2)
[成績評価の方法・観点及び達成度]
平常点(出席を含む) (30%) およびレポートまた発表 (70%)
[教科書]
使用しない
[参考書等]
(参考書) 授業中に紹介する
[授業外学習(予習・復習)等]
予習用の教材・資料を、適宜提供します。
(その他(オフィスアワー等))
人間健康科学系専攻学生の受講可否:可 ただし、履修希望者が多い場合は人数制限の可能性あり。履修前に必ずメールをしてください。 takahashi.yoshimitsu.3m@kyoto-u.ac.jp ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	医学コミュニケーション演習 Applied Medical Communication	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 岩隈 美穂								
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
<p>コースの概要</p> <p>質的研究方法(会話研究、SCAT、エスノグラフィーなど)をいくつか取り上げます。質的研究にも多くの手法があり、自分が知りたいリサーチエディションに合わせて、適切な方法を選ぶ必要があります。実際に研究が始まる前にいくつかの道具(ツール)を試しておいたほうがいいので、自分のリサーチエディションを意識し方法論を模索し始める時期に受講することをお勧めします。また自学自習が比較的難しい質的研究は、一緒に受講している「伴走者(=クラスメート)」がいると、課題・疑問を共有しながら学びやすいです。そのため授業形式としてはグループワークなどを通して「分析を実際に経験」することを重視しています。また前期で取り上げたテーマを深く掘り下げたり、「障害学」についても触れたりしています。</p>											
[到達目標]											
<p>学習到達目標(このコース終了時までに習得が期待できる)</p> <p>いくつかの質的研究方法を理解する</p> <p>自分のリサーチエディションにあった研究方法を選択できる</p> <p>障害学について理解できる</p>											
[授業計画と内容]											
<p>1 10/2 イントロダクション</p> <p>2 10/9 質的研究概論</p> <p>3 10/16 Steps for coding and theorization (SCAT)演習 1</p> <p>4 10/23 SCA演習2</p> <p>5 10/30 SCA演習3</p> <p>6 11/13 SCA演習4</p> <p>7 11/20 TBA</p> <p>8 11/27 障害学1</p> <p>9 12/4 障害学2</p> <p>10 12/11 エスノグラフィー演習1</p> <p>11 12/18 エスノグラフィー演習2</p> <p>12 12/25 エスノグラフィー演習3</p> <p>13 1/8 学生によるプレゼンテーション 1</p> <p>14 1/15 学生によるプレゼンテーション 2</p> <p>15 1/22 授業まとめ</p>											
医学コミュニケーション演習(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

医学コミュニケーション演習(2)
[履修要件]
特になし
[成績評価の方法・観点及び達成度]
1. 平常点(授業参加、授業態度を含む) 30%
2. レポート 50%
タイトル(20%) + 最終レポート(30%)
3. レポート発表 20%
[教科書]
プリントを配布する
[参考書等]
(参考書)
[授業外学習(予習・復習)等]
レポートは研究計画書の作成です
(その他(オフィスアワー等))
医学「コミュニケーション」のクラスなので、課題テーマを決める際、「関係性、心理、つながり、コミュニティ、コミュニケーション、社会」などのキーワードが入ることが望ましい。医療・医学への社会科学のアプローチに興味のある学生向け。障害があり、授業あるいは課題への取り組みに配慮(Accommodation)が必要な場合、早めに相談に来ること。講師の都合で、日程が変更になることがある。
人間健康科学系専攻学生の受講可否: 5名まで可
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	エビデンスユーザー入門 Introduction to EBM: How to use evidence in your daily life	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 古川 壽亮								
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 通年不定	曜時限	開講日注2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
<p>Evidence-Based Medicine (EBM: 根拠に基づく医療)の言葉は、今やすっかり人口に膾炙し、アンケート調査をやる人はアンケートで出てきた数字をエビデンスと呼び、画像研究をやる人はその数値をエビデンスと呼び、分子生物学をやる人はその結果をエビデンスと呼ぶ時代となりました。個々の患者の医療判断において、また集団の医療施策判断において、その根拠となるべきエビデンスとは、どういう性質のものを言うのか、どうすればそれを探すことが出来るのか、ない場合にはどうするのか、など、エビデンスユーザーとして必要な教養を身につけていただくコースにしたいと考えています。</p> <p>そして、エビデンスユーザーの胸を磨かれたら、その次には、エビデンスメーカーとして何をすべきかも自ずと明らかになって行くことを期待しています。</p> <p>なお、KUSPHにはさまざまなバックグラウンドと興味関心の方が集っておられます。EBMの方法論は、すべての対人実践に共通であると感じています。代替医療、教育、経済施策、環境施策などなど、各人の興味関心のテーマについてKUSPH卒業生が今後EBMを実践する一助にして頂ければ開講者として本望です。</p>											
[到達目標]											
<p>1. 診断、治療(介入)、予後、系統的レビューの各テーマについて、標準的な批判的吟味のチェックポイントを習得する</p> <p>2. 各領域において自分の臨床疑問について、疑問の定式化、情報検索、情報の批判的吟味、批判的吟味の結果の実地応用の4ステップを実施したレポートを提出する</p>											
[授業計画と内容]											
<p>講義は以下の手順で進みます。</p> <p>1. 診断、治療(介入)、予後、系統的レビューについて、教科書を指定しますので、批判的吟味のチェックポイントを、受講者が分担して解説・プレゼンテーションします</p> <p>2. スモールグループに分けて、各グループで上記の各テーマについてEBM実践の例を発表して頂きます</p> <p>3. 上記のプロセスを学習した後、各個人は今度は自分の臨床疑問について実践の例をレポートしていただきます</p> <p>自学自習に相当の時間を要すると思われるので、受講者はその覚悟で科目を選択されていることを期待します。そして、授業は原則隔週で行います(月曜日2限、G棟2階セミナー室B、開講日注意)。</p>											
<p>回目日テーマ 担当者</p> <p>1. 4月9日 EBMのスピリット 古川</p> <p>2. 5月14日 治療(介入)の批判的吟味のチェックポイント 受講者①</p> <p>3. 5月28日 その実践例(1) グループ発表</p> <p>4. 6月4日 その実践例(2)</p> <p>5. 7月9日 診断の批判的吟味のチェックポイント 受講者②</p>											
エビデンスユーザー入門(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

エビデンスユーザー入門(2)	
6. 7月30日 その実践例 (1) グループ発表 7. 8月6日 その実践例 (2) 8. 10月1日 予後の批判的吟味のチェックポイント 受講者③ 9. 10月15日 その実践例 (1) グループ発表 10. 10月29日 その実践例 (2) 11. 11月12日 系統的レビューの批判的吟味のチェックポイント 受講者④ 12. 11月19日 ネットワークメタアナリシスの批判的吟味のチェックポイント 受講者⑤ 13. 12月3日 その実践例 (1) グループ発表 14. 12月17日 その実践例 (2) グループ発表 15. 1月21日 予備日	
履修要件 MPH選択「文献検索法」「文献評価法」の履修をお勧めします。	
成績評価の方法・観点及び達成度 授業への参加度 (40%) 診断、治療 (介入)、予後、系統的レビューについて、自分の興味関心の臨床疑問について提出した計4本のレポート (60%)	
教科書 Gordon Guyatt 他 『Users' Guides to the Medical Literature: Essentials of Evidence-Based Clinical Practice, 3rd Edition』 (McGraw-Hill Professional) (ここに含まれる章を教科書として指定しますが、これらら下記Manualに全て含まれていますので、下記Manualを購入された方はそちらを利用下さい)	
参考書等 (参考書) Gordon Guyatt 他 『Users' Guides to the Medical Literature: A Manual for Evidence-Based Clinical Practice, 3rd Edition』 (McGraw-Hill Professional) 古川壽亮 『エビデンス精神医療』 (医学書院)	
関連URL http://ebmh.med.kyoto-u.ac.jp/toolbox.html (健康増進・行動学分野ホームページのEBM Toolboxもご利用ください)	
授業外学習 (予習・復習) 等 自学自習に相当の時間を要すると思われしますので、受講者はその覚悟で科目を選択されていることを期待します。	
その他 (オフィスアワー等) 人間健康科学系専攻学生の受講可否: 可	
-----エビデンスユーザー入門(3)へ続く↓ ↓ ↓	

エビデンスユーザー入門(3)	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	
-----エビデンスユーザー入門(3)へ続く↓ ↓ ↓	

授業科目名 <英訳>	担当所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 田中 司朗 医学研究科 特定助教 大前 勝弘 医学研究科 教授 佐藤 俊哉 医学研究科 助教 米本 直裕 京都府立医科大学 助教 横田 典	
臨床試験の統計的方法 Statistical Methods in Clinical Trials			
配当学年	専門職	単位数 1	開講年度 2018・後期集中
授業の概要・目的 臨床試験デザインの統計学的側面について、教科書「臨床試験デザインーベイズ流・頻度流の適応的方法」の6章、7章に沿って講義する。また、経時データ解析、欠測データ解析、サンプルサイズ設計など、臨床試験の実務で用いられる統計的方法について、講義・実習を行う。前期科目「臨床試験」、「統計的推測の基礎」、「統計モデルとその応用」程度の臨床試験・統計学の知識を前提とする。CB必修、MPH選択。			
到達目標 ・臨床試験のデザインや統計解析を実際に行うために必要な統計的方法を理解する。			
授業計画と内容 ・講義形式と実習形式。第3～7回の内容は、教科書1～3章の理解を前提としている。教科書を事前に読むことを推奨する。教科書3章のベイズ流統計学については、第3回に必要部分のみ講義する。実習のチューターは、臨床統計学 相田麗・今井匠が担当。 第1回 10月3日 経時データ解析 (田中) 第2回 10月10日 欠測データ解析 (田中) 第3回 10月17日 第1相・第II相試験デザイン (田中) 第4回 10月24日 第III相試験デザイン1 (優越性・非劣性・同毒性、サンプルサイズ設計など、田中) 第5回 11月31日 実習 (サンプルサイズ設計、田中、相田、今井) 第6回 11月7日 第III相試験デザイン2 (グループ逐次法、適応的デザインなど、横田) 第7回 11月14日 適応的ランダム化・適応的デザイン (田中)			
履修要件 前期科目「臨床試験」、「統計的推測の基礎」、「統計モデルとその応用」を履修済みであること			
成績評価の方法・観点及び達成度 平常点 (50%)、レポート (50%)			
教科書 G.リン『臨床試験デザインーベイズ流・頻度流の適応的方法』(メディカル・パブリケーションズ) 教科書の入手については第1回でアナウンスする。			
参考書等 (参考書)			
授業外学習 (予習・復習) 等 教科書「臨床試験デザインーベイズ流・頻度流の適応的方法」を適宜読むこと。			
その他 (オフィスアワー等) 人間健康科学系専攻学生の受講可否: 不可			
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	担当所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 田原 康文 医学研究科 教授 松田 文彦	
フィールドワーク Fieldwork			
配当学年	専門職	単位数 2	開講年度 2018・通年集中
授業の概要・目的 社会医学的な課題の解明に必要な精度の高い1次データをいかに収集するか、対象者や関係団体・自治体等との連携体制の構築も含めてその方法を体系的に修得することは、疫学を学ぶ上で基本となる学識になる。そこで本授業では、医学研究科が取り組むコホート研究 (ながはまコホート) に実際に参加し、フィールドワークや地域保健の現状と課題とを実践的に学ぶ。 ながはまコホートは、最先端の医学研究と地域住民の健康づくりを目標に、京都大学医学研究科と滋賀県長浜市とが連携して実施する「0次予防健康づくり推進事業」の一環として行うものであり、市民1万余名を対象としている。当該コホートでは5年で1事業期と定め、2007年からのベースライン調査で1万人をリクルートし、続く2012年からのフォローアップ調査で、同じ1万人の再調査を行った。本事業では、2017年からスタートした第3期事業 (2回目のフォローアップ調査) に参加する。 具体的には、この授業は特定健診を兼ねた現地調査 (0次健診) への参加と、その前後の研修で構成される。前者については、実際に0次健診に参加し、生活習慣や病歴等に関する質問調査や各種生理学的検査を通して、フィールドでのデータ収集の実験を学ぶ。併せて、地域保健の現状や問題点について、最前線で行っている自治体の担当保健師から実情を学ぶ。0次健診を始め、事業の全ては市民団体の多大なる支援を受けて実施しており、健康づくりに関する一連の市民活動についても学ぶことで、市民の視点に立った地域保健についても学習する。2018年度の0次健診は、7～2月にかけて32日程度予定されており、履修者には5～6日間程度の参加が要件となる。 ながはまコホートは、医学研究科が総力を挙げて取り組むコホート研究であり、本専攻においても、社会健康医学の基盤であるフィールド研究を実際に学ぶ場として、大学院生に履修を強く推奨している。			
到達目標 ・地域における疫学研究の実際を学ぶ。 ・地方自治体が行っている地域保健について学ぶ。 ・地域の関係者 (研究協力者、自治体、市民団体) とのコミュニケーションを通して、信頼できる情報を得るための方法、個人情報保護、長期にわたる信頼関係の在り方を学ぶ。			
授業計画と内容 第1回 4月第1週 オリエンテーション 第2回 別途指定 フィールドワーク作業の説明 第3-14回 各自指定 フィールドワーク (0次健診への参加) 第15回 別途指定 総括・ディスカッション			
履修要件 一般市民を対象とした調査研究に参加するため、日本語でのコミュニケーションが可能であること			
-----フィールドワーク(2)へ続く↓ ↓ ↓			

フィールドワーク(2)
[成績評価の方法・観点及び達成度]
講義、実習への積極的な参加（90%）およびレポート（10%）
[教科書]
使用しない なし
[参考書等]
（参考書） なし
[授業外学習（予習・復習）等]
フィールド（滋賀県長浜市）で実際の健診活動に携わることを中心とする。予習は特に必要ないが実習に基づくレポートを復習と位置付ける。
[その他（オフィスアワー等）]
・第1回、第2回は必ず出席してください。（欠席の場合は要事前連絡） ・0次健診への参加日は、各自のスケジュールを調整のうえ個別に指定します。
人間健康科学系専攻学生の受講可否：可 若干名（希望者は事前に連絡してください） 総合生存学館の学生の受講可否：可 若干名（希望者は事前に連絡してください）
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	社会健康医学課外実習 Field Training for Public Health Practice	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 福原 俊一
配当 学年	専門職	単位数	2
開講年度・ 開講期	2018・ 通年集中	曜時限	集中講義
授業形態	実習	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]			
I. コースの概要 ・就業体験を通じて、学んだ専門知識等を活かして、応用力を高める。 ・キャリアデザイン具体化につなげる機会とする。 ・所属分野の指導教員と、場合によっては、加えて他分野の主担当教員とも、十分に相談の上、履修届を出してください。 (計画未確定のままに急いで、学年初め・学期初めに履修届を出す必要はありません。)			
II. 学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること） ・社会の現場に必要な技能の向上を図る。 ・大学院で得た知識・技能を、いかにして実務に役立たせるかを確認する。 ・志望する就業の現場での雰囲気や必要な技能を知る。 ・実務を通じて、社会貢献をする。			
III. 教育・学習方法 ・就業体験を通じて、学んだ専門知識等を活かして、応用力を高める。			
[到達目標]			
学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること） ・社会の現場に必要な技能の向上を図る。 ・大学院で得た知識・技能を、いかにして実務に役立たせるかを確認する。 ・志望する就業の現場での雰囲気や必要な技能を知る。 ・実務を通じて、社会貢献をする。			
[授業計画と内容]			
所属分野の指導教員等と、十分に相談の上、インターンシップの計画を立ててください。			
[履修要件]			
KULASISでの履修登録はできません。履修する場合は、窓口に出してください。			

社会健康医学課外実習(2)へ続く↓ ↓ ↓

社会健康医学課外実習(2)
[成績評価の方法・観点及び達成度]
・終了後速やかに報告書・レポート（報告書の様式は教務掛を通じて入手すること）を作成し、かつ、インターン先の責任者と指導教員の確認を得ること。 ・合否のみ、判定する。
[教科書]
・諸々の学習資源は、就業体験を通じて得られる。
[参考書等]
（参考書） ・諸々の学習資源は、就業体験を通じて得られる。
[授業外学習（予習・復習）等]
適宜予習復習を求める
[その他（オフィスアワー等）]
その他メッセージ ・他の履修科目の日程と重複しないように計画してください。重複した場合、インターンシップを優先するわけではありません。必要な際は、該当する科目責任者に相談してください。 ・履修登録（単位取得）せずに、インターンシップを行ってもかまいません。 ・実質的な業務が計60時間以上で2単位。計30時間以上で1単位とします。 ・上記の時間の目安と、就業体験の内容と質を、主担当教員（指導教員等）が評価し、合否と単位数（1単位か2単位）を判定します。 ・報告書の様式（教務掛で受取ること）を主担当教員（指導教員等）に提出し、履修届けを同時に行ってください。
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	医療経営特別カリキュラム I Healthcare management Special Curriculum I	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特定講師 佐々木 典子 医学研究科 特定講師 國澤 進 医学研究科 特定講師 大坪 徹也
配当 学年	専門職	単位数	2
開講年度・ 開講期	2018・ 前期集中	曜時限	集中講義
授業形態	実習	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]			
急速に変遷する医療制度の中で経営環境は困難化し、経営の力の差がますます大きくなるもの言う今日、医療の質・安全性を高めながら堅実に経営を向上させることのできる専門性高く実力のある医療経営者が強く求められている。 当コースは、『医療経営ヤングリーダー・プログラム』（1学年約2名まで）に限定した科目であり、その院生には必修である。当コースは、社会健康医学系専攻修士課程専門職大学院の一環として提供され、同様の要件を満たさねばならない。面接、審査の上、若手医師ならびに経営の素養のある若手を対象に開講する。 座学にとどまらず、例えば、プロジェクト形式で、経営実例に直結する調査、分析、活動などを進める。自らの情報収集、分析、環境適応、創造の能力をたかめるべく訓練を行う。			
[到達目標]			
現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において将来に主導的役割を担う人材の養成をめざす。			
[授業計画と内容]			
当コースは高度専門職である経営幹部候補生およびこの領域の将来のリーダーを育成するためのプログラムである。 財務、会計、経営分析、市場分析、組織論・組織文化の把握、質保証・業務改善、情報システム、法と倫理、関連ビジネス、政策・制度などについて学び、経営実力者の人格と出会い、現場に身を置いて、インターンシップ、実習、演習、調査等を行う。既存の教材や教育方法を学びながら、新たな教材や教育方法の創造に参加する。 例えば、プロジェクト形式で以下のようなことも行う。 ○病院経営の実態に関する調査の実施と分析、改善策の立案 ○経営の取材、関係情報収集の実務 ○経営事例研究 ○診療圏・潜在市場に関するデータ収集と分析 ○診療情報、診療報酬、医療費・原価に関する分析 ○経営関連指標の多施設間比較 ○病院経営の支援ニーズの把握と実現 ○プロジェクトのマネジメント、など。 これらを通じて、現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において、将来に主導的役割を担う人材の養成をめざす。			

医療経営特別カリキュラム I(2)へ続く ↓ ↓ ↓

医療経営特別カリキュラム I (2)	
プロジェクト遂行型学習、問題解決型実習、小グループ演習	
教室：医療経済学教室ほか	
【履修要件】	
医療経営ヤングリーダー・プログラム限定必修	
【成績評価の方法・観点及び達成度】	
1) プロジェクト成果、研究成果 2) コースワークへのコミットメント	
【教科書】	
資料は適宜配布する。	
【参考書等】	
(参考書)	
【授業外学習（予習・復習）等】	
授業中に指示する場合があるが、自発的かつ積極的な取り組みを期待する。	
【その他（オフィスアワー等）】	
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 否	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

授業科目名 <英訳>	医療経営特別カリキュラム II Healthcare management Special Curriculum II		担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特定講師 佐々木 典子 医学研究科 特定講師 國澤 進 医学研究科 特定講師 大坪 徹也							
	配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	実習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】												
急速に変遷する医療制度の中で経営環境は困難化し、経営の力の差がますます大きくなるものや言う今日、医療の質・安全性を高めながら堅実に経営を向上させることのできる専門性高く実力のある医療経営者が強く求められている。 当コースは、『医療経営ヤングリーダー・プログラム』（1学年約2名まで）に限定した科目であり、その院生には必修である。当コースは、社会健康医学系専攻修士課程専門職大学院の一環として提供され、同様の要件を満たさねばならない。面接、審査の上、若手医師ならびに経営の素養のある若手を対象に開講する。 座学にとどまらず、例えば、プロジェクト形式で、経営実例に直結する調査、分析、活動などを進める。自らの情報収集、分析、環境適応、創造の能力をたかめるべく訓練を行う。												
【到達目標】												
現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において将来に主導的役割を担う人材の養成をめざす。												
【授業計画と内容】												
当コースは高度専門職である経営幹部候補生およびこの領域の将来のリーダーを育成するためのプログラムである。 財務、会計、経営分析、市場分析、組織論・組織行動、組織文化の把握、質保証・業務改善、情報システム、法と倫理、関連ビジネス、政策・制度などについて学び、経営実力者の人格と出会い、現場に身を置いて、インターンシップ、実習、演習、調査等を行う。既存の教材や教育方法を学びながら、新たな教材や教育方法の創造に参加する。 例えば、プロジェクト形式で以下のようなことも行う。 ○病院経営の実態に関する調査の実施と分析、改善策の立案 ○経営の取材、関係情報収集の実務 ○経営事例研究 ○診療圏・潜在市場に関するデータ収集と分析 ○診療情報、診療報酬、医療費・原価に関する分析 ○経営関連指標の多施設間比較 ○病院経営の支援ニーズの把握と実現 ○プロジェクトのマネジメント、など。 これらを通じて、現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において、将来に主導的役割を担う人材の養成をめざす。												
医療経営特別カリキュラム I(2)へ続く↓ ↓ ↓												

医療経営特別カリキュラム II (2)	
プロジェクト遂行型学習、問題解決型実習、小グループ演習	
教室：医療経済学教室ほか	
【履修要件】	
医療経営ヤングリーダー・プログラム限定必修	
【成績評価の方法・観点及び達成度】	
1) プロジェクト成果、研究成果 2) コースワークへのコミットメント	
【教科書】	
資料は適宜配布する。	
【参考書等】	
(参考書)	
【授業外学習（予習・復習）等】	
授業中に指示する場合があるが、自発的かつ積極的な取り組みを期待する。	
【その他（オフィスアワー等）】	
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 否	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

授業科目名 <英訳>	医療経営ケーススタディ Case Studies in Healthcare Management		担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特定講師 佐々木 典子 医学研究科 特定講師 國澤 進 医学研究科 特定講師 大坪 徹也							
	配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 通年集中	曜時限	集中講義	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】												
急速に変遷する医療制度の中で経営環境は困難化し、経営の力の差がますます大きくなるものや言う今日、医療の質・安全性を高めながら堅実に経営を向上させることのできる専門性高く実力のある医療経営者が強く求められている。 当コースは、社会健康医学系専攻修士課程専門職大学院の一環として提供される中において『医療経営ヤングリーダー・プログラム』に限定した科目であり、そのプログラム上、必修である。面接、審査の上、経営の素養のある人材を対象に開講する。 ケーススタディに加えて、プロジェクト形式で、経営実例に直結する調査、分析、活動などを進める。これらを通じて、自らの情報収集、分析、妥当な計画立案、環境適応、創造の能力、行動力が高めるべく訓練を行う。												
【到達目標】												
現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において将来に主導的役割を担う人材の養成をめざす。												
【授業計画と内容】												
『医療経営ヤングリーダー・コース』は高度専門職である医療経営幹部候補生およびこの領域の将来のリーダーを育成するためのプログラムであり、財務、会計、経営分析、市場分析、組織論・組織行動、組織文化の把握、質保証・業務改善、情報システム、法と倫理、関連ビジネス、政策・制度などについて学び、新たな教材や教育方法の創造にも参加し、経営実力者の人格と出会い、現場に身を置いて演習、調査、ケーススタディ等を行う。 当ケーススタディ・コースでは、以下の課題（例）を扱う。 ○診療圏分析と病院機能の設計 ○新病院組織の立ち上げ ○病院の建替えと健全財務 ○資金調達 ○人事制度改革 ○経営戦略立案 ○原価計算の導入と活用 ○BSCの導入 ○電子カルテ導入と業務プロセスの見直し・改善 ○組織変革のリーダーシップ ○地域レベル医療経営の見直しと改革 ○組織文化の醸成、など												
医療経営ケーススタディ(2)へ続く↓ ↓ ↓												

医療経営ケーススタディ(2)
これらを通じて、現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において将来に主導的役割を担いうる人材の養成をめざす。
【履修要件】
医療経営ヤングリーダー・プログラム限定必修
【成績評価の方法・観点及び達成度】
ケーススタディ等、クラスへのコミットメント
【教科書】
資料は適宜配布する。
【参考書等】
(参考書)
【授業外学習（予習・復習）等】
授業中に指示する場合があるが、自発的かつ積極的な取り組みを期待する。
【その他（オフィスアワー等）】
人間健康科学系専攻学生の受講可否：否 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

臨床研究者養成(MCR)コース

授業科目名 <英訳>	臨床研究計画法 I Seminar in Study Design I	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 福原 俊一	2018・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語					
			医学研究科 教授 中山 健夫								医学研究科 准教授 高橋 由光	医学研究科 教授 川上 浩司	環境安全保健機構 教授 川村 孝	環境安全保健機構 教授 石見 拓	環境安全保健機構 助教 岡林 里枝
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2018・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語				
[授業の概要・目的]															
(本講義の通称：プロマネ1)															
1. 講義															
・MCR修了者が行ってきた臨床研究を素材として、															
①プロトコル作成と研究の運営において必要な手法を学ぶ。															
②臨床研究プロトコルを作成および実施・運営する上で必要な実践的知識・技能を学ぶ。															
③臨床研究を実際に運営する際に必要な研究マネジメント方略に関する知識・技能を習得する。															
2. プロトコル発表検討会															
・MCR担当教員とMCR専科生および受講生全員が、毎回参加することを原則とする。															
・個々の院生が、自身のリサーチ・クエスチョン (RQ) にもとづいた研究計画を発表し、院生や教員による形成的な検討、評価、フィードバックを通じて質の高い研究プロトコルを作成にむけて学習する。															
・院生はRQの背景や意義の説明を中心に発表する。スライドは英語で作成し、発表は日本語を可とする。ディスカッションは日本語とする。															
[到達目標]															
・研究の目的に適合した臨床研究プロトコルを指導者からの助言を得て作成できる。															
・研究の目的に適合した研究のマネジメントの具体的方略を指導者からの助言を得て考案できる。															
・研究の方法や場に応じた研究運営上の留意点を指導者からの助言を得て認識できる。															
[授業計画と内容]															
第1回 4月9日オリエンテーション (福原教授・全教員)															
第2回 5月7日プロトコル発表検討会															
第3回 5月14日プロトコル発表検討会															
第4回 5月21日プロトコル発表検討会															
臨床研究計画法 I (2)へ続く ↓ ↓ ↓															

臨床研究計画法 I (2)											
第5回 5月28日プロトコル発表検討会											
第6回 6月4日講義・プロトコル発表検討会											
第7回 6月11日プロトコル発表検討会											
第8回 6月18日プロトコル発表検討会											
第9回 6月25日プロトコル発表検討会											
第10回 7月2日講義・プロトコル発表検討会											
第11回 7月9日プロトコル発表検討会											
第12回 7月23日プロトコル発表検討会											
第13回 7月30日プロトコル発表検討会											
[履修要件]											
MCR限定必修科目											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
・講義への積極的な参加 (30%)											
・プロトコル発表 (70%)											
[教科書]											
使用しない											
オリエンテーション時、および演習時に必要文献を適宜指示する。											
[参考書等]											
(参考書)											
授業中に紹介する											
[授業外学習 (予習・復習) 等]											
教育・学習方法											
・課題作業 (プロトコル作成を含む)											
・学生によるプロトコル発表・出席者全員による検討。											
(その他 (オフィスアワー等))											
専科生が研究課題発表会においてプロトコルの発表を行う場合には、研究課題レポートに加えてフルプロトコルの提出が必要である。フルプロトコルは、倫理委員会に提出できるレベルのものとし、より詳細な記載 (実施手順等)、調査票や説明書・同意書等の添付を要する。提出期限は2月上旬を予定。電子ファイルによりMCR事務局に送付する (詳細は追って指示する)。なお、課題研究発表会において解析結果まで発表する場合には、フルプロトコルの提出は不要。											
人間健康科学系専攻学生の受講可否: 不可											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	臨床研究計画法演習 I Special Seminar in Study Design I	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 福原 俊一	2018・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語	
			環境安全保健機構 助教 岡林 里枝								医学研究科 准教授 山本 洋介
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2018・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
(本講義の通称：プレプロマネ1)											
◆プロトコル発表検討会											
・MCR専科生および受講生全員が、毎回参加することを原則とする。											
・個々の院生が、自身のリサーチ・クエスチョン (RQ) にもとづいた研究計画を発表し、院生相互の意見交換を通じて質の高い研究プロトコルを作成にむけて学習する。											
・院生はRQの背景や意義の説明を中心に発表する。											
[到達目標]											
・研究の目的に適合した臨床研究プロトコルを指導者からの助言を得て作成できる。											
・研究の目的に適合した研究のマネジメントの具体的方略を指導者からの助言を得て考案できる。											
・研究の方法や場に応じた研究運営上の留意点を指導者からの助言を得て認識できる。											
[授業計画と内容]											
第1回 4月12日オリエンテーション											
第2回 4月19日プロトコル発表検討会											
第3回 4月26日プロトコル発表検討会											
第4回 5月10日プロトコル発表検討会											
第5回 5月17日プロトコル発表検討会											
第6回 5月24日プロトコル発表検討会											
第7回 5月31日プロトコル発表検討会											
第8回 6月7日プロトコル発表検討会											
第9回 6月14日プロトコル発表検討会											
第10回 6月21日プロトコル発表検討会											
第11回 6月28日プロトコル発表検討会											
第12回 7月5日プロトコル発表検討会											
第13回 7月12日プロトコル発表検討会											
第14回 7月19日プロトコル発表検討会											
第15回 7月26日 予備日											
[履修要件]											
MCR限定必修科目											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
・講義への積極的な参加 (100%)											
[教科書]											
使用しない											
オリエンテーション時、および演習時に必要文献を適宜指示する。											
臨床研究計画法演習 I (2)へ続く ↓ ↓ ↓											

臨床研究計画法演習 I (2)											
[参考書等]											
(参考書)											
授業中に紹介する											
[授業外学習 (予習・復習) 等]											
教育・学習方法											
・課題作業 (プロトコル作成を含む)											
・学生によるプロトコル発表・出席者全員による検討。											
(その他 (オフィスアワー等))											
人間健康科学系専攻学生の受講可否: 不可											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	医療技術の経済評価 (MCR限定) Economic Evaluation of Medical Technologies				担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特定講師 佐々木 典子 医学研究科 特定講師 國澤 進 医学研究科 特定講師 大坪 徹也					
	配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2018・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]												
<ul style="list-style-type: none"> 医療技術における経済評価を支える理論・フレームワークについての講義を行い、医療技術・医薬品等の経済性評価のための主な研究手法を学習します。 医療技術の経済評価は、通常、現実的な制約の中で評価をすることになりますが、その際の研究のあり方についても学習します。 医療技術・医薬品等、臨床的な事例・テーマを中心に検討を行います。 												
[到達目標]												
<ul style="list-style-type: none"> 医療技術における経済評価を支える理論・フレームワークや研究方法等について、重要事項を説明できる。 医療技術の経済評価研究に関するバイアスについて理解している。 治療技術・薬剤・医療材料などに関する経済分析に用いられる主な研究手法として、費用分析・費用効果分析・費用効用分析・費用便益分析の違いやそれぞれの適応、費用算定・アウトカム測定・時間の概念・割引率、感度分析、増分費用効果比といった中心的な概念を理解して説明でき、分析結果の適切な解釈ができる。 上記を踏まえてこの領域の研究文献を批判的にレビューし、その意義を説明できる。研究プロトコルの作成や研究実施時に、習得した知識・技術を活用できる。 												
[授業計画と内容]												
第1回 4月11日 医療技術の経済性評価 (1) 第2回 4月18日 医療技術の経済性評価 (2) 第3回 4月25日 医療経済評価研究の評価法 第4回 5月02日 費用効果/効用分析の方法論1 第5回 5月09日 経済評価のモデリング 第6回 5月16日 費用効果/効用分析の方法論2 第7回 5月23日 医療技術の経済評価：論文レビュー&討議1 第8回 5月30日 医療技術の経済評価：論文レビュー&討議2 * 医学部学生チュートリアル、外部講師他の諸状況により日程変更あります。初回に予定を説明します。												
医療技術の経済評価 (MCR限定) (2)へ続く ↓ ↓ ↓												

医療技術の経済評価 (MCR限定) (2)												
[履修要件]												
MCR限定必修												
[成績評価の方法・観点及び達成度]												
講義・討論・グループワーク・発表におけるコミットメント (配分30%)、課題レポート・期末などのレポート (配分70%) により、総合的に評価する。												
[教科書]												
適宜、資料を講義にて配布する												
[参考書]												
<ul style="list-style-type: none"> (参考書) ・ Drummond MF, et al. Methods for the Economic Evaluation of Health Care Programmes, 3rd Ed. Oxford, 2005. ・ Myriam Hunink. Decision Making in Health and Medicine: Integrating Evidence and Values. Cambridge, 2001. ・ 医療制度・医療政策・医療経済 (丸善出版2013) ・ Handbook of Health Services Research (Springer Science+Business Media) 												
[授業外学習 (予習・復習) 等]												
予習・復習は必要												
(その他 (オフィスアワー等))												
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済学の学習経験は問いません。 ・ 当分野では医療の経済性、質・安全・原価の実証研究政策研究、医療の政策や経営に深く関わりたい人を募っています。(医療経済学分野: http://med-econ.umin.ac.jp) <p>注)医療のプロセス、アウトカム等の質指標、診療のばらつき、医療の質の評価・改善、医療機能評価、医療の質・安全に係わる制度・政策については、水曜3限「医療の質評価」(前期後半) (1単位) (MCR推奨選択・コア選択必修)を選択してください。</p> <p>※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>												

授業科目名 <英訳>	臨床研究計画法 I I Seminar in Study Design II				担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 教授 福原 俊一 医学研究科 教授 中山 健夫 医学研究科 准教授 高橋 由光 医学研究科 教授 川上 浩司 環境安全保健機構 教授 川村 孝 環境安全保健機構 教授 石見 拓 環境安全保健機構 助教 岡林 里枝 環境安全保健機構 助教 松崎 慶一 医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 教授 古川 壽亮 医学研究科 助教 小川 雄石 医学研究科 准教授 渡辺 範雄 医学研究科 特定講師 佐々木 典子 医学研究科 准教授 竹内 正人 環境安全保健機構 助教 小林 大介 医学研究科 准教授 山本 洋介 環境安全保健機構 准教授 阪上 優					
	配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]												
(本講義の通称：プロマネII) 1. 講義 <ul style="list-style-type: none"> ・ MCR修了者が行ってきた臨床研究を素材として、 ①プロトコル作成と研究の運営において必要な手法を学ぶ。 ②臨床研究プロトコルを作成および実施・運営する上で必要な実践的知識・技能を学ぶ。 ③臨床研究を実際に運営する際に必要な研究マネジメント方略に関する知識・技能を習得する。 2. プロトコル発表検討会 <ul style="list-style-type: none"> ・ MCR担当教員とMCR専科生および受講生全員が、毎回参加することを原則とする。 ・ 個々の院生が、自身のリサーチ・クエスチョン (RQ) にもとづいた研究計画を発表し、院生や教員による形成的な検討、評価、フィードバックを通じて質の高い研究プロトコルを作成にむけて学習する。 ・ 院生は英語でスライドを作成し、英語で発表する。ディスカッションは英語および日本語で行う。 												
[到達目標]												
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究の目的に適合した臨床研究プロトコルを作成できる。 ・ 研究の目的に適合した研究のマネジメントの具体的な方略を考案できる。 ・ 研究の方法や場に応じた研究運営上の留意点を認識できる。 												
[授業計画と内容]												
第1回 10月15日 プロトコル発表検討会 第2回 10月22日 プロトコル発表検討会 第3回 10月29日 プロトコル発表検討会 第4回 11月 5日 プロトコル発表検討会												
臨床研究計画法 I I (2)へ続く ↓ ↓ ↓												

臨床研究計画法 I I (2)												
第5回 11月12日 プロトコル発表検討会 第6回 11月19日 プロトコル発表検討会 第7回 11月26日 プロトコル発表検討会 第8回 12月 3日 プロトコル発表検討会 第9回 12月10日 プロトコル発表検討会 第10回 12月17日 プロトコル発表検討会 第11回 1月 7日 プロトコル発表検討会 第12回 1月21日 プロトコル発表検討会 第13回 1月28日 プロトコル発表検討会 第14回 2月 4日 プロトコル発表検討会												
[履修要件]												
MCR限定必修科目												
[成績評価の方法・観点及び達成度]												
<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義への積極的な参加 (30%) ・ プロトコル発表 (70%) 												
[教科書]												
使用しない 臨床研究計画法Iのオリエンテーション時、および、演習時に必要文献を適宜指示する。												
[参考書]												
(参考書) 授業中に紹介する												
[授業外学習 (予習・復習) 等]												
教育・学習方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題作業 (プロトコル作成を含む) ・ 学生によるプロトコル発表・出席者全員による検討。 												
(その他 (オフィスアワー等))												
専科生が研究課題発表会においてプロトコルの発表を行う場合には、研究課題レポートに加えてフルプロトコルの提出が必要である。フルプロトコルは、倫理委員会に提出できるレベルのものとし、より詳細な記載 (実施手順等)、調査票や説明書・同意書等の添付を要する。提出期限は2月上旬を予定。電子ファイルによりMCR事務局に送付する (詳細は追って指示する)。なお、課題研究発表会において解析結果まで発表する場合には、フルプロトコルの提出は不要。												
人間健康科学系専攻学生の受講可否: 不可												
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

授業科目名 <英訳>	臨床研究計画法演習 I I Special Seminar in Study Design II	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 福原 俊一 環境安全保健機構 助教 岡林 里枝 医学研究科 准教授 山本 洋介								
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時間	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
(本講義の通称：プレプロマネII) ◆プロトコル発表検討会 ・MCR専科生および受講生全員が、毎回参加することを原則とする。 ・個々の院生が、自身のリサーチ・クエスチョン（RQ）にもとづいた研究計画を発表し、院生相互の意見交換を通じて質の高い研究プロトコルを作成にむけて学習する。 ・院生は、研究実施に際しての問題点を明らかにする。結果が出ている場合は結果の解釈を明らかにする。											
[到達目標]											
・研究の目的に適合した臨床研究プロトコルを作成できる。 ・研究の目的に適合した研究のマネジメントの具体的方略を考案できる。 ・研究の方法や場に応じた研究運営上の留意点を認識できる。											
[授業計画と内容]											
第1回 10月1日 プロトコル発表検討会 第2回 10月15日 プロトコル発表検討会 第3回 10月22日 プロトコル発表検討会 第4回 10月29日 プロトコル発表検討会 第5回 11月5日 プロトコル発表検討会 第6回 11月12日 プロトコル発表検討会 第7回 11月19日 プロトコル発表検討会 第8回 11月26日 プロトコル発表検討会 第9回 12月3日 プロトコル発表検討会 第10回 12月10日 プロトコル発表検討会 第11回 12月17日 プロトコル発表検討会 第12回 1月7日 プロトコル発表検討会 第13回 1月21日 プロトコル発表検討会 第14回 1月28日 プロトコル発表検討会 第15回 2月4日 プロトコル発表検討会											
[履修要件]											
MCR限定選択科目											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
・講義への積極的な参加（100%）											
臨床研究計画法演習 I I (2)へ続く ↓ ↓											

臨床研究計画法演習 I I (2)											
[教科書]											
使用しない 臨床研究計画法演習Iのオリエンテーション時、および、演習時に必要文献を適宜指示する。											
[参考書等]											
授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
教育・学習方法 ・課題作業（プロトコル作成を含む） ・学生によるプロトコル発表・出席者全員による検討。											
[その他（オフィスアワー等）]											
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 不可											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	EBM・診療ガイドライン特論（MCR限定） Special Lectures on EBM and clinical practice guidelines	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫 非常勤講師 宮崎 貴久子 大津地方裁判所 民事部総括判事 西岡 繁晴 国立成育医療研究センター 研 森 臨太郎 院所・准教授 大学院各員教授								
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時間	金3	授業 形態	特論	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
・臨床医療の基盤となりつつあるEBM（根拠に基づく診療）と、EBMを用いた診療ガイドラインの歴史、国内外の動向と展望を学びます。 ・実習を通して、近年大きく進歩しつつある診療ガイドラインの評価・作成の方法の実際を経験します。 ・患者・家族とのコミュニケーション、法的な意味合い、医療資源の配置など社会的な視点から診療ガイドラインの可能性と課題を考えます。											
教育・学習方法 ・パワーポイントスライドによる講義と実習 ・一部グループワークあり											
[到達目標]											
・EBMと診療ガイドラインの関係を説明できる。 ・EBMを用いた診療ガイドラインの作成・評価の概要を理解し、実施できる。 ・社会的な視点から診療ガイドラインの可能性と課題を説明できる。											
[授業計画と内容]											
※変更の可能性があるので開講日に確認して下さい 第1回 10月5日 EBMと診療ガイドライン 第2回 10月12日 診療ガイドラインの評価 第3回 10月19日 診療ガイドラインの作成 第4回 10月26日 診療ガイドラインの法的位置づけ 第5回 11月2日 診療ガイドラインからQuality Indicator (QI)へ 第6回 11月9日 医療政策から見た系統的レビュー・診療ガイドライン 第7回 11月16日 診療ガイドラインと患者の視点：shared decision-makingへ 第8回 11月30日 総合討論											
※「健康情報学II」の講義と重ならないように開講します。											
[履修要件]											
MCRコースの履修生と受講生に限定（MCR限定）											
EBM・診療ガイドライン特論（MCR限定）(2)へ続く ↓ ↓											

EBM・診療ガイドライン特論（MCR限定）(2)											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
毎回の小レポート提出100%											
[教科書]											
講義資料は配布											
[参考書等]											
中山健夫、津谷喜一郎編著『臨床研究と疫学研究のための国際ルール集』（ライフサイエンス出版） 『Minds診療ガイドライン作成の手引き2014年版』（医学書院）											
[授業外学習（予習・復習）等]											
予習より復習に十分時間を取ること。											
[その他（オフィスアワー等）]											
受講生には診療ガイドラインを適切に利用するだけでなく、近い将来、各領域の診療ガイドラインを作る立場になって頂くことを期待しています。											
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 否											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	臨床研究データ管理学 (MCR・統計家限定) Data management for Clinical Research	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 竹内 正人								
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度 開講期	2018・ 後期前半	曜時限	木5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
臨床研究に必要なデータ管理に関して、実例を用いて講義および演習を行う。MCRおよび臨床統計家育成コース限定。											
[到達目標]											
臨床研究に必要なデータ管理の方法を取得し、自らの研究に活かすことができる。											
[授業計画と内容]											
第一回：データ管理概論（竹内） 第二回：データ項目の決定（竹内） 第三回：データ管理と統計（竹内） 第四回：症例報告書のデザイン（竹内） 第五回：データクリーニング（竹内） 第六回：症例報告書のデザイン実習（竹内） 第七回：症例報告書のデザイン実習（竹内）											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点（50％）、レポート（50％）											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
課題研究でデータを扱う際に復習すること。											
[その他（オフィスアワー等）]											
実習でEXCELをインストールしたノートパソコンを使用する必要があるため、持参すること。また本年度は臨床統計家育成コース初年度でもあり、上記授業予定は受講生の理解度・興味により若干の変更を伴う場合もある。											
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 不可											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	臨床研究特論 I (MCR限定) Clinical research advanced I	担当者所属・ 職名・氏名	環境安全保健機構 教授 川村 孝								
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度 開講期	2018・ 後期前半	曜時限	月6	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
(1) 臨床研究計画法I・IIで履修した研究方法について掘り下げる。 (2) 学生から臨床研究の計画・実施・利用に関する疑問点を提示し、教員と学生がいっしょに検討する。 (3) 教員から臨床研究の計画・実施・利用に関する諸問題を提示し、学生が検討する。											
[到達目標]											
各種研究方法について、その背景や考え方、利用の仕方や限界などについて研究事例を通して深く理解する。											
[授業計画と内容]											
(1) 用量反応関係の過小評価（誤分類と回帰希釈） (2) RCTにおけるP値（サンプルサイズ） (3) RCTによる副作用の検証（ITT解析その他） (4) 診断研究における感度（患者スベクトル） (5) 統計学的有意と臨床的有意 (6) 多変量解析の特性（関数モデル） (7) メタアナリシスの特性 (8) 図表の作り方、論文の書き方											
[履修要件]											
・MCRコース限定（選択）											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
・意見発表の積極性、説明の明快さ											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 川村 孝『臨床研究の教科書：研究デザインとデータ処理のポイント』（医学書院）（★臨床研究のデザイン、運営、解析、論文執筆の方法論とコツを解説） 川村 孝『エビデンスをつくる：陥りやすい臨床研究のピットフォール』（医学書院）（★臨床研究のデザインや解析の失敗談とその対策を紹介） Hulleyら『医学的研究のデザイン』（メディカル・サイエンス・インターナショナル） Motulsky『数学いらずの医科統計学』（メディカル・サイエンス・インターナショナル） Kats『医学的研究のための多変量解析』（メディカル・サイエンス・インターナショナル）											
臨床研究特論 I (MCR限定) (2)へ続く↓↓↓											

臨床研究特論 I (MCR限定) (2)											
[授業外学習（予習・復習）等]											
・自らの研究を行うだけでなく、指導者や同僚の研究を積極的に手伝う。											
[その他（オフィスアワー等）]											
臨床研究特論IIと連携する。											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	臨床研究特論 II (MCR限定) Clinical research advanced II	担当者所属・ 職名・氏名	環境安全保健機構 教授 石見 拓								
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度 開講期	2018・ 後期集中	曜時限	月6	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
臨床研究計画法I・IIで履修した研究方法について掘り下げる。 学生から質問を提示し、教員と参加学生で検討する。 教員から研究方法上の問題点を提示し、学生が検討する。											
[到達目標]											
各種研究方法について、その具体化、実践と結果の活用などについて具体的な研究事例に照らして深く理解する。											
[授業計画と内容]											
仮説形成、研究計画立案のプロセス 研究費の獲得方法の具体例 査読への対応方法 研究チームの作り方、フィードバックの仕方 研究成果の社会還元											
[履修要件]											
MCR限定（選択）											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
意見発表の積極性、説明の明快さ											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 川村 孝『臨床研究の教科書』（医学書院） 川村 孝『エビデンスをつくる：陥りやすい臨床研究のピットフォール』（医学書院） Hulley他（木原訳）『医学的研究のデザイン』（メディカル・サイエンス・インターナショナル）											
[授業外学習（予習・復習）等]											
自らの研究に反映し、同僚の研究を支援する。											
[その他（オフィスアワー等）]											
臨床研究特論Iと連携する。											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳> Systematic Reviews		担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 准教授 渡辺 範雄							
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 通年不定	曜時限	月	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
I. コースの概要											
夏期・冬期休暇をまたぐ全20コマの講義と演習により、各参加者が興味を持つテーマについて系統的レビューのプロトコルを英文で完成する。原則、20コマは隔週の2コマずつで進行し、講義と講義のあいだに自らプロトコルを洗練させるための自習時間が必要になるので注意されたい。 *MCR限定推奨なので、実際にこのカリキュラムで系統的レビューのプロトコルを完成させたい人がぜひ選択していただきたい。 *教員が添削するのにかなりのエフォートを要するため、一定の人数以上の応募があった場合、英語で受講希望理由・計画中の検討テーマに関するエッセイを提出してもらいます。そこで一定人数を選考し、もれた人は聴講のみ(宿題添削、発表、評価なし)可とします。											
II. 教育・学習方法											
講義は以下の手順で進行します。 1. 受講者は下記Handbookを分担して担当し、自習したサマリーを講義でプレゼンする 2. このプレゼンに応じて自分のプロトコルの該当部分を書き、次の講義で発表する。この発表に対しピアおよび渡辺からコメントをもらい、 3. 講義終了後1週間以内にプロトコルの該当部分を修正して提出する 4. ピアおよび渡辺はその次の講義までにそれを添削するので、添削コメントに応じてプロトコルの該当部分を完成する 自習にかなりの時間がかかると思われるので、授業は原則隔週で行う(開講日注意)。											
[到達目標]											
○各参加者が興味を持つ臨床疑問を洗練した上で、それについてコクランレビューレベルの英文プロトコルを完成させる ○コクランの該当グループにプロトコルを登録したうえでコクランライブラリーに収載されることを目指す、または登録をせずに雑誌投稿を目指す希望者には、最終的に系統的レビューを完成させるまで本講義終了後も指導します											
[授業計画と内容]											
第1回 6月11日 イントロダクション 第2回 6月25日 Formulating the clinical question, Objectives and Criteria for considering studies 第3回 7月23日 Search methods 第4回 9月10日 Selection of studies & extracting data (夏休みにタイトル登録開始を目標とする) 第5回 10月22日 Assessment of risk of bias 第6回 11月5日 Analysis (1) 第7回 11月26日 Analysis (2) 第8回 12月10日 まとめ 第9回 1月14日 発表(1) 第10回 1月28日 発表(2)											
-----系統的レビュー(MCR限定) (2)へ続く↓ ↓ ↓											

系統的レビュー (MCR限定) (2)	
予備日	2月 4日 予備日
[履修要件]	
本科目は6月からのため、4～6月の医療統計学や疫学の履修を推奨。 MCR限定推奨	
[成績評価の方法・観点及び達成度]	
完成論文のIntroduction & Methodsに相当する系統的レビューのプロトコルを提出していただきます。その評価が全てです。	
[教科書]	
Higgins JPT, Green S 『Cochrane Handbook for Systematic Reviews of Interventions』 (Available from www.cochrane-handbook.or) (必須。このHandbookに則って指導する。オンライン版よりも古いVersion 5.0がWileyから出版されていて、Amazonで購入可能です。好みによるが印刷版があったほうが便利です) 必須ソフトウェア： Review Manager (RevMan) [Computer program] (必須。このソフトウェアを使ってプロトコルを書き、最終的にメタアナリシスする。フリーウェア)	
[参考書等]	
(参考書)	
[授業外学習 (予習・復習) 等]	
コクランへの登録が年々難しくなっています。トライする価値は十二分にあると思いますが、雑誌への投稿もオプションとして考えましょう。下手にコクランのニッチを狙うよりも、本当に自分が興味を持って、臨床を変えうるテーマが良いでしょう。	
(その他 (オフィスアワー等))	
人間健康科学系専攻学生の受講可否：不可 ※オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

授業科目名 <英訳> Special Seminar of Data Analysis		担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 准教授 山本 洋介							
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2018・ 前期後半	曜時限	月6	授業 形態	特論	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
・この講義では、統計解析ソフトウェアstataを用いて臨床研究のデータ解析を行う。 ・実習の教材として用いる臨床研究データは、臨床研究の実例のデータを可能な限り用いる。 ・学習の習熟度の確認のために、学習課題を課している。 ・開講期間中は講習会コードを提供し、無償でstataの試用が可能である (ただし開講期間終了後も継続して使用を希望する場合には各自購入する必要あり)											
[到達目標]											
・統計解析ソフトを用いて基礎的な臨床研究データの解析ができる。 ・解析ソフトの出力結果を正確に解釈することができる。											
[授業計画と内容]											
第1回 5月28日統計ソフトの基本的な使い方 第2回 6月4日連続変数の検定と推定 第3回 6月11日カテゴリ変数の検定と推定 第4回 6月18日相関と回帰 第5回 6月25日重回帰分析 第6回 7月2日ロジスティック回帰分析 第7回 7月9日生存時間解析 第8回 7月23日サンプルサイズの推定・その他の解析											
[履修要件]											
stataを用いて解析する予定のある人の履修をおすすめします。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
・講義への積極的な参加 (50%) ・課題に対するレポート (50%)											
[教科書]											
使用しない 基本的な学習資源はプリントにて配布。											
-----データ解析法特論 (MCR限定) (2)へ続く↓ ↓ ↓											

データ解析法特論 (MCR限定) (2)	
[参考書等]	
(参考書) 東 尚弘、中村文明、林野泰明、杉岡 隆、山本洋介 『臨床研究のためのstataマニュアル』 (健康医療評価研究機構 (iHope))	
[授業外学習 (予習・復習) 等]	
・予習：不要 ・復習：次回講義までに当該回の復習を行うこと。課題がある場合には次回講義までにレポートを提出すること。	
(その他 (オフィスアワー等))	
面談希望はまずメールでご連絡下さい。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

遺伝カウンセラーコース

授業科目名 基礎人類遺伝学演習 (GC限定) ＜英語＞ Fundamental Human Genetics, exercise		担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 教授 小杉 眞司							
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度 開講期	2018・ 後期不定	曜時限	木 6	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
【基本情報】 授業日時：後期木曜6限 (例外予定にご注意ください) 教室：G棟3階演習室 レベル：応用 担当者：小杉眞司・和田敏仁・山田崇弘・澤井英明 (兵庫医科大学)・川崎秀徳											
【コースの概要】 遺伝カウンセラーとしての基礎知識となる遺伝子・染色体の分析について、演習を通じて体験することにより、具体的に理解することを目的とする。家系図作成、遺伝形式の推定、遺伝的リスクの推定などについて、演習を行うほか、臨床の現場で行われる画像診断、医学的フォローの実践についても学ぶ。											
【到達目標】											
・家系図作成、遺伝形式推定、再発確率計算を正確に行うことができる ・遺伝学的検査の方法について具体的に理解し、正確に説明することができる											
【授業計画と内容】											
【第1回】7/4水6限<澤井>「骨系統疾患とレントゲン・エコー検査」胎児の先天異常で頻度の高い骨系統疾患について概説し、その診断のために必要なレントゲン読影の知識を習得する 【第2回】10/4<小杉1>「研究紹介」 【第3回】10/25<山田1>「胎児超音波検査」妊娠初期～中期にかけての超音波検査、特に染色体異常と関係するソフトマーカーについて理解する。妊娠後期に施行される超音波検査とその意義について理解する 【第4回】11/1<和田1>「家系図作成演習」標準的家系図記載法を学び、遺伝形式および遺伝的リスクの推定する演習 【第5回】11/8<山田2>「放射線・環境因子・感染症の胎児への影響」先天異常の原因において5%程度を占める環境因子について理解する 【第6回】11/15<和田2>「分子遺伝学的解析を学ぶ」英語文献の症例報告から、分子遺伝学的解析の方法とその解釈を学ぶ 【第7回】11/22<和田3>「染色体検査結果の解釈(1)」染色体検査の適応、検査法ならびに核型解析、染色体検査結果の解釈を学ぶ 【第8回】11/29<小杉2>「遺伝学的検査演習」遺伝子変異の記載方法、DBのサーチ 遺伝学的検査結果報告書の解釈等 【第9回】12/6<山田3>「流産絨毛検査」妊娠初期の流産では半数以上で染色体異常が生じている流産患者における検査の意義について理解する 【第10回】12/13<和田4>「染色体検査結果の解釈(2)」染色体検査以外の細胞遺伝学的検査法(特にCGHアレイ)を学ぶ 【第11回】12/20<山田4>「羊水染色体検査」羊水染色体検査の実施方法を理解しその検査に当たっての適切な説明について検討する 【第12回】1/10<山田5>「バリエントの評価」検出されたバリエントの評価を行い、その解釈を学ぶ 【第13回】1/17<小杉3>「個人面談」											
基礎人類遺伝学演習 (GC限定) (2)へ続く↓↓↓											

基礎人類遺伝学演習 (GC限定) (2)	
【第14回】1/24<和田5>「バリエントの評価」遺伝性疾患が疑われる症例の診断方法とその結果を検討する 【第15回】1/31<川崎>「診療録からの情報収集・医療情報の収集」診療録からの情報収集のコツを学ぶ。一般的な医療情報の収集に関して整理する	
【履修要件】	
遺伝カウンセラーコース1回生限定必修科目 (事前確定科目)	
【成績評価の方法・観点及び達成度】	
積極的な演習への参加、レポート、発表、出席等を総合的に評価する	
【教科書】	
ハンドアウトを配布	
【参考書等】 (参考書)	
【授業外学習 (予習・復習) 等】	
適宜指示する	
【その他 (オフィスアワー等)】	
講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

授業科目名 臨床遺伝学演習 (GC限定) ＜英語＞ Clinical Genetics, Exercise		担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 教授 小杉 眞司							
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度 開講期	2018・ 後期不定	曜時限	木 6	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
【基本情報】別称：「遺伝カウンセリングロールプレイ演習」 授業日時：後期水曜5/6限 (隔週を原則とする。例外予定にご注意ください) 教室：G棟3階演習室、レベル：応用 担当者：小杉眞司・和田敏仁・山田崇弘・澤井英明 (兵庫医科大学)・川崎秀徳・村上裕美、鳥嶋雅子 (遺伝子診療部認定遺伝カウンセラー)・SC：模擬患者ボランティア (SPH院生など) 【コースの概要】・演習開始1月前には、オリエンテーションを行い、クライアントの人数・性別を決めるが、その後の変更はしない。 ・最初に1クールはクライアントは可能であれば1人とする (設定が複雑にならないようにするため) (ただし、ダウン症などは夫婦が原則であり1人クライアント設定は不適切) ・クライアント役をSPH院生に呼びかけて1クルートする (性別は役と一致させる) ・遺伝カウンセラー役が類似疾患にかぶらないようにする (家族性腫瘍、神経筋疾患、周産期関連) ・メンター役のクライアント調整役のほう (遺伝カウンセラー担当メンターよりも) が寄与度が高いので、優先して決める (一人に偏らないように) ・基本シナリオは担当教員が最低2週間前に関係者全員に通知する (ロールプレイのねらいを必ず明示すること)。2場面を設定する。 ・1週間前までにクライアント調整役の院生は、GCメンター及び担当教員と相談の上で基本シナリオから詳細設定をし、クライアント役とメール等で打合せしておく。 ・検診過程で基本シナリオに変更がある場合は、関係者全員に事前に必ず知らせる。 ・詳細シナリオは家系図を入れて4ページ以内とする。 ・遺伝カウンセラー担当者・担当メンター・担当教員での事前打合せも実施する ・当日、16:30-17:00にクライアント役、担当教員、クライアント調整役院生が面談で内容確認を行う。 ・当日、16:30-17:00に遺伝カウンセラー役の院生が教員や上級生、GCメンターと疾患説明の確認、遺伝カウンセリング場所の整備などを行う。 ・17:00-従前行っていた皆の前での疾患説明は行わないが、遺伝カウンセリングで使用する資料は配布資料とすること。クライアント調整役が基本シナリオ設定等の説明を手短に行う。 ・17:00-19:15の予定でロールプレイを2場面行う。(例：場面1(55分)+フィードバック(15分)+休憩(15分)+場面2(30分)+フィードバック(15分)=130分) ・フィードバックは、遺伝カウンセラー役、クライアント役、M1オブザーバ、その他のオブザーバ、教員の順に行う。できるだけ全員に意見を求める(場面1と2いずれかで全員に発言してもらう)。重複コメントはあえて避ける必要はない。その際の進め方は、統一せず、指導教員の方針に従う。フィードバック方法の多様性は重要である) ・19:15-19:30でクライアント役、GCメンター、での情報交換 ・19:30-19:45授業終了後、メンターと院生M1全員、担当教員でのフィードバック											
【到達目標】											
遺伝カウンセラーとしての実践的な技術を身に付け、現場での実践的な対応能力を獲得する。臨床遺伝学の知識と遺伝カウンセリングの基本的技術を習得する。											
【授業計画と内容】											
【第0回】8月29日17:30-19:00<全員>「ロールプレイの行い方とオリエンテーション、遺伝カウンセリング実習」ロールプレイの目的、方法と意義について。遺伝カウンセリング実習についてのオリエンテーション											
臨床遺伝学演習 (GC限定) (2)へ続く↓↓↓											

臨床遺伝学演習 (GC限定) (2)	
オリエンテーション 【第1/2回】10月3日<小杉>「Lynch症候群」家系内に40-50歳代で大腸癌で死亡した複数の人があり、遺伝性の可能性を心配。遺伝学的検査の説明と実施、遺伝子変異があった場合の対応 【第3/4回】10月24日<和田>「遺伝性筋疾患」遺伝性筋疾患の患者を持つ家族に対して、医療情報・遺伝学的情報の適切な提供、心理的支援などを学ぶ 【第5/6回】11月7日<山田>「ダウン症候群」ダウン症候群の出生前診断にかかる遺伝カウンセリングについて、その症状と将来の療育、発症の仕組みと次回妊娠での再発率等も含め対応 【第7/8回】11月21日<澤井>「習慣流産」妊娠初期に3回続けて流産。流産の原因や次回妊娠での対応、遺伝学的検査その他の検査、着床前診断について 【第9/10回】12月5日<和田>「遺伝性神経疾患」遺伝性神経疾患の患者を持つ家族に対して、医療情報・遺伝学的情報の適切な提供、心理的支援などを学ぶ 【第11/12回】12月19日<山田>「ターナー症候群」思春期を過ぎて無月経で来院、染色体検査でターナー症候群と診断されたケースに診断の告知、疾患の説明、今後必要な治療について対応 【第13/14回】1月9日<和田>「遺伝性循環器疾患」遺伝性循環器疾患の患者を持つ家族に対して、医療情報・遺伝学的情報の適切な提供、心理的支援などを学ぶ。 ・参加者：担当者、関係全教員、遺伝カウンセラー役院生 (M1)、クライアント調整役 (M1)、オブザーバ (M1、M2、博士院生)、GCメンター ・記録：クライアント調整役 (終了後参加教員レポートを提出)、オブザーバ担当 (ビデオ撮影およびファイルをサーバに保存：復習用)	
【履修要件】	
遺伝カウンセラーコース1回生限定必修科目 (事前確定科目)	
【成績評価の方法・観点及び達成度】	
演習における積極性、実践的能力、出席、レポート等を総合的に評価する	
【教科書】	
使用しない	
【参考書等】 (参考書)	
【授業外学習 (予習・復習) 等】	
適宜指示する	
【その他 (オフィスアワー等)】	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	
臨床遺伝学演習 (GC限定) (3)へ続く↓↓↓	

臨床遺伝学演習 (GC限定) (3)	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

授業科目名 <英訳>	遺伝カウンセラーコミュニケーション概論	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 小杉 眞司 非常勤講師 浦尾 充子								
配当 学年	専門職	単位数	3	開講年度 開講期	2018・ 通年不定	曜時限	4・1・1	授業 形態	講義・演習	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
【基本情報】授業日時：前期木曜1限を毎週実施、後期木曜1限を隔週実施を原則とする（例外予定にご注意ください） 教室：G棟3階演習室 レベル：基礎 担当者：小杉眞司・村上裕美・鳥嶋雅子・本田明夏・稲葉慧・松川愛未・浦尾充子 【コースの概要】遺伝カウンセラーとして、クライアント・家族の支援のためのコミュニケーションは勿論のこと、チーム医療のメンバーとして、異なった専門性を持つチームメンバーとのコミュニケーションのあり方についても学ぶ。授業の方法としては、講義により最低限必要と思われる概念と理論を学んだ上で、この領域は実践により得るところが特に大きいので、演習を実施する。演習については、授業の進行状況に応じて、ロールプレイ 試行カウンセリング ディスカッション 心理テスト実習 ビデオ学習など様々な方法を用いる予定である。（時間外の勉強会やホームワークも併せて行う） 【教育・学習方法】必須テキストを予習し、レポート発表・提出 ・講義および演習・時間外に以下の学習も併せて行う。 ビデオ学習「グロリアと3人のセラピスト」/医学部「遺伝医学」授業/試行カウンセリング実施および記録方法学習/遺伝カウンセリングと日本人のコミュニケーション発表会/心の病気の理解・心理療法基礎知識および心理テスト実習 /遺伝カウンセリングロールプレイ振り返り/病院実習振り返り											
【到達目標】											
1. 遺伝カウンセラーとして、クライアント・家族をどのように支援していくのか最低限必要と考えられる知識及び態度を身につける。 2. 医療チームのメンバーとしてどのような動きをすることが望ましいか最低限必要な知識及び態度を身につける。											
【授業計画と内容】											
<前期> 【第1回】4/11水5限<浦尾(村上,鳥嶋,本田,松川,稲葉)>「イントロ」遺伝カウンセラーのコミュニケーション：はじめに(自己紹介・授業・宿題について) p16-25 【第2回】4/12<村上(浦尾,鳥嶋,本田)>「基本的な考え方」p26-35 【第3回】4/19<村上(鳥嶋,稲葉)>「内側(内的照合)からの理解」遺伝カウンセリングの基本的態度と内側(内的照合)からの理解 【第4回】4/26<鳥嶋(村上,松川)>「共感的理解」共感的理解を理解する 【第5回】5/10<村上(鳥嶋,稲葉)>「ラポール形成」遺伝カウンセリングの流れ及び信頼関係(ラポール)の形成 【第6回】5/17<鳥嶋(村上,松川)>「ノンバーバルコミュニケーションの重要性」 【第7回】5/31<村上(鳥嶋,本田)>「電話受付の留意点」 【第8回】6/7<村上(鳥嶋,松川)>「臨床遺伝専門医とともに実施する遺伝カウンセリング」 【第9回】6/14<鳥嶋(村上,稲葉)>「遺伝カウンセリングにおける情報提供」 【第10回】6/21<鳥嶋(村上,松川)>「遺伝カウンセリングにおける意思決定」 【第11回】6/28<村上(鳥嶋,本田)>「喪失体験の理解」 【第12回】7/5<村上(鳥嶋,稲葉)>「ライフステージとメンタルヘルス」 【第13回】7/12<鳥嶋(村上,本田)>「家族面接における遺伝カウンセラーの役割」 【第14回】7/19<村上(鳥嶋,稲葉)>「遺伝カウンセリングの終了とフォローアップ」											

遺伝カウンセラーコミュニケーション概論(2)	
【第15回】7/26<隈村(鳥嶋,村上,本田)>「医療ソーシャルワーカーの事例から学ぶ」クライアント支援のためのコミュニケーションへ <後期> 【第16回】10/4<村上(鳥嶋,本田)>「遺伝カウンセリングにおける倫理」 【第17回】10/18<鳥嶋(村上,松川)>「日本人のコミュニケーションと遺伝カウンセリング」 【第18回】11/1<吉田,村上(鳥嶋,稲葉)>「視覚障害(網膜色素変性症)の遺伝カウンセリング/当事者団体と関係機関との連携」 【第19回】11/15<鳥嶋(村上,本田)>「障害と社会の理解」 【第20回】11/29<秋山(鳥嶋,村上,稲葉)>「親から子に「遺伝」について伝える」 【第21回】12/13<鳥嶋(村上,松川)>「遺伝カウンセリングと防御機制」 【第22回】1/10<勝元(鳥嶋,村上,本田)>「出生前検査に伴う遺伝カウンセリング、遺伝カウンセリング室を作ろう！」 【第23回】1/24<村上・鳥嶋(松川)>「遺伝性の病とともに生きる。評価とまとめ」	
【履修要件】	
遺伝カウンセラーコース1回生限定必修科目(事前確定科目)	
【成績評価の方法・観点及び達成度】	
前期・後期あわせて終了時に評価する。学習目標の到達度50%,レポート40%,プレゼンテーション10%	
【教科書】	
*必須テキスト(必ず第1回目の授業までに必ず準備してください)： ・自分を見つめるカウンセリング・マインド・ヘルスケア・ワークの基本と展開(医歯薬出版) ISBN: 978-4-263-23423-5 ・カウンセリングを学ぶ(東京大学出版会) 理論・体験・実習 第2版ISBN: 978-4-13-012045-6 ・ヘルス・コミュニケーション(九州大学出版社)改訂版 ISBN: 978-4798500164 ・遺伝カウンセリングのためのコミュニケーション論(メディカル・ドゥ) ISBN:978-4-94-415766-2	
【参考書等】	
(参考書)	
【授業外学習(予習・復習)等】	
【その他(オフィスアワー等)】	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

授業科目名 <英訳>	遺伝カウンセリング演習1 (GC限定) Genetic Counselling, Exercise 1	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 小杉 眞司								
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度 開講期	2018・ 通年不定	曜時限	4・1・1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
【基本情報】授業日時：金曜(原則第2、第4)5・6限、教室：G棟セミナー室A レベル：遺伝カウンセリング演習1(基礎)、遺伝カウンセリング演習2(応用) 担当者：小杉眞司・和田敬仁・山田崇弘・川崎秀徳・玉置知子・村上裕美・鳥嶋雅子・田村和朗・巽純子・西郷和真・レクチャー担当者 【コースの概要】実際の遺伝カウンセリング症例を提示し、遺伝的問題、医学的問題、療養問題、社会的問題、法的問題、倫理的問題、心理的問題等について、他のカンファレンス参加者とともに、徹底的な討論を行う。1年次後期からは、実際の遺伝カウンセリング実習で体験した症例について、自ら提示を行い、カンファレンスを中心的に運営する。これは、京都大学と近畿大学の遺伝カウンセラーコースのカリキュラムの中で最も重要なものであり、両大学の院生が積極的に参加するものである。実習期の院生(2回生4月-10月ごろ、1回生11月ごろ-1年度末、移行期は各コースの実情による)は、原則として毎回症例提示を行うこと。16:30-18:30ごろ：合同カンファレンス症例提示・検討会(4回4例-6例となるように調整し、進行は司会がタイムキーピングを行う)。18:30ごろより50分程度：京大・近大遺伝カウンセラーコースの修了者による遺伝カウンセラーとしての活動などに関するプレゼン、あるいは合同カンファレンス出席者・招聘演者等によるレクチャー【教育・学習方法】症例提示・討論、カンファレンス記録の作成(症例ごとに順番で担当)											
【到達目標】											
症例の適切なプレゼンテーション、種々の問題点の整理と今後の対応方針の決定、討論への参加と論理的な主張、適切なカンファレンス記録の作成ができる											
【授業計画と内容】											
<司会>カンファレンスレクチャー担当者 【第1回】4/13<小杉>和田敬仁「イントロダクション」 【第2回】4/27<村上>海外視察報告(1)秋山・高嶺・松川・稲葉 【第3回】5/11<巽>尾崎依里奈「愛媛大学医学部附属病院における遺伝カウンセラーの役割」 【第4回】5/25<鳥嶋>海外視察報告(2)村上・鳥嶋・中川・松川・稲葉 【第5回】6/22<山田>川崎秀徳「新生児医療と遺伝」 【第6回】7/6<西郷>石川真澄「信州大学医学部附属病院における認定遺伝カウンセラーの役割」 【第7回】7/27<山田>矢部一郎「神経・筋疾患と遺伝カウンセリング」 【第8回】10/5<鳥嶋>高折恭一「膀胱早期診断への挑戦：家族性膀胱がん登録制度」 【第9回】10/26<川崎>村上裕美 【第10回】11/9<和田>四本由都「先天異常、遺伝性疾患に対する一般病院における新生児・小児診療の現状～高槻病院での取り組みより」 【第11回】11/30<田村>川下理人「バイオインフォマティクスの基礎とその利用例」 【第12回】12/21<川崎>佐藤智佳「遺伝医学教育に関わる認定遺伝カウンセラーの役割」 【第13回】1/11<小杉>「新年懇談会」 【第14回】1/25<田村>吉田ひとみ「認定遺伝カウンセラーの今後のあり方についての私見」 【第15回】2/8<村上>大江瑞穂「エマメエル症候群の自然歴と家族との関わり」 <合同カンファレンスの具体的な進行方針>1) 目的：実習報告会ではない。同席者の感想等は除外。症例検討を主題とし、適切な遺伝カウンセリングがなされたか、誤った点や不足する点はなかったか等、専門家の意見、討議を聞きそれに参加する。多くの人の意見を聞けるよう、今後の遺伝カウンセリングに実質的に生かせるように討議の時間を確保する。											

遺伝カウンセリング演習1 (GC限定) (2)		担当者所属・職名・氏名		医学研究科 教授 小杉 眞司	
授業科目名 <英訳>	遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) Genetic Counselling, Exercise 2	担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 小杉 眞司	配当学年	専門職
単位数	2	開講年度	2018・ 通年不定	曜時限	・曜・節・曜
授業形態	演習	使用言語	日本語	[授業の概要・目的]	
「遺伝カウンセリング演習1」と同じ					
[到達目標]					
「遺伝カウンセリング演習1」と同じ					
[授業計画と内容]					
「遺伝カウンセリング演習1」と同じ					
[履修要件]					
遺伝カウンセラーコース限定必修科目(事前確定科目) 1回生は「遺伝カウンセリング演習1」、2回生は「遺伝カウンセリング演習2」					
[成績評価の方法・観点及び達成度]					
プレゼンテーション、討論への積極的な参加、カンファレンス記録の作成などを総合的に評価する。					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書)					
[授業外学習(予習・復習)等]					
適宜指示する					
[その他(オフィスアワー等)]					
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

遺伝カウンセリング演習2 (GC限定)		担当者所属・職名・氏名		医学研究科 教授 小杉 眞司	
授業科目名 <英訳>	遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) Genetic Counselling, Exercise 2	担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 小杉 眞司	配当学年	専門職
単位数	2	開講年度	2018・ 通年不定	曜時限	・曜・節・曜
授業形態	演習	使用言語	日本語	[授業の概要・目的]	
「遺伝カウンセリング演習1」と同じ					
[到達目標]					
「遺伝カウンセリング演習1」と同じ					
[授業計画と内容]					
「遺伝カウンセリング演習1」と同じ					
[履修要件]					
遺伝カウンセラーコース限定必修科目(事前確定科目) 1回生は「遺伝カウンセリング演習1」、2回生は「遺伝カウンセリング演習2」					
[成績評価の方法・観点及び達成度]					
「遺伝カウンセリング演習1」と同じ					
[教科書]					
ハンドアウトの配布は、原則としてありません					
[参考書等]					
(参考書)					
[授業外学習(予習・復習)等]					
「遺伝カウンセリング演習1」と同じ					
[その他(オフィスアワー等)]					
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

遺伝カウンセリング実習1 (GC限定)		担当者所属・職名・氏名		医学研究科 教授 小杉 眞司	
授業科目名 <英訳>	遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) Genetic Counselling, Practice 1	担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 小杉 眞司	配当学年	専門職
単位数	2	開講年度	2018・ 通年不定	曜時限	その他
授業形態	実習	使用言語	日本語	[授業の概要・目的]	
【I. コースの概要】					
遺伝カウンセリングの現場に同席し、その現状を体験するとともに、予診の聴取(プレカウンセリング)、家系図の作成、電話フォローアップなどを実際のクライアントに対しておこなう。担当者：小杉眞司・和田敬仁・山田崇弘・川崎秀徳・玉置知子・三宅秀彦・山田重人・澤井英明・四本由都・村上裕美・鳥嶋雅子					
【II. 教育・学習方法】					
実習(準備・プレカウンセリング・同席実習・症例記録作成・カンファレンスでの症例報告・討議・電話フォローアップ)。関連学会・セミナーに出席、積極的に参加し、レポートをまとめる。1月-3月は、「遺伝カウンセラー業務実習」として遺伝カウンセリング電話予約対応などの認定遺伝カウンセラー業務の実践についても実習する。					
[到達目標]					
クライアントへの適切な接し方を体得する。予診の聴取、家系図の作成が適切に可能となる。症例の問題点について、担当医らと討議できる。症例をまとめ、医学的・心理社会的・倫理的問題について文献を検索し、最新情報を入手できる。カンファレンスで、症例を提示し、討論を行うことができる。関連する部局と適切な情報交換、連携が可能であり、チーム医療を実践できる。					
[授業計画と内容]					
【遺伝カウンセリング実習】					
1年次の後半から遺伝カウンセリング実習を開始する。学生個人個人の知識・到達度や実習のavailabilityから判断して、実習の開始時期や頻度を決定する。2年間で60症例程度を経験する。ごく初期は同席のみであるが、できるだけ実際の遺伝カウンセリングに少しでも参加することが望まれる。そこで、予診や家系図作成などの初期インテーク(プレカウンセリング)を行う。個々のケースについて症例記録・ログブックを作成し、担当教員に確認の上、できるだけ早く(遅くとも1週間以内)に確定し、所定の場所に保存する。類型化シートも作成する。また、経験した症例をカンファレンスで発表し、討論する。1ケースあたり、(準備や検索を含めると)6時間程度が必要となる。家族性腫瘍、神経変性疾患、出生前診断・染色体異常、遺伝性難聴、眼科疾患、先天奇形、先天性代謝異常、その他、できるだけパラエティに富んだ疾患の症例の経験をするようにつとめる。・京都大学医学部附属病院遺伝子診療部(耳鼻科遺伝難聴外来含む)：月一金(コース全員で交代)・兵庫医科大学臨床遺伝部：火曜(1名)・高槻病院小児科・産婦人科(不定期)					
遺伝カウンセリング後の電話フォローアップについては原則として遺伝カウンセラーコース院生が対応し、実質的なOJT(on the job training)、インターンシップを行う。					
＜症例記録の書き方の注意：抜粋＞					
1. ファイル名：カルテ番号+短い疾患名+受診日とする。(例)999FAP120915					
再診のときは、前回のものに追記したものに再診日と回数を記載。(例)999FAP1261013-2					
2. 本文のタイトルの前にカルテ番号を入れる。					
3. クライアント氏名は記載しないが、診療施設の名前などは全て実名記載する。					
4. 時間(終了時間、所要時間)も入れる。					
5. 家系図はワーポイントで、別ファイルに。ファイル名は、上記のワードファイルと同じ。					
【学会・研修会への参加】					
より幅広い知識・経験を積むため、下記の学会・研修会等への参加は原則として2年間必修とする					
遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) (2)へ続く ↓ ↓ ↓					

遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) (2)		担当者所属・職名・氏名		医学研究科 教授 小杉 眞司	
授業科目名 <英訳>	遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) Genetic Counselling, Practice 1	担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 小杉 眞司	配当学年	専門職
単位数	2	開講年度	2018・ 通年不定	曜時限	その他
授業形態	実習	使用言語	日本語	[授業の概要・目的]	
【経費はできるだけサポートする。学会発表、セミナーでの積極的な活動が奨励される。下記以外の学会・セミナーについても遺伝カウンセリングに関係の深いものについては参加を推奨する。また、これらの機会を利用し積極的な人脈作りを行うべきである。また、患者会・サポートグループなどへ積極的に参加することが勧められる。適宜情報を提供する。					
[履修要件]					
遺伝カウンセラーコース限定必修(事前確定科目) 1回生は「遺伝カウンセリング実習1」、2回生は「遺伝カウンセリング実習2」					
[成績評価の方法・観点及び達成度]					
実習への積極的な参加などを総合的に評価する。					
[教科書]					
実際のクライアントに接した経験ほど重要な資源はない。					
[参考書等]					
(参考書)					
[授業外学習(予習・復習)等]					
【平成30年度の必須参加予定】(変更ある場合はその都度連絡します)					
6/8(金)・9(土)日本家族性腫瘍学会* 神戸(神戸ファッションマート)					
6/29(金)・7/1(日) 日本遺伝カウンセリング学会* 仙台(紅葉ランドホテル)					
7/13(金)・14(土)日本遺伝子診療学会(2回生のみ)*シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢					
8/24(金)・22(日)遺伝カウンセリング研修会(2回生のみ)盛岡(いわて県民情報交流センター)					
8/24(金)・26(日)?家族性腫瘍セミナー?					
9/7(金)・9(日) 遺伝医学セミナー ホテル阪急エキスポパーク					
10/1(木)・14(日) 日本人類遺伝学会・全国遺伝子医療部門連絡会議*パシフィコ横浜					
2/2(土)・3(日)遺伝カウンセリングアドバンスセミナー(1回生のみ)東京					
2/10(日)・11(月・祝) 遺伝医学セミナー入門コース(1回生のみ)慈恵医大					
(30年度入学者が2回生になった際の参加学会・研修会は上記と同一ではありません。)					
経費補助を受けて学会・セミナー等へ参加した場合は、レポートを提出すること。レポートはA4用紙で参加日数枚数を目安とし、速やかに提出すること(最大1ヶ月以内)。また、これらのレポートについては、報告書として冊子化されることがあることを了解すること。2回生は*のいずれかの学会で一度は研究発表をおこなうことが望ましい。					
[その他(オフィスアワー等)]					
クライアントのいかなる情報についても守秘を徹底すること。遺伝カウンセリング内容についての会話は、部外者のいるところではしないこと、内容を記したノート類は、部外者の目にふれないようにすること。ノートの貸し借りは禁止。守秘できない場合は、退学処分とする。					
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

授業科目名 <英訳>	遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) Genetic Counselling, Practice 2				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 小杉 眞司					
配当 学年	専門職	単位数	4	開講年度・ 開講期	2018・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
遺伝カウンセリング実習1と同じ											
[到達目標]											
遺伝カウンセリング実習1と同じ											
[授業計画と内容]											
遺伝カウンセリング実習1と同じ											
[履修要件]											
遺伝カウンセラーコース限定必修(事前確定科目)1回生は「遺伝カウンセリング実習1」、2回生は「遺伝カウンセリング実習2」											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
遺伝カウンセリング実習1と同じ											
[教科書]											
実際のクライアントに接した経験ほど重要な資源はない。											
[参考書等]											
(参考書)											
[授業外学習(予習・復習)等]											
遺伝カウンセリング実習1と同じ											
(その他(オフィスアワー等))											
遺伝カウンセリング実習1と同じ											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

臨床統計家育成(CB)コース

授業科目名 <英訳>	臨床研究実地研修 1 Clinical Research Training I			担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 特定教授 田中 司朗 医学研究科 教授 森田 智視 国立循環器病研究センター 部長 濱崎 俊光						
	配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]												
本研修の目的は、病院での実地研修を通して、臨床統計家育成コースの座学で習得した統計的考え方が現場でどのように応用されているかを実際に学ぶことです。そして、実際の体験・経験から、臨床試験における試験統計家の責務と役割を理解し、臨床試験の計画・実施・報告で試験統計家として必要とされる基本的能力(態度、技能、知識)を習得することを旨とします。												
研修は、京都大学医学部附属病院と国立循環器病研究センターの2箇所で行われます。受講者はあらかじめどちらの施設で研修されるかを選択ください。京都大学医学部附属病院での研修は、革新的な新医療技術(医薬品など)開発のための臨床試験の計画と実施に関する内容で主に構成されます。国立循環器病研究センターでの研修は、循環器疾患の医薬品や医療機器の臨床試験の計画と実施を中心とした内容で構成されます。研修内容の詳細はホームページに掲載しています。												
[到達目標]												
* 臨床試験の計画と実施の過程、臨床試験の運営・実施体制、研究者・研究支援者、試験統計家などの責任範囲と役割などを理解する。 * 臨床試験実施計画書に記載すべき統計的事項を理解し、臨床試験実施計画書の作成に貢献できるための基本的知識と技術を習得する。 * 統計解析を適切に計画し、それらを実行し、結果を纏めることができるための基本的知識と技術を習得する。 * 臨床試験における研究倫理、利益相反、臨床試験における個人情報保護の基本的事項を理解し、信頼性の高い臨床試験の計画と実施に貢献できる。 * さまざまな説明の方法や手段を駆使し、臨床試験における統計的考え方を人にわかりやすく伝えることができるような態度と方法を身につける。												
[授業計画と内容]												
京都大学医学部附属病院 7月から9月までの5日(1限~6限、8.45~19.45)で集中講義実習で実施します												
1日目 1限研修事前準備 2限生物統計家としての心構え(1) 2限医学研究における倫理 4限シーズ開発について 5限統計コンサルティング業務の現場 6限報告書作成												
2日目 1限研修事前準備 2限生物統計家としての心構え(2) 3限モニタリング業務について 4限臨床検査の現場												
臨床研究実地研修 1(2)へ続く ↓ ↓ ↓												

臨床研究実地研修 1(2)												
5限統計コンサルティング業務の現場 6限報告書作成												
3日目 1限研修事前準備 2限生物統計家としての心構え(3) 3限プロジェクトマネジメント業務について 4限看護研究について 5限統計コンサルティング業務の現場 6限報告書作成												
4日目 1限研修事前準備 2限データマネジメント業務について 3限CRCの役割について 4限治験業務の管理体制の現場 5限統計コンサルティング業務の現場 6限報告書作成												
5日目 1限研修事前準備 2限当局対応業務について 3限放射線診断の現場 4限先端医療技術の現場 5限統計コンサルティング業務の現場 6限報告書作成												
国立循環器病研究センター 7月から9月で2日連続での集中講義で実施します(90分)												
1日目 第1回 研修概要説明 第2回 病院見学 第3回 循環器疾患基礎① 第4回 循環器疾患基礎②												
2日目 第5回 臨床試験立案① 第6回 臨床試験立案② 第7回 ランダム化割付① 第8回 ランダム化割付②												
3日目 第9回 標準サイズ設計① 第10回 標準サイズ設計② 第11回 グループワーク① 第12回 グループワーク②												
臨床研究実地研修 1(3)へ続く ↓ ↓ ↓												

臨床研究実地研修 1(3)												
4日目 第13回 統計解析計画書① 第14回 統計解析計画書② 第15回 グループワーク③ 第16回 グループワーク④												
5日目 第17回 臨床試験倫理 第18回 倫理委・同意取得 第19回 グループワーク⑤ 第20回 グループワーク⑥												
6日目 第21回 グループワーク⑦ 第22回 グループワーク⑧ 第23回 総合発表① 第24回 総合発表②												
[履修要件]												
特になし												
[成績評価の方法・観点及び達成度]												
実習にて作成する報告書または発表の内容に基づいて評価する。平常点(出席状況など)も考慮する。												
[教科書]												
使用しない												
[参考書等]												
(参考書)												
[授業外学習(予習・復習)等]												
実習中に指示する。												
[その他(オフィスアワー等)]												
人間健康科学系専攻学生の受講可否: 不可												
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												
臨床統計家の実務スキル (CB限定) 2(2)へ続く ↓ ↓ ↓												

授業科目名 <英訳>	臨床統計家の実務スキル (CB限定) Practical Skills for Clinical Biostatisticians			担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 教授 佐藤 俊哉 医学研究科 助教 米本 直裕 医学研究科 特定助教 大前 勝弘 附属病院 特任准教授 佐藤 恵子						
	配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2018・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]												
臨床統計家の実務スキルでは、臨床統計家の実務において最低限必要となる統計プログラミング、レポートの知識を学び、プログラミング、簡単な集計及び解析を実習します。統計ソフトウェアはSASとRを用います。 【集中講義(第3回、4回は日程が決まり次第アナウンスします)】												
[到達目標]												
統計ソフトウェアのプログラミングを学ぶことで ・解析に適したデータセットを作成できる ・単純集計、簡単な図表が作成できる ・簡単な統計計算を行うことができる												
[授業計画と内容]												
第1回 7月30日(月) 2限 統計プログラミングの概要 第2回 7月30日(月) 3限 SASによるプログラミング基礎1: データステップ 第3回 7月30日(月) 4限 SASによるプログラミング基礎2: 単純集計、平均値の差の比較 第4回 7月30日(月) 5限 SASによるプログラミング基礎実習												
第5回 7月31日(火) 2限 SASによるプログラミング中級1: 帰属分析 第6回 7月31日(火) 3限 SASによるプログラミング中級2: 割合の比較、ロジスティック帰属 第7回 7月31日(火) 4限 SASによるプログラミング中級実習1 第8回 7月31日(火) 5限 SASによるプログラミング中級実習2												
第9回 (日程未定) 2限 SASによるプログラミング中級3: 生存時間解析、サンプルサイズ設計 第10回 (日程未定) 3限 SASによるプログラミング中級実習3 第11回 (日程未定) 4限 Rによるプログラミング基礎 第12回 (日程未定) 5限 Rによるプログラミング実習												
第13回 (日程未定) 2限 メディカルライティング講義 第14回 (日程未定) 3限 メディカルライティング演習												
[履修要件]												
・臨床統計家育成コースの学生さんに限定します ・統計ソフトウェアSAS、Rをインストールしたノートパソコンを持参してください												
臨床統計家の実務スキル (CB限定) 2(2)へ続く ↓ ↓ ↓												

臨床統計家の実務スキル (CB限定) (2)
[成績評価の方法・観点及び達成度]
レポート
[教科書]
講義資料を配布します
[参考書等]
(参考書)
[授業外学習 (予習・復習) 等]
ソフトウェアに習熟するのは時間がかかるため、自習の時間をとることを薦めます。他の統計関連科目講義で解説された統計解析をソフトウェアで計算してみることを薦めます。
[その他 (オフィスアワー等)]
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

知的財産経営学プログラム

知的財産経営学用科目

授業科目名 <英訳>	アントレプレナーシップ Entrepreneurship		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特任教授 寺西 豊							
				医学研究科 非常勤講師 室田 浩司 特定准教授 小柳 智義 非常勤講師 吉川 友貞 非常勤講師 四本 賢一 特定助教 山口 太郎							
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度 開講期	2018・ 前期不定	曜時限	月6	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
<p>コースの概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 前半では、汎用性が高い経営管理手法の習得に力点を置く。講義とケーススタディ演習を組み合わせ、アントレプレナーに必要な思考様式と基本的な経営管理手法の習得に費やす。 後半では、講義とワークショップ（ビジネスプランもしくはビジネスコンセプトの作成が中心）を組み合わせた構成とする。講義では、バイオ・医療産業セクターの産業構造の特徴や最新トピックについても触れたい。 年度ごとに重点テーマを変えているが、本年度はデザイン思考とビジネスモデル及びベンチャーの事業開発の手法の2点である。前者については、デザイン思考に基づくビジネスモデル作成のスキルを習得する。後者については、ベンチャー固有の資金調達手法（含：VCからの調達、公的金融機関、リース、産業ファイナンス等）と事業計画作成スキルを、講義と演習を通じて身につけてもらいたい。 <p>教育・学習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 本講座は、講義、ケーススタディ演習、ワークショップから構成される。ケーススタディ演習とワークショップに関しては、小グループによるプレゼンテーションがある。 											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> コースで習得した思考様式・経営管理手法・業界関連知識を活用することにより、医療系起業家としてのスキルを習得する。 これにより、事業シナ探索から事業開発計画の立案まで出来る能力を獲得する。 この様な人材を当講座から輩出し、起業家と研究者との両面の資質を備えた人材を育成し、事業化成功の確率向上に寄与することが、本講座の最終目的である。 											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 4月9日ガイダンス/アントレプレナーシップ、デザイン思考（寺西/小柳）</p> <p>第2回 4月16日ビジネスモデルの種類と収益構造、顧客戦略（小柳）</p> <p>第3回 4月23日最適なビジネスモデルと戦略（エスノグラフィー）（小柳）</p> <p>第4回 5月7日ショートケース演習（損益計算書の使い方）（寺西）</p> <p>第5回 5月14日財務諸表の読み方（四本）</p> <p>第6回 5月21日会社設立に関する法務・会計・税務（四本）</p> <p>第7回 5月28日個人ビジネスアイデア発表</p> <p>第8回 6月4日資金調達（外部講師：長谷川）</p> <p>第9回 6月11日サイエンスカフェ方式のアイデアの展開（チームアップ）（小柳/寺西）</p> <p>第10回 6月25日中間発表（チーム別）</p> <p>第11回 7月2日バイオベンチャーの歩み（外部講師）</p> <p>第12回 7月9日バイオベンチャーの歩み（外部講師）またはケーススタディ（山口）</p>											
アントレプレナーシップ(2)へ続く↓ ↓ ↓											

アントレプレナーシップ(2)											
<p>第13回 7月23日中堅企業の新規事業立ち上げ（吉川）</p> <p>第14回 7月30日ビジネスモデルコンペ発表会（寺西/小柳/山口）</p> <p>第15回 7月30日産学連携活動の現状と大学発ベンチャー/京大のエコシステム（寺西/小柳/山口）</p>											
<p>* 14回、15回は日程の都合により、同日（7月30日）に行う予定です。</p> <p>* 外部講師の都合等で日程変更の可能性あり。</p>											
[履修要件]											
知財必修・MPH選択											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
<p>以下の3点を総合的に勘案して評価する。</p> <p>①平常点（出席を含む）、発言頻度（ケーススタディ演習によるプレゼンテーション、ディスカッションへの積極的参加等）</p> <p>②チームワーク</p> <p>③ビジネスモデル発表（orレポート提出）</p>											
[教科書]											
必須テキスト：なし。講師が作成したPPT資料で代用。その他、適時講義中に参考資料を提示											
推奨テキスト：											
「バイオデザイン」ステファノス・ゼニオス、ジョシュ・マコーワー、その他（業事日報社）											
「コーポレートファイナンス第6版上・下」リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ（日経BP社）											
「ビジネスモデル・ジェネレーション：ビジネスモデル設計書」アレックス・オスターワルダ（翔泳社）											
「リーン・スタートアップ」エリック・リース（日経BP社）											
[参考書等]											
(参考書)											
授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
ビジネスモデル作成にあたり、担当チームでの検討作業が必須となる。											
(その他（オフィスアワー等）)											
<p>・タイトな講義内容ですが、合理的なカリキュラムを練っております。単なる知識の習得と言うよりも、ビジネス社会で通じる実践的な思考を習得出来るよう工夫しています。</p> <p>・17年度受講者が講義内で作成したビジネスモデルを基本としたものが、日刊工業新聞主催のビジネスコンペで入賞。また、23年度受講者のビジネスモデルは、大阪商工会議所・大阪NPOセンター等が主催する「CBフォーラムおおさか2011」での事業紹介として取り上げられ、大阪NPOセンター</p>											
アントレプレナーシップ(3)へ続く↓ ↓ ↓											

アントレプレナーシップ(3)											
<p>一の事業化支援対象事業となりました。</p> <p>・このコースを受講した方は、M021夏期集中講義「アントレプレナーシップ特論」（ビジネスゲームによるキャッシュフロー管理、管理会計学の基礎入門コース）を受講できます。</p> <p>人間健康科学専攻学生の受講可否：可</p> <p>※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

授業科目名 <英訳>	メディカル分野技術経営学概論 Introduction to Technology Management in Medical Science		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山本 博一							
				医学研究科 特任教授 寺西 豊 医学研究科 特定講師 池田 隆文							
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度 開講期	2018・ 前期不定	曜時限	木6	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
<p>近年、様々な新しい技術の参入により、医療関連産業には、医薬品産業、医療機器産業といった従来のカテゴリーを超えた新しいビジネスモデルの登場など、大きな変化が生じている。本授業では、医薬品（新薬）及び医療機器の研究・開発、標準化、特許、ライセンス、産学連携、バイオベンチャーなどの基礎を学ぶとともに、これら新しい流れについてその概略を学ぶ。学内の講師とともに、医療産業や大学、行政で活躍されている方を複数外部講師として招へいし、現実の活動に触れることにより、医療産業の開発プロセスを支える最新技術、戦略、組織について講義を行う。</p> <p>医薬品及び医療機器、再生医療産業には、ライフサイエンスの最先端の研究成果のみならず、行政の観点、倫理的観点から見た課題解決や、ベンチャーや産学連携組織の構築など、様々な分野の研究の成果が集積している。医療産業に興味のある多様な専門性を持った受講生が、産業の全体像を理解し、自らの専門性が本産業において果たす役割と重要性を理解できることを目的とする。</p>											
[到達目標]											
<p>上記を通して、医療関連産業の最近の動向を学ぶとともに、同産業に必要とされる技術・ビジネス、また大学の研究成果の移転、大学発ベンチャー創出などの基礎知識を持ち、医療関連ビジネスにかかわる基礎的な能力を得る。研究者を目指すのであれば、自身の研究の産業化、技術移転に必要な要素を学び、企業との共同研究の企画などの参考となる事象を理解できる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 4月12日 本講座の概要</p> <p>第2回 4月19日 医薬品開発の基礎I</p> <p>第3回 4月26日 医薬品開発の基礎II</p> <p>第4回 5月10日 アカデミア医療機器開発における薬事と保険</p> <p>第5回 5月17日 医療分野の国際標準化</p> <p>第6回 5月24日 医療とAI</p> <p>第7回 5月31日 医療産業におけるバイオベンチャー</p> <p>第8回 6月7日 抗体医薬</p> <p>第9回 6月14日 創薬関連企業の戦略</p> <p>第10回 6月21日 医療機器開発動向</p> <p>第11回 6月28日 米国のベンチャーキャピタルの動向</p> <p>第12回 6月28日 再生医療ビジネス</p> <p>第13回 7月12日 医療産業とデジタル技術</p> <p>第14回 7月19日 医療産業の研究開発における課題と将来（1）</p> <p>第15回 7月26日 医療産業の研究開発における課題と将来（2）</p>											
<p>* 第11回、第12回は講師の都合により、同日に行います。</p> <p>* 外部講師の都合により日程変更等の可能性があります。</p>											
メディカル分野技術経営学概論 (2)へ続く↓ ↓ ↓											

メディカル分野技術経営学概論 (2)
履修要件
知財必修・MPH選択 医療関連産業に興味をお持ちの方はどなたでも受講可能です。
成績評価の方法・観点及び達成度
平常点(出席を含む)、発表とレポートにより総合的に評価する。
教科書
使用しない
参考書等
(参考書) 授業中に紹介する
授業外学習(予習・復習)等
なし
その他(オフィスアワー等)
前半(1回から5回)はLIMS(知財経営&国際標準化)、2回から3回は創薬医学との共通講義となります。
人間健康科学系専攻学生の受講可否:可
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名	特許法特論・演習(前期)	担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 藤井 淳
<英訳>	Special Lecture and Practicum for the Patent Law I		
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度	2018・前期不定	曜時限	水6
授業形態	特論	使用言語	日本語
授業の概要・目的			
I. コースの概要 企業のほか、大学を含む研究機関において効果的な知財戦略を構築する上で、研究者の知財に関する意識・知識の向上が必要不可欠となっている。つまり、効果的な知財戦略を進めるに際しては、実際上、知財担当者の力量だけでは限界があり、研究者(発明者)との協働が必要である。特に、ライフサイエンス分野(医薬、化学等を含む。)では、知財戦略上も実験データの存在意義が極めて大きく、その取り扱いによって知財戦略の明暗を分けることも多い。そこで、知財戦略を見据えた研究・開発が重要であり、そのための基礎としてライフサイエンス分野を中心とした特許実務の解説を行う。			
II. 学習到達目標(このコース終了時までに習得が期待できること) ・一般的な特許実務に加え、化学・バイオ系分野に特有の特許実務を理解し、研究機関・企業における事業活動を有効にプロデュースするために必要な特許の基礎知識を身に付ける。 ・弁理士、特許庁審査官・審判官等の知財専門家と円滑な意思疎通を図るための必要最低限の知識を習得する。			
III. 教育・学習方法 ・パワーポイント資料、WEB資料を中心とした講義 ・各自の事前学習を含む事例資料を使用した事例紹介			
到達目標			
一般的な特許実務に加え、化学・バイオ系分野に特有の特許実務を理解し、研究機関・企業における事業活動を有効にプロデュースするために必要な特許の基礎知識を身に付ける。さらに、弁理士、特許庁審査官・審判官等の知財専門家と円滑な意思疎通を図るための必要最低限の知識を習得する。			
授業計画と内容			
第1回 4月11日 特許法概要:特許制度の原理、特許戦略のあり方、発明のカテゴリ-特許権の効力、化学・バイオ特許で多用される特殊なクレーム表現形式(用途発明、プロダクトバイプロセス、ファンクションクレーム)の特許性及び権利範囲の考え方			
第2回 4月18日 特許法上の発明(1):化学・バイオにおける発明と発見との区別、作用機序の発見と特許性、日米欧における治療方法の取扱い、再生医療関連の発明の取扱い、臨床研究における成果物の取扱い			
第3回 4月25日 特許法上の発明(2):発明の有用性及びそれに関する日米欧三極比較研究(遺伝子、タンパク、SNPsなど)			
第4回 5月2日 記載要件(1):明細書の記載、実施可能要件、実施例の記載(特許における実験データの取扱い)、微生物の寄託制度			
第5回 5月9日 記載要件(2):特許請求の範囲の記載要件(明確性)、数値限定発明における測定方法、化学・バイオ関連技術におけるクレームドラフティングにおける留意点、不正データの特許法上の取扱い			
第6回 5月16日 発明の新規性:上位概念・下位概念の関係、製法と物の発明との関係、数値限定発明の取扱い、日米欧における新規性喪失の例外の取扱い、新規性喪失の例外とPCT出願・米国出願			
特許法特論・演習(前期)(2)へ続く↓ ↓ ↓			

特許法特論・演習(前期)(2)
願との関係 第7回 5月23日 発明の進歩性(1):実務における発明の進歩性の考え方、進歩性判断における動機づけ・阻害要因の考え方、ライフサイエンス分野を中心とした周知技術・技術常識の取扱い 第8回 5月30日 発明の進歩性(2):発明の効果の非予測性、化学・バイオ関連発明における取得容易性、選択発明の考え方と実例 第9回 6月6日 先願:特許法39条と29条の2、上位概念・下位概念の関係、39条と自社先願対策 第10回 6月13日 特許出願戦略(1):手続補正と新規事項追加の考え方、新規事項と拒絶理由・無効理由、化学・バイオ関連に特有の問題(数値限定、実験データの追加・削除など) 第11回 6月20日 特許出願戦略(2):特殊出願(分割出願、国内優先出願)の基本と実務上の利用方法、早期審査制度の活用、医薬・農業における特許権の延長登録制度の利用と業事法 第12回 6月27日 外国特許戦略:外国出願戦略の考え方、パリ優先権主張と外国出願、PCT出願の実務、外国出願のための費用と効果等 第13回 7月4日 ライセンス戦略:実施権の基礎、ライセンスの実務、契約書の基本条項、ライセンスとMTA 第14回 7月11日 特許侵害訴訟:特許侵害訴訟の実務と現状(1):特許侵害訴訟の概要 第15回 7月18日 特許侵害訴訟:特許侵害訴訟の実務と現状(2):特許侵害訴訟における原告又は被告としての実務対応の概要
履修要件
知財必修・MPH選択
成績評価の方法・観点及び達成度
平常点(出席を含む)、および効果確認試験
教科書
テキストとして講義ごとにプリントを配布します。 下記の特許庁テキスト(平成29年度知的財産権制度説明会(初心者向け)テキスト)を配布しますので、そのテキストも併用します。 参考書は、特に指定はありません。例えば、下記のような資料を参考にしてください。 〔参考書等〕 a) 企業実務家のための実践特許法(外川英明著、中央経済社) b) 特許法(茶園成樹著、有斐閣) c) 特許庁説明会テキスト 特許庁HP>お知らせ>イベント情報>特許庁主催説明会・シンポジウム>説明会テキスト
参考書等
(参考書) 授業中に紹介する
特許法特論・演習(前期)(3)へ続く↓ ↓ ↓

特許法特論・演習(前期)(3)
授業外学習(予習・復習)等
上記の配布予定の特許庁テキストの「第1節 特許制度の概要」等の該当箇所を一読しておいてください。
その他(オフィスアワー等)
・本講座と併せて知的財産経営学基礎を受講することを推奨します。
人間健康科学系専攻学生の受講可否:可
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 ＜英訳＞		特許法特論・演習（後期） Special lecture and practicum for the Patent Law II		担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 田中 順也					
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期不定	曜時限	水 6	授業 形態	特論	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学・バイオ系（ライフサイエンス）の分野を中心として、研究成果である発明の抽出から特許出願、さらには特許権取得に至るまでの特許実務について演習を交えて学習する。特に、特許調査及び特許性の判断、実験データ等に基づく明細書（発明説明書）の作成、事例研究について具体例を題材として特許戦略の実務について理解する。 ・また、外部講師による特許戦略（外国戦略を含む）の実務・現状についての解説及びそれに基づく意見交換を行い、特許実務についての理解を深める。 <p>教育・学習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント資料を中心とした講義ならびに実例を使った演習 ・各自の事前学習を含む事例資料を使用したケース研究講義 											
【到達目標】											
<p>学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること）</p> <p>個人学習・研究を含む演習を通じて、特許戦略の実務について理解を深め、その実務に最低限必要な基礎知識・能力を身に付ける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 10月 3日 特許明細書の読み方と書き方(1)：実際の特許明細書を参照して特許明細書の読み方と書き方を解説</p> <p>第2回 10月 10日 特許明細書の読み方と書き方(2)：実際の特許明細書を参照して特許明細書の読み方と書き方を解説</p> <p>第3回 10月 17日 特許明細書（発明説明書）の作成（1）：模擬的な実験データ及び発明完成までのシナリオに基づく発明の本質部分の抽出と整理</p> <p>第4回 10月 24日 特許明細書（発明説明書）の作成（2）：模擬的な実験データ及び発明完成までのシナリオに基づく発明の本質部分の抽出と整理</p> <p>第5回 10月 31日 特許明細書（発明説明書）の作成（3）：模擬的な実験データ及び発明完成までのシナリオに基づく発明の本質部分の抽出と整理</p> <p>第6回 11月 7日 特許明細書（発明説明書）の作成（4）：模擬的な実験データ及び発明完成までのシナリオに基づく発明の本質部分の抽出と整理</p> <p>第7回 11月 14日 ライフサイエンス分野における特許のポイント(1)</p> <p>第8回 11月 21日 特許明細書の分析(1)：特許明細書を分析し、プレゼンテーション・議論する。</p> <p>第9回 11月 28日 特許調査及び特許性の判断(1)：1つの特許公開公報を選び、特許調査及び特許性の判断を行い、プレゼンテーション・議論する。</p> <p>第10回 12月 5日 特許調査及び特許性の判断(2)：1つの特許公開公報を選び、特許調査及び特許性の判断を行い、プレゼンテーション・議論する。</p> <p>第11回 12月 12日 ライフサイエンス分野における特許のポイント(2)</p> <p>第12回 12月 19日 事例研究(1)：バイオ・化学関連の審決取消訴訟の事例を題材として、個人学習・プレゼンテーションを踏まえて議論する。</p>											
----- 特許法特論・演習（後期）(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----											

特許法特論・演習（後期）(2)											
<p>第13回 1月 9日 事例研究(2)：バイオ・化学関連の審決取消訴訟の事例を題材として、個人学習・プレゼンテーションを踏まえて議論する。</p> <p>第14回 1月 16日 ライフサイエンス分野における特許戦略上の実務ポイント(2)</p> <p>第15回 1月 23日 事例研究(3)：バイオ・化学関連の審決取消訴訟の事例を題材として、個人学習・プレゼンテーションを踏まえて議論する。</p>											
【履修要件】											
<p>知財必修・MPH選択</p> <p>事前に履修することか推奨される科目：「特許法特論・演習（前期）」</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>レポート（課題に対するプレゼンテーション）、ケース研究への参加を総合的に評価する。</p>											
【教科書】											
<p>必須テキスト：なし。最低限必要な資料は講義にて配布する。</p> <p>推奨テキスト：・特許の知識（竹田和彦著 ダイアモンド社） ・産業財産権標準テキスト特許編（発明協会） ・知的財産権法文集（発明協会）</p>											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p>											
【授業外学習（予習・復習）等】											
<p>特許公報、裁判例等を題材としてた課題について、授業で発表してもらうため、授業前に事例研究を十分に行うことが必要となる。</p>											
【その他（オフィスアワー等）】											
<p>・特許実務について演習を交えて学習します。不安な方は初回に相談して下さい。</p> <p>・特許に関する基礎的知識がない方は、事前に特許法特論・演習（前期）を履修して下さい。</p> <p>人間健康科学系専攻学生の受講可否：可</p> <p>※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

授業科目名 ＜英訳＞		契約実務演習 Business Contract Practice		担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 特任教授 阿部 誠二 非常勤講師 宗定 勇 医学研究科 特定教授 早乙女 周子					
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期不定	曜時限	火 6	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>コースの概要</p> <p>知的財産の保護、運用、移転といった実務の各場面において、より効果的なマネジメント、紛争発生回避、あるいは紛争解決のためには、契約法の基本的理解に基づいた契約能力が要求される。</p> <p>本講義では、契約法の基礎、リーガルリサーチの方法、独占禁止法の概要および共同研究契約、特許実施許諾契約などにおける留意点や契約交渉の基礎的技術等を創業分野の事例に基づいて学ぶ。</p> <p>教育・学習方法</p> <p>講義および演習参加</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・契約法の基礎を理解する ・契約のポイントを交渉から契約締結までの流れとともに理解する ・簡単な契約書を作成することができる 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回（阿部）10月 2日イントロダクション</p> <p>第2回（阿部）10月 9日契約法概説</p> <p>第3回（阿部）10月 16日契約と特許</p> <p>第4回（宗定）10月 23日知的資本経営と契約</p> <p>第5回（阿部）10月 30日守秘義務契約</p> <p>第6回（阿部）11月 6日MTA (Material Transfer Agreement)</p> <p>第7回（早乙女）11月 13日リーガル・サーチ</p> <p>第8回（早乙女）11月 20日交渉術</p> <p>第9回（阿部）11月 27日共同研究開発契約（1）</p> <p>第10回（阿部）12月 4日共同研究開発契約（2）</p> <p>第11回（阿部）12月 11日共同研究開発契約（3）</p> <p>第12回（阿部）12月 18日特許実施許諾契約（1）</p> <p>第13回（阿部）12月 25日特許実施許諾契約（2）</p> <p>第14回（阿部、仲里）1月 8日契約交渉演習（1）</p> <p>第15回（阿部、仲里）1月 15日契約交渉演習（2）</p>											
<p>※外部講師の都合等で日程変更の可能性あり。</p>											
----- 契約実務演習(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----											

契約実務演習(2)											
【履修要件】											
<p>知財必修・MPH選択</p> <p>事前或いは同時に履修することが推奨される科目：知的財産経営学基礎、特許法特論・演習</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>平常点（出席を含む）、課題の提出、演習への参加、発表</p>											
【教科書】											
<p>必須テキスト：なし。資料等は教員より提供する</p> <p>推奨テキスト：「知っておきたい特許契約の基礎知識」独立行政法人工業所有権情報・研修館http://www.inpit.go.jp/</p>											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>授業中に紹介する</p>											
【授業外学習（予習・復習）等】											
<p>適宜指示する</p>											
【その他（オフィスアワー等）】											
<p>人間健康科学系専攻学生の受講可否：可（事前に連絡してください）</p> <p>※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

授業科目名 <英訳>	知的財産法演習 Practicum for Intellectual Properties Protection Law	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 富麻 博文 非常勤講師 宗定 勇								
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期不定	曜時限	月6	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
I. コースの概要 ・化学・バイオ系（ライフサイエンス）分野における知的財産が我が国において、どのように保護、活用されているのかを裁判例等を踏まえつつ概観し、その現状、論点等について学習する。 ・過去の判決例からそのエッセンスや傾向を分析し、知的財産を適切に保護および活用するために必要な基本的な方法論を学ぶ。 ・ライフサイエンス分野における知的財産を取り巻く現状についても、併せて学習する。											
[到達目標]											
II. 学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること） ・過去の重要判決例の主要論点を分析し、論理的にその意義を理解すると共に、具体的な事例演習を通して知的財産を適切に保護する実務能力を身に付ける。 ・判決例からそのエッセンスや近時の傾向を学ぶことにより、ライフサイエンス分野特有の知的財産の保護および活用方法についての実践力を身に付ける。 ・ライフサイエンス分野に関する知的財産を取り巻く現状について理解を深める。											
III. 教育・学習方法 ・パワーポイント資料を中心にした講義、および事例資料を使用した討議や演習を通じて理解を深める。											
[授業計画と内容]											
第1回 10月1日ガイダンス、総論 第2回 10月15日熊谷先生：審判の役割について 第3回 10月22日審決・判決の読み方、審判制度 第4回 10月22日審決取消訴訟（新規性、進歩性） 第5回 10月29日宗定先生：知的資本経営を目指して 第6回 11月5日審決取消訴訟（進歩性）(1) 第7回 11月12日審決取消訴訟（進歩性）(2) 第8回 11月19日審決取消訴訟（記載要件、補正、訂正） 第9回 11月26日事例研究（進歩性）（発表、討論） 第10回 12月3日審決取消訴訟（存続期間延長登録出願） 第11回 12月10日特許権侵害訴訟（1）：特許権の効力、特許発明の技術的範囲、均等論、抗弁 第12回 12月17日熊谷先生：特許制度全般について 第13回 1月21日特許権侵害訴訟（2）：間接侵害等 第14回 1月21日特許権侵害訴訟（3）：間接侵害等 第15回 1月28日事例研究（侵害訴訟）（発表、討論） 試験なし ※外部講師の都合等で日程変更等の可能性あり。											
知的財産法演習(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

知的財産法演習(2)
[履修要件]
知財必修・MPH選択 特許法上の実務に関する基礎知識（特許要件、審査基準等）を有していることが望ましい。 事前あるいは同時に履修することが推奨される科目：「特許法特論・演習（前期、後期）」
[成績評価の方法・観点及び達成度]
平常点（出席を含む）、および課題レポートの提出により、総合的に評価する。
[教科書]
必須テキスト：なし。必要な資料等は講義にて配布する。 推奨テキスト：別冊ジュリスト 特許判例百選 第4版〔No.209〕（2012年4月発行）
[参考書等]
（参考書） 授業中に紹介する
[授業外学習（予習・復習）等]
講義で紹介する予定の判決例を予習し、争点を把握しておく。
[その他（オフィスアワー等）]
・化学、バイオ等についての高度な専門知識は要しない（技術内容については必要に応じて適宜説明する。）。 ・講義予定は、暫定的なものであり、変更があり得るため、注意のこと。 ・10月22日及び1月21日は5限及び6限の連続講義となる予定です。
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 可
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	知的財産経営学 基礎 Intellectual Property Management in Medical Science	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 早乙女 周子 非常勤講師 藤井 淳 非常勤講師 田中 順也								
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 前期不定	曜時限	火6	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
・ライフサイエンス分野の産学連携活動のニーズや事例、留意点を学習する。 ・研究成果を知的財産として保護するために、必要な特許制度の基礎的な知識を学習する。 ・実験ノートの付け方やマテリアルの入手・提供、共同研究について知的財産の観点からの留意点を学習する。 ・発明概要説明書作成の実習を通じて、研究成果を広く保護するためにどのように発明を記載するべきかを学習する。 ・講義形式を主とし、実習や小グループによる演習も通じて理解を深める。											
[到達目標]											
・各自の研究生活において、他人の権利の侵害行為の回避、自身の研究成果の権利確保と活用に関して、自己の判断で問題点を整理し、専門家の助言を適時に得ながら円滑に進めていくことのできる能力が取得できる。 ・自らの発明を着実に知的財産として確保できるようになる。 ・特許の企業へのライセンスや共同研究契約締結を容易に進められるようになる。 ・研究マテリアルの入手や提供がスムーズに行えるようになる。											
[授業計画と内容]											
第1回 4月10日イントロダクション（早乙女） 講義の内容、ねらいの確認 第2回 4月17日知的財産とは（藤井） 知的財産権・特許制度の概要、特許戦略の基本、職務発明の基礎知識 第3回 4月24日特許の実務ポイント（藤井） 発明と発見、作用機序の取扱い、医療関連発明、実験データの取扱い 第4回 5月8日特許明細書の基礎（田中） 特許明細書の構成、内容 第5回 5月15日先行技術調査の手法（早乙女） 特許出願の検索方法 第6回 5月22日外国特許戦略（藤井） 外国出願の方法・コスト、出願国の決め方 第7回 5月29日先行技術調査課題の解説、他者の権利侵害回避、試験研究の例外について（早乙女） 第8回 6月5日MTAについて（早乙女） 研究マテリアルの価値、入手、提供、管理システム 第9回 6月12日共同研究（早乙女） 共同研究契約のポイント、各種研究関連契約の基礎 第10回 6月19日実験ノート（早乙女） 実験ノートの扱い、研究発表と特許出願 第11回 6月26日 大学の知的権利化ケース研究【1】（早乙女） 医学発明の例を用いて、小グループで発明概要書を作成 第12回 7月3日 米国における医療シーズの技術移転（早乙女） 第13回 7月10日ライフサイエンス特許に関するトピックス（早乙女） 第14回 7月17日大学の知的権利化ケース研究【2】（田中） グループ発表、解説 第15回 7月24日技術移転（早乙女） 技術移転、特許のライセンス、TLOの機能、利益相対											
知的財産経営学「基礎(2)」へ続く ↓ ↓ ↓											

知的財産経営学 基礎(2)
[履修要件]
知財選択・MPH選択
[成績評価の方法・観点及び達成度]
平常点（出席を含む：配分 40%）、発表とレポート（配分 60%）により、総合的に評価する。
[教科書]
特に無し。必要な資料は講義にて配布する。
[参考書等]
（参考書） 開成 康 『これからの生命化学研究者のためのバイオ特許入門講座』（羊土社）ISBN:4897063590 廣瀬 隆行 『企業人・大学人のための知的財産権入門 ―特許権を中心に―』（東京化学同人）ISBN:4807907565
[授業外学習（予習・復習）等]
推奨テキストにより、適宜予習復習すること。
[その他（オフィスアワー等）]
・知的財産について興味がある学生ならどなたでも受講できます。 ・積極的な質問、討議を歓迎します。
人間健康科学系専攻学生の受講可否：可
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	アントレプレナーシップ特論 Special Lecture for Entrepreneurship		担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 特定教授 早乙女 周子 医学研究科 特任教授 寺西 豊 医学研究科 特定助教 山口 太郎 経営管理大学院 特定助教 市原 勇一		
	配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度	2018・ 前期集中	
[授業の概要・目的]		曜時限	集中講義	授業 形態	特論	使用 言語	日本語
<p>・本コースの目的は、ビジネスゲームを通じて、実務における予算管理等、会計の意義について学習する。</p> <p>・1チーム2名で製造業の経営を行い、どれだけ利益を上げられることができたかを競うゲームを行う。ゲームでは製造設備（工場）、原材料の購入、従業員の雇用、商品の生産、販売までを行う。各作業の度に帳簿に費用、売上を記載し、12ヶ月が経過したところで貸借対照表（B/S）及び損益計算書（P/L）を作成し経常利益を算出する。</p> <p>・ゲーム中には火災等の予期しない出来事や、競合他者との駆け引きも存在する。</p> <p>・講義での基礎知識の学習を含めながら、ビジネスゲームの実施、ビジネスゲーム結果の解析及び発表を通じて、経営戦略の検討、ビジネスモデルの構築及び会計の基礎知識を習得し、実践的な理解を深める。</p>							
[到達目標]							
<p>経営の疑似体験を通じて、ビジネスに必要な会計の知識を実践的に習得する。 そのことにより、実際にアントレプレナーとして起業する際に、事業を成功に導くことができるようなビジネスモデルの構築、予算管理を行うことができる。</p>							
[授業計画と内容]							
<p>第1回 8月2日 導入講義 第2回 8月2日 ビジネスゲームルールの説明 第3回 8月2日 ビジネスゲームデモ 第4-6回 8月3日 ビジネスゲームI-III 第7回 8月3日 管理会計 第8回 8月3日 投資と企業経営 第9-12回 8月6日 ビジネスゲームIV-VII 第13回 8月6日 ビジネスゲーム結果の発表資料作成 第14回 8月7日 ベンチャー経営の実際 第15回 8月7日 ビジネスゲーム経営結果の発表と振り返り／まとめ</p>							
[履修要件]							
<p>知財選択・MPH選択 ビジネスゲームは2名1チームで行うため、全講義出席可能であることを必須条件とします。 本講義は演習科目ですので、講義に必要な管理会計の知識はアントレプレナーシップを受講して、予め習得しておいてください。</p>							
アントレプレナーシップ特論(2)へ続く ↓ ↓ ↓							

アントレプレナーシップ特論(2)	
[成績評価の方法・観点及び達成度]	
平常点（出席を含む：配分 40%）、発表とレポート（配分 60%）により、総合的に評価する。	
[教科書]	
必須テキスト：無し。必要な資料は講義にて配布する。	
[参考書等]	
(参考書)	
[授業外学習（予習・復習）等]	
<p>アントレプレナーシップの講義内容、特にビジネスモデル、会計に関する内容について理解しておくこと。 講義開始前にビジネスゲームのルールのDVDを視聴し、ルールブックも配布するので、ビジネスゲームのルールをよく理解しておくこと。</p>	
[その他（オフィスアワー等）]	
人間健康科学系専攻学生の受講可否：可	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

FY2018 Syllabi for Master Course

Kyoto University School of Public Health

NB. The English translation is a courtesy translation and please always refer to the Japanese version, which remains the official version.

Mission and educational program of the Kyoto University School of Public Health

(<http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/>)

1. Mission of the school

The mission of the Kyoto University School of Public Health (KUSPH) is to improve people's health and welfare through the following activities and through their interactions between medical science and healthcare, as well as society and the environment.

○ Teaching

Providing education of broad disciplines to help students to be specialists and/or leaders in healthcare, policy making, research, and education of public health.

○ Research

Creating new knowledge and skills through deep understanding of the economic, environmental, behavioral, and social factors affecting people's health.

○ Translating Research into Practice and Policy

Disseminating research outputs to practical programs and policies related to the health and medical care in society.

○ Professional Practice

Contributing to improving health at multiple levels (individual, organizational, regional, national, and global) through specialized knowledge and skills.

Health-related problems cover broad issues. In order to face the challenges in health and to meet students' diverse interests, the school offers a wide range of classes promoting education and research taught by faculty with diverse background including biostatistics, epidemiology, genome epidemiology, environmental science, healthcare economics and quality management, health promotion and behavioral science, AIDS and infectious diseases, and health policy and international health.

2. Educational Programs

The school consists of a two-year Professional Degree Course (=Master Course) for practitioners and a three-year Doctoral Course for researchers and educators. Students should take the classes of the Core Area 1 (2 classes) and 2 (1 class), and at least one class from the Core Area 3-5 depending on the credit requirement of core educational program for each Course (Master course 10 credits and doctor course 7 credits).

Categories	Code	Title	Organizer	Credits	Remarks
Core Area 1	H118000	Epidemiology I	Prof. Nakayama	1	Required
	H119000	Epidemiology II	Prof. Fukuhara	1	Required
Core Area 2	H001000	Biostatistics	Prof. Sato	2	Required
Core Area 3	H070000	Infectious Disease Epidemiology	Prof. Kihara	1	
	H124000	Occupational health and environmental health sciences	Assoc. Prof. Harada	1	
Core Area 4	H125000	Healthcare System and Policy	Prof. Imanaka	1	
	H128000	Healthcare Systems and Policies around the World	Prof. Imanaka	1	
	H126000	Economic Evaluation in Health Care	Prof. Imanaka	1	
	H127000	Health Policy and Academia	HPA steering committee	2	
	H109000	Drug Policy and Regulation	Prof. Kawakami	1	2nd semester
Core Area 5	H075000	Behavioral Science	Assoc. Prof. Watanabe	1	
	H076000	Basic Medical Ethics	Prof. Kosugi	1	
	H077000	Medical Communication (Basic)	Assoc. Prof. Iwakuma	1	

- Please refer to URL: <http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/syllabus.html> for additional classes available from other schools within Kyoto University. These courses cannot be counted towards credits necessary for completion of the Master's program.

2-1. Standard educational program for the MPH (Professional Degree) Course

For the “Masters of Public Health (MPH [Professional Degree])” be awarded, students are required to enroll for at least two years in the MPH Course, earning 30 of the below listed credits, and complete the determined educational curriculum for this course. However, the maximum number of classes can be registered in one year or in one semester in principle is 42 credits.

Category of classes	For students with medical background*	For students without medical background
Core Areas (All 5 areas should be included) ^a	10	10
Mandatory (Basic Medicine I, II, Introduction to Clinical Medicine) ^b	—	6
Task research**	4	4
Elective	16	10
Total	30	30

^a Earning more than 10 credit hours from Core Area classes will be counted toward 'elective' category credits.

^b The credit earned by students with medial background will not be counted towards the requirement of 30 credits for the completion of an MPH degree.

- * Students with medical background including graduates of medicine, nursing, dentistry, pharmacy (6-year course) and other medical departments. Students who are graduates of the departments other than the above and wish to be recognized as those with medical background must obtain a permission authorized by the school.
- ** **Task research:** Students will choose the most appropriate department for their research topic, receive mentoring for developing a research question and research protocol, data collection and analysis, and interpretation of the results. At the end of the program, students are required to present their research projects completed. Students are allowed to deliver such presentation only if they are expected to complete their graduate course in the same academic year as the one in which the said presentations are planned to be conducted.
- *** Accreditation of completed credits: Up to 10 credits can be accredited if you have completed courses in other graduate schools which correspond with Core Areas 1 through 5. If you want accreditation, you need to submit the necessary papers upon entrance into MPH.

Special courses and programs

The following special courses and programs are available in the MPH course. Due to the differences in admission examination system, course changes are not allowed.

Special courses

- Master of Public Health 1-Year Course
- Master of Clinical Research Course
- Genetic Counselor Course
- Clinical Biostatistics Course

Special programs

- Management of Technology and Intellectual Property Program
- Young Leader Program for Healthcare Management
- Industrial Toxicologist Program
- Professional Biostatistician Program
- Genome Informatician Program

2-2. MPH-DrPH Course

This is a special program which starts from 2010 that allows students to proceed to the DrPH Course after graduating from MPH Course in one year. Applicants should meet one of the following criteria; 1. have a master degree other than MPH from this school, 2. Medical or dental doctor with clinical practice experience of 2 years or more.

Applicants who wish to proceed to the Doctor Course immediately after the Master Course, meet the above criteria, AND exhibit excellent performance in the entrance exam and course work, are reviewed by the Education Affair Committee for qualification and accepted for this Course if they fulfill the credit requirement for Master Course AND pass the entrance exam to the Doctor Course.

Students who wish to be reviewed for qualification should get (or expected to get) 8 or more credits of the Core Area classes AND submit an application form, form stating the reasons for application, and recommendation letter from the potential mentor. Applicants having a master degree other than MPH from this school should show a copy of the master degree diploma and the applicants who are medical or dental

doctors should show the documents certifying the clinical practice experience of 2 years or more. Application should be submitted to the Registration Office by Friday, August 17th (Applicants should contact the Office of Student Affairs before submitting the application.)

If the applicant does not proceed to the Doctor Course after passing the exam, MPH degree will not be provided.

Note: Research protocol is not mandatory but could be attached to the recommendation letter.

2-3. Educational program for Doctoral Course

For a “Doctorate in Public Health (DrPH or PhD)” be awarded, students are required to enroll for the course for three years or more, receive mentoring for research, meet the following credit requirement, submit a doctoral paper, and pass the review and examination.

However, the maximum number of classes can be registered in one year or in one semester in principle is 42 credits.

Categories		For students who are not the graduates of KUSPH		For KUSPH graduates
		For students with medical background*	For students without medical background	
Seminar for doctor course students		6	6	6
Master course program	Core (5 areas)	7 The classes of Core Area 1 (2 classes) and 2, and at least one class from the Core Area 3-5	7 The classes of Core Area 1 (2 classes) and 2, and at least one class from the Core Area 3-5	—
	Mandatory (3 classes**)	—	6	—
Total		13	19	6

* Students with medical background include graduates of medicine, nursing, dentistry, pharmacy (6-year course) and other medical departments. Students who are graduates of the departments other than above and wish to be recognized as those with medical background are required to apply after admission.

** 3 classes include Basic Medicine I, Basic Medicine II and Introduction to Clinical Medicine.

Curriculum for Master degree program in the fiscal year of FY2018

Category of classes	Code	Title	Semester		Organizer	Credits	Remarks	English syllabus
			1st	2nd				
Core Area 1 (mandatory)	H118	Epidemiology I	●		Prof. Nakayama	1	Required	●
	H119	Epidemiology II	●1		Prof. Fukuhara	1	Required	●
Core Area 2 (mandatory)	H001	Fundamentals of Biostatistics	●		Prof. Sato	2	Required	●
	H070	Infectious Disease Epidemiology	●2		Prof. Kihara	1		●
Core Area 3 (at least one class)	H124	Occupational health and environmental health sciences	●1		Assoc. Prof. Harada	1		●
	H125	Healthcare System and Policy	●2		Prof. Imanaka	1		●
Core Area 4 (at least one class)	H127	Health Policy and Academia	●		Prof. Imanaka	2		●
	H109	Drug Policy and Regulation		●1	Prof. Kawakami	1		●
Core Area 5 (at least one class)	H126	Economic Evaluation in Health Care	●1		Prof. Imanaka	1		●
	H128	Healthcare Systems and Policies around the World	●1		Prof. Imanaka	1	Non-Japanese or TOEFL iBT ≥100	●
Mandatory	H075	Behavioral Science	●1		Assoc. Prof. Watanabe	1		●
	H076	Basic Medical Ethics	●1		Prof. Kosugi	1		●
Elective	H077	Medical Communication: Introduction	●1		Assoc. Prof. Iwakuma	1		●
	H006	Basic Medicine I	●		Lec. Hagiwara	2	Mandatory for students without medical background.	●
	H007	Basic Medicine II		●	Prof. Ueshima and Lec. Hosokawa	2	Elective for those with medical background.	●
	H008	Introduction to Clinical Medicine		●	Lec. Watanabe, Lec. Chiba	2		●
		Task Research		2nd year	Mentors in each Department	4	See annex table	
	H009	Socio-epidemiology I	●		Assoc. Prof. Kihara	2		●
	H011	Introduction to Statistical Computing and Data Managements	●		Prof. Sato	2		●
	H084	Statistical Methods for Observational Studies	●		Prof. Sato	2		●
	H122	Observational Epidemiology	●2		Prof. Fukuhara	1		●
	H123	Practicum in Research Design	●		Prof. Fukuhara	1		●
	H093	Literature Research	●1		Assoc. Prof. Takahashi	1		●
	H094	Critical Appraisal	●2		Prof. Nakayama	1		●
	H115	Methods of Health Science Research	●		Prof. Nakayama	1		●

Continued.

Category of classes	Code	Title	Semester		Organizer	Credits	Remarks	English syllabus
			1st	2nd				
Elective	H129	Evaluation of Quality in Health Care	●2		Prof. Imanaka	1		●
	H014	Introduction to Toxicology	●		Assoc. Prof. Harada	2		●
	H103	Medical Sociology	●2		Assoc. Prof. Iwakuma	1		●
	S004	Statistical Genetics I	●		Prof. Yamada	2		●
	H112	Clinical Trial Methodology	●		Prof. S. Tanaka	2		●
	H134	Statisticians Standard of Conducts	●		Prof. Sato	1		●
	H143	Designing Health communication	int	int	Prof. Nakayama	1		●
	H141	How to write papers in English	int	int	Prof. Furukawa	1		●
	H136	Fundamentals of Statistical Inference	●		Prof. Sato	2		●
	H137	Survival Analysis	int		Prof. Sato	1		●
	H138	Statistical Modeling and Applications	int		Prof. Sato	1		●
	H142	Medical Doctors in Government and Occupational Settings	int		Prof. Imanaka	2		●
	M001	Entrepreneurship	●		Prof. Teranishi	2	TMMS	●
	M026	Introduction to Technology Management in Medical Science	●		Lec. Yamamoto	2	TMMS	
	M017	Intellectual Property Management in Medical Science	●		Prof. Saotome	2	TMMS	●
	M021	Special Lecture for Entrepreneurship	int		Prof. Saotome	2	TMMS	●
	M024	Special Lecture and Practicum for the Patent Law I	●		Lec. Fujii	2	TMMS	●
	N015	Genetic Medicine, Ethics and Society	●		Prof. Kosugi	2	GC	●
	H040	Introduction to Human Genetics	●		Prof. Kosugi	2	GC	●
	N021	Clinical Genetics and Genetic Counseling	●		Prof. Kosugi	3	GC	●
	N017	Special Seminar for Genetic Medicine	int		Prof. Kosugi	2	GC, 2nd year students	●
	H019	Socio-epidemiology II		●	Assoc. Prof. Kihara	2		●
H088	Environment and Infection		●	Prof. Nishibuchi	2		●	
H020	Field Medicine		●	Assoc. Prof. Sakamoto	2		●	
H021	Intermediate Biostatistics		●	Prof. Sato	2		●	
H022	Health Data Processing Laboratory		●	Prof. Sato	2		●	

Continued.

Category of classes	Code	Title	Semester		Organizer	Credits	Remarks	English syllabus
			1st	2nd				
Elective	H133	Health, Medical and Welfare System		●1	Assoc. Prof. Satomura	2		●
	H028	International Health		●2	Assoc. Prof. Satomura	2		●
	H029	Toxicology		●	Assoc. Prof. Harada	2		●
	H032	On the Bench Training Course		●	Assoc. Prof. Harada	2		●
	H099	Development strategy, plan, and regulatory affairs of drugs and medical devices		●	Prof. Kawakami	2		●
	H079	Drug Development, Evaluation and Regulatory Science		●2	Prof. Kawakami	1		●
	M004	Practicum for Contract Business		●	Prof. Abe	2	TMMS	●
	M007	Practicum for Intellectual Properties Protection Law		●	Lec. Toma	2	TMMS	●
	M025	Special lecture and practicum for the Patent Law II		●	Lec. J. Tanaka	2	TMMS	●
	M022	Genome Science and Medicine		●	Prof. Matsuda	2		
	N018	Practicum for Medical Ethics		●	Prof. Kosugi	2	GC	
	S005	Statistical Genetics II		●	Prof. Yamada	2		●
	H130	Health informatics I		●	Prof. Nakayama	2		●
	H131	Health informatics II		●	Assoc. Prof. Takahashi	1		●
	H098	Applied Medical Communication		●	Assoc. Prof. Iwakuma	2		●
	H132	Introduction to EBM: How to use evidence in your daily life		●	Prof. Furukawa	2		●
	H135	Statistical Methods in Clinical Trials		●2	Prof. Tanaka	1		●
	H063	Fieldwork		int	Assoc. Prof. Tabara	2		●
	H061	Field Training for Public Health Practice		int	Mentors in each Department	1-2	Internship	●
Z201	Social entrepreneurship and global health		●	Prof. Kihara	2	GHIU	●	
Z203	Global health		●	Lec. Sugimoto	2	GHIU	●	
H082	Healthcare Management Special Curriculum I	int		Prof. Imanaka	2	YLP	●	
H083	Healthcare Management Special Curriculum II		int	Prof. Imanaka	2	YLP	●	
H053	Case Studies in Healthcare Management		int	Prof. Imanaka	2	YLP	●	

Continued.

Category of classes	Code	Title	Semester		Organizer	Credits	Remarks	English syllabus
			1 st	2 nd				
	K026	Seminar in Study Design I	•		Prof. Fukuhara	1	MCR	•
	K028	Special Seminar in Study Design I	•		Prof. Fukuhara	1	MCR	•
	K030	Economic Evaluation of Medical Technologies	•1		Prof. Imanaka	1	MCR	•
	K027	Seminar in Study Design II		•	Prof. Fukuhara	1	MCR	•
	K029	Special Seminar in Study Design II		•	Prof. Fukuhara	1	MCR	•
	K020	Special lectures on EBM and clinical practice guidelines		•	Prof. Nakayama	1	MCR	•
Elective	K025	Data management for Clinical Research		•	Assoc. Prof. Takeuchi	1	MCR and CB	•
	K031	Clinical research advanced I		•1	Prof. Kawamura	1	MCR	•
	K032	Clinical research advanced II		•2	Prof. Iwami	1	MCR	•
	K016	Systematic Reviews		•	Assoc. Prof. Watanabe	2	MCR	•
	K033	Special Seminar of Data Analysis	•2		Assoc. Prof. Yamamoto	1	MCR	•
	H139	Practical Skills for Clinical Biostatisticians	int		Prof. Sato	1	CB	•
	H140	Clinical Research Training I	int		Prof. Tanaka	2	CB	•

- MCR, Master Program for Clinical Research; TMMS, Dept. of Technology Management in Medical Science; YLP, Young Leader Program; GHU, Global Health Interdisciplinary Unit; CB, Clinical Biostatistics.

- Please refer the following correspondence table about the closed classes.

Correspondence Table.

Code	Classes	Closed classes until FY2017
H124	Occupational health and environmental health sciences	Environmental Health
H126	Economic Evaluation in Health Care	Quality and Economic Evaluation in Health Care
H129	Evaluation of Quality in Health Care	
H125	Healthcare System and Policy	Policy and Management in Health Care I
H127	Health Policy and Academia	Health Policy and Administration
H130	Health informatics I	Health Informatics
H131	Health informatics II	Introduction to e-health
M026	Introduction to Technology Management in Medical Science	Introduction to Technology Management
H133	Health, Medical and Welfare System	Health Policy
H118	Epidemiology I	Epidemiology
H119	Epidemiology II	Epidemiology
K026	Seminar in Study Design I	Epidemiology
K027	Seminar in Study Design II	Epidemiology
S004	Statistical Genetics I	Informatics I for genetic epidemiology, Statistical Genetics I, Introductory Omics-Statistics I, Introductory Genetics-Statistics I
S005	Statistical Genetics II	Informatics II for genetic epidemiology, Statistical Genetics II, Introductory Omics-Statistics II, Introductory Genetics-Statistics II

- These classes will be considered equivalent.

Annex table. Codes for Task Research and Doctor Course Seminars

Departments	Department code	
	Task research (for Professional Degree Course student)	Doctor Course Seminar (for Doctor course students)
Biostatistics	1001	J001
Healthcare epidemiology	1002	J002
Pharmaco-epidemiology	1003	J003
Genome epidemiology	1004	J004
Healthcare economics	1005	J005
Medical ethics	1006	J006
Health informatics	1007	J007
Medical communication	1016	J016
Health and environmental sciences	1009	J009
Health promotion and behavioral science	1010	J010
Preventive medicine	1011	J011
Socio-epidemiology	1012	J012
Health policy and international health	1013	J013
Ecology with Emphasis on the Environment	1014	J014
Field Medicine	1015	J015
Management of Technology and Intellectual Property	M018	
Genetic Counselor Course	N901	
Clinical Biostatistics Course	1017	

◇ Curriculum of MPH Course for the First Semester of FY2018

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1 8:45~10:15		<p>【Core areas, Required and elective】 Behavioral Science (1st half of the first semester) Prof. Furukawa [A]</p>	<p>【Required for students without medical background】 * Basic Medicine I * Lec. Ogiwara [A]</p>		<p>【Core areas, Required】 Epidemiology II (1st half of the 1st semester) Prof. Fukuhara [A]</p> <p>【Elective】 Observational Epidemiology (2nd half of the 1st semester) Prof. Fukuhara [Practicum room]</p>
2 10:30~12:00	<p>【MCR restricted (Elective)】 Systematic Reviews Prof. Furukawa [B]</p> <p>【Elective】 Introduction to EBM: How to use evidence in your daily life (Check syllabus for lecture start date) Prof. Furukawa [B]</p>	<p>【Core areas, Required】 Fundamentals of Biostatistics Prof. Sato [A]</p>	<p>【Core areas, Required and Elective】 Healthcare Systems and Policies around the World (1st half of the 1st semester) Prof. Imanaka [C/D]</p> <p>【Core areas, Required and Elective】 Healthcare System and Policy (2nd half of the 1st semester) Prof. Imanaka [C/D]</p> <p>【Elective】 Genetic Medicine, Ethics and Society Prof. Kosugi [Practicum room]</p>	<p>【Core areas, Required and Elective】 Occupational and Environmental Health (1st half of the 1st semester) Prof. Koizumi [Frontier]</p> <p>【Core areas, Required and Elective】 Infectious Disease Epidemiology (2nd half of the 1st semester) Prof. Kihara [Frontier]</p>	<p>【Elective】 Practicum in Research Design (Check syllabus for lecture start date) Prof. Fukuhara [A]</p>
3 13:00~14:30	<p>【Elective】 Socio-epidemiology I Assoc. Prof. Ono-Kihara [Frontier]</p>	<p>【Elective】 Introduction to Statistical Computing and Data Managements Prof. Sato [Practicum room]</p>	<p>【Elective】 Evaluation of Quality in Health Care (2nd half of the 1st semester) Prof. Imanaka [C/D]</p> <p>【Elective】 Introduction to Human Genetics Prof. Kosugi [Practicum room]</p>	<p>【Core areas, Required and Elective】 Health Policy and Academia HPA steering committee [A]</p>	<p>【Core areas, Required】 Epidemiology I (Check syllabus for lecture start date) Prof. Nakayama [A]</p> <p>【Elective】 Statistical Methods for Observational Studies (Check syllabus for lecture start date) Prof. Sato [Practicum room]</p>
4 14:45~16:15	<p>【Elective】 Literature Search (1st half of the 1st semester) Assoc. Prof. Takahashi [A]</p> <p>【Elective】 Critical Appraisal (2nd half of the 1st semester) Prof. Nakayama [A]</p>		<p>【Elective】 Introduction to Toxicology Prof. Koizumi [Frontier]</p> <p>【Elective】 Clinical Trial Prof. S. Tanaka [B]</p>	<p>【MCR restricted (Required)】 Special Seminar in Study Design I Prof. Fukuhara [B]</p>	<p>【Elective】 Statistical Methods for Observational Studies (Check syllabus for lecture start date) Prof. Sato [Practicum room]</p>
5 16:30~18:00	<p>【MCR restricted (Required)】 Seminar in Study Design I Prof. Fukuhara [B]</p>	<p>【Core areas, Required and Elective】 Medical Communication: Introduction (1st half of the 1st semester) Assoc. Prof. Iwakuma [Practicum room]</p> <p>【Elective】 Medical Sociology (2nd half of the 1st semester) Assoc. Prof. Iwakuma [Practicum room]</p>	<p>【Elective】 Genetic Counseling Prof. Kosugi [Practicum room]</p>	<p>【Core areas, Required and Elective】 Basic Medical Ethics (1st half of the 1st semester, Check syllabus for lecture start date) Prof. Kosugi [A]</p>	<p>Classes of "Clinical Genetics and Genetic counseling" and "Genetic Medicine, Ethics and Society" (Check syllabus for lecture start date) Prof. Kosugi [Practicum room]</p>
6 18:15~19:45	<p>【Elective】 Introductory Genetics-Statistics I Prof. Yamada [South Research Bldg.]</p>	<p>【Elective】 Intellectual Property Management in Medical Science Assoc. Prof. Saotome [B]</p>	<p>【Elective】 Special Lecture and Practicum for the Patent Law I Lec. Fujii [B]</p>	<p>【Elective】 Introduction to Technology, Management in Medical Science Prof. Teranishi, Lec. Yamamoto [B]</p>	

*The credit earned by students with medical background will not be counted towards the requirement of 30 credits for the completion of an MPH degree.

**Earning more than 10 credit hours from Core Area classes will be counted toward 'elective' category credits.

【Frontier】: Seminar room on the 1st floor of the Frontier Bldg.
 【A】 : Seminar room A on the 2nd floor of the G Bldg.
 【B】 : Seminar room B on the 2nd floor of the G Bldg.
 【C/D】: Seminar room C/D on the 2nd floor of the G Bldg.
 【Practicum room】: Practicum room on the 3rd floor of the G Bldg.

【Intensive courses】
 【Elective】 Special Lecture for Entrepreneurship (August, 4days), Assoc. Prof. Saotome, Medical Innovation Center
 【Management Young Leaders Course】 Case Studies in Healthcare Management. Prof. Imanaka
 【Management Young Leaders Course】 Healthcare Management Special Curriculum I . Prof. Imanaka
 【Elective】 Field Training for Public Health Practice (Internship). Mentors in each department
 【Elective】 Special Seminar for Genetic Medicine. (2nd year) Prof. Kosugi

◇ Curriculum of MPH Course for the Second Semester of FY2018

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1 8:45~10:15		[Required for students without medical background] Introduction to Clinical Medicine* Lec. Watanabe and Lec. Kawano [A]	[By GSS program] Introduction to Risk Studies Prof. Kihara [Frontier]		
2 10:30~12:00	[Elective] Systematic Reviews Prof. Furukawa [B]	[Elective] Intermediate Biostatistics Prof. Sato [A]	[Core areas, Requires and [Elective] Drug Policy and Regulation (1st half of the 2nd semester) Prof. Kawakami [A]	[Required for students without medical background] II* Basic Medicine II* Prof. Omori and Prof. Ueshima [A]	[Elective] Toxicology Prof. Koizumi [Frontier]
3 13:00~14:30	[Elective] Introduction to EBK: How to use evidence in your daily life. (Check syllabus for lecture start date) Prof. Furukawa [B]	[Elective] Health Data Processing Laboratory Prof. Sato [Practicum room]	[Elective] Drug Development, Evaluation and Regulatory Sciences (2nd half of the 2nd semester) Prof. Kawakami [A]	[Elective] Genome Science and Medicine Prof. Matsuda [B]	[Elective] Health Informatics I Prof. Nakayama [A]
4 14:45~16:15	[Elective] Socio-epidemiology II Assoc. Prof. Ono-Kihara [Frontier]	[Elective] Health Data Processing Laboratory Prof. Sato [Practicum room]	[By GHU] Global Health Lec. Pilar, Sugimoto [Frontier]	[Elective] Health, Medical and Welfare System (1st half of the 2nd semester) Assoc. Prof. Satomura [Frontier]	[Elective] Health Informatics II (Check syllabus for lecture start date) Assoc. Prof. Takahashi [Practicum room]
5 16:30~18:00	[Elective] Field Medicine Assoc. Prof. Sakamoto [Room 203, Center for Southeast Asian Studies]	[Elective] Health Data Processing Laboratory Prof. Sato [Practicum room]	[Elective] Applied Medical Communication Assoc. Prof. Iwakuma [B]	[Elective] Health, Medical and Welfare System (1st half of the 2nd semester) Assoc. Prof. Satomura [Frontier]	[MCR restricted (Elective)] Special lectures on EBK and clinical practice guidelines Prof. Nakayama [Practicum room]
6 18:15~19:45	[MCR restricted (Elective)] Clinical research advanced I Prof. Kawamura [B]	[Elective] Environment Infection Prof. Nishibuchi [Room 203, Center for Southeast Asian Studies]	[MCR restricted (Required)] Data Management for Clinical Research Assoc. Prof. Takeuchi [B]	[Elective] Statistical Methods in Clinical Trials Prof. S. Tanaka [B]	[Elective] Health Informatics II (Check syllabus for lecture start date) Prof. Koizumi [Practicum room]
	[MCR restricted (Elective)] Seminar in Study Design II Prof. Fukuhara [B]	[Elective] Practicum for Contract Business Prof. Abe [MIC]	[Elective] Statistical Methods in Clinical Trials Prof. S. Tanaka [B]	[Elective] Special Lecture and Practicum for the Patent Law II Lec. J. Tanaka [MIC]	[Elective] Practicum for Medical Ethics (Check syllabus for lecture start date) Prof. Kosugi [Practicum room]
	[MCR restricted (Elective)] Clinical research advanced II Prof. Iwami [B]	[Elective] Practicum for Contract Business Prof. Abe [MIC]	[Elective] Special Lecture and Practicum for the Patent Law II Lec. J. Tanaka [MIC]		

*The credit earned by students with medical background will not be counted towards the requirement of 30 credits for the completion of an MPH degree.

**Earning more than 10 credit hours from Core Area classes will be counted toward 'elective' category credits.

[Frontier]: Seminar room on the 1st floor of the Frontier Bldg.
[A] : Seminar room A on the 2nd floor of the G Bldg.
[B] : Seminar room B on the 2nd floor of the G Bldg.
[C/D] : Seminar room C/D on the 2nd floor of the G Bldg.
[Practicum room] : Practicum room on the 3rd floor of the G Bldg.
[MIC] : Medical Innovation Center (Hospital West Campus)

[Intensive courses]
[Management Young Leaders Course] Case Studies in Healthcare Management Prof. Imanaka
[Management Young Leaders Course] Healthcare Management Special Curriculum II. Prof. Imanaka
[Elective] Field Training for Public Health Practice (Internship). Mentors in each department

社会健康医学系専攻科目

Course title <English>	疫学 I (疫学入門) 【領域1】		Epidemiology I	Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Professor, NAKAYAMA TAKEO Graduate School of Medicine Professor, SATO TOSIYA Agency for Health, Safety and Environment Professor, KAWAMURA TAKASHI Shiga Medical University, Professor MIURA KATSUYUKI Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital and Institute of Gerontology ISHIZAKI TATSURO
	Target year	Professional degree students			
Day/period	金3・4	Class style	Lecture	Language	Japanese and English
[Outline and Purpose of the Course]					
This course is one of the required classes of school of public health. Epidemiology is defined as follows: the study of the distribution and determinants of health-related states or events in specified population, and the application of this study to control of health problems. Epidemiology is regarded as the basis of public health / clinical research and evidence-based practice. This is a scientific discipline that explores the cause, risk factor, prognosis of disease, and related factors. The course comprises systematic lectures on principles and methodologies of epidemiology for beginners.					
[Course Goals]					
<ul style="list-style-type: none"> Understanding basis concepts and methodologies of epidemiology Being familiar with terminology of epidemiology. Being capable of applying epidemiologic methods for clinical practice, research and health policy. 					
[Course Schedule and Contents]					
1 April 13 3rd introduction (NAKAYAMA) 2 April 13 4th cohort study / case-control study (NAKAYAMA) 3 April 20 3rd what is epidemiology? (SATO) 4 April 27 3rd intervention study (KAWAMURA) 5 April 27 4th follow-up of participants (KAWAMURA) 6 May 11 3rd descriptive epidemiology, geriatric epidemiology (ISHIZAKI) 7 May 18 3rd recent topics on epidemiology (NAKAYAMA) 8 May 18 4th special topic (NAKAYAMA) May 25 3rd Test Special lecture					
[Class requirement]					
None					
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]					
examination 80%, short report for each lecture 20%					
Continue to 疫学 I (疫学入門) 【領域1】 (2) ↓ ↓					

疫学 I (疫学入門) 【領域1】 (2)
[Textbook]
The material necessary for the lecture will be provided by lecturers.
[Reference books, etc.]
(Reference books) Kawamura T 『Ebidensu wo tsukururu』 (Igaku shoin) Nakayama T & Tsutani K 『Rinsho kenkyu to ekigaku kenkyu no tameno kokusai rurushu』 (Life science shuppan) Kosei Tokei Kyokai 『Zusetsu Kokumin Eisei no doko』 (Kosei Tokei Kyokai) Yano E & Hashimoto H 『Rothman no ekigaku』 (Shinohara shuppan shinsha)
[Regarding studies out of class (preparation and review)]
Rather than spending more time on your preparation, please put more energy into the review.
(Others (office hour, etc.))
We hope that students will understand the importance and characteristics of epidemiology that examines "human populations".
This course is open to graduate students with the school of human health science.
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course title <English>	疫学 II (研究デザイン) 【領域1】		Epidemiology II	Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Professor, FUKUHARA SHUNICHI
	Target year	Professional degree students			
Day/period	Fri.1	Class style	Lecture	Language	Japanese and English
[Outline and Purpose of the Course]					
The Aim of this course is to learn core competency and practical skills in designing almost all types of projects in the field of SPH, except qualitative research.					
[Course Goals]					
To convert vague questions to structured abstracts. 1) To convert vague questions to answerable and structured research questions (RQ) 2) To understand concepts and how you convert concepts into measurable variables 3) To convert RQ into conceptual model 4) To understand the theory and practice in measuring variables 5) To understand the third factors 6) To understand how you can refine quality of comparison in analytical study					
[Course Schedule and Contents]					
1 April 13 (1st period) Designing research - 7 steps (Fukuhara) 2 April 13 (2nd period) Structuring your research question (Fukuhara) 3 April 20 Causes to undermine the quality of comparison (Fukuma) 4 April 27 Causes to improve the quality of comparison (Fukuma) 5 May 11 (1st period) Designing measurement (Fukuhara) 6 May 11 (2nd period) Index to measure effect (Fukuhara) 7 May 18 Testing a test (Yamamoto) 8 May 25 Examination					
[Class requirement]					
MPH, MCR Required You need to had taken "Epidemiology" or take "Epidemiology I".					
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]					
Attendance 40%, Examination 60%					
[Textbook]					
Instructed during class					
[Reference books, etc.]					
(Reference books) Fukuhara S 『Guidepost for clinical research: Learning study design by 7 steps』 (www.i-hope.jp/)					
Continue to 疫学 II (研究デザイン) 【領域1】 (2) ↓ ↓					

疫学 II (研究デザイン) 【領域1】 (2)
publication)
Hutley S 『Designing Clinical Research 2nd ed.』 (William & Wilkins)
Fukuhara S 『Conceiving and structuring your research question』 (www.i-hope.jp/publication)
Matsumura S. 『Building conceptual model』 (www.i-hope.jp/publication)
[Regarding studies out of class (preparation and review)]
<ul style="list-style-type: none"> Didactic lectures Discussion at each lecture
(Others (office hour, etc.))
<ul style="list-style-type: none"> This class is not open to students from Graduate School of Human Health Science. April 13, May 11 : Lecture will be held for 1st and 2nd terms.
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course title <English>	医療統計学 (コア) 【領域2】 Fundamentals of Biostatistics	Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Professor, SATO TOSIYA		
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Course offered year/period	2018/First semester
Day/period	Tue.2	Class style	Lecture	Language	Japanese
[Outline and Purpose of the Course]					
While biostatistics is recognized necessary for practice and research work in public health fields, many do not like it because of troublesome mathematics and formulas. Still, biostatistics is really interesting. To show that biostatistics is interesting, we are trying to explain biostatistical concepts without any mathematical or technical details. Preparations are not required. Come to the class, listen lectures carefully, and think with us. You will get handouts after the class and go over the class every week. To understand biostatistical concepts, it is better to go over and over. Every class starts with a review of the previous class.					
[Course Goals]					
- Be familiar with biostatistical concepts - Understand causal relationship - Learn various epidemiologic study and clinical trial designs - Be able to explain basic statistical concepts					
[Course Schedule and Contents]					
1. Apr 10 Control 2. Apr 17 H. pylori and stomach cancer 3. Apr 24 Types of epidemiologic study designs 4. May 1 A post marketing clinical trial 5. May 8 Types of clinical trial designs 6. May 15 Measures of exposure and treatment effects 7. May 22 Concepts of statistical testing 8. May 29 Interpretation of confidence intervals 9. Jun 5 Sample size calculations 10. Jun 12 More on statistical tests 11. Jun 19 Validity of epidemiologic studies: Cohort studies 12. Jun 26 Validity of epidemiologic studies: Case-control studies 13. Jul 3 New epidemiologic study designs Jul 10 No Class 14. Jul 17 Confounding confounding					
[Class requirement]					
Classes are given in Japanese.					
Continue to 医療統計学 (コア) 【領域2】 (2) ↓ ↓					

医療統計学 (コア) 【領域2】 (2)
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]
Intermediate examination 30% Final report 70%
[Textbook]
Distribute handouts before each class.
[Reference books, etc.]
(Reference books) Sato T 『Space Phenom Shimarisu Learning Biostatistics』 (Iwanami Science Library 114) ISBN:978-4-00-007454-7 (In Japanese) Sato T 『Space Phenom Shimarisu Learning Statistical Tests』 (Iwanami Science Library 194) ISBN:978-4-00-29594-9 (In Japanese) Rothman KJ 『Epidemiology: An Introduction, 2nd ed.』 (Oxford University Press) ISBN:978-0-195-13554-1
(Related URLs)
http://www.kbs.med.kyoto-u.ac.jp/
[Regarding studies out of class (preparation and review)]
Review the contents of the previous class
(Others (office hour, etc.))
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course title <English>	感染症疫学 【領域3】 Infectious Disease Epidemiology	Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Professor, KIHARA MASAHIRO		
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Course offered year/period	2018/Intensive, First semester
Day/period	Intensive	Class style	Lecture	Language	English
[Outline and Purpose of the Course]					
This course will focus on history and current situation of infectious diseases in the world as well as theoretical basis of infectious disease epidemiology. We will also overview field epidemiology and measures for control and prevention of infectious diseases in Japan including surveillance system.					
[Course Goals]					
(1) To understand the infectious diseases in relation to the history of human being (2) To understand the current situation of infectious disease epidemic, its background and impacts. (3) To understand the biological and theoretical basis for infectious disease transmission (4) To understand the methods involved in field epidemiology (5) To understand the basics of infectious diseases control program in Japan.					
[Course Schedule and Contents]					
Thursday 2nd session					
June 7 History of human being and infectious diseases					
June 14 Infectious disease epidemiology in the world: current situation, background and impacts					
June 21 Global HIV epidemic and society					
June 28 HIV-tainted blood scandal in Japan: Stories of 2 victims *Two victims of HIV-tainted blood scandal will be invited to give talks (in Japanese).					
July 5 Basics of infectious disease epidemiology: Basics concept of transmission and of mathematical modeling of epidemic					
July 12 Field epidemiology-Part 1					
July 19 Field epidemiology-Part 2					
July 26 Infectious disease control programs in Japan					
Continue to 感染症疫学 【領域3】 (2) ↓ ↓					

感染症疫学 【領域3】 (2)
August 2 Examination
*Lectures will be also given by; • Pilar Sugimoto MD, PhD. Junior Associate Professor, Center for Medical Education Graduate School of Medicine, Kyoto University • Teeranee Techasrivichien MSc, PhD. Assistant Professor, Department of Global Health and Socio-epidemiology School of Public Health, Kyoto University • Patou M. Musumari, MD, PhD. Assistant Professor, Department of Global Health and Socio-epidemiology School of Public Health, Kyoto University
[Class requirement]
MPH elective but required
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]
Attendance 30 %, Exam 70% (To get credit 60% in total will be required)
[Textbook]
Not used No text book will be used.
[Reference books, etc.]
(Reference books) (1) Bonita R, Beaglehole R., Kjellström. Basic Epidemiology 2nd edition, WHO, 2006. (2) Kramer A, Kretzschmar M, Krickeberg. Modern infectious disease epidemiology: Concepts, methods, mathematical models and public health. Springer, 2010. (3) Nelson KE et al. Infectious Disease Epidemiology-Theory and practice. 2nd edition. Jones and Bartlett Publishers, 2007
[Regarding studies out of class (preparation and review)]
It is recommended to be familiar with the concept of case-control study design before the class on field epidemiology
(Others (office hour, etc.))
Room: 1F Seminar room in Science Frontier Laboratory TEL:4350 *Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course title <English>	産業・環境衛生学 【領域3】 Occupational health and environmental health sciences		Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Associate Professor, HARADA KOUII	
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Course offered year/period	2018/The first half of first semester
Day/period	Thu.2	Class style	Lecture	Language	Japanese and English
[Outline and Purpose of the Course]					
An overview of modern environmental problems and industrial health will be given to provide the basis of the risk assessment of chemicals for human health.					
[Course Goals]					
To have an overview of modern environmental problems and industrial health					
To understand dose-response relationship, LD50, threshold, inter-species difference and basic toxicology					
To acquire skills for risk assessment					
To acquire skills to describe the regulatory strategy to minimize the toxic effects of chemicals					
To predict major metabolism processes for representative chemicals					
[Course Schedule and Contents]					
Course Schedule 1 Apr 12 Guidance and general principle Environmental Health Sciences 2 Apr 19 Climate 3 Apr 26 Water pollution 4 May 10 Air pollution 5 May 17 Occupational health 6 May 24 Gene and environment 7 May 31 Examination 8 Aug 9 Additional topic					
[Class requirement]					
Required					
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]					
Attendance and active participation in the lecture 50% Examination 50 %					
Continue to 産業・環境衛生学 【領域3】(2) ↓ ↓ ↓					

産業・環境衛生学 【領域3】(2)	
[Textbook]	
Handouts	
[Reference books, etc.]	
(Reference books)	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
"Occupational health and environmental health sciences", "Introduction to Toxicology", "Toxicology" and "On the Bench Training" are in series. Those who wish to take "Toxicology" and "On the Bench Training" should take "Occupational health and environmental health sciences".	
(Others (office hour, etc.))	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	医療制度・政策 【領域4】 Healthcare System and Policy		Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Professor, IMANAKA YUJI Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, OOTSUBO TEISUYA	
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Course offered year/period	2018/Intensive, First semester
Day/period	Intensive	Class style	Lecture	Language	Japanese
[Outline and Purpose of the Course]					
This course facilitates the understanding of fundamental matters and important issues in Japan's healthcare system and policies across various settings, which span from individual healthcare institutions to national and municipal governments. <Content> - Policies, systems, projects, and developments in health care and welfare - Healthcare funding - Healthcare systems (provision, insurance, and payment) and healthcare costs - Management systems and policies in healthcare quality, safety, and efficiency - Healthcare evaluations - Various healthcare-related plans, including regional healthcare initiatives and plans - Structural framework of healthcare management: Organization and finances					
[Course Goals]					
<ul style="list-style-type: none"> Students will understand and be able to explain key issues in healthcare systems, policies, and management, including the relevant history, current situation, theories and concepts, research and evaluation methods, as well as problems and measures. Students will also be able to systematically and critically interpret the significance of fundamental research and social systems. Students will be able to apply relevant knowledge to solve problems in public health research and practice. 					
[Course Schedule and Contents]					
1. June 06 Healthcare policies: National finances and health care 2. June 13 Health care and financial resources: Insurance systems 3. June 27 Policies and administration: Healthcare quality and safety 4. July 04 Health policies: Determinants of health 5. July 11 Frameworks to understand evidence-based policies and overall systems 6. July 18 The use of economic evaluations and HTA in health care in Japan and other countries 7. July 25 Healthcare policy development process: Regarding regional healthcare initiatives Note: This schedule is subject to change. Overview of the schedule will be shown at the first day.					
Continue to 医療制度・政策 【領域4】(2) ↓ ↓ ↓					

医療制度・政策 【領域4】(2)	
[Class requirement]	
This course is open to Students in School of Public Health.	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]	
1. Report (70%) 2. Classroom participation (30%)	
[Textbook]	
Reading materials will be distributed as needed.	
[Reference books, etc.]	
(Reference books) <ul style="list-style-type: none"> 医療制度・医療政策・医療経済 (丸善出版,2013) Handbook of Health Services Research (Springer Science+Business Media) 病院の教科書 (医学書院,2010) 医療安全のエビデンス - 患者を守る実践方策 (医学書院,2005) 医療の原価計算 (社会保険研究所,2003) Economics for Health Care Management (Prentice Hall,1998) 	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Both good preparation and review are needed.	
(Others (office hour, etc.))	
Our department has been accepting graduate students who are interested in research related to health care policies, health care management, and health care quality/safety/cost. (http://med-econ.umin.ac.jp/int/)	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	社会健康医学と健康政策 【領域4】 Health Policy and Academia		Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUUICHI Graduate School of Medicine Professor,KAWAKAMI, KOJI Graduate School of Medicine Professor,SATO TOSIYA Graduate School of Medicine Professor,FUKUHARA SHUNICHI Associate Professor,WADA TAKAHITO Graduate School of Medicine Professor,NAKAYAMA TAKEO Graduate School of Medicine Associate Professor,WATANABE NORIO Graduate School of Medicine Assistant Professor,MUSUMARI PATOUMASIKKA Center for Southeast Asian Studies Professor,NISHIBUCHI MITSUAKI Graduate School of Medicine Associate Professor,IWAKUMA MIHO Graduate School of Medicine Program-Specific Professor,SAOTOME CHIKAKO Kyoto University Hospital Program-Specific Associate Professor,YAMADA TAKAHIRO		
	Target year	Professional degree students		Number of credits	2	Course offered year/period
Day/period	Thu.3	Class style	Lecture	Language	Japanese and English	
[Outline and Purpose of the Course]						
Students will learn about health and healthcare-related systems and policies, as well as the supporting roles of research, human resource development, and other specialized activities. Lectures will be conducted by each of the departments in the School of Public Health based on their individual perspectives, insight, achievements, and research. The lectures will address the systems, policies, and social structures associated with health and health care. In addition, the lectures will examine the contributions of research, human resource development, and other specialized activities that support these systems, policies, and social structures.						
[Course Goals]						
Through all the lectures provided by the various departments, students will gain a multifaceted and comprehensive understanding of the systems and policies pertaining to health and health care.						
[Course Schedule and Contents]						
April 12 Public Health and Health Policy: Overview April 19 Health communication and health policy April 26 Global mental health May 10 Modern history of health policies May 17 Making of air quality standard						
Continue to 社会健康医学と健康政策 【領域4】 (2) ↓ ↓						

社会健康医学と健康政策 【領域4】 (2)	

May 24	Policies and regulations in occupational health
May 31	Infant and school health check-up for individual and health policy development
June 07	Primary care for healthy aging
June 14	Food poisoning and its prevention: importance of international perspective
June 21	Maternal and child health—system and policy in Japan
June 28	Global health policy
July 05	Preventive measures for adults: specific health guidance and cancer screening
July 12	Public Health and Intellectual Property
July 19	Community and Public Health
July 26	Health policy: theory, research and reality
Note: This schedule is subject to change. Overview of the schedule will be shown at the first day.	
[Class requirement]	
This course is only open to Students in School of Public Health.	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]	
1. Report (70%) 2. Classroom participation (30%)	
[Textbook]	
Reading materials will be distributed as needed.	
[Reference books, etc.]	
(Reference books) Reading materials will be distributed as needed.	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Both good preparation and review are needed.	
(Others (office hour, etc.))	
This course is jointly conducted by the entire School of Public Health. *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	医薬政策・行政 【領域4】 Drug Policy and Regulation		Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor,KAWAKAMI, KOJI		
	Target year	Professional degree students		Number of credits	1	Course offered year/period
Day/period	Wed.2	Class style	Lecture	Language	Japanese and English	
[Outline and Purpose of the Course]						
Director and Instructors: (Director) Koji Kawakami (Professor, Pharmacoepidemiology), Meguro Yoshiro (MHLW), Yasuhiro Nishijima (MHLW), Christian Elze (Catenion), Keisuke Matsubayashi (Assistant Professor, Pharmacoepidemiology.) The policy and regulatory systems in Japan, EU, and the US involving healthcare, safety, science, food safety, and industry will be discussed.						
[Course Goals]						
To understand the ideas of drug/medical device/food policy and regulations; medical industrialization and translational research policy.						
[Course Schedule and Contents]						
Lecture schedule : October 3 Drug policy and regulations (Kawakami) October 10 Drug regulation in the United States (Kawakami) October 17 Drug regulation in Japan (Meguro) October 24 Food safety regulations (Nishijima) October 31 Policy and development of medical devices (Kawakami) November 7 Healthcare Systems - Challenges and Reform (Elze) November 14 Development of advanced drugs (Matsubayashi)						
[Class requirement]						
You must take this course along with the course H079 "Drug Development, Evaluation and Regulatory Sciences" otherwise the entire grasp of the drug research, development, and regulations will not be achieved.						
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]						
Participation (50%) and report (50%)						
[Textbook]						
Suggested reading: Saeko Yasuo et al. Invitation to new drug development. Kyoritsu Press, 2006 (Japanese). Koji Kawakami (ed.) The Beginner's guidance to the clinical research and development. Medical Do, 2010 (Japanese).						
Continue to 医薬政策・行政 【領域4】 (2) ↓ ↓						

医薬政策・行政 【領域4】 (2)	

[Reference books, etc.]	
(Reference books) Introduced during class	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Preparation in advance and review after lecture	
(Others (office hour, etc.))	
Koji Kawakami (3F, Bldg G) appointment required by email. e-mail: kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp intermediate *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	保健・医療の経済評価 【領域4】 Economic Evaluation in Health Care		Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUJIICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,OOTSUBO TETSUYA	
	Target year	Professional degree students		Number of credits	1
Day/period	Wed.3	Class style	Lecture	Language	Japanese and English
[Outline and Purpose of the Course]					
<ul style="list-style-type: none"> Lectures will address the theories and frameworks that support economic evaluations in health care, and students will learn the major research methods used in evaluating healthcare-related economic performance. Economic evaluations of health care are usually conducted under practical constraints, and students will learn the approaches to conducting research under these conditions. This course will examine economic evaluations in a wide range of healthcare-related topics. 					
[Course Goals]					
<ul style="list-style-type: none"> Students will be able to explain key issues in the theories, frameworks, and research methods that support economic evaluations in health care. Students will understand the possible biases associated with research involving economic evaluations of health care. Economic evaluations are conducted on various aspects of health care, including treatment techniques, pharmaceuticals, medical supplies, medical examinations, and health policy programs. Students will understand and be able to explain the differences and respective applications of the main research methods used in these evaluations, including cost analyses, cost-effectiveness analyses, cost-utility analyses, and cost-benefit analyses. Students will also learn the core concepts of cost calculations and outcome measurements, time-based concepts, discount rates, sensitivity analyses, incremental cost-effectiveness ratios, and the appropriate interpretation of analytical results. Based on the above, students will be able to conduct critical reviews of research articles in this field and explain their significance. Students will also be able to apply their acquired knowledge and techniques when developing research protocols and conducting research. 					
[Course Schedule and Contents]					
<ol style="list-style-type: none"> April 11 Evaluating the economic performance of health care 1 April 18 Evaluating the economic performance of health care 2 April 25 Economic evaluation methods in health care May 02 Methodologies in cost-effectiveness and cost-utility analyses 1 May 09 Modeling in economic evaluations May 16 Methodologies in cost-effectiveness and cost-utility analyses 2 May 23 Economic evaluation in health care: Journal article review and discussion 1 May 30 Economic evaluation in health care: Journal article review and discussion 2 					
Note: This schedule is subject to change. Overview of the schedule will be shown at the first day.					
Continue to 保健・医療の経済評価 【領域4】 (2) ↓ ↓ ↓					

保健・医療の経済評価 【領域4】 (2)	
[Class requirement]	
This course is only open to Students in School of Public Health who are not involved in MCR course. Students in School of Human Health Sciences cannot apply for this course.	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]	
<ol style="list-style-type: none"> Report (70%) Classroom participation (30%) 	
[Textbook]	
Reading materials will be distributed as needed	
[Reference books, etc.]	
(Reference books) <ul style="list-style-type: none"> Drummond MF, et al. Methods for the Economic Evaluation of Health Care Programmes, 3rd Ed. Oxford, 2005. Myriam Hunink. Decision Making in Health and Medicine: Integrating Evidence and Values. Cambridge, 2001. 医療制度・医療政策・医療経済 (丸善出版,2013) Handbook of Health Services Research (Springer Science+Business Media) 	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Both good preparation and review are needed.	
(Others (office hour, etc.))	
<ul style="list-style-type: none"> Places available for students without former experiences of studying economics. Our department has been accepting graduate students who are interested in research related to health care policies, health care management, and health care quality/safety/cost. (http://med-econ.umin.ac.jp/int/) 	
<p>Note: Topics related to process and outcome measures, clinical practice variation, healthcare evaluations and assessments, hospital functional assessments, and healthcare quality & safety are included in the course "Evaluation of Quality in Health Care" (Wed.3, the last half of first semester). If you would like to learn about these topics, consider to apply for this course.</p> <p>*Please visit KULASIS to find out about office hours.</p>	

Course title <English>	世界における医療制度・政策 【領域4】 Healthcare Systems and Policies around the World		Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUJIICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,OOTSUBO TETSUYA	
	Target year	Professional degree students		Number of credits	1
Day/period	Intensive	Class style	Lecture	Language	English
[Outline and Purpose of the Course]					
Through studies of various healthcare systems, the students will learn mechanisms how they work and strategic options how to improve them. A healthcare system is a social system with multiple functions, multiple players and multiple drivers to change.					
[Course Goals]					
<ol style="list-style-type: none"> To understand frameworks to grasp and assess healthcare systems To understand and assess various healthcare systems around the world To understand strategic options how to improve them 					
[Course Schedule and Contents]					
<ol style="list-style-type: none"> Apr 11 Universal Health Coverage & Health Care System in Japan Apr 18 International Comparative Analyses of Health Systems Apr 25* Health Insurance in Japan May 02* International Support for Strengthening Health System May 09* Evidence-Based-/Informed Policy May 16* Community Based Integrated Care System May 23* Health Informatics and (Health) Policy May 30 Group work & Presentation 					
*Includes students' short presentations about the healthcare system of their own country					
Note: This schedule is subject to change.					
[Class requirement]					
<ul style="list-style-type: none"> non-Japanese speakers Japanese with TOEFL iBT score ≥ 100 					
Continue to 世界における医療制度・政策 【領域4】 (2) ↓ ↓ ↓					

世界における医療制度・政策 【領域4】 (2)	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]	
Classroom participation (40%) Presentation (30%) Report (30%)	
[Textbook]	
Reading materials will be distributed as needed.	
[Reference books, etc.]	
(Reference books) <ul style="list-style-type: none"> Tracking Universal Health Coverage #8211First Global Monitoring Report #8211 (WHO,2015) The World Health Report 2000- Health Systems: Improving Performance (WHO,2000) 	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Good preparation and review are necessary	
(Others (office hour, etc.))	
<p>Our department has been accepting graduate students who are interested in research related to health care policies, health care management, and health care quality/safety/cost. (http://med-econ.umin.ac.jp/int/)</p> <p>*Please visit KULASIS to find out about office hours.</p>	

Course title -<English>	行動科学 【領域5】 Behavioral Science	Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Associate Professor, WATANABE NORIO Graduate School of Medicine Professor, FURUKAWA TOSHIAKI Graduate School of Medicine Assistant Professor, OGAWA YUSUKE			
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Course offered year/period	2018/The first half of first semester	
Day/period	Tue.1	Class style	Lecture	Language	Japanese and English	
[Outline and Purpose of the Course]						
I. Course Description This course will introduce outlines of representative behavior theories/concepts, with particular focus on those which have demonstrated effectiveness in practices.						
II. Methods of Instruction Lecture, group discussion						
[Course Goals]						
<ul style="list-style-type: none"> To be able to explain the outlines of representative behavioral theories. To be able to apply behavioral theories in the areas in which the participants are interested. 						
[Course Schedule and Contents]						
April 17 Introduction, Health belief model April 24 Trans-theoretical model, Theory of planned behavior May 1 Social cognitive model May 15 Cognitive-behavioral model, Cognitive behavioral therapy May 22 Stress and coping May 29 Psychiatric symptoms, behavioral disorders June 12 Overview (1) June 19 Overview (2), Examination						
[Class requirement]						
MPH Elective but Required						
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]						
Participation 50%, Examination 50% (To get credit 60% in total will be required)						
[Textbook]						
lecture materials						
[Reference books, etc.]						
(Reference books) Required text: None.						
----- Continue to 行動科学 【領域5】(2) ↓ ↓ ↓						

行動科学 【領域5】(2)						
Suggested reading: <ul style="list-style-type: none"> Glanz et al. Health behavior and health education-theory, research and practice 4th edition, Jossey-Bass, San Francisco, 2008 Matsumoto et al. Basics of health behavior theories for medical and welfare personnel. (医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎)、医歯薬出版、2002 						
[Regarding studies out of class (preparation and review)]						
Review lessons.						
(Others (office hour, etc.))						
The class is not open to students from Graduate School of Human Health Science. *Please visit KULASIS to find out about office hours.						
----- Continue to 医学コミュニケーション・基礎 【領域5】(2) ↓ ↓ ↓						

Course title -<English>	基礎医療倫理学 【領域5】 Basic Medical Ethics	Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Professor, KOSUGI SHINJI			
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Course offered year/period	2018/The first half of first semester	
Day/period	Thu.5	Class style	Lecture	Language	Japanese and English	
[Outline and Purpose of the Course]						
This course is aimed to study ethical points of view for practice and research of public health.						
[Course Goals]						
Able to explain major theories for medical ethics. Able to write documents for one's research appropriately for the purpose of evaluation at ethics committee. Able to explain ethical problems on healthcare of children and patients on terminal stage, and research on genetics.						
[Course Schedule and Contents]						
April 19 Important theories for medical ethics April 26 Ethics for terminal care May 10 Ethics for neonates and children (1) May 17 Research ethics and ethics committee May 24 History of bioethics May 31 Personal information protection, research misconduct and conflict of interest June 7 Ethics for OB/GYN June 14 Ethics for neonates and children (2)						
[Class requirement]						
None						
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]						
General attitude (including attendance): 40% Report: 60%						
[Textbook]						
Not used						
[Reference books, etc.]						
(Reference books)						
[Regarding studies out of class (preparation and review)]						
Report deadline <ul style="list-style-type: none"> Middle report: 5/18 Final report: 6/30 						
(Others (office hour, etc.))						
*Please visit KULASIS to find out about office hours.						
----- Continue to 医学コミュニケーション・基礎 【領域5】(2) ↓ ↓ ↓						

Course title -<English>	医学コミュニケーション・基礎 【領域5】 Medical Communication: Introduction	Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Associate Professor, IWAKUMA MIHO			
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Course offered year/period	2018/The first half of first semester	
Day/period	Tue.5	Class style	Lecture	Language	Japanese and English	
[Outline and Purpose of the Course]						
I. Course Description The course provides an introduction to medical communication, both its theoretical frameworks and applications, for those from diverse interests, backgrounds, and/or disciplines.						
[Course Goals]						
II. Course Goals and Objectives <ul style="list-style-type: none"> Understand frameworks, theories, and concepts that are relevant to medical communication Understand socio-cultural characteristics in medicine (using sociology and communication perspectives) 						
[Course Schedule and Contents]						
1) 4/10 Course introduction + getting to know 2) 4/17 Medicine, society, and communication 1 3) 4/24 Medicine, society, and communication 2 4) 5/1 Guest lecture on History of Psychiatric medicine 5) 5/8 Many "times & spaces": non-verbal communication, continued 6) 5/15 Nuts and bolts of communication studies: verbal, non-verbal, and channel 7) 5/22 TBA 8) 5/29 Course-wrap up						
[Class requirement]						
None						
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]						
Course Grade Participation 50% Term paper 50% "one-word declaration" 5% + title of the paper 10% + final version 35%						
----- Continue to 医学コミュニケーション・基礎 【領域5】(2) ↓ ↓ ↓						

医学コミュニケーション・基礎 【領域5】(2)
[Textbook] Not used
[Reference books, etc.] (Reference books)
[Regarding studies out of class (preparation and review)] students are recommended to read readings of communication studies that are related to his or her interests.
(Others (office hour, etc.)) Message This instructor differentiates "health communication," which is mainly interested in doctor-patient communication, from "medical communication" with a broader, sociological focus; therefore, it is recommended that when interested in the aforementioned doctor-patient communication, s/he take other SPH classes. Suitable for students who are interested in social science perspectives in medicine and science Consult with me ASAP for any disability-related accommodation @ mhiwakuma@yahoo.co.jp or ext. 4668. A guest lecture is given in Japanese provided with an English handouts. *Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course title <English>	医学基礎 I Basic Medicine I	Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor,FUKUHARA SHUNICHI Part-time Lecturer:HAGIWARA NOBUKO
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Day/period	Wed.1	Class style	Lecture
Course offered year/period	2018/First semester		
Language	Japanese and English		
[Outline and Purpose of the Course]			
Director and Instructors: Nobuko Hagiwara (Professor, Kyoto Notre Dame University) This course introduces the basics of human anatomy, physiology, endocrinology, biochemistry, immunology as a basis for the understanding of human diseases.			
[Course Goals]			
<ul style="list-style-type: none"> • To understand the basics of life phenomenon and structures of human body (cells, tissues, organs, organ systems) and understand the importance of body fluid. • To understand the basics of homeostasis and biological rhythm • To understand the endocrine system • To understand the reproductive system • To understand the components of the blood and their functions and the coagulation system • To understand the respiratory system • To understand the mechanism of formation of urine and excretion • To understand the regulation mechanism of the body temperature • To understand the defense mechanisms of the body and immunology 			
[Course Schedule and Contents]			
Course Schedule (* Schedule may be changed) 1 April 11 Chap 2 Homeostasis and Biological rhythm Chap 1 Cell, tissues, organ system 2 April 18 Chap 8 Body Fluid, Chap 15 Endocrine system, Introduction 3 April 25 Chap 15 Endocrine system 1 4 May 2 Chap 15 Endocrine system 2 5 May 9 Chap 16 Reproductive system 6 May 16 Chap 7 Blood 7 May 23 Chap 10 Respiratory system Introduction, Respiratory system 1 8 May 30 Chap 10 Respiratory system 2 9 June 6 Chap 13 Urinary system Introduction, Urinary system 1 10 June 13 Chap 13 Urinary system 2 11 June 27 Chap 14 Regulation of body temperature 12 July 4 Chap 9 Biological protection 13 July 11 Chap 11 Digestive system Introduction, Digestive system 1 14 July 18 Chap 11 Digestive system 2 15 July 25 Overview (Written examination)			
Continue to 医学基礎 I(2) ↓ ↓ ↓			

医学基礎 I(2)
[Class requirement] First Semester, Required for students without medical background
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation] Attitude 30%, Examination 70%
[Textbook] Required reading: Please purchase the following textbook before class starts. ・内田さえ・佐伯由香・原田玲子 編著「人体の構造と機能 第4版」発行年月：2015年1月 医歯薬出版
[Reference books, etc.] (Reference books) Suggested readings: ・A.シエアラ、S.シュミット(三木明徳、井上寛典訳)、からだの構造と機能、西村書店、2002 ・浦野哲盟、窪田隆裕、丸中良典他6名、人体生理学、朝倉書店、2006 ・小澤静司、福田康一郎総編集、標準生理学、医学書院、2014
[Regarding studies out of class (preparation and review)] Preparation in advance and review after lecture
(Others (office hour, etc.)) Shunichi Fukuhara (Education Committee Chairman, Professor, Department of Healthcare Epidemiology; fukuhara.shunichi.6m@kyoto-u.ac.jp) ※The class is open to students from Graduate School of Human Health Science. *Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course title <English>	医学基礎 II Basic Medicine II	Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor,FUKUHARA SHUNICHI Kyoto University Hospital Program-Specific Professor:UESHIMA KENJI
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Day/period	Thu.2	Class style	Lecture
Course offered year/period	2018/Second semester		
Language	Japanese and English		
[Outline and Purpose of the Course]			
Director and Instructors: Kenji Ueshima(Professor, Department of EBM research, Institute for Advancement of Clinical and translational Science, Kyoto University Hospital) Masanori Hosokawa(Professor, The Department of Nursing, Kyoto Koka Women's University) This course introduces the basics of human anatomy, physiology, endocrinology, biochemistry, immunology as a basis for the understanding of human diseases.			
[Course Goals]			
<ul style="list-style-type: none"> • To understand the basics of circulatory system • To understand the basics of age-associated disorders. • To understand the basics of the structure and function of nervous system 			
[Course Schedule and Contents]			
Course Schedule (*Schedule may be changed) 1 Oct 4 Circulatory system (Introduction) 2 Oct 11 Circulatory system 1 (valvular heart disease, congenital heart disease, and vascular disease) 3 Oct 18 Circulatory system 2 (ischemic heart disease and emergency medicine) 4 Oct 25 Circulatory system 3 (hypertension and arrhythmia) 5 Nov 1 Biomedical gerontology 1 (Senescence and age-associated disorders) 6 Nov 8 Biomedical gerontology 2 (Geriatric syndrome) 7 Nov 15 Biomedical gerontology 3 (Metabolic syndrome) 8 Nov 22 Biomedical gerontology 4 (Locomotive syndrome) 9 Nov 29 Biomedical gerontology 5 (Sarcopenia and Frailty) 10 Dec 6 Pathology 1 (Senescence-associated secretory phenotype) 11 Dec 13 Pathology 2 (Animal model of diseases) 12 Dec 20 Pathology 3 (Cell structure and function in CNS 1) 13 Dec 27 Pathology 4 (Cell structure and function in CNS 2) 14 Jan 10 Neuroscience 1 (Dementia) 15 Jan 17 Neuroscience 2 (Periventricular leukomalacia)			
[Class requirement] Second Semester, Required for students without medical background			
Continue to 医学基礎 I(2) ↓ ↓ ↓			

医学基礎 II(2)
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]
Attitude & Attendance 30%, Reports 70%
[Textbook]
Not used
[Reference books, etc.]
(Reference books) Suggested readings: ・佐藤昭夫、佐伯由香編、人体の構造と機能、医歯薬出版、2006。 ・テイボド、バットン(コメディカルサポート研究会訳)、カラーで学ぶ解剖生理学、医学書院、2002。 ・A.シェフラー、S.シュミット(三木明徳、井上忠実訳)、からだの構造と機能、西村書店、2002。 ・クロスマン、ネアリー(野村嶺、水野昇訳)、神経解剖カラーテキスト 第2版、医学書院、2008。 ・大地陸男(著)、生理学テキスト、文光堂、2013。 ・福田康一郎(監修)、標準生理学、医学書院、2014。 ・Eric Kandel、James Schwartz 他、Principles of Neural Science 5th edition、McGraw-Hill Professional、2012。(日本語版)金澤一郎、宮下保司(監修)、カandel神経学、メディカルサイエンスインターナショナル、2014。 ・泰羅雅登、中村克樹(監修、翻訳)、カールソン神経科学テキスト 脳と行動、丸善出版、2013。
[Regarding studies out of class (preparation and review)]
Preparation in advance and review after lecture
(Others (office hour, etc.))
Shunichi Fukuhara (Education Committee Chairman, Professor, Department of Healthcare Epidemiology; fukuhara.shunichi.6m@kyoto-u.ac.jp)
※The class is open to students from Graduate School of Human Health Science.
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course title <English>	臨床医学概論 Introduction to Clinical Medicine	Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Professor, FUKUHARA SHUNICHI
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Course offered year/period	2018/Second semester		
Day/period	Wed.4	Class style	Lecture
Language	Japanese and English		
[Outline and Purpose of the Course]			
Instructors: Session 1 through 6 : Hiroki Watanabe Session 7 through 15: Tsutomu Chiba			
This course will offer introductory level of modern clinical medicine, in order to facilitate collaboration between healthcare specialists (i.e. medical doctors, nurses, or other professionals working on healthcare, public health, or social welfare) and students without previous experience in health care field. Lectures will cover disorders of major organ systems, focused on their etiology, treatment, prevention, as well as their societal impact, to help understand recent and historical public health issues, such as population, environment, or aging society.			
[Course Goals]			
<ul style="list-style-type: none"> To understand the roles and the problems of the clinical medicine and health care in Japan from the societal perspective. Can discuss the current situation and future perspectives of modern medical science and healthcare. 			
[Course Schedule and Contents]			
Course Schedule (subject to change)			
1 October 3 Human, society and diseases 2 October 10 History of the treatment for urinary bladder stones 3 October 17 Medicine, education, medical care 4 October 24 Introduction to toxicology and narcotic drugs 5 October 31 New era for preventive oncology 6 November 7 Overview of renal and urological disorders 7 November 14 Overview of brain and nervous system disorders 8 November 21 Spinal cord/brain stem and their disorders 9 November 28 Motor control system and its disorders 10 December 5 Sensory system and its disorders 11 December 12 Regulatory system and its disorders 12 December 19 Emotion/reward system and drug abuse 13 December 26 Higher brain disfunction 14 January 9 Neuromyth and its influence 15 January 16 Group presentation and wrap-up			
#1 through #6 and #15: Professor Watanabe, #7 through #15: Professor Chiba			
Continue to 臨床医学概論(2) ↓ ↓ ↓			

臨床医学概論(2)
[Class requirement]
Second Semester, Required for students without medical background
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]
Attitude & Attendance 50%, Report 50%
[Textbook]
Necessary course materials will be distributed in class.
Suggested readings (not mandatory) : ・河田光博、武田英二編、臨床医学入門 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 第2版 (栄養科学シリーズNEXT)、講談社サイエンスフィク、2009。 ・渡辺決、勝見泰和、山村義治編、チーム医療従事者のための臨床医学全科、金芳堂、2006。
[Reference books, etc.]
(Reference books) (Reference books) ・Harrison's Internal Medicine 19th edition, McGraw Hill Education ・Goldman-Cecil, Medicine, 25th edition, Elsevier ・ガイドン 生理学、エルセヴィアジャパン ・ハーバー 生化学、丸善 ・渡辺決 良性がんの発見一過剰診断時代の予防がん学一、晶文社、2018
[Regarding studies out of class (preparation and review)]
Preparation in advance and review after lecture
(Others (office hour, etc.))
Shunichi Fukuhara (Education Committee Chairman, Professor, Department of Healthcare Epidemiology; fukuhara.shunichi.6m@kyoto-u.ac.jp)
※Attendance of the students with medical background will also be welcomed. The class is open to students from Graduate School of human Health Science.
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course title <English>	社会疫学 I Socio-epidemiology I	Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Associate Professor, KIHARA MASAKO
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Course offered year/period	2018/First semester		
Day/period	Mon.3	Class style	Lecture
Language	Japanese and English		
[Outline and Purpose of the Course]			
"Socio-epidemiology" is a new public health discipline first established in Kyoto University School of Public Health in 2000 that encompasses epidemiology and social sciences, or quantitative and qualitative research methods to facilitate ecological or socio-cultural understanding of health by utilizing multidisciplinary approach. In the first term, students will learn about study design issues relevant to socio-epidemiology such as social marketing, behavioral science, non-probability sampling methods, and (quasi-)experimental designs. In the second term, a series of lectures and workshops will be provided on qualitative research methods such as focus group interviews and qualitative data analysis. Throughout these courses students are expected to acquire an integrated view on socio-epidemiology and lay a solid foundation for the future research.			
[Course Goals]			
<ol style="list-style-type: none"> To understand the importance of social marketing approach in behavioral prevention. To understand the difference between commercial marketing and social marketing To understand the importance of behavioral/communication theories in designing prevention program. To understand the complementary role of qualitative and quantitative research in prevention. To understand a variety of sampling methods and (quasi-)experimental designs. 			
[Course Schedule and Contents]			
1. April 09 Mon.3 Introduction 2. April 16 Mon.3 Socio-epidemiology and the history of social/natural science 3. April 23 Mon.1 Social marketing (1): Basic concepts and behavioral theories 4. May 07 Mon.3 Social marketing (2): Formative research 5. May 14 Mon.3 Social marketing (3): Product formation-Part 1 6. May 21 Mon.3 Social marketing (4): Product formation -Part 2 7. May 28 Mon.3 Social marketing (5): Promotion-Part 1 8. June 04 Mon.3 Social marketing (6): Promotion-Part 2 9. June 11 Mon.3 Sampling methods and experimental designs (1) 10. June 18 Mon.3 Sampling methods and experimental designs (2) 11. June 25 Mon.3 Socio-epidemiological study design practicum (1) 12. July 02 Mon.3 Socio-epidemiological study design practicum (2) 13. July 09 Mon.3 Socio-epidemiological study design practicum (3) 14. July 23 Mon.3 Socio-epidemiological study design practicum (4) 15. To be scheduled Discussion			
*Note: Please keep in mind that lecture content and schedule are subjected to change according to the students' needs and progress.			
Continue to 社会疫学 I(2) ↓ ↓ ↓			

社会疫学 I(2)	
[Class requirement]	
MPH Elective MCR recommended GC recommended	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]	
Attendance 30%, Class assignment 40%, Examination 30%	
[Textbook]	
Not used	
[Reference books, etc.]	
(Reference books)	
References 1. Andreason AR. Marketing social change. Jossey-Bass, San Francisco, 1995 2. Stephen I, Michael WB. Handbook in research and evaluation. 3rd ed., EdITS, San Diego, CA	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
not in particular	
(Others (office hour, etc.))	
It is desirable to take both socio-epidemiology I(1st term) & II(2nd term) since they are complementary.	
Students who are going to be involved in disease prevention in future or those who have a real interest in prevention practice are expected to attend this course.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	医療統計学実習 Introduction to Statistical Computing and Data Management	Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Professor.SATO TOSIYA Graduate School of Medicine Assistant Professor.YONEMOTO NAOHIRO
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Day/period	Tue.3,4	Class style	Practical training
Course offered year/period		Language	Japanese
[Outline and Purpose of the Course]			
The objective of this practice course is to feel and experience biostatistical concepts talked in morning lectures. It may help your clear understanding of biostatistics. Using the statistical software JMP, you learn tabulations, analyses, and simple programming. Access to the following web page, read instructions carefully, download and install JMP software into your note PC. http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/			
[Course Goals]			
- Understand the importance of data check and data management - Be familiar with word processing, tabulation, and presentation software - Conduct simple statistical analyses using a statistical software JMP			
[Course Schedule and Contents]			
1. Apr 10 Introduction and using tabulation software 2. Apr 17 Using statistical software JMP 3. Apr 24 Group practice 1 4. May 1 Group practice 2 5. May 8 Group practice 3 6. May 15 Group practice 4: Presentations 7. May 22 Randomization 8. May 29 Measures of effects 9. Jun 5 Statistical testing and meaning of the null hypothesis 10. Jun 12 Confidence intervals 11. Jun 19 Analyses of 2 by 2 tables 12. Jun 26 Sample size calculations 13. Jul 3 Random sampling 14. Sep 18 Presentations 1 15. Sep 19 Presentations 2			
[Class requirement]			
- Because of space limitation, students in School of Public Health have priority. - This course has presentations on September.			
Continue to 医療統計学実習(2) ↓ ↓ ↓			

医療統計学実習(2)	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]	
- Submit your report at every class - A group presentation - Personal presentation on September	
[Textbook]	
- Distribute handouts in every class	
[Reference books, etc.]	
(Reference books)	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Submit your report at every class for your review	
(Others (office hour, etc.))	
- You cannot join after the class has started.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	観察研究の統計的方法 Statistical Methods in Observational Studies	Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Professor.SATO TOSIYA Graduate School of Medicine Program-Specific Professor.TANAKA SHIROU Graduate School of Medicine Assistant Professor.YONEMOTO NAOHIRO
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Day/period	Intensive	Class style	Lecture
Course offered year/period		Language	Japanese
[Outline and Purpose of the Course]			
臨床研究と疫学研究では様々な観察研究が行われています。臨床試験に代表される実験研究を実施できない状況は数多くあり、観察研究は臨床研究・疫学研究において重要な役割を演じています。しかし、観察研究は実験研究とことなっており、さまざまなバイアスが入りやすく、観察研究に特有の留意すべき事項も多くあります。 本コースでは観察研究のデザイン、統計解析の方法を解説し、観察研究を計画、実施、解析ならびに報告するための統計学の知識を習得することを目標とします。			
【6月8日、15日、22日、29日（金）の集中講義】			
[Course Goals]			
・バイアスを避けるための研究デザイン上の工夫を理解する ・バイアスを調整するための統計的方法を理解する ・観察研究における因果推論の考え方を理解する ・様々な研究デザインによる対象者のサンプリング方法と解析方法を理解する			
[Course Schedule and Contents]			
集中講義6月8日、15日、22日、29日（金）3限～6限（29日のみ3限・4限）			
第1回 6月8日 3限 2×2表の数理と解析 第2回 6月8日 4限 観察研究におけるバイアス 第3回 6月8日 5限 層別解析 第4回 6月8日 6限 演習1 第5回 6月15日 3限 マッチング 第6回 6月15日 4限 一般化線形モデル 第7回 6月15日 5限 生存時間解析 第8回 6月15日 6限 演習2 第9回 6月16日 3限 新しい疫学研究デザイン1 第10回 6月16日 4限 新しい疫学研究デザイン2 第11回 6月16日 5限 ベイズ流の解析 第12回 6月16日 6限 演習3 第13回 6月23日 3限 傾向スコアによる解析 第14回 6月23日 4限 操作変数法			
Continue to 観察研究の統計的方法(2) ↓ ↓ ↓			

観察研究の統計的方法(2)	
[Class requirement] ・統計学の基本的な知識（尤度、漸近分散、確率分布、など）を前提とした難しいコースなので、前期「統計的推測の基礎」を履修済みであること ・受講希望者は登録前に必ず相談してください ・人間健康科学系専攻の学生の受け入れはしていません	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation] 数値・解析に関する演習のレポート	
[Textbook] 毎回講義資料を配布します。	
[Reference books, etc.] (Reference books) 佐藤俊哉 『宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ 検定の巻』(岩波書店) ISBN:978-4-00-029594-9 宮原英夫、丹後俊郎 『医学統計学ハンドブック』(朝倉書店) ISBN:978-4-254-12099-0 Rothman KJ, Greenland S, Lash TL 『Modern Epidemiology, 3rd ed.』(Lippincott, Williams & Wilkins) ISBN:978-0-7817-5564-1	
[Regarding studies out of class (preparation and review)] 演習の課題を解くこと	
(Others (office hour, etc.)) *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	観察疫学研究 Observational Epidemiology		Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor,FUKUHARA SHUNICHI	
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Course offered year/period	2018/Intensive, First semester
Day/period	Intensive	Class style	Lecture	Language	Japanese and English
[Outline and Purpose of the Course] With current movement on "data-base research", the importance of observational epidemiology has been increasing. This course provides learning opportunity to learn basic theory and knowledge of observational epidemiology. This course does not cover interventional research.					
[Course Goals] Understand theory and methods in the following items; 1) Select the best research design taxonomy to answer RQ 2) Develop and validate scales to measure key variables 3) Design and conduct survey research 4) Understand the method of propensity score					
[Course Schedule and Contents] 1 June 1 Potential of observational epidemiology (Fukuhara) 2 June 15 Taxonomy of observational epidemiology research (Onishi) 3 June 22 (1st period) Design and practice of survey research(1) (Takegami) 4 June 22 (2nd period) Design and practice of survey research(2) (Takegami) 5 July 6 Theory and practice of propensity score method (Kawamura) 6 July 13 (1st period)Development and validation of measurement and scale (basic) (Iwata) 7 July 13(2nd period)Development and validation of measurement and scale (advance 1) (Wakita) 8 July 27 (8:45~10 : 00) Examination 9 August 3 (9:30~12:00) Development and validation of measurement and scale (advance2) (Wakita)					
[Class requirement] ・ MPH, MCR Required ・ You need to take or had taken ① + ② ① "Epidemiology (MPH core)" or "Epidemiology I " (MPH core) ② "Epidemiology II "					
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation] Attendance 40%, Examination 60%					
Continue to 観察疫学研究 (2) ↓ ↓ ↓					

観察疫学研究 (2)	
[Textbook] Instructed during class	
[Reference books, etc.] (Reference books) Fukuhara S. 『Guidepost for clinical research: Learning study design by 7 steps.』 (www.i-hope.jp/publication) Hulley S 『Designing Clinical Research 2nd ed.』 (William & Wilkins) Takegami M, Fukuhara S. 『Measuring and applying QOL.』 (www.i-hope.jp/publication)	
[Regarding studies out of class (preparation and review)] ・ Didactic lectures ・ Discussion at each lecture	
(Others (office hour, etc.)) ・ This class is not open to students form Graduate School of Human Health Science ・ June 22, July 13: Lecture will be held for 1st and 2nd terms. *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	研究デザイン演習 Practicum in Research Design		Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor,FUKUHARA SHUNICHI	
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Course offered year/period	2018/First semester
Day/period	Fri.2 開講日注意	Class style	Seminar	Language	Japanese and English
[Outline and Purpose of the Course] This course will provide basic procedure or practical skills to conduct a healthcare research, except qualitative research.					
[Course Goals] To convert vague questions to structured abstracts. 1) To convert vague questions to answerable and structured research questions (RQ) 2) To convert RQ into conceptual model 3) To understand the third factors and bias 4) To understand concepts or how to convert concepts into measurable variables 5) To select the adequate study design to fit your RQ 6) To design and conduct survey research					
[Course Schedule and Contents] 1 April 20 Structuring your RQ/FIRMNESS check 2 April 27 Dealing with confounding factors 3 May 18 Structuring Group's RQ 4 May 25 Designing measurement 5 June 1 Dealing with bias 6 June 15 Selecting research design 7 July 6 Conducting survey research 8 July 20 (1st and 2nd period) Groups'presentation: Protocol outline					
[Class requirement] ・ MPH Elective, MCR Required ・ You need to take or had taken ① + ② + ③ ① "Epidemiology" or "Epidemiology I " ② "Epidemiology II " ③ "Observational research"					
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation] Perspiration in small group learning 50%, Presentation about protocol outline 50%,					
Continue to 研究デザイン演習 (2) ↓ ↓ ↓					

研究デザイン演習 (2)	

[Textbook]	
Instructed during class	
[Reference books, etc.]	
(Reference books) Fukuhara S. 『Guidepost for clinical research: Learning study design by 7 steps』 (www.i-hope.jp/publication) Hulley S 『Designing Clinical Research 2nd ed』 (William & Wilkins) Fukuhara S. 『Conceiving and structuring your research question』 (www.i-hope.jp/publication) Matsumura S. 『Building conceptual model』 (www.i-hope.jp/publication)	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
<ul style="list-style-type: none"> • small group learning and discussion • students presentation of research protocol 	
(Others (office hour, etc.))	
<ul style="list-style-type: none"> • This class is not open to students from graduate school of human health science. • July 20 : Lecture will be held for 1st and 2nd terms <p>*Please visit KULASIS to find out about office hours.</p>	

Course title <English>	文献検索法 Literature Research	Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Associate Professor, TAKAHASHI YOSHIMITSU
Target year	Professional degree students	Number of credits	1
Course offered year/period			2018/The first half of first semester
Day/period	Mon.4	Class style	Lecture
Language	Japanese and English		
[Outline and Purpose of the Course]			
Literature Search			
<ul style="list-style-type: none"> • This course is one of the elective classes of School of Public Health. • As being based on fundamental knowledge of epidemiology and evidence-based medicine, this course provides students with skills of literature search. • The useful databases such as PubMed, the Cochrane library, Igaku Chuo Zasshi, and the other information resources that are available on-line will be introduced. • We hope students who attend this course will lay the foundation for promoting their own public health research by learning skills of information search. • Lecture and practical in Japanese. I will try to offer several handouts in English. 			
[Course Goals]			
• To acquire skills of searching medical or health information from various database or internet.			
[Course Schedule and Contents]			
1) Apr 9 Orientation 2) Apr 16 Introduction to PubMed (1) 3) Apr 23 Introduction to Igaku Chuo Zasshi 4) May 7 Clinical question, clinical guidelines, and systematic review 5) May 14 Cochrane library 6) May 21 Introduction to PubMed (2) and databases on the Internet 7) May 28 Basic of critical appraisal and statements 8) Jun 4 Introduction to software for literature management (EndNote basic)			
[Class requirement]			
None			
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]			
Participation in class and discussion, short report for each lecture (30%) & Report (70%)			
[Textbook]			
Nothing particular			
[Reference books, etc.]			
(Reference books) (in Japanese) Nakayama T, Tsutani K 『Rinsho kenkyu to ekigaku kenkyu notameno kokusai ruru shu』 (Lifescience shuppan)			
Continue to 文献検索法(2) ↓ ↓ ↓			

文献検索法(2)	

[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Rather than spending more time on your preparation, please put more energy into the review.	
(Others (office hour, etc.))	
You should bring ECS-ID (student ID and password) which is given. http://www.iime.kyoto-u.ac.jp/en/services/cert/ecs_id/	
This course is open to graduate students with the school of human health science.	
This course is basically conducted in Japanese. We will provide some information in English to non-Japanese students.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	文献評価法 Critical Appraisal	Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor, NAKAYAMA TAKEO Graduate School of Medicine Associate Professor, TAKAHASHI YOSHIMITSU Japan Red Cross Nagoya Daini Hospital, Vice-Director NOGUCHI YOSHINORI Ichishi Hospital, Director SHIKATA SATORU Nara Medical University, Lecturer TANAKA YU Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital and Institute of Gerontology ISHIZAKI TATSURO
Target year	Professional degree students	Number of credits	1
Course offered year/period			2018/Intensive, First semester
Day/period	Intensive	Class style	Lecture
Language	Japanese and English		
[Outline and Purpose of the Course]			
<ul style="list-style-type: none"> • This course is one of the elective classes of School of Public Health. • This course provides students with skills of critical appraisal of literature or information retrieved, as being based on fundamental knowledge of epidemiology and evidence-based medicine 			
[Course Goals]			
To acquire skills of critical appraisal of literature or information retrieved.			
[Course Schedule and Contents]			
I April 9 Orientation II June 11 Evaluation of papers of clinical trials by CASP III June 25 Evaluation of bias using cases (1) IV July 2 Evaluation of bias using cases (2) V July 9 Cochrane Reviews by The Cochrane Collaboration VI July 23 Evaluation of papers of Meta-analysis by CASP VII July 30 (4th,5th) Seminar of Meta-analysis VIII August 6 Evaluation of clinical guidelines by AGREE			
[Class requirement]			
None			
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]			
Participation in class and discussion, short report for each lecture (30%) & Report (70%)			
[Textbook]			
The material necessary for the lecture will be provided by lecturers.			
[Reference books, etc.]			
(Reference books) Nakayama T, Tsutani K 『Rinsho kenkyu to ekigaku kenkyu notameno kokusai ruru shu』 (Lifescience shuppan)			
Continue to 文献評価法(2) ↓ ↓ ↓			

文献評価法(2)	
shuppan)	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Rather than spending more time on your preparation, please put more energy into the review.	
(Others (office hour, etc.))	
We hope students who attend this course will lay the foundation for promoting their own public health research by learning skills of critical appraisal.	
This course is open to graduate students with the school of human health science.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	ヘルスサイエンス研究の進め方 Methods of Health Science Research		Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor,NAKAYAMA TAKEO	
				Part-time Lecturer,MIYAZAKI KIKUKO Statcom Co. Ltd UETANI KAE Part-time Lecturer,KOIZUMI AKIO	
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Course offered year/period	2018/Intensive, First semester
Day/period	Intensive	Class style	Lecture	Language	Japanese and English
[Outline and Purpose of the Course]					
<ul style="list-style-type: none"> Basic knowledge about how to communicate concisely and accurately. The ins and outs of ethics in research and publishing. How to create clear, scientific and logical texts, figures and tables, slides and posters for the effective publication of research results. 					
[Course Goals]					
<ul style="list-style-type: none"> Obtain a thorough understanding of the significance of health sciences research. Obtain an understanding of and observe for the ethics in research and publishing. Obtain an understanding of the basic methods of preparing presentations, papers, and grant proposals. Obtain an understanding of the differences between academic and general writing methods. 					
[Course Schedule and Contents]					
1.May 25 4th Introduction logical writing 2.June 1 3rd History and significance of health science research 3.June 1 4th Ethics in research and publishing I (introduction) 4.June 8 3rd History of medical research in Kyoto University 5.June 15 3rd Ethics in research and publishing II (ICMJE) 6.June 15 4th How to write effectively and efficiently, how to write a journal article and abstract 7.June 22 3rd Display data in tables and graphs 8.June 22 4th How to write a grant proposal					
[Class requirement]					
This course is open to graduate students with the school of human health science. Students who want to join are expected to actively participate in class discussions.					
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]					
Participation in class and discussion 60%, Report 40%					
Continue to ヘルスサイエンス研究の進め方 (2) ↓ ↓ ↓					

ヘルスサイエンス研究の進め方 (2)	
[Textbook]	
Reading materials will be distributed as needed	
[Reference books, etc.]	
(Reference books)	
Lang TA 『How to Write, Publish, & Present in the Health Sciences: A Guide for Clinicians & Laboratory Researchers』 (The American College of Physicians)	
Lang TA, Secic M 『How to Report Statistics in Medicine: Annotated Guidelines for Authors, Editors, and Reviewers』 (The American College of Physicians)	
Nakayama T, Tsutani K 『臨床研究と疫学研究のための国際ルール集 東京』 (ライフサイエンス出版)	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
One hour for each lesson. For the first lesson preparation, read the ICMJE Recommendation on this website [http://www.icmje.org/recommendations/].	
(Others (office hour, etc.))	
Please check the lecture schedule. Students are advised to develop and express their own ideas and opinions during classes.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	医療の質評価 Evaluation of Quality in Health Care		Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUUCHI Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,OOTSUBO TEISUYA	
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Course offered year/period	2018/Intensive, First semester
Day/period	Intensive	Class style	Lecture	Language	Japanese and English
[Outline and Purpose of the Course]					
[Outline and Purpose of the Course] This course facilitates the understanding of fundamental matters and important on-site issues in healthcare quality, safety, equity, and efficiency at various levels, such as medical staff, healthcare institutions, municipal governments, and national governments. <Content> - Healthcare quality, equity, and efficiency - Ability to explain the fundamentals of quasi-experimental design - Management systems and policies in healthcare quality, safety, and efficiency - Healthcare evaluations and hospital functional assessments - Healthcare informatics and healthcare quality evaluations - Healthcare quality indicators (QIs) and their applications					
[Course Goals]					
<ul style="list-style-type: none"> Students will understand and be able to explain key issues in evaluations of quality in health care, including the necessary theories and concepts, research and evaluation methods, as well as problems and measures. Students will be able to systematically and critically interpret the significance of fundamental research and social systems. Students will be able to apply relevant knowledge to solve problems in public health research and practice. 					
[Course Schedule and Contents]					
1. June 06 Healthcare quality, efficiency, and equity 2. June 13 Organizational culture and quality/safety in health care culture 3. June 27 Indicators of healthcare quality (QIs and CIs) 4. July 04 Healthcare quality evaluation methods, outcomes research, and risk adjustments 5. July 11 Information systems and healthcare evaluations 6. July 18 Evaluation of quality in health care: Journal article review and discussion 1 7. July 25 Evaluation of quality in health care: Journal article review and discussion 2					
Note: This schedule is subject to change. Overview of the schedule will be shown at the first day.					
Continue to 医療の質評価 (2) ↓ ↓ ↓					

医療の質評価 (2)	

[Class requirement]	
This course is mainly open to Students in School of Public Health. Students from other courses (including students in School of Human Health Sciences) are limited to maximum 3 students.	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]	
1. Report (70%) 2. Classroom participation (30%)	
[Textbook]	
Reading materials will be distributed as needed.	
[Reference books, etc.]	
(Reference books) ・医療安全のエビデンス - 患者を守る実践方策 (医学書院,2005) ・病院の教科書 (医学書院,2010) ・Handbook of Health Services Research (Springer Science+Business Media)	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Both good preparation and review are needed.	
(Others (office hour, etc.))	
Our department has been accepting graduate students who are interested in research related to health care policies, health care management, and health care quality/safety/cost. (http://med-econ.umin.ac.jp/int/) *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title -English-	中毒学入門 Introduction to Toxicology	Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Associate Professor, HARADA KOJI Graduate School of Medicine Assistant Professor, OKUDA HIROKO
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Course offered year/period	2018/First semester		
Day/period	Wed.4	Class style	Lecture
Language	Japanese and English		
[Outline and Purpose of the Course]			
I. Course Description The hazardous effects of chemicals on human health have been traditionally investigated in toxicology while therapeutic ones have been investigated in pharmacology. In this course, selected known episodes of environmental pollutions, metals and organic substances will be given. We will discuss the toxicities of common chemicals in our modern lives: mercury, dioxin, lead, thallium and cannabinoids. The aim of this course is to provide a scientific basis of modern toxicology.			
[Course Goals]			
II. Course Goals and Objectives Introduction to basic toxicology Knowledge for the toxic effects of some environmental pollutants, metals and organic substances familiar to us. Knowledge for developmental toxicology and carcinogenesis Analytical skill for toxicokinetics and toxicodynamics Skill for regulatory strategy to minimize the toxic effects of chemicals			
[Course Schedule and Contents]			
Course Schedule 1 Apr 11 Orientation 2 Apr 18 Alcohol 3 Apr 25 Insulin 4 May 2 Neonicotinoid pesticide 5 May 9 Maximum Life span 6 May 16 Karoushi 7 May 23 Arsenic 8 May 30 Pain 9 Jun 6 Opioid and cannabinoid 10 Jun 13 Cause of Chiredren's Death in India during summer 11 Jun 20 Aconitine 12 Jun 27 Medicines from natural products 13 Jul 4 Toxins in history, Group work 14 Jul 11 Toxins in history, Group work 15 Jul 18 Report criticism			

Continue to 中毒学入門(2) ↓ ↓ ↓			

中毒学入門(2)	

[Class requirement]	
Elective. Required for the students of department of Health and Environmental Sciences.	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]	
V. Course Grade Attendance and active participation in the lecture 70%; Report assignment 30 %	
[Textbook]	
Not used IV. Course Text and Readings Handouts	
[Reference books, etc.]	
(Reference books)	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
III. Methods of Instruction Lectures and discussion Active participation will be evaluated	
(Others (office hour, etc.))	
VI. Message "Introduction to Toxicology", "Toxicology" and "On the Bench Training" are in series. Those who wish to take "Toxicology" and "On the Bench Training" should take "Introduction to Toxicology". *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title -English-	医療社会学・基礎 Medical Sociology	Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Associate Professor, IWAKUMA MIHO
Target year	Professional degree students	Number of credits	1
Course offered year/period	2018/Intensive, First semester		
Day/period	Intensive	Class style	Lecture
Language	Japanese and English		
[Outline and Purpose of the Course]			
Course Description Medical sociology is a "scholarly discipline which investigates global issues concerning sickness, health, and medicine using sociological theories and methods." ("Sociology of health and medicine" by Yamazaki et al, 2001) This course covers, in addition to sociology, such areas as anthropology, communication studies, history, philosophy, and/or ethics.			
[Course Goals]			
Course Goals and Objectives Understand general ideas about medical sociology Understand frameworks, theories, and concepts that are relevant to medical sociology Find own research domain in medical sociology Provide perspectives and vocabularies for medicine from humanities and social sciences			
[Course Schedule and Contents]			
1) 6/5 Introduction 2) 6/12 Basics of medical sociology 3) 6/19 Sick role, stigma & other concepts of medical sociology 4) 6/26 Illness and sickness 5) 7/3 Guest lecture on IPE/IPW 6) 7/10 Medical sociology and communication 7) 7/17 TBA 8) 7/24 Guest lecture on Developmental disability			
[Class requirement]			
None			

Continue to 医療社会学・基礎(2) ↓ ↓ ↓			

医療社会学・基礎(2)
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]
Course Grade Participation 50% Term paper 50% title 15% + final version 35%
[Textbook]
Not used
[Reference books, etc.]
(Reference books)
[Regarding studies out of class (preparation and review)]
Lectures, group-work, and/or discussion
(Others (office hour, etc.))
Message class participation by the student is highly valued Suitable for students who are interested in social science perspectives in medicine and science Consult with me ASAP for any disability-related accommodation @ mhiwakuma@yahoo.co.jp or ext. 4668. A guest lecture is given in Japanese. *Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course title <English>	統計遺伝学 I Statistical Genetics I	Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor, YAMADA RYUO
Target year	Doctoral students	Number of credits	2
Day/period	Tue.5	Class style	lecture and seminar
Course offered year/period		Language	Japanese and English
[Outline and Purpose of the Course]			
This course is consisted of three components to master the basics of statistical genetics; (1) basic mathematics, (2) basics of statistics and (3) application of statistics to genetic studies. The course divides these three components into six modules and provides one of them for each semester. Basic mathematics A: Linear algebra and graph theory Basic mathematics B: Calculus and information geometry Basics of statistics A: Data types and statistical tests Basics of statistics B: Inference Application of statistics A: Statistical aspects of Mendelian traits and Cancer syndromes Application of statistics B: Statistica. aspects of complex genetic traits and gene expression biomarkers. Schedule plan is as below: 2018 1st semester Basic mathematics A, 2nd semester Basics of statistics A 2019 1st semester Basic mathematics B, 2nd semester Application B 2020 1st semester Basic mathematics A, 2nd semester Basics of statistics B 2021 1st semester Basic mathematics B, 2nd semester Application A In the course, the language R is used for data analysis, simulation and visualization. This semester: BASIC MATHEMATICS A.			
[Course Goals]			
Basic mathematics A: To understand matrix calculation least squares, PCA, and the basics of graph theory. Basic mathematics B: To understand calculus for probability density functions, likelihood functions and maximum likelihood estimation, approximation, and the basics of information geometry. Basics of statistics A : To understand data types, statistical tests, asymptotic tests, exact tests, and contingency table tests Basics of statistics B : To understand point and interval estimates, Bayesian estimates, maximum likelihood estimates and likelihood functions. Application A: To understand statistical aspects for risk evaluation of Mendelian traits and cancer syndromes. Application B: To understand statistical aspects for risks evaluation of complex genetic traits and			
Continue to 統計遺伝学 I (2) ↓ ↓ ↓			

統計遺伝学 I (2)
expressional profiles. In every module, the basics of R language should be mastered.
[Course Schedule and Contents]
Basic mathematics A The first half: Linear algebra, including matrix calculation, variance-covariance matrix, least square method, system of equation, PCA, optimization The second half: Graph theory, including basics of basics of graph theory, tree, minimum spanning tree, random graph, and network and graph objects in R language. Basic mathematics B The first half: Calculus, including expect of probability density functions, likelihood function and maximum likelihood estimate and calculus for them, calculus for probability density function, cumulative density function and hazard functions, partial derivative and HWE, calculus for least square methods and Taylor expansion. The second half: Information geometry, including its basics, Fisher information, dual flatness, exponential families and KL divergence. Basics of statistics A Data types including categorical types and simplex, 2x2 table tests and chi-square test and exact test, HWE-test and its exact test, 2x3 table test and genetic models, uniform distribution and multiple testing and Bonferroni's correction. Basics of statistics B Point and interval estimates, Bayesian approach and binomial and beta distributions, haplotype frequency estimation and EM algorithm and LD block. Application A The first half: Mendelian traits, including pedigree, genotypes and phenotypes of Mendelian traits, NGS and disease-responsible variants. The second half: Cancer syndrome, including its basics and risk evaluation, decision-support tool, Bayesian estimation and Bayesian network. Application B The first half: Complex genetic traits, including genetic models, population and cohort, 2x3 table association tests and multiple-locus model. The second half: Transcriptome analysis and expression profiles, including their basics, differential expression analysis, clustering and heatmap, supervised learning and validation.
[Class requirement]
It is desirable to have background of molecular biology and genetics but not required if ready for self-learning them. Bring a laptop PC with wifi. Basic computer skills and programming in R are necessary. If no, self-learn them along the course.
Continue to 統計遺伝学 I (3) ↓ ↓ ↓

統計遺伝学 I (3)
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]
Activities in the class hours, homeworks and exam at the end of the course are count.
[Textbook]
For basics of statistics A and B "遺伝統計学の基礎 ISBN 978-4274068225 in Japanese and its English version handout will be used.
[Reference books, etc.]
(Reference books) For basic mathetics, get handouts @ http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2018 . For application A and B, get handouts @ http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2017 .
[Regarding studies out of class (preparation and review)]
Homework every week.
(Others (office hour, etc.))
None. *Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course title <English>	臨床試験 Clinical Trial		Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor.TANAKA SHIROU Graduate School of Medicine Professor.FURUKAWA TOSHIKI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor.OOAE KATSUHIRO Graduate School of Medicine Senior Lecturer.NISHIYAMA CHIKA 京都府立医科大学 教授 TERAMUKAI SATOSHI 名古屋医療センター臨床疫学研究室 室長 SAITO AKIKO		
	Target year	Professional degree students		Number of credits	2	Course offered year/period
Day/period	Wed.5	Class style	Lecture	Language	Japanese and English	
[Outline and Purpose of the Course]						
This course consists of lectures on methodology of clinical trials in accordance with Chapter 3, 5, 6, 9, 10 and 12 to 15 of "Clinical Trials: A Practical Approach". In addition, 3 lecturers who experienced in investigator-initiated clinical trials in cardiovascular disease, cancer, and translational research areas provide lectures on the practical aspects of clinical trials based on their experience. This course also includes a workshop of developing study protocols of hypothetical clinical trials with small-sized groups. MCR required, CB required, MPH elective.						
[Course Goals]						
To understand methodology of clinical trials To understand contents of study protocol and learn how to develop a study protocol through a workshop of protocol development						
[Course Schedule and Contents]						
April 11 Overview (Furukawa) April 18 Organization and Planning (Tanaka) April 25 Experience in Education Intervention Trials in Cardiovascular Disease (Nishiyama) May 9 Issues in Conducting Cancer Clinical Trials and Their Solutions (Saito) May 16 Cancer Phase I, II, III Trials (Tanaka) May 23 Endpoints, Randomization and Blinding May 30 Publication and Interpretation of Findings (Furukawa) June 6 Statistical Consideration in Protocol Development (Teramukai) June 13 Statistical analysis 1 (Tanaka) June 20 Statistical analysis 2 (Tanaka) June 27 Workshop (protocol development, Tanaka, Aida, Imai) July 4 Workshop (protocol development, Tanaka, Aida, Imai) July 11 Workshop (protocol development, Tanaka, Aida, Imai) July 18 Workshop (protocol development, Tanaka, Aida, Imai) July 25 Workshop (presentation, Furukawa, Tanaka, Aida, Imai)						
Continue to 臨床試験(2) ↓ ↓ ↓						

臨床試験(2)						
[Class requirement]						
None						
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]						
Attendance 50%, Report 50%						
[Textbook]						
Stuart J. Pocock 『Clinical Trials: A Practical Approach』 (Wiley) A copy of the textbook will be provided.						
[Reference books, etc.]						
(Reference books)						
[Regarding studies out of class (preparation and review)]						
Please read the textbook "Clinical Trials: A Practical Approach".						
(Others (office hour, etc.))						
*Please visit KULASIS to find out about office hours.						

Course title <English>	統計家の行動基準 Statisticians Standard of Conducts		Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor.SATO TOSIYA Kyoto University Hospital Project Associate Professor.SATOU KEIKO Graduate School of Medicine Program-Specific Professor.TANAKA SHIROU Graduate School of Medicine Assistant Professor.YONEMOTO NAOHIRO		
	Target year	Professional degree students		Number of credits	1	Course offered year/period
Day/period	Intensive	Class style	Lecture	Language	Japanese	
[Outline and Purpose of the Course]						
19世紀の英国の首相デイスレイリ氏に言わせれば「嘘には、“嘘”、“大きな嘘”、“統計”がある」そうですが、統計は、さまざまな領域で政策や意思決定するための基礎情報として用いられ、人間の福利や環境を保持・向上させるために必要なものです。統計が嘘よばわりされないためには、統計に関わる業務や研究を行う専門家である統計家は、相応の知識や技能はもちろんのこと、プロフェッショナリズムを有していません。 と言われると、なにやら堅苦しい感じがして、とくに最近では研究不正のおかげで、規範を守れだけの研究倫理セミナーを受けろなど、外からの縛りがきつくなるばかりですが、本講義は、「自分を縛るのは自分しかいない」を基本コンセプトに、統計家はどうあるべきかを自ら考えて心に持つことを目的とします。 人間を対象にした臨床試験をデザインする際には、科学性だけではなく心が必要であること、健康を願って作ったはずの薬が悲劇を招き、それに統計家が負担する可能性があることなどの事例を学びます。そして、統計家はどうふるまうべきか、自分はどうありたいのかについて、討議やワークを通じて考えます。 【7月6日、20日、27日（金）の集中講義】						
[Course Goals]						
・臨床研究における科学性と倫理性の相克を理解する ・薬の評価において過去に統計家がかしてきたことを理解する ・臨床研究における統計家の役割を説明できる ・統計家としての行動基準を考えて身の内に持つ						
[Course Schedule and Contents]						
集中講義 7月6日（金、3、4限）、20日（金、3、4限）、27日（金、3、4、5限）						
第1回 7月6日 3限 正当な臨床試験を計画する 1 第2回 7月6日 4限 正当な臨床試験を計画する 2						
第3回 7月20日 3限 薬と安全性 第4回 7月20日 4限 サリドマイド薬害における統計家の関わり						
第5回 7月27日 3限 ICH統計ガイドラインの心 第6回 7月27日 4限 統計家のプロフェッショナリズム涵養の 第7回 7月27日 5限 グループワーク						
Continue to 統計家の行動基準(2) ↓ ↓ ↓						

統計家の行動基準(2)						
[Class requirement]						
None						
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]						
レポート						
[Textbook]						
毎回講義資料を配布します						
[Reference books, etc.]						
(Reference books)						
Friedman LM, Furberg CD, DeMets DL, Reboussin DM, Granger CB 『Fundamentals of Clinical Trials, 5th ed.』 (Springer, 2015) 國頭英男, 佐藤恵子, 吉村健一 『誰も教えてくれなかった臨床試験の正しい作法』 (中外医薬社, 2016)						
[Regarding studies out of class (preparation and review)]						
日本計量生物学会「統計家の行動基準」、ICH E9「臨床試験における統計的原則」を読んでおくこと。 http://www.biometrics.gr.jp/news/all/standard_20150310.pdf https://www.pmda.go.jp/int-activities/int-harmony/ich/0031.html						
(Others (office hour, etc.))						
*Please visit KULASIS to find out about office hours.						

Course title <English>	健康デザイン論 Designing Health communication	Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Professor, NAKAYAMA TAKEO		
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Course offered year/period	2018/Intensive, year-round
Day/period	Intensive	Class style	Lecture	Language	Japanese
[Outline and Purpose of the Course]					
<ul style="list-style-type: none"> To learn the way of thinking & basic concept about Communication Design Approach in Healthcare Using this approach as a clue, we will discuss the potential of this approach to promote targets' "understandings" and "actions", and lead them to "expected results" Lecture & workshop style. 					
[Course Goals]					
The goals of this course are to understand concepts and approaches such as "insight", "understanding / behavior promotion", "co-creation / collaboration", etc. regarding how to achieve "health communication" to maximize health outcomes.					
[Course Schedule and Contents]					
(First half)					
1st : Introduction					
2nd : Communication design Approach ~the way to design & activate consumer's understanding and behavior					
3rd : Consumer insights ~the attitudes to and way of understanding of the target insights					
4th : Planning ~the way of thinking about designing/planning projects to invite the consumers more healthy					
(Second half)					
5th : Review of the previous term					
6th 7th : workshops					
8th : Presentation & Lecture summary					
(Tentatively, August 2, 3 and the mid February)					
[Class requirement]					
None					
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]					
Report (50%) Presentation (50%)					
----- Continue to 健康デザイン論(2) ↓ ↓ ↓					

健康デザイン論(2)
[Textbook]
Text books will be introduced in the first class.
[Reference books, etc.]
(Reference books) will be introduced in the first class.
[Regarding studies out of class (preparation and review)]
Review and home assignments.
(Others (office hour, etc.))
Researchers of the project will support this course.
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course title <English>	英語論文の書き方 How to write papers in English	Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Professor, FURUKAWA TOSHIKI		
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Course offered year/period	2018/Intensive, year-round
Day/period	Intensive	Class style	Lecture	Language	Japanese
[Outline and Purpose of the Course]					
This class targets 2nd year or higher students of MPH and aims to teach writing skills of quantitative clinical research papers in English.					
[Course Goals]					
Once you have written five or so such papers, it will become drastically easier to write them. This class aims to provide such knowledge and skills for those who have written only one or two papers.					
[Course Schedule and Contents]					
The class will be provided in two days (4 hours each) during the summer vacation.					
On the first day (August 7th), students will present what they have learned from Hideo Yasunaga's textbook and JEMNet textbook. I will let the students know their groups and assignments approximately one month beforehand. The students will be divided into groups in charge of:					
<ol style="list-style-type: none"> How to write Methods How to write Results How to write Introduction How to write Discussion How to write Abstract & Title Before you start to write Before you submit 					
I will provide tips based on my personal experiences and respond to questions from students.					
Between the first and the second days, students will be asked to proceed with their own paper in preparation and also to read several papers to select some nice expressions that they would eventually like to borrow.					
On the second day (September 25), we will:					
<ul style="list-style-type: none"> work collaboratively on some of the manuscripts in preparation by the students themselves collate the nice expressions that students have found How to respond to reviewers. 					
[Class requirement]					
<ol style="list-style-type: none"> 70 or higher on TOEFL iBT (or any other type), or 5.5 or higher on IELTS Have published at least one paper in English (It can be a case report or a review) If possible, have a manuscript in preparation 					
----- Continue to 英語論文の書き方(2) ↓ ↓ ↓					

英語論文の書き方(2)
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]
Based on class participation, class presentation and assigned reports
[Textbook]
康永秀生 『必ずアクセプトされる医学英語論文完全攻略50の鉄則』 (金原出版) ISBN:978-4-307-00478-7 後藤匡啓 『JEMNet論文作成マニュアル第2版』 (Free download at http://jemnet.asia/wp/?page_id=84)
[Reference books, etc.]
(Reference books)
[Regarding studies out of class (preparation and review)]
I will let you know your group assignment approximately one month before class.
(Others (office hour, etc.))
Participation from Human Health Sciences: Not allowed
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course title <English>	統計的推測の基礎 Fundamentals of Statistical Inference		Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor.SATO TOSIYA 統計数理研究所 HENMI MASAYUKI Graduate School of Medicine Program-Specific Professor.TANAKA SHIROU Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor.OOMAE KATSUHIRO	
	Target year	Professional degree students		Number of credits	2
Day/period	Thu.4	Class style	lecture and seminar	Language	Japanese
[Outline and Purpose of the Course]					
<p>この授業では、統計関連科目を学ぶ上でその基礎となる事項について学習する。具体的には、前半で統計的推測法の土台となる確率論の基礎事項について取り扱い、後半では統計的推定・仮説検定・信頼区間などの統計的推測の基礎概念について取り扱う。</p> <p>前半の確率論では、数学的に厳密な測度論に基づくものではなく、微積分や線形代数（大学学部教養レベルの数学）を用いる範囲で、統計的推測法の理解に必要な確率に関する基本事項の習得を目指す。後半の統計的推測では、基礎概念に対する原理的な考え方と理論的な側面に重点を置く。この授業は、他の統計関連科目の授業ではなかなか立ち止まってじっくりと考える余裕のない基礎的な部分に焦点を当て、準備と足固めをするのが目的である。</p> <p>受講生のバックグラウンドは様々であると想定されるため、可能な限りその事情を考慮しながら授業を進める。</p> <p>【パワーポイントスライドによる講義形式】</p>					
[Course Goals]					
<ul style="list-style-type: none"> ・確率と統計に関する基礎概念の意味や考え方をしっかり理解し、自分の言葉で説明することができる ・統計量や確率分布などに関する計算を、必要に応じて自分で考えながら実行できる ・他の統計関連科目を学ぶ際に、各種の統計手法をブラックボックスとはせず、自ら考えながら学んで、その仕組みを理解することができる 					
[Course Schedule and Contents]					
<p>第1回 4月12日 講義の概要と確率・確率変数の概念（逸見）</p> <p>第2回 4月19日 離散型確率変数とその分布に関する基本事項（逸見）</p> <p>第3回 4月26日 連続型確率変数とその分布に関する基本事項（逸見）</p> <p>第4回 5月10日 複数の確率変数の取り扱い（逸見）</p> <p>第5回 5月17日 正規標本に関連する確率分布（逸見）</p> <p>第6回 5月24日 総合演習・復習「確率編」（逸見、佐藤、田中、大前）</p> <p>第7回 5月31日 統計的推測の枠組み（佐藤）</p> <p>第8回 6月7日 統計的推定の基本事項（佐藤）</p> <p>第9回 6月14日 統計的仮説検定の基本事項（田中）</p> <p>第10回 6月21日 信頼区間の基本事項（田中）</p> <p>第11回 6月28日 漸近的方法の基本事項I（最尤法とその性質）（逸見）</p> <p>第12回 7月19日 漸近的方法の基本事項II（最尤法に基づく検定と最尤法以外の推定法）（逸見）</p> <p>第13回 7月26日 線型代数の基礎と線型回帰分析序論（逸見）</p> <p>第14回（未定） 総合演習・復習「統計編」（佐藤、田中、大前）</p>					
Continue to 統計的推測の基礎(2) ↓ ↓ ↓					

統計的推測の基礎(2)	
[Class requirement]	
<ul style="list-style-type: none"> ・微積分と線形代数の基本的な知識があること ・人間健康科学専攻の学生さんの受け入れはしていません 	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]	
レポート	
[Textbook]	
講義資料を配布します	
[Reference books, etc.]	
(Reference books)	
講義中に紹介します	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
<ul style="list-style-type: none"> ・この授業を利用しながら、自分が良く理解できていない部分について重点的に学習していただきたい ・受講生のバックグラウンドによって、授業外に学習すべき事項は異なると思われるので、その場合は可能な限り相談に応じます 	
(Others (office hour, etc.))	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	生存時間解析 Survival Analysis		Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor.SATO TOSIYA 大阪大学大学院医学系研究科 HATTORI SATOSHI	
	Target year	Professional degree students		Number of credits	1
Day/period	Intensive	Class style	Lecture	Language	Japanese
[Outline and Purpose of the Course]					
<p>生存時間解析は関心のある事象が生じるまでの期間（生存時間）の統計的分析をする方法であり、抗悪性腫瘍薬の臨床試験など、様々な医学研究において重要な役割を果たしています。研究の実施上の制約から生存時間がすべての被験者で観察されないことが通常で、そのような打ち切りデータに基づいて推測を行うための独特の方法論が発達しています。本講義では、生存時間解析の基本的な考え方を学習し、統計解析用プログラム言語であるSASによる実習を通じて理解の定着を図ります。</p> <p>【8月7日、9月4日（火）の集中講義】</p>					
[Course Goals]					
<ul style="list-style-type: none"> ・打ち切りを伴う生存時間解析における尤度とパラメトリックモデルに対する最尤推定法を理解する ・Kaplan-Meier法、logrank検定の考え方を理解する ・ハザードの概念を理解し、Cox比例ハザードモデルを理解する ・生存時間解析の方法をSASにより適用できる 					
[Course Schedule and Contents]					
<p>第1回 8月7日（火） 2限 生存時間データの事例と特徴</p> <p>第2回 8月7日（火） 3限 ノンパラメトリック推定</p> <p>第3回 8月7日（火） 4限 Logrank検定</p> <p>第4回 9月4日（火） 2限 前半の講義の復習とSASによる演習</p> <p>第5回 9月4日（火） 3限 Cox比例ハザードモデル</p> <p>第6回 9月4日（火） 4限 生存時間解析における残差解析</p> <p>第7回 9月4日（火） 5限 ランダム化試験におけるサンプルサイズ設計</p>					
[Class requirement]					
<ul style="list-style-type: none"> ・前期「統計的推測の基礎」を履修済みであること ・微積分の基本的な計算に慣れていること 					
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]					
レポート					
Continue to 生存時間解析(2) ↓ ↓ ↓					

生存時間解析(2)	
[Textbook]	
毎回講義資料を配布します	
[Reference books, etc.]	
(Reference books)	
大橋靖雄、浜田知久馬 『生存時間解析-SASによる生物統計』（東京大学出版会）ISBN:978-4130602006	
Collett D（宮岡悦良 監訳）『医療統計のための生存時間データ解析 原著第2版』（共立出版）ISBN:978-4320110359	
Klein J, Moeschberger ML（打波守訳）『生存時間解析』（丸善出版）ISBN:978-4621061886	
Therneau TM, Grambsch PM 『Modeling Survival Data: Extending the Cox Model』（Springer）ISBN:978-1-4419-3161-0	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
前回の復習	
(Others (office hour, etc.))	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English> 統計モデルとその応用 Statistical Modeling and Applications		Affiliated department, Job title, Name Graduate School of Medicine Professor, SATO TOSIYA 東北大学 TAKAHASHI FUMIAKI	
Target year	Professional degree students	Number of credits	1
Day/period	Intensive	Class style	Lecture
[Outline and Purpose of the Course]		Language Japanese	
<p>「交絡」を調整する方法の一つに回帰モデルがある。代表的な回帰モデルは、1つの連続的な結果変数に対するものである。しかし医学研究では、リスクの有無に興味がある場合や興味のある結果がくり返し測定される場合もあり、結果の特徴に応じたより複雑なモデルが必要となる場合がある。本コースでは、実例を交えながら、様々な結果変数に対する回帰モデルとその解析方法を説明する。</p> <p>[8月6日、9月3日(月)の集中講義]</p>			
[Course Goals]			
<ul style="list-style-type: none"> 回帰モデルの役割を理解する 様々なデータの特徴に応じた回帰モデルと解析方法を理解する 統計解析ソフトを用いて解析を実施し、結果を解釈できる 			
[Course Schedule and Contents]			
<p>集中講義</p> <p>第1回 8月6日(月) 2限 線形回帰分析</p> <p>第2回 8月6日(月) 3限 分散分析</p> <p>第3回 8月6日(月) 4限 相関する連続データに対する一般線形モデル(1)</p> <p>第4回 8月6日(月) 5限 相関する連続データに対する一般線形モデル(2)</p> <p>第5回 9月3日(月) 2限 相関するカテゴリカルデータに対する一般化線形モデル(1)</p> <p>第6回 9月3日(月) 3限 相関するカテゴリカルデータに対する一般化線形モデル(2)</p> <p>第7回 9月3日(月) 4限 演習</p>			
[Class requirement]			
<ul style="list-style-type: none"> 前期「統計的推測の基礎」を履修済みであること 線形代数の基本的な知識 			
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]			
レポート			
[Textbook]			
毎回講義資料を配布します			
Continue to 統計モデルとその応用(2) ↓ ↓			

統計モデルとその応用(2)	
[Reference books, etc.]	
<p>(Reference books)</p> <p>Dobson AJ. 『一般化線形モデル入門 原著第2版』(共立出版) ISBN:978-4320018679</p> <p>McCulloch C., Searle S., and Neuhaus J. 『Generalized, Linear, and Mixed Models』(Wiley) ISBN:978-0-470-07371-1</p>	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
前回の復習をすること	
(Others (office hour, etc.))	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	
Continue to 行政医学・産業医学(2) ↓ ↓	

Course title <English> 行政医学・産業医学 Medical Doctors in Government and Occupational Settings		Affiliated department, Job title, Name Graduate School of Medicine Professor, IMANAKA YUUICHI Agency for Health, Safety and Environment Professor, KAWAMURA TAKASHI Part-time Lecturer, KOIZUMI AKIO Graduate School of Medicine Professor, NAKAYAMA TAKEO	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Day/period	Intensive	Class style	Lecture
[Outline and Purpose of the Course]		Language Japanese	
<p>The aim of this course is to provide students with intensive learning and practicing of occupational medicine and health policy.</p> <p>Students will</p> <p>1) deal with a set of framework aiming at problem-solving in the practical and social context</p> <p>2) learn about medical doctors' practice in the field of government on health policy</p> <p>3) learn about medical doctors' practice in the field of occupational medicine</p> <p>担当教員：今中雄一(医学研究科教授)、川村 孝(環境安全保健機構教授)、小泉昭夫(医学研究科教授)、中山健夫(医学研究科教授)</p> <p>外部講師：渡邊能行(京都府保健医療対策監/京都府立医科大学教授)、廣畑 弘(京都府南丹保健所長)、森口次郎(京都工場保健会 所長)、京都市保健所長予定</p>			
[Course Goals]			
<p>By the end of this course, students will be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> have deep knowledge and understanding about the problems in these fields, and explain them to others have a keen insight figuring out what is the critical cause consult specialists appropriately in order to solve the problems 			
[Course Schedule and Contents]			
<p>This course is an immersive program held on Aug.1 and Aug.2. Students are required to participate in all the programs from the first period to the last (fifth or sixth).</p> <p>The program includes lectures and group works on following subjects</p> <p>【Health policy】</p> <ul style="list-style-type: none"> Practice of health policy Introduction of health policy practice Adult / elderly health, maternal and child health, school health and dental health Promotion of the Integrated Community Care System, Implementation of Regional Health Vision / Plan Mental health, Plans and actions for people with diseases, incurable diseases and special needs Health promotion, Plans and actions for lifestyle-related diseases, elderly people who need support and people with disabilities Infectious disease control, Measures against food poisoning, disasters and public health crisis Exercises and group works of health policy 			
Continue to 行政医学・産業医学(2) ↓ ↓			

行政医学・産業医学(2)	
Fieldworks	
<p>【Occupational medicine】</p> <ul style="list-style-type: none"> Practice of occupational medicine Introduction of occupational medicine practice Environmental health in workplaces and regions Management of chemical substances, Prevention of exposure to harmful factors, Measures for health hazard Labor hours management, especially of medical doctors Health management through medical examinations Mental health at workplace Exercises and group works of occupational medicine Fieldworks <p>* Note that the schedule is subject to change. The latest schedule will be introduced at the beginning of the course.</p>	
[Class requirement]	
<p>This course is mainly for students in the School of Public Health.</p> <p>Students from other courses (including students in School of Human Health Sciences) are also welcomed though the number will be limited.</p>	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]	
The grade will be based mainly on active participation in the class (50%) and reports (50%).	
[Textbook]	
<p>Instructed during class</p> <p>No textbook is required for this course. Handouts will be distributed by the instructors as needed.</p>	
[Reference books, etc.]	
<p>(Reference books)</p> <p>Introduced during class</p> <p>References will be introduced by the instructors as needed.</p>	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
<p>Students are required to participate in a fieldwork another day. Before attending the course, be sure to have insurance such as Personal Accident Insurance for Students While Pursuing Education and Research (which is demanded in principle).</p>	
(Others (office hour, etc.))	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	
Continue to 行政医学・産業医学(3) ↓ ↓	

行政医学・産業医学(3)	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	遺伝医療と倫理・社会 Genetic Medicine, Ethics and Society	Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor,KOSUGI SHINJI
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Course offered year/period			2018/Intensive, First semester
Day/period	Intensive	Class style	Lecture
Language			Japanese
[Outline and Purpose of the Course]			
【基本情報】 授業日時:水曜3限を原則とする(例外予定にご注意ください) 教室:G棟3階演習室 レベル:基礎 担当者:小杉眞司・和田敬仁・山田崇弘・澤井英明(兵庫医科大学)			
【コースの概要】 遺伝医療・先端医療においては、倫理的な配慮は不可欠である。遺伝医療を中心とした医療倫理の基本について学ぶ。特に種々のガイドラインの理解は極めて重要である。また、社会的な基盤を含む日本の遺伝医療の現状について理解する。			
[Course Goals]			
遺伝医療・医学に関する倫理指針、遺伝学的検査、小児・産婦人科遺伝医療における倫理問題の基本、社会基盤について理解する。			
[Course Schedule and Contents]			
【第1回】4/11<和田1>「小児遺伝性疾患の診断・告知と代諾」小児期発症の遺伝性疾患に対する倫理的問題を考える 【第2回】4/18<小杉1>「遺伝医療総論」遺伝カウンセラーコースの必修科目として、必ずしも「倫理」にかかわらず、全般的なイントロダクションを行う。また、遺伝医療における倫理問題の特性、遺伝情報の共有、意図しない遺伝情報の開示などについて考える 【第3回】4/25<小杉2>「ヒトゲノム・遺伝子解析研究の倫理指針と他のガイドライン」研究として行われるヒト遺伝子解析における倫理的問題点、研究と臨床の境界と区別について考える 【第4回】5/9<小杉3>「企業で行われる遺伝子解析について」遺伝学的検査を臨床検査会社等の外部委託する場合の問題点、非医療機関で行われる遺伝子検査の問題点について考える 【第5回】5/16(臨床第一講堂)<小杉4>「遺伝医療に関するガイドラインについて」 【第6回】5/23<小杉5>「遺伝学的検査に関するガイドライン・遺伝子検査の意義」臨床的に行われる遺伝学的検査の実施に際して考慮されなければならない倫理的問題点について、遺伝子診断の意味とその問題点について、発症者・血族における違いを明確にしながら考える 【第7回】5/24<小杉6>「発症前遺伝子診断について」発症前遺伝子診断・易罹性診断の意味とその問題点について、神経変性疾患、家族性腫瘍など疾患における違いを明確にしながら考える 【第8回】6/1 金5限<山田1>「人工妊娠中絶」本邦における人工妊娠中絶について、その倫理問題について考える 【第9回】6/1 金6限<山田2>「出生前診断・生殖補助医療」出生前診断の倫理的問題点について理解する。不妊・不育症治療としての生殖補助医療の倫理的問題点について詳細に検討する 【第10回】6/6<和田2>「生命倫理観の多様性」患者やクライアントの持つさまざまな生命倫理観を理解し、対応する方法を考える 【第11回】6/13<小杉7>「多因子疾患易罹性診断・遺伝学的検査のACCE・ゲノムコホート研究について」遺伝学的検査についてはA(Analytical Validity), C(Clinical Validity), C(Clinical Utility), E(Ethical, Legal and Social Implications)が重要である。特に、多因子疾患においては今後の研究による Continue to 遺伝医療と倫理・社会(2) ↓ ↓ ↓			

遺伝医療と倫理・社会(2)	
その確立が必要である。そのためにはゲノムコホートによる長期的な取り組みが必要である 【第12回】6/27<山田3>「ゲノム医療における二次的所見の取り扱い」網羅的ゲノム解析が実臨床に導入されて来たことにより得られた本来の目的とは別の二次的所見に対応する際の倫理的な問題点について考える 【第13回】7/4<小杉8>「キャリア診断・保因者診断について」常染色体・X連鎖性劣性遺伝性疾患・均衡型染色体相互転座などにおける保因者診断の意味と問題点について考える 【第14回】7/4 5限<澤井>「少子化対策(すこやか親子21)等の政策について」少子化の進行は社会の活性を低下させるため、従来から様々な対策がなされてきた。成果を上げたものもあるがそうでないものもある。何が問題であるのかを検討する 【第15回】7/11<和田3>「障がい」と生命倫理 「障がい」から生命倫理を考える 【第16回】7/18<山田>「筆記試験」 【第16回】8/8<山田>「再試験」	
[Class requirement]	
遺伝カウンセラーコース1回生必修科目 人間健康科学系専攻学生の受講可否:要事前連絡	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]	
試験、レポート、授業への積極的な参加、発表、出席等を総合的に評価する	
[Textbook]	
随時配布する	
[Reference books, etc.]	
(Reference books)	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
適宜指示する	
[Others (office hour, etc.)]	
講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります。 *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	基礎人類遺伝学 Introduction to Human Genetics	Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor,KOSUGI SHINJI
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Course offered year/period			2018/First semester
Day/period	Wed.3	Class style	Lecture
Language			Japanese
[Outline and Purpose of the Course]			
【基本情報】 授業日時:水曜3限を原則とする(例外予定にご注意ください) 教室:G棟3階演習室 レベル:基礎 担当者:小杉眞司・和田敬仁・山田崇弘			
【コースの概要】 遺伝カウンセラーとしてあるいは遺伝医学・遺伝医療を志す者として最も基本的な事項について理解するための講義である。今後、遺伝情報を治療に役立てていくテーラーメイド医療のためにも重要である。細胞遺伝学、分子遺伝学、メンデル遺伝学、非メンデル遺伝、集団遺伝学などについて系統的な講義を行う。			
[Course Goals]			
ヒト遺伝学の基本的な事項について完全に理解し、専門家でない人にもわかりやすく説明できる。			
[Course Schedule and Contents]			
【第1回】4/11<和田>「メンデル遺伝総論・家系図の描き方」メンデル遺伝と非メンデル遺伝総論・常染色体と性染色体・対立遺伝子の概念・遺伝性疾患の概念の理解・家系図の描き方 【第2回】4/11(4限)<山田>「細胞遺伝学(1)」染色体と細胞分裂・分画法による染色体分析・染色体の核型記載方法・染色体異常概論4 【第3回】4/18<小杉>「常染色体優性遺伝」常染色体優性遺伝 疾患の概念・特徴・浸透度・表現度・遺伝性と新生突然変異・anticipation(次世代の表現促進現象) 【第4回】4/18(4限)<小杉>「常染色体劣性遺伝」常染色体劣性遺伝 疾患の概念・特徴・保因者の概念 【第5回】4/18(5限)<小杉>「X連鎖性遺伝」X連鎖性遺伝の概念・X染色体とY染色体の特異性・性の決定機構・X連鎖性遺伝を示す具体的疾患 【第6回】4/25<山田>「細胞遺伝学(2)」染色体数異常の概念と発生機構・染色体構造異常の概念と発生機構・保因者の概念と次世代への影響 【第7回】4/25(4限)<和田>「遺伝的リスクの推定」再発確率の推定、ベイズの定理。近親婚に関する問題、先天代謝異常についても触れる 【第8回】5/9<小杉>「遺伝学的検査(1)」遺伝子変異の検索方法:シーケンシング法、サザンブロット法 【第9回】5/16(第一臨床講堂)<小杉>「薬理遺伝学」既にはじまりつつあるテーラーメイド医療で最も重要な領域である pharmacogenetics/pharmacogenomicsの基本を正確に理解する 【第10回】5/23<小杉>「遺伝学的検査(2)」変異のスクリーニング方法、変異と多型、変異の種類 【第11回】5/30<和田>「多因子遺伝、集団遺伝」多因子遺伝の概念、量的形質と易罹病性、薬理遺伝学とオーダーメイド医療、遺伝と環境因子、ハーディー ワインバークの法則 【第12回】6/6<小杉>「遺伝学的検査(3)」代表的な疾患の遺伝子検査のストラタジー、疾患の原因としての遺伝子の変化 【第13回】6/13<和田>「非メンデル遺伝(1)」ミトコンドリア遺伝、免疫遺伝学、形質遺伝学 Continue to 基礎人類遺伝学(2) ↓ ↓ ↓			

基礎人類遺伝学(2)	
<p>【第14回】6/27<山田> 「ヒトゲノムの基礎」 ヒトゲノムの情報について学ぶ、遺伝子の構造、機能、遺伝学的多様性について知る</p> <p>【第15回】7/4<和田> 「非メンデル遺伝(2)」 エピジェネティクス、ゲノム刷り込み現象、片親性ダイソミー</p> <p>【第16回】7/11<和田> 「筆記試験」</p> <p>【第17回】8/1<山田> 「再試験」</p>	
<p>[Class requirement]</p> <p>遺伝カウンセラーコース1 回生必修科目 選択科目として履修する場合は、「遺伝医療と倫理・社会」とも履修することをお勧めします 人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡</p>	
<p>[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]</p> <p>試験、レポート、発表、出席等を総合的に評価する</p>	
<p>[Textbook]</p> <p>トンブソン&トンブソン 『遺伝医学(第2版)』 (メディカルサイエンスインターナショナル) ISBN:978-4-89592-875-5 (2017年4月発行) 福岡義光編 『遺伝カウンセリングマニュアル』 (南江堂) ISBN:978-4-524-26667-8</p>	
<p>[Reference books, etc.]</p> <p>(Reference books) 新川詔夫 『遺伝医学への招待(改定5版)』 (南江堂) ISBN:978-4-524-26562-6 『症例でわかる新しい臨床遺伝学』 ISBN:978-4-89592-574-7</p>	
<p>(Related URLs) http://www.geneclinics.org/(GeneReviews)</p>	
<p>[Regarding studies out of class (preparation and review)]</p> <p>適宜指示する</p>	
<p>(Others (office hour, etc.))</p> <p>講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります</p> <p>*Please visit KULASIS to find out about office hours.</p>	

臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(2)	
<p>ンフェルター男性・病態・診断・治療と療育・生殖医療、遺伝カウンセリング</p> <p>【第13回】5月30日6限<和田> 「遺伝性神経疾患(1)」 遺伝性神経疾患 概念・病態・診断：トリブレットリポート病、フアブリー病の遺伝カウンセリング</p> <p>【第14回】6月6日4限<山田> 「遺伝診療と医療システム」 臨床遺伝の医療システムについて学ぶ</p> <p>【第15回】6月6日5限<山田> 「PC情報検索(1)」 ネットセキュリティの基本</p> <p>【第16回】6月6日6限<山田> 「PC情報検索(2)」 検索エンジン、遺伝情報データベース</p> <p>【第17回】6月13日4限<和田> 「遺伝性神経疾患(2)」 知的障害、自閉症、神経皮膚症候群などの遺伝カウンセリング</p> <p>【第18回】6月13日5限<和田> 「筋ジストロフィー」 ドウシャンタ型筋ジストロフィー、筋緊張性ジストロフィー、福山型筋ジストロフィー、ボンベ病の遺伝カウンセリング</p> <p>【第19回】6月13日6限<山田> 「PC情報検索(3)」 データベース、webツール、患者会情報</p> <p>【第20回】6月27日4限<藤村聡> 「遺伝性難聴」 遺伝性難聴 概念・病態・遺伝形式・診断 (症候性難聴と非症候性難聴) 遺伝的異質性・治療と療育、遺伝カウンセリング</p> <p>【第21回】6月27日5限<高橋政代> 「遺伝性網膜疾患と再生医療」 網膜色素変性・加齢黄斑変性 概念・病態・遺伝形式・診断・遺伝的異質性・治療・再生医療</p> <p>【第22回】7月4日4限<和田> 「遺伝性循環器疾患」 Long QT症候群、マルファン症候群などの遺伝性循環器疾患の遺伝カウンセリング</p> <p>【第23回】7月11日4限<藤村聡> 「内科系疾患」 突然死、高血圧、糖尿病などの臨床遺伝学と遺伝カウンセリング</p> <p>【第24回】7月25日4限<和田> 「筆記試験」</p> <p>【第25回】8月8日4限<山田> 「再試験」</p>	
<p>[Class requirement]</p> <p>遺伝カウンセラーコース1 回生必修科目 選択科目として履修する場合は、「基礎人類遺伝学」とも履修することをお勧めします 人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡 (基礎人類遺伝学とあわせて履修する必要あり)</p>	
<p>[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]</p> <p>試験、レポート、発表、出席等を総合的に評価する</p>	
<p>[Textbook]</p> <p>「基礎人類遺伝学」参照</p>	
<p>[Reference books, etc.]</p> <p>(Reference books)</p>	
<p>[Regarding studies out of class (preparation and review)]</p> <p>適宜指示する</p>	

Continue to 臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(3) ↓ ↓ ↓

Course title <English>	臨床遺伝学・遺伝カウンセリング Clinical Genetics and Genetic Counseling	Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor,KOSUGI SHINJI		
Target year	Professional degree students	Number of credits	3	Course offered year/period	2018/Intensive, First semester
Day/period	Intensive	Class style	Lecture	Language	Japanese
<p>[Outline and Purpose of the Course]</p> <p>【基本情報】 授業日時：水曜4限、5限を原則とする (例外予定にご注意ください) 教室：G棟3階演習室、レベル：基礎 担当者：小杉真司・和田敬仁・山田崇弘・澤井英明 (兵庫医科大学)・高橋政代 (理化学研究所)・藤村聡 (京都府医師会) (コースの概要) 遺伝カウンセリングの基本的な考え方、モデル、現状などの総論的な講義を行う。また、代表的な疾患について、チーム医療としての遺伝医療に参加することのできるレベルの知識と考え方を身につけ、遺伝医療の現場で行われている問題を解決するため、臨床遺伝学の講義を行うとともに家族関係やチーム医療としての遺伝カウンセリングにもフォーカスをおく。各論として、単一遺伝性疾患、染色体異常、多発奇形、習慣性流産、家族性腫瘍、神経変性疾患、多因子疾患などについて講義する。</p>					
<p>[Course Goals]</p> <p>主要な遺伝性疾患の病態、原因、遺伝形式、遺伝的問題について説明できる。また、それらの疾患に関わる遺伝カウンセリングの基本的な考え方、主な留意点について説明できる。</p>					
<p>[Course Schedule and Contents]</p> <p>【第1回】4月25日5限<和田> 「先天異常症候群」 主要な先天奇形症候群の診断・療育や遺伝カウンセリングを学ぶ</p> <p>【第2回】4月25日6限<山田> 「不妊症・生殖補助医療」 歴史的背景・現状・具体的技術・法的規制・倫理問題とガイドライン常染色体異常症、遺伝カウンセリング</p> <p>【第3回】5月9日4限<和田> 「常染色体異常(1)」 概念・病態・診断 数的異常と構造異常、遺伝カウンセリング、13,18,21トリソミーの診断治療と療育を学ぶ</p> <p>【第4回】5月9日5限<和田> 「常染色体異常(2)」 微細欠失症候群やクロマチン病の診断・治療と療育を学ぶ</p> <p>【第5回】5月16日4限(臨床第一講堂)<小杉> 「家族性腫瘍(1)総論」 家族性腫瘍の概念・体細胞系列変異と生殖細胞系列変異、癌抑制遺伝子と癌遺伝子、発症前診断</p> <p>【第6回】5月16日5限<小杉> 「家族性腫瘍(2)」 家族性大腸がん家族性腫瘍の代表疾患としての家族性大腸ポリポージスと遺伝性非腫瘍性大腸癌、それらの遺伝カウンセリングについて学ぶ</p> <p>【第7回】5月16日6限<山田> 「不育症(習慣流産)」 不妊症(習慣流産) 概念・病態・原因・治療・乏精子症による造精機能障害と転座型保因者における染色体異常妊娠等の遺伝学的要因の関与と遺伝カウンセリング</p> <p>【第8回】5月23日4限<小杉> 「家族性腫瘍(3)」 多発性内分泌腫瘍症他 家族性腫瘍の具体的疾患として、多発性内分泌腺腫1型および2型を中心にとりあげ、概念・病態・遺伝形式・診断・治療、及び遺伝カウンセリングについて概説する</p> <p>【第9回】5月23日5限<山田> 「出生前診断」 現状・具体的技術・法的規制・倫理問題について学ぶとともに、遺伝カウンセリングの実際について学ぶ</p> <p>【第10回】5月23日6限<山田> 「胎児診断と周産期管理」 胎児情報をもとに実施される実施される産科周産期管理について学ぶ</p> <p>【第11回】5月30日4限<小杉> 「家族性腫瘍(4)」 家族性乳がん・卵巣がん</p> <p>【第12回】5月30日5限<和田> 「性染色体異常」 病態・診断 具体的疾患：ターナー女性とクライ</p>					

Continue to 臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(3) ↓ ↓ ↓

臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(3)	
<p>(Others (office hour, etc.))</p> <p>講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります。</p> <p>*Please visit KULASIS to find out about office hours.</p>	

Course title <English>	遺伝医学特論 (集中講義) Special Seminar for Genetic Medicine		Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Professor, KOSUGI SHINJI	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Course offered year/period	2018/Intensive, First semester
Day/period	Intensive	Class style	Lecture	Language	Japanese
[Outline and Purpose of the Course]					
<p>【基本情報】 授業日時：前期集中（開講日時にご注意ください） 教室：臨床第一講堂 レベル：応用 担当者：小杉眞司・和田敏仁・山田崇弘・鳥嶋雅子・川村進吾・川崎秀徳 【コースの概要】 遺伝カウンセラーとして1年次に学んだ基礎的事項を確認し、医師と同レベルの高度な理解を得るための講義である</p>					
[Course Goals]					
ヒト遺伝学の基本的事項について完全に理解し、医師とも正確な議論ができる					
[Course Schedule and Contents]					
<p>【第1回】 5/14水3限<小杉>「メンデル遺伝の基礎」 【第2回】 5/14木4限<小杉>「遺伝学的検査について」 【第3回】 5/16水2限<小杉>「遺伝医療に関するガイドラインについて」 【第4回】 5/16水3限<小杉>「薬理遺伝学」 【第5回】 5/16水4限<小杉>「家族性腫瘍の遺伝カウンセリング」 【第6回】 5/17木3限<和田>「家系図の書き方・遺伝的リスクの推定」 【第7回】 5/17木4限<和田>「先天奇形症候群の遺伝カウンセリング」 【第8回】 5/18金1限<和田>「遺伝性神経疾患の遺伝カウンセリング」 【第9回】 5/18金2限<山田>「細胞遺伝学と染色体異常の遺伝カウンセリング」 【第10回】 5/18金3限<山田>「出生前医療と遺伝カウンセリング」 【第11回】 5/18金4限<山田>「生殖補助医療と遺伝カウンセリング」 【第12回】 5/21月3限<小杉>「当事者と共に歩む遺伝医療」 【第13回】 5/21月4限<小杉>「遺伝カウンセリングの実際」 【第14回】 5/24木1限<鳥嶋>「遺伝カウンセリングの場での医療コミュニケーションと自己評価法(1)」 【第15回】 5/24木1限<鳥嶋>「遺伝カウンセリングの場での医療コミュニケーションと自己評価法(2)」 【第16回】 5/30水5限<小杉・川崎>「筆記試験」</p>					
[Class requirement]					
遺伝カウンセラーコース2回生必修科目 人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡					
Continue to 遺伝医学特論 (集中講義) (2) ↓ ↓ ↓					

遺伝医学特論 (集中講義) (2)					
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]					
試験、レポート、発表、出席等を総合的に評価					
[Textbook]					
必須テキスト（必ず準備すること）： ・トンプソン&トンプソン 遺伝医学(第2版) (メディカルサイエンスインターナショナル)2017年4月発行 ISBN: 978-4-89592-875-5 ・遺伝カウンセリングマニュアル(南江堂)ISBN:978-4-524-26667-8 *推奨テキスト・資料： ・遺伝医学への招待 (南江堂) ISBN: 978-4-524-25332-6 ・症例でわかる新しい臨床遺伝学 (M E D S I) ISBN: 978-4-89592-574-7 ・GeneReviews http://www.geneclinics.org/					
[Reference books, etc.]					
(Reference books)					
講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります。					
[Regarding studies out of class (preparation and review)]					
適宜指示する					
(Others (office hour, etc.))					
*Please visit KULASIS to find out about office hours.					

Course title <English>	社会疫学 II Socio-epidemiology II		Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Associate Professor, KIHARA MASAKO	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Course offered year/period	2018/Second semester
Day/period	Mon.3	Class style	Lecture	Language	Japanese and English
[Outline and Purpose of the Course]					
<p>■ Course Description "Socio-epidemiology" is a new public health discipline first established in Kyoto University School of Public Health in 2000 that encompasses epidemiology and social sciences, or quantitative and qualitative research methods to facilitate ecological or socio-cultural understanding of health by utilizing multidisciplinary approach. In the first term, students will learn about study design issues relevant to socio-epidemiology such as social marketing, behavioral science, non-probability sampling methods, and (quasi-)experimental designs. In the second term, a series of lectures and workshops will be provided on qualitative research methods such as focus group interviews and qualitative data analysis. Throughout these courses students are expected to acquire an integrated view on socio-epidemiology and lay a solid foundation for the future research.</p>					
[Course Goals]					
<p>■ Goals and Objectives of the Course 1.To understand the complementary role of qualitative and quantitative research in prevention. 2.To understand the usefulness and limitation of qualitative research 3.To understand the method of focus group discussion and acquire its skills 4.To understand the methods of qualitative data analysis and acquire its skills 5.To understand the concept and methods of grounded theory approach</p>					
[Course Schedule and Contents]					
<p>Lecture schedule October 01 Introduction October 15 Quantitative method (1): Questionnaire development;part 1 October 22 Quantitative method (2): Questionnaire development;part 2 October 29 Overview of interview methods November 05 Focus group interview practicum;part 1 November 12 Focus group interview practicum;part 2 November 19 Focus group interview practicum;part 3 November 26 Overview of qualitative analysis December 03 Overview of Grounded Theory Approach December 10 Qualitative analysis practicum (1) December 17 Qualitative analysis practicum (2) January 07 Qualitative analysis practicum (3) January 21 Questionnaire development practicum (1) To be scheduled Questionnaire development practicum (2) To be scheduled Discussion</p>					
*Note: Please keep in mind that lecture content and schedule were subjected to change according to the					
Continue to 社会疫学 II(2) ↓ ↓ ↓					

社会疫学 II(2)					
students' needs and progress.					
[Class requirement]					
MPH Elective MCR Recommended GC Recommended					
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]					
<p>■ Evaluation Attendance 40 %, Class assignment 40%, Examination 20%</p>					
[Textbook]					
Not used					
[Reference books, etc.]					
(Reference books)					
<p>■ Course Readings References 1.Liampittong P et al. Research in Medical research-Foundations in evidence-based practice. Oxford University Press. 2010 2.Rice PL & Ezzy D. Qualitative research methods-a health focus. Oxford Univ. Press, 1999 3.Kinoshita Y. Practice of Grounded Theory Approach. Kobundo, 2003 (in Japanese).</p>					
[Regarding studies out of class (preparation and review)]					
not in particular					
(Others (office hour, etc.))					
It is desirable to take both socio-epidemiology I(1st term) &II(2nd term) since they are complementary.					
<p>VI. Message Students who are going to be involved in disease prevention in future or those who have a real interest in prevention practice are expected to attend this course.</p>					
*Please visit KULASIS to find out about office hours.					

Course title <English>	環境・感染論 Environment and Infection		Affiliated department, Job title, Name	Center for Southeast Asian Studies Professor, NISHIBUCHI MITSUAKI	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Course offered year/period	2018/Intensive, Second semester
Day/period	Intensive	Class style	Lecture	Language	Japanese and English
[Outline and Purpose of the Course]					
Through lectures, report presentations by the students followed by group discussions, students are guided to understand various factors that influence the emergence and spread of infectious diseases of humans, especially those in the environments, and their interactions and association with other factors.					
[Course Goals]					
To acquire the ability to analyze various factors, including the natural environments where pathogens persist, man-made environments, and resistance of humans against infection, and to integrate these factors with an ultimate goal to understand infectious diseases from an ecological stand point.					
[Course Schedule and Contents]					
This course essentially consists of lectures given by the lecturer, M. Nishibuchi, (agenda nos. 1~9); seminar-style report presentation by the graduate students (agenda nos. 10~13); an on-site study at a quarantine station where qualified graduate students are allowed to participate regardless of the registration for this course if the number of the applicants is within the limit.					
Lectures will be given during the 5th lecture hour on Tuesday in Room 203 on the 2nd floor of Center for Southeast Asian Studies located at the intersection between Konoe Street and Kawabata Street.					
<ol style="list-style-type: none"> 1. Background to study infectious diseases (infect. dis.) (lecture [lec.]) 2. Emerging infect. dis.: the most important infect. dis. in developed countries (lec.) 3. Development and infect. dis. in developing countries: a study in Indonesia (lec.) 4. Water and health (lec.) 5. Pandemic: infect. dis. that spread on a global scale (lec.) 6. Infect. dis. at issue (lec.) 7. Molecular epidemiological analysis of infect. dis. (lec.) 8. Infect. dis. in Japan and foreign countries (lec.) 9. Factors influencing the emergence and spread of a selected infect. dis. I (sem.) 10. Factors influencing the emergence and spread of a selected infect. dis. II (sem.) 11. Factors influencing the emergence and spread of a selected infect. dis. III (sem.) 12. Factors influencing the emergence and spread of a selected infect. dis. IV (sem.) 13. Factors influencing the emergence and spread of a selected infect. dis. V (sem.) 14. Study tour to a quarantine station: an on-site study for prevention of infect. dis. 					
[Class requirement]					
<ul style="list-style-type: none"> ● The explanations in handouts and power point slides are described in both Japanese and English. The lecture may be delivered in English if the situation suggests it is better to do so, e.g., designation of this course as a course of Global Survivability and Sustainability Unit of Leading University Program, the mother tongues of more than half of the students being non-Japanese; and if the students agree. 					
Continue to 環境・感染論(2) ↓ ↓ ↓					

環境・感染論(2)					
<ul style="list-style-type: none"> ● A lecture(s) may be cancelled due to an avoidable reason. If the students agree, a part of or all lectures may be arranged so that they are given intensively on a special day(s). ● When the agenda 13 is completed, students will be asked to provide opinions to the lecture to help improve the course in the future. ● A study tour to a Quarantine station (agenda 14) is likely be carried out in the middle or near the end of February because it requires almost all day of one's schedule including travel between Kyoto and the quarantine station and the study at the quarantine station needing all afternoon working hours. The tour to Kansai Airport Quarantine Station is scheduled to study how the safety of travelers is guaranteed for the next academic year. The visiting schedule to the two quarantine stations are repeated every other year and is made open to interested students so that the students registered at related graduate schools/institutes for more than two years have a chance to visit both quarantine stations. The tour to Kobe Quarantine Station is scheduled to learn on site how safety of imported food is assured. 					
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]					
<ul style="list-style-type: none"> ● The agenda indicated below as the targets of evaluation will be put together to determine the final total score. ● The grade of the students will be determined based on the following standard: attendance to a series of lectures given by the lecture (agenda 1 to 8: 40%), oral presentation of the report (agenda 9 to 13: 40%) and activity at discussion on the presentations by other students (agenda 9 to 13: 20%) with the basis for evaluating the latter two being intelligence, positive attitude, sharp observation, insight, and the ability to express his/her opinion. ● Attendance to the tour to the quarantine station is optional and is independent of the students' grade as it cannot be performed in time for the grade submission. ● Those who need a credit (grade) must orally present a report for discussion. Otherwise, the grade will not be submitted. 					
[Textbook]					
Not used Textbook will not be used. The materials to help students better understand the lecture will be provided by the lecturer. These include handouts describing the summary of the lectures both in Japanese and English and copies of scientific papers as supplementary reading. Reference books may be borrowed from the instructor; the students do not need to purchase them.					
[Reference books, etc.]					
(Reference books)					
Marc Gentilini. 1993. Translated into Jap. by T. Shimizu et al. 『M#233decine Tropicale』 (Nakayama-Shoten) (Originally written in French) Ed. R. L. Guerrant et al. 2006 『Tropical Infectious Diseases 2nd ed』 (Churchill Livingstone Elsevier) (Written in detail and in a very professional fashion)					
Continue to 環境・感染論(3) ↓ ↓ ↓					

環境・感染論(3)					
[Regarding studies out of class (preparation and review)]					
A preliminary or follow up study is not always necessary. If there is a request for related information, however, it will be provided by the lecturer upon request.					
(Others (office hour, etc.))					
Contact information: Mitsuaki Nishibuchi Center for Southeast Asian Studies Kyoto University 46 Shomoadachi-cho, Yoshida Sakyo-ku, Kyoto 606-8501 Japan Tel. Office +81-75-753-7367; Lab +81-75-753-7319, +81-75-761-2700, Fax. +81-75-753-7319, +81-75-761-2701 e-mail. nisibuti@cseas.kyoto-u.ac.jp *Please visit KULASIS to find out about office hours.					

Course title <English>	人間生態学 Field Medicine		Affiliated department, Job title, Name	Center for Southeast Asian Studies Associate Professor, SAKAMOTO RYOUTA	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Course offered year/period	2018/Second semester
Day/period	Mon.4	Class style	Lecture	Language	Japanese and English
[Outline and Purpose of the Course]					
Field Medicine is based on the belief that patients in the hospital setting provides only a small glimpse into their world, and that the reality of illness and aging can be observed in their homes and communities as well. In this class, we will consider illness and ageing in relation to ecology and culture.					
[Course Goals]					
To nurture the potential to find and tackle with issues of one's own motive, we will learn the pioneer spirits and philosophy of our forefathers and people in our time.					
[Course Schedule and Contents]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Field Medicine 3. Freedom and Pioneer Spirits 4. Studies started from a patient in front of you 5. Legionella beside you 6. Aging in high-altitude environments 7. Global environment issues inside us 8. Health and happiness among the elderly in Domkhar valley 9. Significance of friendships in area studies 10. Community based elderly care program in Bhutan 11. Learning livelihoods of people from a clinic 12. Limitations and roles of medical care 13. View of life and death and significance of medical care 14. Message from an elderly in Himalaya 15. General discussion 					
[Class requirement]					
None					
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]					
Evaluation will be made based on question-and-answer participation in class and reports.					
Continue to 人間生態学(2) ↓ ↓ ↓					

人間生態学(2)	

[Textbook]	
Not used	
[Reference books, etc.]	
(Reference books) 坂本龍太 『アータンの小さな診療所』 (ナカニシヤ出版) ISBN:978-4779508974 奥宮清人 『生老病死のエコロジー』 (昭和堂) ISBN:978-4812210673	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Please treasure questions and ideas conceived in your mind during the classes. Please study further and consider well in your mind after the classes.	
(Others (office hour, etc.))	
Ryota Sakamoto, MD, PhD Center for Southeast Asian Studies Kyoto University 46 Shimoadachi-cho, Yoshida, Sakyo-ku, 606-5801 Kyoto, Japan TEL:+81 75-753-7368 FAX:+81 75-753-7168 E-mail:sakamoto65@cseas.kyoto-u.ac.jp *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	交絡調整の方法 Intermediate Biostatistics	Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor.SATO TOSIYA Graduate School of Medicine Assistant Professor.YONEMOTO NAOHIRO Ministry of Health, Labour and Welfare MORI KAZUHIKO
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Day/period	Tue.2	Class style	Lecture
Course offered year/period	2018/Second semester		
[Outline and Purpose of the Course]			
Confounding leads to bias which interferes causal interpretation between exposure and outcome in observational studies. This course is designed to provide statistical methods for adjustment of confounding. Stratified analysis and regression modeling are introduced. Related topics, such as survival analysis, missing data, etc., are included. For conducting an epidemiologic or clinical research, developing a study protocol and a statistical analysis plan is necessary. We provide an essence for developing them.			
[Course Goals]			
- Understand the concept of confounding - Understand pros and cons of stratified analysis and regression modeling - Understand importance for study protocol and statistical analysis plan			
[Course Schedule and Contents]			
1. October 2 Confounding and standardization 2. October 9 Estimation of common effect measures 3. October 16 Comparison of means 4. October 23 Introduction to regression modeling, Class exam 1 5. October 30 Generalized linear models 6. November 6 Survival analysis 1 7. November 13 Survival analysis 2 8. November 20 Handling missing data, Class exam 2 9. November 28 Data management and reporting 10. December 4 Study protocols 11. December 11 Statistical analysis plans 12. December 18 Review of pharmaceutical products and pharmacovigilance (13:00-14:30) 13. January 8 Variable selection, Class exam 3 14. January 15 Advanced methods for confounding adjustment 15. January 22 Discussion on statistical analysis plans			
[Class requirement]			
All students in the course were expected to take "Fundamentals of Biostatistics"			

Continue to 交絡調整の方法(2) ↓ ↓ ↓			

交絡調整の方法(2)	

[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]	
Class examinations - 3 times	
[Textbook]	
Distributed materials in "Fundamentals of Biostatistics"	
[Reference books, etc.]	
(Reference books) Rothman KJ, Greenland S, Lash TL. 『Modern Epidemiology, 3rd ed.』 (Lippincott Williams & Wilkins, 2008)	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Fundamentals of Biostatistics	
(Others (office hour, etc.))	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	解析計画実習 Health Data Processing Laboratory	Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor.SATO TOSIYA Graduate School of Medicine Assistant Professor.YONEMOTO NAOHIRO Ministry of Health, Labour and Welfare MORI KAZUHIKO Pharmaceuticals and Medical Devices Agency ANDO YUKI Kobe University OMORI TAKASHI
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Day/period	Tue.3,4	Class style	Practical training
Course offered year/period	2018/Second semester		
[Outline and Purpose of the Course]			
This course provides students technical issues to develop a statistical analysis plan and a study protocol. This course provides practice to review new pharmaceutical products. At the end of this program, students develop their statistical analysis plans for their master's thesis and give presentation for them.			
[Course Goals]			
- Understand study guidelines - Apply stratified analysis and regression models using JMP statistical software and interpret results - Be familiar with review of submitted documents for approval on new pharmaceutical products - Develop analysis plans for master's theses			
[Course Schedule and Contents]			
1. October 2 Study guidelines 1 2. October 9 Study guidelines 2 3. October 16 Study guidelines 3 (Presentation) 4. October 23 Stratified analysis 5. October 30 Comparison of means 6. November 6 Regression analysis 7. November 13 Generalized linear models 8. November 20 Survival analysis 9. November 27 Missing data analysis 10. December 4 Review practice for new pharmaceutical products 1 11. December 11 Review practice for new pharmaceutical products 2 12. December 18 Review practice for new pharmaceutical products 3 (Presentation, 14:45-18:00) 13. January 8 Developing statistical analysis plan 1 14. January 15 Developing statistical analysis plan 2 15. January 22 Statistical analysis plan presentations			
[Class requirement]			
All students in the course were expected to take "Introduction to Statistical Computing."			

Continue to 解析計画実習(2) ↓ ↓ ↓			

解析計画実習(2)	

[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]	
Reports and presentations	
[Textbook]	
Distributed materials in "Fundamentals of Biostatistics" Distributed materials in "Introduction to Statistical Computing" Distributed materials in "Intermediate Biostatistics"	
[Reference books, etc.]	
(Reference books) You must download and install the statistical software JMP on your own computer. Please see http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/ .	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Introduction to Statistical Computing	
(Others (office hour, etc.))	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title -English>	地域保健医療福祉論 Health, Medical and Welfare System	Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Associate Professor, SATOMURA KAZUNARI
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Course offered year/period	2018/The first half of second semester		
Day/period	Thu. 3, 4	Class style	Lecture
Language	Japanese and English		
[Outline and Purpose of the Course]			
After conquering the "antiquated" infectious diseases, Japanese have been enjoying prolonged life. At the same time, unprecedented phenomena force us to the serious health danger. The first part of the course will outline the history of the health policy in Japan. Next, we will pick up some contemporary health care/policy issue and ask you to analyze and assess it and make presentations in groups of ideal suggestion for the better policy. In this process, you will learn the characteristics of the Japanese health policy.			
[Course Goals]			
The purpose of this course is to provide the students with an overview of the unique health policy process in Japan. At the end of the class, the students are required to be able to analyze and assess the health policy issues.			
[Course Schedule and Contents]			
#1/2 Outline of status quo of Japanese health policy #3/4 Current topics and the points at issue in health policy (1) #5/6 Current topics and the points at issue in health policy (2) #7/8 Examination and discussion on the points at issue (1) #9/10 Examination and discussion on the points at issue (2) #11/12 Examination and discussion on the points at issue (3) #13/14 Examination and discussion on the points at issue (4) #15 Feedback Hour			
Confirm for subsequent schedule change			
[Class requirement]			
None			
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]			
Class participation, presentation, discussion 50%, Group/individual paper 50%			

Continue to 地域保健医療福祉論(2) ↓ ↓ ↓			

地域保健医療福祉論(2)	

[Textbook]	
Handouts will be passed out as needed.	
[Reference books, etc.]	
(Reference books) 『国民衛生の動向』(厚生統計協会) (“KOKUMIN’ EISEINODOKO” (Japanese)) 『国民の福祉の動向』(厚生統計協会) (“KOKUMIN’NOFUKUSHINODOKO” (Japanese)) 『保険と年金の動向』(厚生統計協会) (“HOKENTONENKIN’NODOKO” (Japanese)) 『衛生行政大要』(日本公衆衛生協会) (“EISEIGYOSEITAIYO” (Japanese)) 『Statistical Abstracts on Health and Welfare in Japan』(Health and Welfare Statistics Association) (English)	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Watch the news reports in newspapers, TV, internet with interest to help to the understanding of the course content.	
(Others (office hour, etc.))	
Methods of Instruction: Lectures, Student-led presentations, Class discussions Course format may varies depend on the number of students *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title -English>	国際保健学 International Health	Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Associate Professor, SATOMURA KAZUNARI
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Course offered year/period	2018/Intensive, Second semester		
Day/period	Intensive	Class style	lecture and seminar
Language	Japanese and English		
[Outline and Purpose of the Course]			
Violent activities of the terrorists have changed the whole situation of international health. The concept of human security is now given a high priority to the field activities of international health. In this course, after the outline of system and activities of the international cooperation/aid agencies, we invite international health/medical professionals to lecture on their own projects. At the same time, we focus on the process of the career path of each practitioner.			
[Course Goals]			
The purpose of this course is to expose the students with the different health situations bound by political, economical and cultural reasons in countries and help them to have ideas of contribution. At the end of the class, the students are required to know how to get useful and practical information of their prospective role and style for the future health/medical practice.			
[Course Schedule and Contents]			
#1 Outline of international health #2/3 A practical case (1) #4/5 A practical case (2) #6/7 A practical case (3) #8/9 A practical case (4) #10/11 A practical case (5) #12/13 A practical case (6) #14/15 A practical case (7)/Feedback Hour			
Confirm for subsequent schedule change			
[Class requirement]			
For the better comprehension with comparison, course of "Health, Medical and Welfare System" is recommended to take.			
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]			
Class participation and attitude 50% Group/individual paper 50%			

Continue to 国際保健学(2) ↓ ↓ ↓			

国際保健学(2)	

[Textbook]	
Handouts will be passed out as needed.	
[Reference books, etc.]	
(Reference books)	
『国民衛生の動向』(厚生統計協会) (“KOKUMIN’ EISEINODOKO” (Koseitokeikyokai) (Japanese))	
『Statistical Abstracts on Health and Welfare in Japan』(Health and Welfare Statistics Association)	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Watch the news reports in newspapers, TV, internet with interest to help to the understanding of the course content.	
(Others (office hour, etc.))	
Methods of Instruction: Lectures, Class discussions, Guest lectures Course format may varies depend on the number of students	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title	中毒学	Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Associate Professor, HARADA KOUJI
<English>	Toxicology		
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
		Course offered year/period	2018/Second semester
Day/period	Fri.2	Class style	Lecture
		Language	Japanese and English
[Outline and Purpose of the Course]			
I. Course Description The understanding of GLP (Good Laboratory Practice) is essential for toxicology study. The course is aimed to provide the basis of modern toxicology research. In addition, advanced toxicology for toxicokinetics and chemical analysis will be given in the latter half of the course.			
[Course Goals]			
II. Course Goals and Objectives Knowledge of GLP Knowledge of toxicokinetics and mathematical models Knowledge of chemical analysis Skill to audit toxicological research			
[Course Schedule and Contents]			
Course Schedule 1 Orientation 2 GLP “General Provisions” and “Organization and Personnel” 3 GLP “Facilities” and “Equipment” 4 GLP “Testing Facilities Operation” and “Test and Control Articles” 5 GLP “Protocol for and Conduct of a Non-clinical Laboratory Study” 6 GLP “Records and Reports” 7 GLP “Disqualification of Testing Facilities” 8 GLP “Timing of Pre-clinical Studies in Relation to Clinical Trials” 9 GLP “Preclinical Safety Evaluation of Biotechnology-Derived Pharmaceuticals” 10 GLP “Safety Pharmacology Studies for Human Pharmaceuticals” 11 Toxicokinetics 1 12 Toxicokinetics 2 13 Research ethics 14 Chemical analysis 1 15 Chemical analysis 2			
[Class requirement]			
Elective.			
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]			
III. Methods of Instruction Lecture			

Continue to 中毒学(2) ↓ ↓ ↓			

中毒学(2)	

Small group teaching and discussion	
[Textbook]	
Instructed during class IV. Course Text and Readings 1. Code of Federal Regulations ICH Guideline 2. Lu’s BASIC TOXICOLOGY 4th edition Frank C. Lu and Sam Kacew, Taylor and Francis, 2002	
[Reference books, etc.]	
(Reference books)	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
V. Course Grade Attendance and active participation 50% Presentation 50%	
(Others (office hour, etc.))	
Credits of “Introduction to Toxicology” and “Occupational health and environmental health sciences” are required.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title	ベンチトレーニングコース	Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Associate Professor, HARADA KOUJI
<English>	On the Bench Training Course		
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
		Course offered year/period	2018/Second semester
Day/period	Fri.3,4	Class style	Lecture
		Language	Japanese and English
[Outline and Purpose of the Course]			
I. Course Description The practice of the GLP will be given for learning protocol writing, protocol presentation, protocol meeting, sample collection, sample measurement, audit, paper writing and review.			
[Course Goals]			
II. Course Goals and Objectives Skills in handling Gas Chromatography / Mass Spectrometry (GC-MS) Skill for protocol writing in accordance with the practice of GLP Conduct laboratory works in accordance with GLP Skill the experimented data Skill the experimented data Skill to write a company paper			
[Course Schedule and Contents]			
Course Schedule 1 Orientation 2 Gas Chromatography 24-1, 24-2, 24-3 3 Gas Chromatography 24-4, 24-5 4 Mass Spectrometry 22-1, 22-2 5 Mass Spectrometry 22-3, 22-4 6 Discussion of theme 7 Presentation of background 8 Protocol Writing 9 Protocol Presentation 10 Sample collecting 11 Sample measurement (1) 12 Sample measurement (2) 13 Summarize the data 14 Presentation the data 15 Writing Paper			
[Class requirement]			
Elective. Required for the students of department of Health and Environmental Sciences.			

Continue to ベンチトレーニングコース(2) ↓ ↓ ↓			

ベンチトレーニングコース(2)	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]	
V. Course Grade Attendance and active participation 50% Presentation 50%	
[Textbook]	
Not used IV. Course Text and Readings Handouts 1. Code of Federal Regulations ICH Guideline 2. Quantitative Chemical Analysis 6th edition Daniel C. Harris, W. H. Freeman and Company, 2003	
[Reference books, etc.]	
(Reference books)	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
III. Methods of Instruction Lecture and small group working	
(Others (office hour, etc.))	
Credits of "Introduction to Toxicology" and "Occupational health and environmental health sciences" simultaneous registration of "Toxicology" are required. *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査 Development strategy, plan, and regulatory affairs of drugs and medical devices		Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor,KAWAKAMI, KOJI	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Course offered year/period	2018/Second semester
Day/period	Wed.3,4	Class style	Lecture	Language	Japanese and English
[Outline and Purpose of the Course]					
Director and Instructors: (Director) Koji Kawakami (Professor, Pharmacoepidemiology), Shiro Tanaka (Program-specific Professor, Clinical Biostatistics), Junko Komura (Setsunan Univ.), Yasuhiro Fujiwara (National Cancer Center),Harue Tada(Kyoto Univ. Hospital) , Christian Elze (Catenion), Haruko Yamamoto (National Cerebral and Cardiovascular Center), Yoshinaka(Shiga Univ. Of Medical Science), Ikuo Horii (Cambridge Univ.), Yoko Uryuhara (Doshisya Univ.), Shigeyuki Wakitani (Mukogawa Women's Univ.), Hisashi Urushihara (Keio Univ.), Shinya Kimura (Japan Medical Data Center), Yoshie Onishi (CreativCeutical)					
The development strategy, protocol design, project management, safety/efficacy assessment, and economic evaluation of drugs and medical devices will be lectured. The development of drug and medical device and the regulatory review in terms of manufacturing and control, nonclinical studies, clinical protocol, the new drug applications, and post-marketing will be discussed.					
[Course Goals]					
<ul style="list-style-type: none"> The idea of drug/medical device development and regulatory review will be understood. To understand the strategy, protocol development, and project management of drug development and clinical trials. 					
[Course Schedule and Contents]					
October 3 Drug Development strategy and translational research (Tanaka)					
October 10 Industry R&D and regulatory reviewer training: nonclinical studies (Komura)					
October 17 Industry R&D and regulatory reviewer training: CMC (Kawakami)					
October 24 Industry R&D and regulatory reviewer training: protocol review of clinical trial (Fujiwara)					
October 31 Project management of clinical trial (Tada)					
November 7 The changing Dynamics of Bio-pharmaceutical Innovation (Elze)					
November 14 Industry R&D and regulatory reviewer training: medical devices (1) (Yamamoto)					
November 21 Industry R&D and regulatory reviewer training: medical devices (2) (Yoshinaka)					
November 28 Data review and personalized medicine in drug development (Horii)					
December 5 Industry R&D and regulatory reviewer training: regenerative medicine (Wakitani)					
December 12 Life cycle management of drug (Uryuhara)					
December 19 Industry R&D and regulatory reviewer training: postmarket (Urushihara)					
December 26 Health economy and outcomes research: Practice (Onishi)					
January 9 Application of medical database in evaluation of health care (Kimura)					
January 16 Sight visiting of Kobe medical cluster					
Continue to 医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査(2) ↓ ↓ ↓					

医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査(2)	
[Class requirement]	
You must take this course along with the course H109 "Drug policy and regulations" and H079 "Drug development, evaluation and regulatory sciences" of Wednesday 2nd of the second semester for you to acquire fundamental understanding of the field.	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]	
Participation (50%) and report (50%)	
[Textbook]	
Suggested reading: Saeko Yasuo et al. Invitation to new drug development. Kyoritsu Press, 2006 (Japanese). Koji Kawakami (ed.) The Beginner's guidance to the clinical research and development. Medical Do, 2010 (Japanese).	
[Reference books, etc.]	
(Reference books) Introduced during class	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Preparation in advance and review after lecture	
(Others (office hour, etc.))	
Koji Kawakami (3F, Bldg G) appointment required by email. e-mail: kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	医薬品の開発と評価 Drug Development, Evaluation and Regulatory Sciences		Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor,KAWAKAMI, KOJI	
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Course offered year/period	2018/Intensive, Second semester
Day/period	Intensive	Class style	Lecture	Language	Japanese and English
[Outline and Purpose of the Course]					
Director and Instructors: (Director) Koji Kawakami (Professor, Pharmacoepidemiology),Hiroimitsu Shirasawa (MSD, Japan), Ikuo Horii (Cambridge Univ.), MasayoshiMurakami(Foundation for Biomedical Reserch and Innovaution),Hisashi Urushihara (Keio Univ.), Yoshie Onishi(CreativCeutical), Haruka Yoshimura(MOF)					
The efficacy and safety of the drug, biologics, and medical devices are evaluated through the drug development process involving preclinical and clinical studies,manufacturing, and post-marketing surveillance. Also, cost/benefit consideration through the comparative effective research is necessary. Fundamental considerations of these issues along with research examples will be discussed.					
[Course Goals]					
To understand idea of the development, evaluation, cost/benefit of medicinal products.					
[Course Schedule and Contents]					
November 21 Regulatory affairs in the globalwde pharmaceutical company (Shirasawa)					
November 28 Drug development and toxicity/safety (Horii)					
December 5 Tanslational reserch and industrializatons(Murakami)					
December 12 Medical real world data and Medicine evaluation(Kawakami)					
December 19 Postmarketing surveillance (Urushihara)					
December 26 Pharmacoeconomics and value-based drug pricing (Onishi)					
January 9 Finance of Japan and healthcare(Yoshimura)					
January 16 Sight visiting of Kobe medical cluster					
[Class requirement]					
You must take this course along with the course H109 "Drug policy and regulation" otherwise the entire grasp of the drug research, development, and regulations will not be achieved.					
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]					
Participation (50%) and report (50%)					
[Textbook]					
Suggested reading: Hartzema, A.C. et al., ed. Pharmacoepidemiology: An Introduction 3rd ed., Harvey Whitney. 1998. Saeko Yasuo et al. Invitation to new drug development. Kyoritsu Press, 2006 (Japanese). Koji Kawakami (ed.) The Beginner's guidance to the clinical research and development. Medical Do, 2010					
Continue to 医薬品の開発と評価(2) ↓ ↓ ↓					

医薬品の開発と評価(2)	
(Japanese).	
[Reference books, etc.]	
(Reference books)	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Preparation in advance and review after lecture	
(Others (office hour, etc.))	
Koji Kawakami (3F, Bldg G) appointment required by email. e-mail: kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp intermediate	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title -English>	医療倫理学各論 Practicum for Clinical Genetics	Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor,KOSUGI SHINJI
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Course offered year/period	2018/Intensive, Second semester		
Day/period	Intensive	Class style	Lecture
Language	Japanese		
[Outline and Purpose of the Course]			
【基本情報】 授業日時：金曜5/6限（原則隔週） 教室：G棟3階演習室 レベル：応用 担当者：小杉真司・和田敬仁・山田崇弘・竹之内沙弥香・山崎康佳（神戸大学）・浅井篤（東北大学）			
【コースの概要】 医療技術の進展にともなう生じる臨床上の問題、臨床研究実施上の問題の検討を行う。「自ら問題を考え、解決の方策を探り、臨床で実践する能力」を身につけ、実践行動型の医療者となることを目標とする			
[Course Goals]			
1)医療倫理学の基礎を理解する ・医療倫理学の背景、医師患者関係の変容、患者の権利や医師の義務を理解する 2)倫理的問題の対処方法を習得する ・問題の存在を認識し、考える枠組みを使って実際の問題を検討する ・議論を通じて解決の道筋をたてる ・臨床での実践方法を考える			
[Course Schedule and Contents]			
【第1/2回】11/2<小杉>「倫理委員会・移植医療と倫理」倫理審査委員会の歴史、現状、法的根拠、組織。生体肝移植を中心とする倫理について実例に基づいて考える 【第3/4回】11/16<和田>「小児科医療と倫理」小児医療における代諾、重症障害新生児の治療、治療拒否と虐待などの問題点について考える 【第5/6回】12/7<山崎>「法と倫理」道徳・倫理・法の関係、自然法論と法実証主義などについて総合的に考える 【第7/8回】12/14<竹之内>「終末期医療」治療の中止、延命治療、安楽死、尊厳死、高齢者医療、DNRオーダー、事前指示、医学的無益性などについて考える 【第9/10回】1/18<山田>「産婦人科医療と倫理」産婦人科では、胚や胎児を対象とするために生じる倫理問題が存在する。これらの幅広い倫理的課題について考える 【第11/12回】2/1<浅井>「医療資源配分の問題」 【第13/14回】2/15<山田>「二次的（偶発的）所見の問題」網羅的なゲノム情報が用いられる時代となり常に直面する二次的（偶発的）所見の取り扱いについて学ぶ 【第15/16回】2/22<小杉>「自主研究発表」履修院生による自己テーマについての研究発表			
[Class requirement]			
遺伝カウンセラーコース1回生必修科目 SPH選択科目			
Continue to 医療倫理学各論(2) ↓ ↓ ↓			

医療倫理学各論(2)	
先修科目として「基礎医療倫理学」の履修を原則とする 人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]	
研究発表、議論への参加の積極性、レポート、出席等を総合的に判定します。 自主研究発表(最後に実施)：医療倫理に関するどのようなテーマでも良いので、自ら問題点を探し、それについて調べたり、検討した結果を発表し、全体でディスカッションします。割り当て時間（発表+ディスカッション）は、発表者の数に依存しますが、15-20分程度です。（原則としてパワーポイントを用いて発表し、ハンドアウト配布をお願いします）。他の専攻や研究科からの受講、聴講の場合も必須です。	
[Textbook]	
配布するハンドアウトなど	
[Reference books, etc.]	
(Reference books)	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
適宜指示する	
(Others (office hour, etc.))	
その他メッセージ 事例検討は、ビデオ、漫画を用いることがあります 講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります かならず、正式な受講届を提出すること。	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title -English>	統計遺伝学 II Statistical Genetics II	Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor,YAMADA RIYOU
Target year	Doctoral students	Number of credits	2
Course offered year/period	2018/Second semester		
Day/period	Tue.5	Class style	lecture and seminar
Language	Japanese and English		
[Outline and Purpose of the Course]			
This course is consisted of three components to master the basics of statistical genetics; (1) basic mathematics, (2) basics of statistics and (3) application of statistics to genetic studies. The course divides these three components into six modules and provides one of them for each semester.			
Basic mathematics A: Linear algebra and graph theory Basic mathematics B: Calculus and information geometry			
Basics of statistics A: Data types and statistical tests Basics of statistics B: Inference			
Application of statistics A: Statistical aspects of Mendelian traits and Cancer syndromes Application of statistics B: Statistica. aspects of complex genetic traits and gene expression biomarkers.			
Schedule plan is as below:			
2018 1st semester Basic mathematics A, 2nd semester Basics of statistics A 2019 1st semester Basic mathematics B, 2nd semester Application B 2020 1st semester Basic mathematics A, 2nd semester Basics of statistics B 2021 1st semester Basic mathematics B, 2nd semester Application A			
In the course, the language R is used for data analysis, simulation and visualization.			
This semester: BASICS OF STATISTICS A.			
[Course Goals]			
Basic mathematics A: To understand matrix calculation least squares, PCA, and the basics of graph theory. Basic mathematics B: To understand calculus for probability density functions, likelihood functions and maximum likelihood estimation, approximation, and the basics of information geometry.			
Basics of statistics A : To understand data types, statistical tests, asymptotic tests, exact tests, and contingency table tests			
Basics of statistics B : To understand point and interval estimates, Bayesian estimates, maximum likelihood estimates and likelihood functions.			
Application A: To understand statistical aspects for risk evaluation of Mendelian traits and cancer syndromes. Application B: To understand statistical aspects for riks evaluation of complex genetic traits and expressional profiles.			
Continue to 統計遺伝学 II (2) ↓ ↓ ↓			

統計遺伝学 II (2)	
In every module, the basics of R language should be mastered.	
[Course Schedule and Contents]	
Basic mathematics A The first half: Linear algebra, including matrix calculation, variance-covariance matrix, least square method, system of equation, PCA, optimization The second half: Graph theory, including basics of graph theory, tree, minimum spanning tree, random graph, and network and graph objects in R language.	
Basic mathematics B The first half: Calculus, including expect of probability density functions, likelihood function and maximum likelihood estimate and calculus for them, calculus for probability density function, cumulative density function and hazard functions, partial derivative and HWE, calculus for least square methods and Taylor expansion. The second half: Information geometry, including its basics, Fisher information, dual flatness, exponential families and KL divergence.	
Basics of statistics A Data types including categorical types and simplex, 2x2 table tests and chi-square test and exact test, HWE-test and its exact test, 2x3 table test and genetic models, uniform distribution and multiple testing and Bonferroni's correction.	
Basics of statistics B Point and interval estimates, Bayesian approach and binomial and beta distributions, haplotype frequency estimation and EM algorithm and LD block.	
Application A The first half: Mendelian traits, including pedigree, genotypes and phenotypes of Mendelian traits, NGS and disease-responsible variants. The second half: Cancer syndrome, including its basics and risk evaluation, decision-support tool, Bayesian estimation and Bayesian network.	
Application B The first half: Complex genetic traits, including genetic models, population and cohort, 2x3 table association tests and multiple-locus model. The second half: Transcriptome analysis and expression profiles, including their basics, differential expression analysis, clustering and heatmap, supervised learning and validation.	
[Class requirement]	
It is desirable to have background of molecular biology and genetics but not required if ready for self-learning them.	
Bring a laptop PC with wifi.	
Basic computer skills and programming in R are necessary. If no, self-learn them along the course.	
Continue to 統計遺伝学 II (3) ↓ ↓ ↓	

統計遺伝学 II (3)	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]	
Activities in the class hours, homeworks and exam at the end of the course are count.	
[Textbook]	
For basics of statistics A and B "遺伝統計学の基礎 ISBN 978-4274068225 in Japanese and its English version handout will be used.	
[Reference books, etc.]	
(Reference books) For basic mathematics, get handouts @ http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2018 . For application A and B, get handouts @ http://statgenet-kyotouniv.wikidot.com/2017 .	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Homework every week.	
(Others (office hour, etc.))	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	健康情報学 I Health informatics I	Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Professor, NAKAYAMA TAKEO Graduate School of Medicine Associate Professor, TAKAHASHI YOSHIMITSU Part-time Lecturer, MIYAZAKI KIKUKO Kyushu University Graduate School of Environmental and Life Science, Professor TSUDA TOSHIHIDE Daito Bunka University, Professor, SUGIMORI HIROKI Tokyo Arikake University of Medical and Health Sciences, Professor TSUTANI KIICHIRO Japan MBTI Association, Director SONODA YUKI Center for Cancer Control and Information Services, Director WAKAO FUMIHIKO		
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Course offered year/period	2018/Second semester
Day/period	Fri.2	Class style	Lecture	Language	Japanese and English
[Outline and Purpose of the Course]					
This course comprises systematic lectures on health / medical information, collection, accumulation, transmission, retrieval and appraisal of data and knowledge. Being based on epidemiology and EBM, methods of utilizing information about health and medicine via medical literature, mass media or internet. Health literacy, circulation of information and information ethics including protection of individual information will be also addressed. Moreover, the workshop of the "MBTI", which is very popular among healthcare professionals in the US and western countries, will be held to understand intra and inter personal pattern of information recognition and processing, and communication.					
Methods of Instruction Lectures, practices, small group discussion.					
[Course Goals]					
<ul style="list-style-type: none"> • Being based on knowledge of epidemiology and EBM, to acquire skills of utilizing various health / medical information. • To be capable of collecting and appraising health information via mass media or internet and of utilizing them as materials for decision making, problem solving and promoting communication. • To understand intra and inter personal pattern of information recognition and processing, and communication in terms of the "MBTI". 					
[Course Schedule and Contents]					
1 October 5 Information / health literacy: Introduction 1 2 October 12 Information / health literacy: Introduction 2 3 October 19 Quality of life and "patient reported outcome" in health 4 October 26 Internet and e-health 5 November 2 Evidence-based practice and clinical practice guidelines					
Continue to 健康情報学 I (2) ↓ ↓ ↓					

健康情報学 I (2)	
6 November 9 Narrative information: the significance and possibility 7 November 30 Dissemination of cancer information: the current state of enlightenment and problem 8 December 7 Causal inference: An advanced information literacy 9 December 14 Communicating Risks and Benefits 10 December 21 Health literacy and risk communication 11 December 28 Health information and communication on complementary and alternative medicine 12 January 11 Public health informatics 13 January 17 "MBTI" special workshop (1) 14 January 18 "MBTI" special workshop (2) 15 January 25 Individual presentation and wrap-up Note: This schedule is subject to change. The class will be scheduled to avoid overlapping "Health informaticsII".	
[Class requirement]	
None (it is desirable to have basic knowledge of epidemiology or evidence-base medicine).	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]	
Short report for each lecture 80%, Oral Presentation 20%	
[Textbook]	
The material necessary for the lecture will be provided by lecturers. Purchase of the textbook of MBTI is required (approximately, 3,000Yen).	
[Reference books, etc.]	
(Reference books) Baruch Fishhoff, Noel T Brewer, Julie S Downs 『Communicating Risks and Benefits: An Evidence-Based User's Guide』 (US Department of Health and Human Services, Food and Drug Administration)	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Rather than spending more time on your preparation, please put more energy into the review.	
(Others (office hour, etc.))	
Information is defined as "those which reduce uncertainty". This course provides students with the opportunity to consider how to develop, transmit and utilize information appropriately. Moreover, the special workshop of the "MBTI" must benefit students to widen perspectives of personal pattern of information recognition, processing and communication. This course is open to graduate students with the school of human health science.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	健康情報学 II Health informatics II	Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Associate Professor, TAKAHASHI YOSHIMITSU
Target year	Professional degree students	Number of credits	1
Course offered year/period	2018/Irregular, Second semester		
Day/period	金3・4	Class style	Lecture
Language	Japanese and English		
[Outline and Purpose of the Course]			
<ul style="list-style-type: none"> Participants will learn about elementary knowledge of the Internet and e-health, and pragmatic cases and researches of healthcare ICT will be introduced. After an introduction of several guidelines and checklists on healthcare ICT, participants will learn skills of critical appraisal of e-health researches. Participants will learn about secondary data analysis and medical big data in Japan. Participants will learn about elementary knowledge of life course epidemiology. After the Social Security and Tax Number System were implemented in 2016, we should consider about the utility of this system on healthcare. Lecture and practical in Japanese. I will try to offer several handouts in English 			
[Course Goals]			
<ul style="list-style-type: none"> Knowledge of the Internet and concepts of e-health Pros and cons of Internet surveys Guidelines and checklists on healthcare ICT Knowledge and analysis of medical big data, public statistics and secondary data Life course epidemiology and unique number systems 			
[Course Schedule and Contents]			
This schedule is not fixed. I will send email to if I change the schedule.			
<ol style="list-style-type: none"> Dec 7, 4th, Elementary knowledge of the Internet Dec 14, 4th, Guidelines and checklists of healthcare ICT Dec 21, 3rd, Cases of healthcare ICT (1) Dec 21, 4th, Cases of healthcare ICT (2) Jan 11, 3rd, Medical big data and secondary data analysis (1) Jan 11, 4th, Medical big data and secondary data analysis (2) Jan 25, 3rd, Group work (Developing a form of an Internet survey) Jan 25, 4th, Life course epidemiology and discussion 			
An optional extra day) Dec 7, 14, 28 and Jan 18			
I will offer the modified schedule, as students can also take the classes of "health informatics I" and "EBM and clinical practice guidelines."			
[Class requirement]			
None			
Continue to 健康情報学 II(2) ↓ ↓ ↓			

健康情報学 II(2)
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]
Participation in class and discussion 30%, Report or presentation 70%
[Textbook]
Not used
[Reference books, etc.]
(Reference books)
Introduced during class
[Regarding studies out of class (preparation and review)]
I will show educational materials for preparation during the class.
(Others (office hour, etc.))
This course is open to graduate students with the school of human health science.
This course is basically conducted in Japanese. We will provide some information in English to non-Japanese students.
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course title <English>	医学コミュニケーション演習 Applied Medical Communication	Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Associate Professor, IWAKUMA MIHO
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Course offered year/period	2018/Second semester		
Day/period	Tue.5	Class style	Seminar
Language	Japanese and English		
[Outline and Purpose of the Course]			
This course is suitable for students who are interested in learning qualitative methods (e.g., conversational analysis, SCAT & ethnography) and equipped with moderate Japanese writing and reading skills.			
Additionally, building from Core Medical Communication, in this semester we discuss medicine from various non-biomedical perspectives, such as Disability Studies.			
[Course Goals]			
<p>Course Goals and Objectives</p> <ul style="list-style-type: none"> To deepen contents & concepts discussed in Medical communication (core) To understand a relationship between medicine and society To specify your own research domain, and review the research topic in depth To understand qualitative methodologies (e.g., SCAT and CA) 			
[Course Schedule and Contents]			
<ol style="list-style-type: none"> 10/2 Introduction 10/9 Theories in Qualitative research 10/16 Steps for coding and theorization (SCAT) Work Shop1 10/23 SCAT Work Shop 2 10/30 SCAT Work Shop 3 11/13 SCAT Work Shop 4 11/20 TBA 11/27 Disability Studies 1 12/4 Disability studies 2 12/11 Ethnography Work Shop 1 12/18 Ethnography Work Shop 2 12/25 Ethnography Work Shop 3 1/8 Student presentation 1 1/15 Student presentation 2 1/22 course wrap-up 			
Note: This schedule is subject to change.			
Continue to 医学コミュニケーション演習(2) ↓ ↓ ↓			

医学コミュニケーション演習(2)
[Class requirement]
None
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]
Course Grade
<ol style="list-style-type: none"> 1. participation 30% 2. term paper presentation 20% 3. term paper 50% <p style="padding-left: 20px;">paper title (20%) + final version (30%)</p>
[Textbook]
Not used
[Reference books, etc.]
(Reference books)
[Regarding studies out of class (preparation and review)]
students are required to write a research proposal as a term paper.
(Others (office hour, etc.))
<p>Messages</p> <p>This instructor differentiates "health communication," which is mainly interested in doctor-patient communication, from "medical communication" with a broader, sociological focus; therefore, it is recommended that when interested in the aforementioned doctor-patient communication, s/he take other SPH classes.</p> <p>Suitable for students who are interested in a social science perspective in medicine and science; therefore, his or her final paper contains such themes (or terms) as a "relationship, community, communication, society, psychology, etc."</p> <p>Consult with me ASAP for any disability-related accommodation m.iwakuma@at7.ecs.kyoto-u.ac.jp or ext. 4668</p> <p>Work shops are be delivered in Japanese, and a moderate Japanese proficiency, especially in writing and reading, is required.</p> <p>*Please visit KULASIS to find out about office hours.</p>

Course title <English>	エビデンスユーザ入門 Introduction to EBM: How to use evidence in your daily life		Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor,FURUKAWA TOSHIAKI	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Course offered year/period	2018/Irregular, year-round
Day/period	月2 開講日注意	Class style	Lecture	Language	Japanese and English
[Outline and Purpose of the Course]					
The term "Evidence-Based Medicine" (EBM) is now so popular that every scientist calls his favorite data "evidence". This course aims to provide basic knowledge for evidence users, namely to learn what constitutes evidence, how to find it, how to use it and what to do when you cannot find such in the clinical decisions for individual patients and in the policy decisions. We expect that, once you become proficient evidence users, you will also become ambitious evidence makers. Given the various backgrounds of the KUSPH students, we also expect that EBM can be practiced for all kinds of human services including alternative & complimentary medicine, education, economic policies, environmental policies etc. *** We expect to form one group for English-speaking students. ***					
[Course Goals]					
1. To learn standard checkpoints for critical appraisal in diagnosis, treatment (intervention), prognosis, and systematic reviews. 2. To submit one report for each of the above domains that deals with the student's own clinical question and describes how he/she formulated a clinical question, how he/she found the evidence, how he/she critically appraised the evidence and how he/she applied the evidence.					
[Course Schedule and Contents]					
The class will basically proceed as follows: 1. The students will take turns to present the summary of checkpoints for critical appraisal in diagnosis, treatment (intervention), prognosis and systematic reviews based on the designated standard textbook of EBM. 2. The students will be divided into small groups and each group will present an example of practicing EBM in each of the domains above. 3. After learning the basic process of EBM for the five domains as described above, each student will present a report that deals with the student's own clinical question. As a lot of time of self-learning will be required, we expect the students to be so prepared and the class will be held, in principle, every two weeks. Please pay good attention to the class schedule. 1. April 9 The spirit of EBM [Prof Furukawa] 2. May 14 Checkpoints for critical appraisal for articles in treatment (intervention) [Students] 3. May 28 Examples of practicing EBM for treatment (intervention) [Groups] 4. June 4 Examples of practicing EBM for treatment (intervention) [Groups] 5. July 9 Checkpoints for critical appraisal for articles in diagnosis [Students] 6. July 30 Examples of practicing EBM for diagnosis [Groups]					
Continue to エビデンスユーザ入門(2) ↓ ↓					

エビデンスユーザ入門(2)					
7. Aug 6 Examples of practicing EBM for diagnosis [Groups] 8. October 1 Checkpoints for critical appraisal for articles in prognosis [Students] 9. October 15 Examples of practicing EBM for prognosis [Groups] 10. October 29 Examples of practicing EBM for prognosis [Groups] 11. November 12 Checkpoints for critical appraisal for articles in systematic reviews [Students] 12. November 19 Checkpoints for critical appraisal for articles in network meta-analysis [Students] 13. December 3 Examples of practicing EBM for systematic reviews [Groups] 14. December 17 Examples of practicing EBM for systematic reviews [Groups] 15. January 21 Reserve date					
[Class requirement]					
We recommend MPH elective for "Literature Search" and "Critical Appraisal."					
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]					
Class participation (40%) Four reports for diagnosis, treatment (intervention), prognosis, and systematic reviews (60%)					
[Textbook]					
Gordon Guyatt et al 『Users' Guides to the Medical Literature: Essentials of Evidence-Based Clinical Practice, 3rd Edition』 (McGraw-Hill Professional) (All the chapters we designate for the class are included in the following "Manual" too. If you have purchased the "Manual", you need not purchase the "Essentials.")					
[Reference books, etc.]					
(Reference books) Gordon Guyatt et al 『Users' Guides to the Medical Literature: A Manual for Evidence-Based Clinical Practice, 3rd Edition』 (McGraw-Hill Professional) 古川壽亮 『エビデンス精神医療』 (医学書院)					
(Related URLs)					
http://ebmh.med.kyoto-u.ac.jp/toolbox.html (Please use various tools available in our Department website.)					
[Regarding studies out of class (preparation and review)]					
As a lot of time of self-learning will be required, we expect the students to be so prepared.					
(Others (office hour, etc.))					
Participation from Graduate course of Human Health Sciences is accepted. *Please visit KULASIS to find out about office hours.					

Course title <English>	臨床試験の統計的方法 Statistical Methods in Clinical Trials		Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor,TANAKA SHIROU Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, OMAE KATSUHIRO Graduate School of Medicine Professor.SATO TOSIYA Graduate School of Medicine Assistant Professor,YONEMOTO NAOHIRO 京都府立医科大学 助教 YOKOTA ISAO	
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Course offered year/period	2018/Intensive, Second semester
Day/period	Intensive	Class style	Lecture	Language	Japanese
[Outline and Purpose of the Course]					
臨床試験デザインの統計学的側面について、教科書「臨床試験デザイン—ベイズ流・頻度流の適応的方法」の6章、7章に沿って講義する。また、経時データ解析、欠測データ解析、サンプルサイズ設計など、臨床試験の実務で用いられる統計的方法について、講義・実習を行う。前期科目「臨床試験」、「統計的推測の基礎」、「統計モデルとその応用」程度の臨床試験・統計学の知識を前提とする。CB必修、MPH選択。					
[Course Goals]					
・臨床試験のデザインや統計解析を実際に行うために必要な統計的方法を理解する。					
[Course Schedule and Contents]					
・講義形式と実習形式。第3〜7回の内容は、教科書1〜3章の理解を前提としている。教科書を事前に読むことを推奨する。教科書3章のベイズ流統計学については、第3回に必要な部分のみ講義する。実習のチューターは、臨床統計学 相田麗・今井匠が担当。 第1回 10月3日 経時データ解析 (田中) 第2回 10月10日 欠測データ解析 (田中) 第3回 10月17日 第1相・第II相試験デザイン (田中) 第4回 10月24日 第III相試験デザイン1 (優越性・非劣性・同等性、サンプルサイズ設計など、田中) 第5回 11月31日 実習 (サンプルサイズ設計、田中、相田、今井) 第6回 11月7日 第III相試験デザイン2 (グループ逐次法、適応的デザインなど、横田) 第7回 11月14日 適応的ランダム化・適応的デザイン (田中)					
[Class requirement]					
前期科目「臨床試験」、「統計的推測の基礎」、「統計モデルとその応用」を履修済みであること					
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]					
平常点 (50%)、レポート (50%)					
Continue to 臨床試験の統計的方法(2) ↓ ↓					

臨床試験の統計的方法(2)					
[Textbook]					
G. リン 『臨床試験デザイン—ベイズ流・頻度流の適応的方法』 (メディカル・パブリケーションズ) 教科書の入手については第1回でアナウンスする。					
[Reference books, etc.]					
(Reference books)					
[Regarding studies out of class (preparation and review)]					
教科書「臨床試験デザイン—ベイズ流・頻度流の適応的方法」を適宜読むこと。					
(Others (office hour, etc.))					
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 不可 *Please visit KULASIS to find out about office hours.					

Course title <English>	フィールドワーク Fieldwork	Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Associate Professor.TABARA YASUHARU Graduate School of Medicine Professor.MATSUDA FUMIHIKO
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Course offered year/period	2018/Intensive, year-round		
Day/period	Intensive	Class style	Practical training
Language	Japanese and English		
[Outline and Purpose of the Course]			
This course offers opportunity to learn a way for data acquisition in a cohort study by participating in a field investigation of the Nagahama study, a community-based cohort study by Kyoto University Graduate School of Medicine. Students are required to participate the health check-up survey at Nagahama City approximately 5 to 6 days during September to January, and to interview with participants and to do several physiological measurements.			
[Course Goals]			
<ul style="list-style-type: none"> Experiencing the real activities in field epidemiology Learning community healthcare delivered by local governments Learning how to collect reliable information, how to protect individual information appropriately, how to construct long-term relationship through the communication with people in a community 			
[Course Schedule and Contents]			
1. April, 1st week Orientation @Seminar room A 2. Guidance of the field work @Seminar room A 3-14. Fieldwork in Nagahama City 15. Discussion			
[Class requirement]			
Japanese conversation skill to communicate with participants			
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]			
Participation in discussion and fieldwork 90%, Report 10%			
[Textbook]			
None			
[Reference books, etc.]			
(Reference books)			
None			
[Regarding studies out of class (preparation and review)]			
This class requires participation in the community-based health check-up examination in Nagahama city, Shiga prefecture. Making a report based on field work is to be regarded as review of the class.			
(Others (office hour, etc.))			
Students have to attend the first and second class. If you cannot attend them, please contact us before them.			
*Please visit KULASIS to find out about office hours.			

Course title <English>	社会健康医学課外実習 Field Training for Public Health Practice	Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor.FUKUHARA SHUNICHI
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Course offered year/period	2018/Intensive, year-round		
Day/period	Intensive	Class style	Practical training
Language	Japanese and English		
[Outline and Purpose of the Course]			
I. コースの概要 ・就業体験を通じて、学んだ専門知識等を活かし、応用力を高める。 ・キャリアデザインの具体化につなげる機会とする。 ・所属分野の指導教員と、場合によっては、加えて他分野の主任担当教員とも、十分に相談の上、履修届を出してください。 (計画未確定のままに急いで、学年初め・学期初めに履修届を出す必要はありません。)			
II. 学習到達目標 (このコース終了時までに習得が期待できること) ・社会の現場に必要な技能の向上を図る。 ・大学院で得た知識・技能を、いかにして実務に役立たせるかを確認する。 ・志望する就業の現場での雰囲気や必要な技能を知る。 ・実務を通じて、社会貢献をする。			
III. 教育・学習方法 ・就業体験を通じて、学んだ専門知識等を活かし、応用力を高める。			
[Course Goals]			
学習到達目標 (このコース終了時までに習得が期待できること) ・社会の現場に必要な技能の向上を図る。 ・大学院で得た知識・技能を、いかにして実務に役立たせるかを確認する。 ・志望する就業の現場での雰囲気や必要な技能を知る。 ・実務を通じて、社会貢献をする。			
[Course Schedule and Contents]			
所属分野の指導教員等と、十分に相談の上、インターンシップの計画を立ててください。			
[Class requirement]			
KULASISでの履修登録はできません。履修する場合は、窓口申し出てください。			
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]			
・終了後速やかに報告書・レポート (報告書の様式は教務掛を通じて入手すること) を作成し、かつ、インターン先の責任者と指導教員の確認を得ること。 ・合否のみ、判定する。			
Continue to 社会健康医学課外実習(2) ↓ ↓ ↓			

社会健康医学課外実習(2)			
[Textbook]			
・ 諸々の学習資源は、就業体験を通じて得られる。			
[Reference books, etc.]			
(Reference books)			
・ 諸々の学習資源は、就業体験を通じて得られる。			
[Regarding studies out of class (preparation and review)]			
適宜予習復習を求める			
(Others (office hour, etc.))			
その他メッセージ ・他の履修科目の日程と重複しないように計画してください。重複した場合、インターンシップを優先するわけではありません。必要な際は、該当する科目責任者に相談してください。 ・履修登録 (単位取得) せずに、インターンシップを行ってもかまいません。 ・実質的な業務が計60時間以上で2単位。計30時間以上で1単位とします。 ・上記の時間の目安と、就業体験の内容と質を、主任担当教員 (指導教員等) が評価し、合否と単位数 (1単位か2単位) を判定します。 ・報告書の様式 (教務掛で受取ること) を主任担当教員 (指導教員等) に提出し、履修届けを同時に行ってください。 *Please visit KULASIS to find out about office hours.			

Course title <English>	医療経営特別カリキュラム I Healthcare management Special Curriculum I	Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor.IMANAKA YUJI Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer.SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer.KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer.OOTSUBO TEISUYA
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Course offered year/period	2018/Intensive, First semester		
Day/period	Intensive	Class style	Practical training
Language	Japanese and English		
[Outline and Purpose of the Course]			
<ul style="list-style-type: none"> This course is for healthcare management major. It is based on action learning in relation to the real world practice. Topics will include: <ul style="list-style-type: none"> Leadership at different levels Financial Management, Financial Planning Accounting and Costing Organizational Culture Patient Satisfaction and Customer Relationship Safety and Quality Management System Risk Management System Policy and External Environment Analysis Marketing in Health Care Information Technology and Data Analysis/Utilization Starting up a New Function, Project Finance Facility Management Networking, Merge and Acquisition Strategic Planning Implementation of Change Strategic Management 			
[Course Goals]			
<ul style="list-style-type: none"> Explain key issues in healthcare management, including theories/frameworks and internal and external environment Making outputs through teamwork Making outputs through individual work Constructively discuss current issues, and propose their potential resolutions Critically and systematically appraise healthcare management issues Apply the above knowledge and skills for your own planning and action in healthcare management 			
[Course Schedule and Contents]			
<ul style="list-style-type: none"> Based on the real world practice, data and people Information Collection and Analysis, Quantitative Data Analysis, Planning Interviews, Presentations, Making reports, Discussion 			
Continue to 医療経営特別カリキュラム I (2) ↓ ↓ ↓			

医療経営特別カリキュラム I (2)	

[Class requirement]	
This is specifically designed and required for Healthcare Management Young Leaders Course.	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]	
Program participation and performance	
[Textbook]	
Reading materials will be distributed as needed.	
[Reference books, etc.]	
(Reference books)	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Good preparation and review are necessary.	
(Others (office hour, etc.))	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	医療経営特別カリキュラム II Healthcare management Special Curriculum II		Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Professor, IMANAKA YUJIICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, OOTSUBO TETSUYA		
	Target year	Professional degree students		Number of credits	2	Course offered year/period
Day/period	Intensive	Class style	Practical training		Language	Japanese and English
[Outline and Purpose of the Course]						
<ul style="list-style-type: none"> This course is for healthcare management major. It is based on action learning in relation to the real world practice. Topics will include: <ul style="list-style-type: none"> Leadership at different levels Financial Management, Financial Planning Accounting and Costing Organizational Culture Patient Satisfaction and Customer Relationship Safety and Quality Management System Risk Management System Policy and External Environment Analysis Marketing in Health Care Information Technology and Data Analysis/Utilization Starting up a New Function, Project Finance Facility Management Networking, Merge and Acquisition Strategic Planning Implementation of Change Strategic Management 						
[Course Goals]						
<ul style="list-style-type: none"> Explain key issues in healthcare management, including theories/frameworks and internal and external environment Making outputs through teamwork Making outputs through individual work Constructively discuss current issues, and propose their potential resolutions Critically and systematically appraise healthcare management issues Apply the above knowledge and skills for your own planning and action in healthcare management 						
[Course Schedule and Contents]						
<ul style="list-style-type: none"> Based on the real world practice, data and people Information Collection and Analysis, Quantitative Data Analysis, Planning Interviews, Presentations, Making reports, Discussion 						
----- Continue to 医療経営特別カリキュラム II(2) ↓ ↓						

医療経営特別カリキュラム II (2)	

[Class requirement]	
This is specifically designed and required for Healthcare Management Young Leaders Course.	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]	
Program participation and performance	
[Textbook]	
Reading materials will be distributed as needed.	
[Reference books, etc.]	
(Reference books)	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Good preparation and review are necessary.	
(Others (office hour, etc.))	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	医療経営ケーススタディ Case Studies in Healthcare Management		Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Professor, IMANAKA YUJIICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, OOTSUBO TETSUYA		
	Target year	Professional degree students		Number of credits	2	Course offered year/period
Day/period	Intensive	Class style	Seminar		Language	Japanese and English
[Outline and Purpose of the Course]						
<ul style="list-style-type: none"> This case study is on healthcare management. It is based on analysis, discussion and constructive critique on real cases originally developed. Topics will include: <ul style="list-style-type: none"> Overview of Healthcare Management: Key Issues Leadership Finance Organizational Culture Safety and Quality Management System Policy and External Environment Analysis Marketing in Health Care Information Technology and Data Analysis/Utilization Starting up a New Function, Project Finance Facility Management Networking, Merge and Acquisition Strategic Planning/ Management Implementation of Change 						
[Course Goals]						
<ul style="list-style-type: none"> Explain key issues in healthcare management, including theories/frameworks and internal and external environment Constructively discuss current issues, and propose their potential resolutions Critically and systematically appraise healthcare management issues Apply the above knowledge and skills for your own planning and action in healthcare management 						
----- Continue to 医療経営ケーススタディ(2) ↓ ↓						

医療経営ケーススタディ(2)	

[Course Schedule and Contents]	
<ul style="list-style-type: none"> • Case Studies • Reports The cases for this course are originally developed. It might use cases developed elsewhere including ones abroad	
[Class requirement]	
This is specifically designed and required for Healthcare Management Young Leaders Course.	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]	
Program participation and performance	
[Textbook]	
Reading materials will be distributed as needed.	
[Reference books, etc.]	
(Reference books)	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Good preparation and review are necessary.	
(Others (office hour, etc.))	
This class is not open to students from graduate school of human health science.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	臨床研究計画法 Ⅰ Seminar in Study Design Ⅰ		Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor,FUKUHARA SHUNICHI Graduate School of Medicine Professor,NAKAYAMA TAKEO Graduate School of Medicine Associate Professor,TAKAHASHI YOSHIMITSU Graduate School of Medicine Professor,KAWAKAMI, KOJI Agency for Health, Safety and Environment Professor,KAWAMURA TAKASHI Agency for Health, Safety and Environment Professor,IWAMI TAKU Agency for Health, Safety and Environment Assistant Professor,OKABAYASHI SATOE Agency for Health, Safety and Environment Assistant Professor,MATSUZAKI KEIICHI Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUUIICHI Graduate School of Medicine Professor,FURUKAWA TOSHIAKI Graduate School of Medicine Assistant Professor,OGAWA YUSUKE Graduate School of Medicine Associate Professor,WATANABE NORIO Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor,TAKEUCHI MASATO Agency for Health, Safety and Environment Assistant Professor,KOBAYASHI DAISUKE Graduate School of Medicine Associate Professor,YAMAMOTO YOUSUKE Agency for Health, Safety and Environment Associate Professor,SAKAGAMI YUU		
	Target year	Professional degree students			Number of credits	1
Day/period	Mon.5	Class style	Lecture	Language	Japanese and English	
[Outline and Purpose of the Course]						
This course will discuss study designs and protocols in clinical epidemiology based on student's clinical questions.						
[Course Goals]						
<ul style="list-style-type: none"> • To be able to convert clinical questions to structured research question • To be able to build study protocol from research question • To be able to communicate study plan effectively with peers 						
[Course Schedule and Contents]						
① April 9 Guidance						
② May 7 Discussion						
----- Continue to 臨床研究計画法 Ⅰ (2) ↓ ↓						

臨床研究計画法 Ⅰ (2)	

③ May 14 Discussion ④ May 21 Discussion ⑤ May 28 Discussion ⑥ June 4 Lecture・Discussion ⑦ June 11 Discussion ⑧ June 18 Discussion ⑨ June 25 Discussion ⑩ July 2 Lecuture・Discussion ⑪ July 9 Discussion ⑫ July 23 Discussion ⑬ July 30 Discussion	
[Class requirement]	
Class for MCR restricted	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]	
Course assignment (30%) Presentation (70%)	
[Textbook]	
Not used	
[Reference books, etc.]	
(Reference books)	
Introduced during class	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Methods of Instruction <ul style="list-style-type: none"> • Didactic lectures • Student's presentation and discussion 	
(Others (office hour, etc.))	
There are no pre-requisites for this course.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	臨床研究計画法演習 Ⅰ Special Seminar in Study Design Ⅰ		Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor,FUKUHARA SHUNICHI Agency for Health, Safety and Environment Assistant Professor,OKABAYASHI SATOE Graduate School of Medicine Associate Professor,YAMAMOTO YOUSUKE		
	Target year	Professional degree students			Number of credits	1
Day/period	Thu.4	Class style	Seminar	Language	Japanese and English	
[Outline and Purpose of the Course]						
This course will discuss study designs and protocols in clinical epidemiology based on student's clinical questions.						
[Course Goals]						
<ul style="list-style-type: none"> • To be able to convert clinical questions to structured research question • To be able to build study protocol from research question • To be able to communicate study plan effectively with peers 						
[Course Schedule and Contents]						
① April 12 Guidance						
② April 19 Discussion						
③ April 26 Discussion						
④ May 10 Discussion						
⑤ May 17 Discussion						
⑥ May 24 Discussion						
⑦ May 31 Discussion						
⑧ June 7 Discussion						
⑨ June 14 Discussion						
⑩ June 21 Discussion						
⑪ June 28 Discussion						
⑫ July 5 Discussion						
⑬ July 12 Discussion						
⑭ July 19 Discussion						
⑮ July 26 Supplementary class						
[Class requirement]						
Class for MCR restricted						
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]						
Course assignment (100%)						
----- Continue to 臨床研究計画法演習 Ⅰ (2) ↓ ↓						

臨床研究計画法演習 I (2)	
[Textbook] Not used	
[Reference books, etc.] (Reference books) Introduced during class	
[Regarding studies out of class (preparation and review)] Methods of Instruction • Student's presentation and discussion	
(Others (office hour, etc.)) There are no pre-requisites for this course. *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	医療技術の経済評価 (MCR限定) Economic Evaluation of Medical Technologies		Affiliated department, Job title/Name	Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUUICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,OOTSUBO TETSUYA		
	Target year	Professional degree students		Number of credits	1	Course offered year/period
Day/period	Wed.4	Class style	Lecture		Language	Japanese and English
[Outline and Purpose of the Course]						
<ul style="list-style-type: none"> Lectures will address the theories and frameworks that support economic evaluations in health care, and students will learn the major research methods used in evaluating healthcare-related economic performance. Economic evaluations of healthcare and medical technologies are usually conducted under practical constraints, and students will learn the approaches to conducting research under these conditions. This course will examine economic evaluations in a wide range of healthcare-related topics. 						
[Course Goals]						
<ul style="list-style-type: none"> Students will be able to explain key issues in the theories, frameworks, and research methods that support economic evaluations of medical technologies including medication. Students will understand the possible biases associated with research involving economic evaluations of medical technologies including medication. Economic evaluations are conducted on various aspects of health care, including treatment techniques, pharmaceuticals, medical supplies, medical examinations, and health policy programs. Students will understand and be able to explain the differences and respective applications of the main research methods used in these evaluations, including cost analyses, cost-effectiveness analyses, cost-utility analyses, and cost-benefit analyses. Students will also learn the core concepts of cost calculations and outcome measurements, time-based concepts, discount rates, sensitivity analyses, incremental cost-effectiveness ratios, and the appropriate interpretation of analytical results. Based on the above, students will be able to conduct critical reviews of research articles in this field and explain their significance. Students will also be able to apply their acquired knowledge and techniques when developing research protocols and conducting research. 						
[Course Schedule and Contents]						
<ol style="list-style-type: none"> April 11 Evaluating the economic performance of health care 1 April 18 Evaluating the economic performance of health care 2 April 25 Economic evaluation methods in health care May 02 Methodologies in cost-effectiveness and cost-utility analyses 1 May 09 Modeling in economic evaluations May 16 Methodologies in cost-effectiveness and cost-utility analyses 2 May 23 Economic evaluation in health care: Journal article review and discussion 1 May 30 Economic evaluation in health care: Journal article review and discussion 2 Note: This schedule is subject to change. Overview of the schedule will be shown at the first day.						
Continue to 医療技術の経済評価 (MCR限定) (2) ↓ ↓ ↓						

医療技術の経済評価 (MCR限定) (2)	
[Class requirement] This course is only open to students involved in MCR course.	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation] 1. Report (70%) 2. Classroom participation (30%)	
[Textbook] Reading materials will be distributed as needed	
[Reference books, etc.] (Reference books) • Drummond MF, et al. Methods for the Economic Evaluation of Health Care Programmes, 3rd Ed. Oxford, 2005. • Myriam Hunink. Decision Making in Health and Medicine: Integrating Evidence and Values. Cambridge, 2001. • 医療制度・医療政策・医療経済 (丸善出版,2013) • Handbook of Health Services Research (Springer Science+Business Media)	
[Regarding studies out of class (preparation and review)] Both good preparation and review are needed.	
(Others (office hour, etc.)) • Places available for students without former experiences of studying economics. • Our department has been accepting graduate students who are interested in research related to health care policies, health care management, and health care quality/safety/cost. (http://med-econ.umin.ac.jp/mt/) Note: Topics related to process and outcome measures, clinical practice variation, healthcare evaluations and assessments, hospital functional assessments, and healthcare quality & safety are included in the course "Evaluation of Quality in Health Care" (Wed.3, the last half of first semester). If you would like to learn about these topics, consider to apply for this course. *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	臨床研究計画法 I I Seminar in Study Design II		Affiliated department, Job title/Name	Graduate School of Medicine Professor,FUKUHARA SHUNICHI Graduate School of Medicine Professor,NAKAYAMA TAKEO Graduate School of Medicine Associate Professor,TAKAHASHI YOSHIMITSU Graduate School of Medicine Professor,KAWAKAMI, KOJI Agency for Health, Safety and Environment Professor,KAWAMURA TAKASHI Agency for Health, Safety and Environment Professor,IWAMI TAKU Agency for Health, Safety and Environment Assistant Professor,OKABAYASHI SATOE Agency for Health, Safety and Environment Assistant Professor,MATSUZAKI KEIICHI Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUUICHI Graduate School of Medicine Professor,FURUKAWA TOSHIAKI Graduate School of Medicine Assistant Professor,OGAWA YUSUKE Graduate School of Medicine Associate Professor,WATANABE NORIO Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor,TAKEUCHI MASATO Agency for Health, Safety and Environment Assistant Professor,KOBAYASHI DAISUKE Graduate School of Medicine Associate Professor,YAMAMOTO YOUSUKE Agency for Health, Safety and Environment Associate Professor,SAKAGAMI YUU		
	Target year	Professional degree students		Number of credits	1	Course offered year/period
Day/period	Mon.5	Class style	Lecture		Language	Japanese and English
[Outline and Purpose of the Course]						
This course will discuss study designs and protocols in clinical epidemiology based on student's clinical questions.						
[Course Goals]						
<ul style="list-style-type: none"> To be able to convert clinical questions to structured research question To be able to build study protocol from research question To be able to communicate study plan effectively with peers 						
[Course Schedule and Contents]						
<ol style="list-style-type: none"> October 15 Discussion October 22 Discussion 						
Continue to 臨床研究計画法 I (2) ↓ ↓ ↓						

臨床研究計画法 I I (2)	
③ October 29	Discussion
④ November 5	Discussion
⑤ November 12	Discussion
⑥ November 19	Discussion
⑦ November 26	Discussion
⑧ December 3	Discussion
⑨ December 10	Discussion
⑩ December 17	Discussion
⑪ January 7	Discussion
⑫ January 21	Discussion
⑬ January 28	Discussion
⑭ February 4	Discussion
[Class requirement]	
Class for MCR restricted	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]	
Course assignment (30%) Presentation (70%)	
[Textbook]	
Not used	
[Reference books, etc.]	
(Reference books) Introduced during class	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Methods of Instruction • Didactic lectures • Student's presentation and discussion	
(Others (office hour, etc.))	
There are no pre-requisites for this course. *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>		Affiliated department, Job title,Name	
臨床研究計画法演習 I I Special Seminar in Study Design II		Graduate School of Medicine Professor,FUKUHARA SHUNICHI Agency for Health, Safety and Environment Assistant Professor.OKABAYASHI SATOE Graduate School of Medicine Associate Professor.YAMAMOTO YOUSUKE	
Target year	Professional degree students	Number of credits	Course offered year/period
		1	2018/Second semester
Day/period	Class style	Language	
Mon.4	Seminar	Japanese and English	
[Outline and Purpose of the Course]			
This course will discuss study designs and protocols in clinical epidemiology based on student's clinical questions.			
[Course Goals]			
<ul style="list-style-type: none"> To be able to convert clinical questions to structured research question To be able to build study protocol from research question To be able to communicate study plan effectively with peers 			
[Course Schedule and Contents]			
① October 1 Discussion ② October 15 Discussion ③ October 22 Discussion ④ October 29 Discussion ⑤ November 5 Discussion ⑥ November 12 Discussion ⑦ November 19 Discussion ⑧ November 26 Discussion ⑨ December 3 Discussion ⑩ December 10 Discussion ⑪ December 17 Discussion ⑫ January 7 Discussion ⑬ January 21 Discussion ⑭ January 28 Discussion ⑮ February 4 Discussion			
[Class requirement]			
Class for MCR restricted			
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]			
Course assignment (100%)			
Continue to 臨床研究計画法演習 I I (2) ↓ ↓ ↓			

臨床研究計画法演習 I I (2)	
[Textbook]	
Not used	
[Reference books, etc.]	
(Reference books) Introduced during class	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Methods of Instruction • Student's presentation and discussion	
(Others (office hour, etc.))	
There are no pre-requisites for this course. *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>		Affiliated department, Job title,Name	
E B M ・ 診療ガイドライン特論 (MCR限定) Special Lectures on EBM and clinical practice guidelines		Graduate School of Medicine Professor,NAKAYAMA TAKEO Part-time Lecturer,MIYAZAKI KIKUKO The Otsu District Court Judge NISHIOKA SHIGEYASU National center for Child Health and Development MORI RINTARO	
Target year	Professional degree students	Number of credits	Course offered year/period
		1	2018/Second semester
Day/period	Class style	Language	
Fri.3	special lecture	Japanese and English	
[Outline and Purpose of the Course]			
<ul style="list-style-type: none"> This course focuses on evidence-based medicine (EBM) and clinical practice guidelines. This course will provide exercise to assess and develop clinical practice guidelines. This course will give opportunity to consider communication issues between clinicians and patient/family, legal issues and resource allocation. Didactic lectures and group work			
[Course Goals]			
<ul style="list-style-type: none"> Explain the relationship between EBM and clinical practice guidelines Understand the basic concepts of development and assessment of evidence-based clinical practice guidelines Explain possibilities and subjects of clinical practice guidelines from the social viewpoints. 			
[Course Schedule and Contents]			
1 October 5 EBM and Clinical Practice Guidelines (CPGs) 2 October 12 Assessment of CPGs 3 October 19 Development of CPGs 4 October 26 Legal Issues on CPGs 5 November 2 From CPGs to Quality Indicators 6 November 9 Systematic Reviews and CPGs from the viewpoints of Health Policy 7 November 16 CPGs, Patients' View and Shared Decision-Making 8 November 30 Wrap-up Discussion (*This schedule is subject to change) The class will be scheduled to avoid overlapping "Health informaticsII" .			
[Class requirement]			
The class is limited to MCR students.			
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]			
Short report for each lecture (100%)			
Continue to EBM・診療ガイドライン特論 (MCR限定) ↓ ↓ ↓			

EBM・診療ガイドライン特論 (MCR限定) (2)	

[Textbook]	
The material necessary for the lecture will be provided by lecturers.	
[Reference books, etc.]	
(Reference books) Nakayama T & Tsutani K 『Rinsho kenkyu to ekigaku kenkyu no tameno kokusai rurushu』 (raihu saiensu shuppan)	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Rather than spending more time on your preparation, please put more energy into the review.	
(Others (office hour, etc.))	
Students who learn this course are expected to be not only good users of clinical practice guidelines but also good developers of clinical practice guideline. *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title -English-	臨床研究データ管理学 (MCR・統計家限定) Data management for Clinical Research	Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Associate Professor, TAKEUCHI MASATO
Target year	Professional degree students	Number of credits	1
Course offered year/period	2018/The first half of second semester		
Day/period	Thu. 5	Class style	Lecture
Language	Japanese and English		
[Outline and Purpose of the Course]			
This course consists of lectures and exercises on methodology of data management for clinical research. Exercises will include determination of data items, designing case report forms, preparation of datasets for statistical analysis, data entry and data check, and handling of outputs from statistical analysis. MCR restricted and elective.			
[Course Goals]			
To understand methodology of data management for clinical researches through lectures and exercises.			
[Course Schedule and Contents]			
October 5 Overview (Tanaka) October 12 Determination of Data Items (Tanaka) October 19 Designing Case Report Form (Tanaka) October 26 Designing Case Report Form (Tanaka) November 2 Data Entry and Data Check (Tanaka) November 9 Preparation of Datasets for Statistical Analysis (Tanaka) November 16 Handling of Output from Statistical Analysis (Tanaka)			
[Class requirement]			
None			
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]			
Attendance 50%, Report 50%			
[Textbook]			
Not used			
[Reference books, etc.]			
(Reference books)			
[Regarding studies out of class (preparation and review)]			
Please review what you learned before handling data in your research.			
(Others (office hour, etc.))			
Laptop PC with Excel is required in the exercise. Contact the director if not available. This course is not open to students in School of Human Health Science. *Please visit KULASIS to find out about office hours.			

Course title -English-	臨床研究特論 I (MCR限定) Clinical research advanced I	Affiliated department, Job title, Name	Agency for Health, Safety and Environment Professor, KAWAMURA TAKASHI
Target year	Professional degree students	Number of credits	1
Course offered year/period	2018/The first half of second semester		
Day/period	月6	Class style	Lecture
Language	Japanese and English		
[Outline and Purpose of the Course]			
(1) 臨床研究計画法I・IIで履修した研究方法について掘り下げる。 (2) 学生から臨床研究の計画・実施・利用に関する疑問点を提示し、教員と学生がいっしょに検討する。 (3) 教員から臨床研究の計画・実施・利用に関する諸問題を提示し、学生が検討する。			
[Course Goals]			
各種研究方法について、その背景や考え方、利用の仕方や限界などについて研究事例を通して深く理解する。			
[Course Schedule and Contents]			
(1) 用量反応関係の過小評価 (誤分類と回帰希釈) (2) RCTにおけるP値 (サンプルサイズ) (3) RCTによる副作用の検証 (ITT解析その他) (4) 診断研究における感度 (患者スペクトル) (5) 統計学的有意と臨床的有意 (6) 多変量解析の特性 (関数モデル) (7) メタアナリシスの特性 (8) 図表の作り方、論文の書き方			
[Class requirement]			
・MCRコース限定 (選択)			
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]			
・意見発表の積極性、説明の明快さ			
[Textbook]			
Not used			
[Reference books, etc.]			
(Reference books) 川村 孝 『臨床研究の教科書：研究デザインとデータ処理のポイント』 (医学書院) (★臨床研究のデザイン、運営、解析、論文執筆の方法論とコツを解説) 川村 孝 『エビデンスをつくる：陥りやすい臨床研究のピットフォール』 (医学書院) (★臨床研究のデザインや解析の失敗談とその対策を紹介) Hulleyら 『医学的研究のデザイン』 (メディカル・サイエンス・インターナショナル)			

Continue to 臨床研究特論 I (MCR限定) (2) ↓ ↓ ↓			

臨床研究特論 I (MCR限定) (2)	

Motulsky 『数学いらずの医科統計学』 (メディカル・サイエンス・インターナショナル) Kats 『医学的研究のための多変量解析』 (メディカル・サイエンス・インターナショナル)	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
・自らの研究を行うだけでなく、指導者や同僚の研究を積極的に手伝う。	
(Others (office hour, etc.))	
臨床研究特論IIと連携する。 *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	臨床研究特論 II (MCR限定) Clinical research advanced II	Affiliated department, Job title, Name	Agency for Health, Safety and Environment Professor, IWAMI TAKU
Target year	Professional degree students	Number of credits	1
Course offered year/period	2018/Intensive, Second semester		
Day/period	Intensive	Class style	Lecture
Language	Japanese and English		
[Outline and Purpose of the Course]			
臨床研究計画法I・IIで履修した研究方法について掘り下げる。 学生から質問を提示し、教員と参加学生で検討する。 教員から研究方法上の問題点を提示し、学生が検討する。			
[Course Goals]			
各種研究方法について、その具体化、実践と結果の活用などについて具体的な研究事例に照らして深く理解する。			
[Course Schedule and Contents]			
仮説形成、研究計画立案のプロセス 研究費の獲得方法の具体例 査読への対応方法 研究チームの作り方、フィードバックの仕方 研究成果の社会還元			
[Class requirement]			
MCR限定 (選択)			
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]			
意見発表の積極性、説明の明快さ			
[Textbook]			
Not used			
[Reference books, etc.]			
(Reference books) 川村 孝 『臨床研究の教科書』 (医学書院) 川村 孝 『エビデンスをつくる：陥りやすい臨床研究のピットフォール』 (医学書院) Hulley他 (木原訳) 『医学的研究のデザイン』 (メディカル・サイエンス・インターナショナル)			
[Regarding studies out of class (preparation and review)]			
自らの研究に反映し、同僚の研究を支援する。			
(Others (office hour, etc.))			
臨床研究特論 I と連携する。			
*Please visit KULASIS to find out about office hours.			

Course title <English>	系統的レビュー (MCR限定) Systematic Reviews	Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Associate Professor, WATANABE NORIO
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Course offered year/period	2018/Regular, year-round		
Day/period	月1・2 開講日注意	Class style	Lecture
Language	Japanese and English		
[Outline and Purpose of the Course]			
I. Description of the course This course consists of 10 3-hour sessions over the course of 6 months, in which the participants will learn and finish up a protocol of a systematic review on a topic of his/her own choice. II. Methods of Instruction Each 3-hour session will be divided into the presentation of the protocol and the lecture. After the lecture, the participants are expected to elaborate the protocol accordingly and be ready to present the relevant sections in the next session.			
[Course Goals]			
○To complete a protocol of a systematic review in English and in accordance with the Cochrane Handbook. ○Those who wish to complete the review can further collaborate with the course director until (hopefully) it will be published in the Cochrane Library or in a journal.			
[Course Schedule and Contents]			
June 11 Introduction June 25 Formulating the clinical question, Objectives and Criteria for considering studies July 23 Search methods September 10 Selection of studies & extracting data October 22 Assessment of risk of bias November 5 Analysis (1) November 26 Analysis (2) December 10 Summary January 14 Presentation (1) January 28 Presentation (2) February 4 Optional extra day			
[Class requirement]			
This course starts in June, and taking courses in Biostatistics and Epidemiology in April through June is recommended.			
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]			
Completed protocol 100% (To get credit 60% in total will be required)			
[Textbook]			
Higgins JPT, Green S 『Cochrane Handbook for Systematic Reviews of Interventions』 (Available from www.cochrane-handbook.org) (Essential because the protocol will follow this Handbook.)			
Continue to 系統的レビュー (MCR限定) (2) ↓ ↓ ↓			

系統的レビュー (MCR限定) (2)			
Essential software: Review Manager (RevMan) [Computer program]. Version 5.2. Copenhagen: The Nordic Cochrane Centre, The Cochrane Collaboration, 2013.(Essential because you will need this software to write up a protocol and, eventually, to analyze the data and publish the review)			
[Reference books, etc.]			
(Reference books)			
[Regarding studies out of class (preparation and review)]			
Registration with the Cochrane Collaboration is not easy. Learners may consider publishing the systematic review in journals instead.			
(Others (office hour, etc.))			
*Please visit KULASIS to find out about office hours.			

Course title <English>	データ解析法特論 (MCR限定) Special Seminar of Data Analysis	Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Associate Professor, YAMAMOTO YOUSUKE
Target year	Professional degree students	Number of credits	1
Course offered year/period	2018/The second half of first semester		
Day/period	月6	Class style	special lecture
Language	Japanese		
[Outline and Purpose of the Course]			
・この講義では、統計解析ソフトウェアstataを用いて臨床研究のデータ解析を行う。 ・実習の教材として用いる臨床研究データは、臨床研究の実例のデータを可能な限り用いる。 ・学習の習熟度の確認のために、学習課題を課している。 ・開講期間中は講習会コードを提供し、無償でstataの試用が可能である (ただし開講期間終了後も継続して使用を希望する場合には各自購入する必要あり)			
[Course Goals]			
・統計解析ソフトを用いて基礎的な臨床研究データの解析ができる。 ・解析ソフトの出力結果を正確に解釈することができる。			
[Course Schedule and Contents]			
第1回 5月28日統計ソフトの基本的な使い方 第2回 6月4日連続変数の検定と推定 第3回 6月11日カテゴリ変数の検定と推定 第4回 6月18日相関と回帰 第5回 6月25日重回帰分析 第6回 7月2日ロジスティック回帰分析 第7回 7月9日生存時間解析 第8回 7月23日サンプルサイズの推定・その他の解析			
[Class requirement]			
stataを用いて解析する予定のある人の履修をおすすめします。			
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]			
・講義への積極的な参加 (50%) ・課題に対するレポート (50%)			
[Textbook]			
Not used 基本的な学習資源はプリントにて配布。			
[Reference books, etc.]			
(Reference books) 東 尚弘、中村文明、林野泰明、杉岡 隆、山本洋介 『臨床研究のためのstataマニュアル』 (健康医療評価研究機構 (iHope))			
Continue to データ解析法特論 (MCR限定) (2) ↓ ↓ ↓			

データ解析法特論 (MCR限定) (2)	

[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
<ul style="list-style-type: none"> ・予習：不要 ・復習：次回講義までに当該回の復習を行うこと。課題がある場合には次回講義までにレポートを提出すること。 	
(Others (office hour, etc.))	
面談希望はまずメールでご連絡下さい。	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	臨床統計家の実務スキル (CB限定)		Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Professor.SATO TOSIYA Graduate School of Medicine Assistant Professor.YONEMOTO NAOHIRO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor.OMAE KATSUHIRO Kyoto University Hospital Project Associate Professor.SATOU KEIKO	
	Practical Skills for Clinical Biostatisticians				
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Course offered year/period	2018/Intensive, First semester
Day/period	Intensive	Class style	Lecture	Language	Japanese
[Outline and Purpose of the Course]					
臨床統計家の実務スキルでは、臨床統計家の実務において最低限必要となる統計プログラミング、レポートの知識を学び、プログラミング、簡単な集計及び解析を実習します。統計ソフトウェアはSASとRを用います。					
【集中講義 (第3回、4回は日程が決まり次第アナウンスします)】					
[Course Goals]					
統計ソフトウェアのプログラミングを学ぶことで					
<ul style="list-style-type: none"> ・解析に適したデータセットを作成できる ・単純集計、簡単な図表が作成できる ・簡単な統計計算を行うことができる 					
[Course Schedule and Contents]					
第1回 7月30日 (月) 2限 統計プログラミングの概要					
第2回 7月30日 (月) 3限 SASによるプログラミング基礎1: データステップ					
第3回 7月30日 (月) 4限 SASによるプログラミング基礎2: 単純集計、平均値の差の比較					
第4回 7月30日 (月) 5限 SASによるプログラミング基礎実習					
第5回 7月31日 (火) 2限 SASによるプログラミング中級1: 回帰分析					
第6回 7月31日 (火) 3限 SASによるプログラミング中級2: 割合の比較、ロジスティック回帰					
第7回 7月31日 (火) 4限 SASによるプログラミング中級実習1					
第8回 7月31日 (火) 5限 SASによるプログラミング中級実習2					
第9回 (日程未定) 2限 SASによるプログラミング中級3: 生存時間解析、サンプルサイズ設計					
第10回 (日程未定) 3限 SASによるプログラミング中級実習3					
第11回 (日程未定) 4限 Rによるプログラミング基礎					
第12回 (日程未定) 5限 Rによるプログラミング実習					
第13回 (日程未定) 2限 メディカルライティング講義					
第14回 (日程未定) 3限 メディカルライティング演習					

Continue to 臨床統計家の実務スキル (CB限定) (2) ↓ ↓ ↓					

臨床統計家の実務スキル (CB限定) (2)	

[Class requirement]	
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床統計家育成コースの学生さんに限定します ・統計ソフトウェアSAS、Rをインストールしたノートパソコンを持参してください 	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]	
レポート	
[Textbook]	
講義資料を配布します	
[Reference books, etc.]	
(Reference books)	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
ソフトウェアに習熟するのは時間がかかるため、自習の時間をとることを薦めます。他の統計関連科目講義で解説された統計解析をソフトウェアで計算してみることを薦めます。	
(Others (office hour, etc.))	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	臨床研究実地研修 I		Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor.TANAKA SHIROU Graduate School of Medicine Professor.Morita Satoshi 国立循環器病研究センター 部長 HAMASAKI TOSHIMITSU	
	Clinical Research Training I				
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Course offered year/period	2018/Intensive, First semester
Day/period	Intensive	Class style	Practical training	Language	Japanese
[Outline and Purpose of the Course]					
本研修の目的は、病院での実地研修を通して、臨床統計家育成コースの座学で習得した統計的考え方が現場でどのように応用されているかを実際に学ぶことです。そして、実際の体験・経験から、臨床試験における試験統計家の責務と役割を理解し、臨床試験の計画・実施・報告で試験統計家として必要とされる基本的な能力(態度、技能、知識)を習得することを目指します。					
研修は、京都大学医学部附属病院と国立循環器病研究センターの2箇所で行われます。受講者はあらかじめどちらの施設で研修されるかを選択ください。京都大学医学部附属病院での研修は、革新的な新医療技術 (医薬品など) 開発のための臨床試験の計画と実施に関する内容で主に構成されます。国立循環器病研究センターでの研修は、循環器疾患の医薬品や医療機器の臨床試験の計画と実施を中心とした内容で構成されます。研修内容の詳細はホームページに掲載しています。					
[Course Goals]					
* 臨床試験の計画と実施の過程、臨床試験の運営・実施体制、研究者・研究支援者、試験統計家などの責任範囲と役割などを理解する。					
* 臨床試験実施計画書に記載すべき統計的事項を理解し、臨床試験実施計画書の作成に貢献するための基本的知識と技術を習得する。					
* 統計解析を適切に計画し、それらを実行し、結果を纏めることができるための基本的知識と技術を習得する。					
* 臨床試験における研究倫理、利益相反、臨床試験における個人情報保護の基本的事項を理解し、信頼性の高い臨床試験の計画と実施に貢献できる。					
* きまじい説明の方法や手段を駆使し、臨床試験における統計的考え方を人にわかりやすく伝えることができるような態度と方法を身につける。					
[Course Schedule and Contents]					
京都大学医学部附属病院					
7月から9月までの5日 (1限~6限, 8.45~19.45) で集中講義実習で実施します					
1日目					
1限研修事前準備					
2限生物統計家としての心構え (1)					
2限医学研究における倫理					
4限シズ開発について					
5限統計コンサルティング業務の現場					
6限報告書作成					
2日目					
1限研修事前準備					

Continue to 臨床研究実地研修 I(2) ↓ ↓ ↓					

臨床研究実地研修 I(2)
<p>2限生物統計家としての心構え (2) 3限モニタリング業務について 4限臨床検査の現場 5限統計コンサルティング業務の現場 6限報告書作成</p> <p>3日目 1限研修事前準備 2限生物統計家としての心構え (3) 3限プロジェクトマネジメント業務について 4限看護研究について 5限統計コンサルティング業務の現場 6限報告書作成</p> <p>4日目 1限研修事前準備 2限データマネジメント業務について 3限CRCの役割について 4限治験薬の管理体制の現場 5限統計コンサルティング業務の現場 6限報告書作成</p> <p>5日目 1限研修事前準備 2限当局対応業務について 3限放射線診断の現場 4限先端医療技術の現場 5限統計コンサルティング業務の現場 6限報告書作成</p> <p>国立循環器病研究センター 7月から9月で2日連続での集中講義で実施します (90分)</p> <p>1日目 第1回 研修概要説明 第2回 病院見学 第3回 循環器疾患基礎① 第4回 循環器疾患基礎②</p> <p>2日目 第5回 臨床試験立案① 第6回 臨床試験立案② 第7回 ランダム化割付① 第8回 ランダム化割付②</p> <p>3日目 第9回 標準サイズ設計① 第10回 標準サイズ設計②</p>
Continue to 臨床研究実地研修 I(3) ↓ ↓ ↓

臨床研究実地研修 I(3)
<p>第11回 グループワーク① 第12回 グループワーク②</p> <p>4日目 第13回 統計解析計画書① 第14回 統計解析計画書② 第15回 グループワーク③ 第16回 グループワーク④</p> <p>5日目 第17回 臨床試験倫理 第18回 倫理委・同意取得 第19回 グループワーク⑤ 第20回 グループワーク⑥</p> <p>6日目 第21回 グループワーク⑦ 第22回 グループワーク⑧ 第23回 総合発表① 第24回 総合発表②</p>
[Class requirement]
None
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]
実習にて作成する報告書または発表の内容に基づいて評価する。平常点 (出席状況など) も考慮する。
[Textbook]
Not used
[Reference books, etc.]
(Reference books)
[Regarding studies out of class (preparation and review)]
実習中に指示する。
Continue to 臨床研究実地研修 I(4) ↓ ↓ ↓

臨床研究実地研修 I(4)
<p>(Others (office hour, etc.))</p> <p>人間健康科学系専攻学生の受講可否： 不可</p> <p>*Please visit KULASIS to find out about office hours.</p>

知的財産経営学用科目

Course title -English- アントレプレナーシップ Entrepreneurship	Affiliated department, Job title,Name Graduate School of Medicine Project Professor,TERANISHI YUTAKA Part-time Lecturer,MUROTA KOJI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,KOYANAGI TOMOYOSHI Part-time Lecturer,YOSHIKAWA TOMOSADA Part-time Lecturer,YOTSUMOTO KENICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,YAMAGUCHI TARO	Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Course offered year/period	2018/Irregular, First semester
		Day/period	月6	Class style	Lecture	Language	Japanese
[Outline and Purpose of the Course]							
<p>コースの概要</p> <p>・前半では、汎用性が高い経営管理手法の習得に力点を置く。講義とケーススタディ演習を組み合わせて、アントレプレナーに必要な思考様式と基本的な経営管理手法の習得に費やす。</p> <p>・後半では、講義とワークショップ (ビジネスプランもしくはビジネスコンセプトの作成が中心) を組み合わせる構成とする。講義では、バイオ・医療産業セクターの産業構造の特徴や最新トピックについても触れたい。</p> <p>・年度ごとに重点テーマを変えているが、本年度はデザイン思考とビジネスモデル及びベンチャーの事業開発の手法の2点である。前者については、デザイン思考に基づくビジネスモデル作成のスキルを習得する。後者については、ベンチャー固有の資金調達手法 (含: VCからの調達、公的金融機関、リース、産業ファイナンス等) と事業計画作成スキルを、講義と演習を通じて身につけてもらいたい。</p> <p>教育・学習方法</p> <p>・本講座は、講義、ケーススタディ演習、ワークショップから構成される。ケーススタディ演習とワークショップに関しては、小グループによるプレゼンテーションがある。</p>							
[Course Goals]							
<p>・コースで習得した思考様式・経営管理手法・業界関連知識を活用することにより、医療系起業家としてのスキルを習得する。</p> <p>・これにより、事業シーズ探索から事業開発計画の立案まで出来る能力を獲得する。</p> <p>・この様な人材を当講座から輩出し、起業家と研究者との両面の資質を備えた人材を育成し、事業化成功の確率向上に寄与することが、本講座の最終目的である。</p>							
[Course Schedule and Contents]							
<p>第1回 4月9日ガイダンス/アントレプレナーシップ、デザイン思考 (寺西/小柳)</p> <p>第2回 4月16日ビジネスモデルの類型と収益構造、顧客戦略 (小柳)</p> <p>第3回 4月23日最適なビジネスモデルと戦略 (エスノグラフィー) (小柳)</p> <p>第4回 5月7日ショートケース演習 (損益計算書の使い方) (寺西)</p> <p>第5回 5月14日財務諸表の読み方 (四本)</p> <p>第6回 5月21日会社設立に関する法務・会計・税務 (四本)</p>							
Continue to アントレプレナーシップ(2) ↓ ↓ ↓							

アントレプレナーシップ(2)	
第7回 5月28日個人ビジネスアイデア発表 第8回 6月4日資金調達 (外部講師:長谷川) 第9回 6月11日サイエンスカフェ方式のアイデアの展開 (チームアップ) (小柳/寺西) 第10回 6月25日中間発表 (チーム別) 第11回 7月2日バイオベンチャーの歩み (外部講師) 第12回 7月9日バイオベンチャーの歩み (外部講師) またはケーススタディ (山口) 第13回 7月16日中堅企業の新規事業立ち上げ (吉川) 第14回 7月30日ビジネスモデルコンペ発表会 (寺西/小柳/山口) 第15回 7月30日産学連携活動の現状と大学発ベンチャー/京大のエコシステム (寺西/小柳/山口)	
*14回、15回は日程の都合により、同日(7月30日)に行う予定です。 *外部講師の都合等で日程変更の可能性あり。	
[Class requirement]	
知財必修・MPH選択	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]	
以下の3点を総合的に勘案して評価する。 ①平常点 (出席を含む)、発言頻度 (ケーススタディ演習によるプレゼンテーション、ディスカッションへの積極的参加等) ②チームワーク ③ビジネスモデル発表 (orレポート提出)	
[Textbook]	
必須テキスト:なし。講師が作成したPPT資料で代用。その他、適時講義中に参考資料を提示 推奨テキスト: 「バイオデザイン」ステファノス・ゼニオス、ジョシュ・マコーワー、その他(業事日報社) 「コーポレートファイナンス第6版上・下」リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ(日経BP社) 「ビジネスモデル・ジェネレーション:ビジネスモデル設計書」アレックス・オスターワルダー(翔泳社) 「リーン・スタートアップ」エリック・リース(日経BP社)	
[Reference books, etc.]	
(Reference books) Introduced during class	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
ビジネスモデル作成にあたり、担当チームでの検討作業が必須となる。	
Continue to アントレプレナーシップ(3) ↓ ↓ ↓	

アントレプレナーシップ(3)	
(Others (office hour, etc.))	
・タイトな講義内容ですが、合理的なカリキュラムを練っております。単なる知識の習得と言うよりも、ビジネス社会で通じる実践的な思考を習得出来るよう工夫しています。 ・17年度受講者が講義内で作成したビジネスモデルを基本としたものが、日刊工業新聞主催のビジネスコンペで入賞。また、23年度受講者のビジネスモデルは、大阪商工会議所・大阪NPOセンター等が主催する「CBフォーラムおおさか2011」での事業紹介として取り上げられ、大阪NPOセンターの事業化支援対象事業となりました。 ・このコースを受講した方は、M021夏期集中講義「アントレプレナーシップ特論」(ビジネスゲームによるキャッシュフロー管理、管理会計学の基礎入門コース)を受講できます。	
人間健康科学系専攻学生の受講可否:可	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	特許法特論・演習 (前期) Special Lecture and Practicum for the Patent Law I	Affiliated department, Job title, Name	Part-time Lecturer, FUJII ATSUSHI
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Course offered year/period	2018/Irregular, First semester		
Day/period	水 6	Class style	special lecture
Language	Japanese		
[Outline and Purpose of the Course]			
I. コースの概要 企業のほか、大学を含む研究機関において効果的な知財戦略を構築する上で、研究者の知財に関する意識・知識の向上が必要不可欠となっている。つまり、効果的な知財戦略を進めるに際しては、実際に、知財担当者(発明者)との協働が必要である。特に、ライフサイエンス分野(医薬、化学等を含む。)では、知財戦略上も実験データの存在意義が極めて大きく、その取り扱いによって知財戦略の明暗を分けることも多い。そこで、知財戦略を見据えた研究・開発が重要であり、そのための基礎としてライフサイエンス分野を中心とした特許実務の解説を行う。			
II. 学習到達目標 (このコース終了時点で習得が期待できること) ・一般的な特許実務に加え、化学・バイオ系分野に特有の特許実務を理解し、研究機関・企業における事業活動を有効にプロテクトするために必要な特許の基礎知識を身に付ける。 ・弁理士、特許庁審査官・審判官等の知財専門家と円滑な意思疎通を図るための必要最低限の知識を習得する。			
III. 教育・学習方法 ・パワーポイント資料、WEB資料を中心とした講義 ・各自の事前学習を含む事例資料を使用した事例紹介			
[Course Goals]			
一般的な特許実務に加え、化学・バイオ系分野に特有の特許実務を理解し、研究機関・企業における事業活動を有効にプロテクトするために必要な特許の基礎知識を身に付ける。さらに、弁理士、特許庁審査官・審判官等の知財専門家と円滑な意思疎通を図るための必要最低限の知識を習得する。			
[Course Schedule and Contents]			
第1回 4月11日 特許法概要:特許制度の原理、特許戦略のあり方、発明のカテゴリー・特許権の効力、化学・バイオ特許で多用される特殊なクレーム表現形式(用途発明、プロダクトバイプロセス、ファンクションクレーム)の特許性及び権利範囲の考え方 第2回 4月18日 特許法上の発明(1):化学・バイオにおける発明と発見との区別、作用機序の発見と特許性、日米欧における治療方法の取扱い、再生医療関連の発明の取扱い、臨床研究における成果物の取扱い 第3回 4月25日 特許法上の発明(2):発明の有用性及びそれに関する日米欧三極比較研究(遺伝子、タンパク、SNPsなど) 第4回 5月2日 記載要件(1):明細書の記載、実施可能要件、実施例の記載(特許における実験データの取扱い)、微生物の寄託制度 第5回 5月9日 記載要件(2):特許請求の範囲の記載要件(明確性)、数値限定発明における測定方法、化学・バイオ関連技術におけるクレームドラフティングにおける留意点、不正データの特許法上の取扱い			
Continue to 特許法特論・演習 (前期) (2) ↓ ↓ ↓			

特許法特論・演習 (前期) (2)			
第6回 5月16日 発明の新規性:上位概念・下位概念の関係、製法と物の発明との関係、数値限定発明の取扱い、日米欧における新規性喪失の例外の取扱い、新規性喪失の例外とPCT出願・米国出願との関係 第7回 5月23日 発明の進歩性(1):実務における発明の進歩性の考え方、進歩性判断における動機づけ・阻害要因の考え方、ライフサイエンス分野を中心とした周知技術・技術常識の取扱い 第8回 5月30日 発明の進歩性(2):発明の効果の非予測性、化学・バイオ関連発明における取得容易性、選択発明の考え方と実例 第9回 6月6日 先願:特許法39条と29条の2、上位概念・下位概念の関係、39条と自社先願対策 第10回 6月13日 特許出願戦略(1):手続補正と新規事項追加の考え方、新規事項と拒絶理由・無効理由、化学・バイオ関連に特有の問題(数値限定、実験データの追加・削除など) 第11回 6月20日 特許出願戦略(2):特許出願(分割出願、国内優先出願)の基本と実務上の利用方法、早期審査制度の活用、医薬・農業における特許権の延長登録制度の利用と業事法 第12回 6月27日 外国特許戦略:外国出願戦略の考え方、パリ優先権主張と外国出願、PCT出願の実務、外国出願のための費用と効果等 第13回 7月4日 ライセンス戦略:実施権の基礎、ライセンスの実務、契約書の基本条項、ライセンスとMTA 第14回 7月11日 特許侵害訴訟:特許侵害訴訟の実務と現状(1):特許侵害訴訟の概要 第15回 7月18日 特許侵害訴訟:特許侵害訴訟の実務と現状(2):特許侵害訴訟における原告又は被告としての実務対応の概要			
[Class requirement]			
知財必修・MPH選択			
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]			
平常点(出席を含む)、および効果確認試験			
[Textbook]			
テキストとして講義ごとにプリントを配布します。 下記の特許庁テキスト(平成29年度知的財産権制度説明会(初心者向け)テキスト)を配布しますので、そのテキストも併用します。 参考書は、特に指定はありません。例えば、下記のような資料を参考にして下さい。 (参考書等) a) 企業実務家のための実践特許法(外川英明著、中央経済社) b) 特許法(茶園成樹著、有斐閣) c) 特許庁説明会テキスト 特許庁HP>お知らせ>イベント情報>特許庁主催説明会・シンポジウム>説明会テキスト			
[Reference books, etc.]			
(Reference books) Introduced during class			
Continue to 特許法特論・演習 (前期) (3) ↓ ↓ ↓			

特許法特論・演習（前期）(3)	

[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
上記の配布予定の特許庁テキストの「第1節 特許制度の概要」等の該当箇所を一読していただく。	
(Others (office hour, etc.))	
・本講座と併せて知的財産経営学基礎を受講することを推奨します。	
人間健康科学専攻学生の受講可否：可	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	特許法特論・演習（後期） Special lecture and practicum for the Patent Law II	Affiliated department, Job title, Name	Part-time Lecturer, TANAKA JUNYA
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Course offered year/period	2018/Irregular, Second semester		
Day/period	水 6	Class style	special lecture
Language	Japanese		
[Outline and Purpose of the Course]			
授業の概要 ・化学・バイオ系（ライフサイエンス）の分野を中心として、研究成果である発明の抽出から特許出願、さらには特許権取得に至るまでの特許実務について演習を交えて学習する。特に、特許調査及び特許性の判断、実験データ等に基づく明細書（発明説明書）の作成、事例研究について具体例を題材として特許戦略の実務について理解する。 ・また、外部講師による特許戦略（外国戦略を含む）の実務・現状についての解説及びそれに基づく意見交換を行い、特許実務についての理解を深める。			
教育・学習方法 ・パワーポイント資料を中心とした講義ならびに実例を使った演習 ・各自の事前学習を含む事例資料を使用したケース研究講義			
[Course Goals]			
学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること） 個人学習・研究を含む演習を通じて、特許戦略の実務について理解を深め、その実務に最低限必要な基礎知識・能力を身に付ける。			
[Course Schedule and Contents]			
第1回 10月3日 特許明細書の読み方と書き方(1)：実際の特許明細書を参照して特許明細書の読み方と書き方を解説 第2回 10月10日 特許明細書の読み方と書き方(2)：実際の特許明細書を参照して特許明細書の読み方と書き方を解説 第3回 10月17日 特許明細書（発明説明書）の作成（1）：模擬的な実験データ及び発明完成までのシナリオに基づく発明の本質部分の抽出と整理 第4回 10月24日 特許明細書（発明説明書）の作成（2）：模擬的な実験データ及び発明完成までのシナリオに基づく発明の本質部分の抽出と整理 第5回 10月31日 特許明細書（発明説明書）の作成（3）：模擬的な実験データ及び発明完成までのシナリオに基づく発明の本質部分の抽出と整理 第6回 11月7日 特許明細書（発明説明書）の作成（4）：模擬的な実験データ及び発明完成までのシナリオに基づく発明の本質部分の抽出と整理 第7回 11月14日 ライフサイエンス分野における特許のポイント(1) 第8回 11月21日 特許明細書の分析(1)：特許明細書を分析し、プレゼンテーション・議論する。 第9回 11月28日 特許調査及び特許性の判断(1)：1つの特許公開公報を選び、特許調査及び特許性の判断を行い、プレゼンテーション・議論する。 第10回 12月5日 特許調査及び特許性の判断(2)：1つの特許公開公報を選び、特許調査及び特許性の判断を行い、プレゼンテーション・議論する。 第11回 12月12日 ライフサイエンス分野における特許のポイント(2)			
Continue to 特許法特論・演習（後期）(2) ↓ ↓ ↓			

特許法特論・演習（後期）(2)	
第12回 12月9日 事例研究(1)：バイオ・化学関連の審決取消訴訟の事例を題材として、個人学習・プレゼンテーションを踏まえて議論する。 第13回 1月9日 事例研究(2)：バイオ・化学関連の審決取消訴訟の事例を題材として、個人学習・プレゼンテーションを踏まえて議論する。 第14回 1月16日 ライフサイエンス分野における特許戦略上の実務ポイント(2) 第15回 1月23日 事例研究(3)：バイオ・化学関連の審決取消訴訟の事例を題材として、個人学習・プレゼンテーションを踏まえて議論する。	
[Class requirement]	
知財必修・MPH選択 事前に履修することが推奨される科目：「特許法特論・演習（前期）」	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]	
レポート（課題に対するプレゼンテーション）、ケース研究への参加を総合的に評価する。	
[Textbook]	
必須テキスト：なし。最低限必要な資料は講義にて配布する。 推奨テキスト：・特許の知識（竹田和彦著 ダイアモンド社） ・産業財産権標準テキスト特許編（発明協会） ・知的財産権法文集（発明協会）	
[Reference books, etc.]	
(Reference books)	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
特許公報、裁判例等を題材とした課題について、授業で発表してもらうため、授業前に事例研究を十分に行うことが必要となる。	
(Others (office hour, etc.))	
・特許実務について演習を交えて学習します。不安な方は初回に相談して下さい。 ・特許に関する基礎的知識がない方は、事前に特許法特論・演習（前期）を履修して下さい。	
人間健康科学専攻学生の受講可否：可	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	契約実務演習 Business Contract Practice	Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Project Professor, ABE SELJI Part-time Lecturer, SOJO ISAMU Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, SAOTOME CHIKAKO
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Course offered year/period	2018/Irregular, Second semester		
Day/period	火 6	Class style	Seminar
Language	Japanese		
[Outline and Purpose of the Course]			
コースの概要 知的財産の保護、運用、移転といった実務の各場面において、より効果的なマネジメント、紛争発生回避、あるいは紛争解決のためには、契約法の基本的理解に基づいた契約能力が要求される。 本講義では、契約法の基礎、リーガルリサーチの方法、独占禁止法の概要および共同研究契約、特許実施許諾契約などにおける留意点や契約交渉の基礎的技術等を創業分野の事例に基づいて学ぶ。			
教育・学習方法 講義および演習参加			
[Course Goals]			
・契約法の基礎を理解する ・契約のポイントを交渉から契約締結までの流れとともに理解する ・簡単な契約書を作成することができる			
[Course Schedule and Contents]			
第1回（阿部）10月2日イントロダクション 第2回（阿部）10月9日契約法概説 第3回（阿部）10月16日契約と特許 第4回（宗定）10月23日知的資本経営と契約 第5回（阿部）10月30日守秘義務契約 第6回（阿部）11月6日MTA (Material Transfer Agreement) 第7回（早乙女）11月13日リーガル・サーチ 第8回（早乙女）11月20日交渉術 第9回（阿部）11月27日共同研究開発契約（1） 第10回（阿部）12月4日共同研究開発契約（2） 第11回（阿部）12月11日共同研究開発契約（3） 第12回（阿部）12月18日特許実施許諾契約（1） 第13回（阿部）12月25日特許実施許諾契約（2） 第14回（阿部、仲里）1月8日契約交渉演習（1） 第15回（阿部、仲里）1月15日契約交渉演習（2）			
※外部講師の都合等で日程変更の可能性あり。			
Continue to 契約実務演習(2) ↓ ↓ ↓			

契約実務演習(2)	
[Class requirement] 知財必修・MPH選択 事前或いは同時に履修することが推奨される科目：知的財産経営学基礎、特許法特論・演習	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation] 平常点（出席を含む）、課題の提出、演習への参加、発表	
[Textbook] 必須テキスト：なし。資料等は教員より提供する 推奨テキスト：「知っておきたい特許契約の基礎知識」独立行政法人工業所有権情報・研修館http://www.inpit.go.jp/	
[Reference books, etc.] (Reference books) Introduced during class	
[Regarding studies out of class (preparation and review)] 適宜指示する	
(Others (office hour, etc.)) 人間健康科学系専攻学生の受講可否：可（事前に連絡してください） *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	知的財産法演習 Practicum for Intellectual Properties Protection Law	Affiliated department, Job title,Name	Part-time Lecturer,TOUMA HIROFUMI Part-time Lecturer,SOJO ISAMU
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Course offered year/period	2018/Irregular, Second semester		
Day/period	月6	Class style	Lecture
Language	Japanese		
[Outline and Purpose of the Course]			
I. コースの概要 ・化学・バイオ系（ライフサイエンス）分野における知的財産が我が国において、どのように保護、活用されているのかを裁判例等を踏まえつつ概観し、その現状、論点等について学習する。 ・過去の判決例からそのエッセンスや傾向を分析し、知的財産を適切に保護および活用するために必要な基本的な方法論を学ぶ。 ・ライフサイエンス分野における知的財産を取り巻く現状についても、併せて学習する。			
[Course Goals]			
II. 学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること） ・過去の重要判決例の主要論点を分析し、論理的にその意義を理解すると共に、具体的な事例演習を通して知的財産を適切に保護する実務能力を身に付ける。 ・判決例からそのエッセンスや近時の傾向を学ぶことにより、ライフサイエンス分野特有の知的財産の保護および活用方法についての実践力を身に付ける。 ・ライフサイエンス分野に関する知的財産を取り巻く現状について理解を深める。			
III. 教育・学習方法 ・パワーポイント資料を中心にした講義、および事例資料を使用した討議や演習を通じて理解を深める。			
[Course Schedule and Contents]			
第1回 10月1日ガイダンス、総論 第2回 10月15日熊谷先生：審判の役割について 第3回 10月22日審決・判決の読み方、審判制度 第4回 10月22日審決取消訴訟（新規性、進歩性） 第5回 10月29日宗定先生：知的資本経営を目指す 第6回 11月5日審決取消訴訟（進歩性）(1) 第7回 11月12日審決取消訴訟（進歩性）(2) 第8回 11月19日審決取消訴訟（記載要件、補正、訂正） 第9回 11月26日事例研究（進歩性）（発表、討論） 第10回 12月3日審決取消訴訟（存続期間延長登録出願） 第11回 12月10日特許権侵害訴訟（1）：特許権の効力、特許発明の技術的範囲、均等論、抗弁 第12回 12月17日熊谷先生：特許制度全般について 第13回 1月21日特許権侵害訴訟（2）：間接侵害等 第14回 1月21日特許権侵害訴訟（3）：間接侵害等 第15回 1月28日事例研究（侵害訴訟）（発表、討論） 試験なし ※外部講師の都合等で日程変更等の可能性あり。			
Continue to 知的財産法演習(2) ↓ ↓ ↓			

知的財産法演習(2)	
[Class requirement] 知財必修・MPH選択 特許法上の実務に関する基礎知識（特許要件、審査基準等）を有していることが望ましい。 事前あるいは同時に履修することが推奨される科目：「特許法特論・演習（前期、後期）」	
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation] 平常点（出席を含む）、および課題レポートの提出により、総合的に評価する。	
[Textbook] 必須テキスト：なし。必要な資料等は講義にて配布する。 推奨テキスト：別冊ジュリスト 特許判例百選 第4版〔No.209〕（2012年4月発行）	
[Reference books, etc.] (Reference books) Introduced during class	
[Regarding studies out of class (preparation and review)] 講義で紹介する予定の判決例を予習し、争点を把握しておく。	
(Others (office hour, etc.)) ・化学、バイオ等についての高度な専門知識は要しない（技術内容については必要に応じて適宜説明する。）。 ・講義予定は、暫定的なものであり、変更があり得るため、注意のこと。 ・10月22日及び1月21日は5限及び6限の連続講義となる予定です。 人間健康科学系専攻学生の受講可否：可 *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	知的財産経営学 基礎 Intellectual Property Management in Medical Science	Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor,SAOTOME CHIKAKO Part-time Lecturer,FUJII ATSUSHI Part-time Lecturer,TANAKA JUNYA
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Course offered year/period	2018/Irregular, First semester		
Day/period	火6	Class style	Lecture
Language	Japanese		
[Outline and Purpose of the Course]			
The course provides basic knowledge of patent and agreement of collaboration between academia and industry in life science area.			
[Course Goals]			
To learn about management of intellectual property in life science research. To learn about collaboration with industry.			
[Course Schedule and Contents]			
1 April 10 Introduction 2 April 17 What is Intellectual property 3 April 24 Practice of patent 4 May 8 Patent description 5 May 15 Search of prior art (1) 6 May 22 Foreign patent application 7 May 29 Search of prior art (2) 8 June 5 Material Transfer Agreement 9 June 12 Collaborative research 10 June 19 Writing of laboratory notebook 11 June 26 Practice of making invention disclosure document (1) 12 June 27 Topics of patent in life science area 13 July 3 Technology Transfer of medical seeds 14 July 17 Practice of making invention disclosure document (2) 15 July 24 Technology transfer			
[Class requirement] Management of Technology and IP:selective, MPH:selective			
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation] Attitude and attendance 40%, Presentation and reports 60%			
Continue to 知的財産経営学 基礎(2) ↓ ↓ ↓			

知的財産経営学 基礎(2)	

[Textbook]	
Not used	
[Reference books, etc.]	
(Reference books) 開藏 康一 『これからの生命化学研究者のためのバイオ特許入門講座』 (羊土社) ISBN: 4897063590 廣瀬 隆行 『企業人・大学人のための知的財産権入門 一特許権を中心に』 (東京化学同人) ISBN:4807907565	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Nothing in particular	
(Others (office hour, etc.))	
The class is open to students from Graduate School of Human Health Science. *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course title <English>	アントレプレナーシップ特論 Special Lecture for Entrepreneurship		Affiliated department, Job title,Name	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor.SAOTOME CHIKAKO Graduate School of Medicine Project Professor.TERANISHI YUTAKA Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor.YAMAGUCHI TARO Graduate School of Management Program-Specific Assistant Professor.ICHIHARA YUICHI		
	Target year	Professional degree students		Number of credits	2	Course offered year/period
Day/period	Intensive	Class style	special lecture		Language	Japanese
[Outline and Purpose of the Course]						
The aim of this course is to learn business accounting through the business game. Each group consisting two students runs a manufacturing company, i.e. set up a plant, hire employees, make and sell products, and calculate the profit by making a financial statement. Some accident such as fire also occur.						
[Course Goals]						
Understand basis of business accounting.						
[Course Schedule and Contents]						
1 August 2 Introduction 2 August 2 Description of rules of the game 3 August 2 Demo game 4~6 August 3 Business game I-III 7 August 3 Lecture of basis of accounting 8 August 3 Business management and investment 9~12 August 6 Business game IV-VII 13 August 6 Making presentation about results of the game 14 August 7 Lecture of management of venture business 15 August 7 Presentation about results of business game						
[Class requirement]						
MPH elective Attendance of all lecture is needed, because of practice of business game. Taking the Entrepreneurship is recommended.						
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]						
Attitude and attendance 40%, Presentation and reports 60%						
----- Continue to アントレプレナーシップ特論(2) ↓ ↓ ↓						

アントレプレナーシップ特論(2)	

[Textbook]	
Not used	
[Reference books, etc.]	
(Reference books)	
[Regarding studies out of class (preparation and review)]	
Students should understand rules of the game in advance, as we provide a rulebook and show the DVD before lecture.	
(Others (office hour, etc.))	
The class is open to students from Graduate School of Human Health Science. *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

平成30年度人間健康科学系専攻科目及び他部局開講科目
(公共政策大学院科目)における社会健康医学系専攻学生の
受講について

◎人間健康科学系専攻科目

一部の科目を社会健康医学系専攻の学生が受講することを認めています。
詳細は、KULASISで人間健康科学系専攻のシラバスをご参照ください。

◎公共政策大学院科目

以下の科目を社会健康医学系専攻の学生が受講することを認めています。
詳細は、KULASIS で公共政策大学院のシラバスをご参照ください。

- ・公共政策論 A・B
- ・行政システム
- ・財政システム
- ・CS 予算と政策分析
- ・CS 中央省庁の実態分析

博士課程教育リーディングプログラム（安全安心）

「グローバル生存学大学院連携プログラム」 授業科目

リーディングプログラム科目

授業科目名 <英訳>	リスク学通論 (リーディングプログラム) Introduction to Risk Studies		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 木原 正博							
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
<p>地球社会の安全・安心は、衛生・食料・人口・エネルギー・水・環境・自然災害・大規模事故・経済恐慌など、様々な要因によって脅かされている。地球社会の安全・安心を維持するためには、存在・予測されるリスクを認識・理解し、防御・軽減することが必要である。リスク(Risk)とは、一般的には、「ある行動に伴って(あるいは行動しないことによって)、このような危険事象に遭遇する可能性や損をする可能性を意味する概念」と理解されている。しかしながら、分野によってリスクの定義は異なっており、その用語の使い方には注意を要する。</p> <p>本授業では、多様なリスクの定義を紹介し、理解を深める。また、リスクの深刻さを評価するための手法として、リスク・アセスメントについて講述する。リスクを予防、回避、補償するさまざまな社会的、技術的方法を紹介し、安全安心な地球社会のあり方を議論する。</p> <p>【研究科横断型教育の概要・目的】 本科目は、博士課程教育リーディングプログラム「グローバル生存学大学院連携プログラム」において、学際融合教育研究推進センター・グローバル生存学大学院連携ユニットが提供しており、リスク概念について幅広い視野/知識を持った学生を育成することを目的としている。リーディング大学院プログラムに参画する医学研究科、教育学研究科、経済学研究科、理学研究科、工学研究科、農学研究科、情報学研究科、アジア・アフリカ地域研究研究科、地球環境学学・学舎に所属する学生の受講を歓迎する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル生存学においてカバーする「巨大自然災害」「突発的人為災害・事故」「環境劣化・感染症などの地域環境変動」「食料安全保障」などの諸問題に関する基礎知識を習得する。 ・上記の諸問題における具体的な事例から、リスク概念について幅広い視野/知識を習得する。 ・リスクの予防やその対策に関し、議論ができる。 											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・序論：本授業科目の枠組みとその意義を理解する。 ・種々の事例：地球社会の安全・安心を脅かす様々な危険事象の実例紹介。 ・自然災害分野におけるリスク：自然災害リスクと、その予防・軽減の技術的方策、世界的・政策的取り組みについて。 ・人為災害・事故、工学分野におけるリスク：工学系におけるリスクの概念紹介と数学的・確率的な取り扱いについて。 ・医療・健康分野におけるリスク：人間の生命・健康を脅かす医学的なリスクとその対処方法について。 ・国際関係とグローバル・リスク：食料の安全保障、経済危機などの問題と社会経済的、政治的な側面との関係を世界的な視野でとらえる。 ・リスクへの備え：リスク・アセスメント、リスク・コミュニケーション、リスク・マネジメント等のリスクの評価・回避、軽減手法について。 ・討論 <p>講義室：東一条館 思修館ホール</p>											

リスク学通論 (リーディングプログラム) (2)
【履修要件】
予備知識は特に必要としない。英語での読み書き、討論ができること。
【成績評価の方法・観点及び達成度】
講義への出席点と討論時の発言、学期末のテスト(レポート)の点数を総合評価する。
【教科書】
使用しない
【参考書等】
(参考書)
【授業外学習(予習・復習)等】
特になし
【その他(オフィスアワー等)】
この授業は、文系、理系の違いを越えて本学の大学院生に共通して取り組めるものである。異なる分野における学士課程を卒業し、一定の専門的知識を有する大学院生が混在するクラスにおいて、リスクに関わる諸問題をさまざまな観点から、分野横断的に講述されるものである。
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」

推進事業「公共圏における科学技術・教育研究拠点」

教育プログラム 授業科目

政策のための科学

授業科目名 ＜英訳＞	現代社会と科学技術（政策） Science and innovation for the society	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司								
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
本講義は、「政策のための科学」プログラムの必修科目の1つ（入門必修科目）である。本講義は、現代社会と科学技術入門と一貫した講義であり、受講者は現代社会と科学技術入門の講義から継続した受講が必要である。											
【到達目標】											
「政策のための科学」プログラムにおいては、科学と社会、政策とを「つなぐ人材」の養成を目標としている。この目的のために、様々な関連トピックを取り上げて、講師からの話題提供と、それに基づいた学生間のディスカッションを行い、科学の多様性と社会、政策を考えるための端緒とする。											
【授業計画と内容】											
【予定・内容】 第1回 10月04日 平川教授(大阪大学) トランス・サイエンスとParticipatory Technology Assessment 第2回 10月11日 末松教授 トランザクション・コストと経済政策 第3回 10月18日 全教員 研究プロジェクト中間発表会 第4回 10月25日 加藤教授(大阪大学) ヒト細胞研究の倫理とガバナンス 第5回 11月01日 田淵准教授 社会と科学の関わり方-ある研究不正問題を事例に- 第6回 11月08日 中山教授 疫学とゲノム科学から社会基盤を考える 第7回 11月15日 富田教授 技術の質の評価 第8回 11月22日 後藤准教授(慶応義塾大学) 医療費の増加と医療技術評価 第9回 11月29日 瓜生原准教授(同志社大学) 移植医療の社会的価値 第10回 12月06日 宮川教授 食品のリスクアナリシスと法整備の為の科学 第11回 12月13日 小山田教授 データ可視化と政策立案 第12回 12月20日 関根准教授 最先端大型研究施設の整備 第13回 01月10日 依田教授 「政策のための科学」の計量書誌学データ分析 第14回 01月17日 大手教授 水資源と森林の政策を考える 第15回 01月24日 宮野准教授 振り返りワークショップ											
【履修要件】											
本コースは現代社会と科学技術入門と一貫した講義であり、受講者は現代社会と科学技術入門の講義から継続した受講が必要である。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（出席を含む、50%）、レポート（50%）											
現代社会と科学技術（政策）(2)へ続く！ ↓ ↓											

現代社会と科学技術（政策）(2)
【教科書】
特になし
【参考書等】
(参考書) 特になし
【授業外学習（予習・復習）等】
適宜予習復習を求める。
【その他（オフィスアワー等）】
面談希望は必ずメールで kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp までご連絡下さい。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 ＜英訳＞	現代社会と科学技術入門（政策） Science and innovation for the society - invitation	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司								
配当 学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2018・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
本講義は、「政策のための科学」プログラムの選択科目の1つである。本講義は、現代社会と科学技術と一貫した講義であり、受講者は原則として本講義を先に受講する必要がある。											
【到達目標】											
「政策のための科学」プログラムにおいては、科学と社会、政策とを「つなぐ人材」の育成を目標としている。この目標のために、様々な関連トピックを取り上げて、講師からの話題提供と、それに基づいた学生間のディスカッションを行い、科学の多様性と社会、政策を考えるための端緒とする。											
【授業計画と内容】											
【予定・内容】 第1回 05月10日 宮野准教授 大学における学問とは？分野融合・越境のダイナミクス 第2回 05月17日 小山田教授 科学的方法について 第3回 05月24日 川上教授 健康福祉政策と情報の利活用 第4回 05月31日 ベッカー教授 現代社会の問題と政策のための科学的考え方 第5回 06月07日 伊勢田准教授 クリテリカルシンキングの観点からみた科学技術と社会 第6回 06月14日 複数教員 第一回課題発表会 第7回 06月21日 佐野教授 現代民主主義のもとでの政策決定 第8回 06月28日 広井教授 未来世代を支える政策の考え方 第9回 07月05日 吉田教授 未定 第10回 07月12日 全教員 研究プロジェクト中間発表会											
【履修要件】											
本講義は、現代社会と科学技術と一貫した講義であり、受講者は原則として本講義を先に受講する必要がある。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
出席（50%）、レポート（50%）											
【教科書】											
特になし											
【参考書等】											
(参考書) 特になし											
現代社会と科学技術入門（政策）(2)へ続く！ ↓ ↓											

現代社会と科学技術入門（政策）(2)
【授業外学習（予習・復習）等】
適宜予習復習を求める。
【その他（オフィスアワー等）】
面談希望は必ずメールで kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp までご連絡下さい。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 ＜英訳＞	科学技術イノベーション政策総合演習 (政策 Advanced Seminar on Science, Technology and Innovation Policy)				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司					
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 前期集中	曜時間	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
本講義は、「政策のための科学」プログラムのオリジナル科目の一つ（選択科目I：基軸科目群）である。プログラム1年目に履修することが望ましい。											
【到達目標】											
当該分野の先端的な知見を得るとともに、様々な視点から検討する。問題分析や政策提言等のグループワークを通じて、得られた知識の応用力を高めるとともに、各拠点の学生間の知的交流を促進する。											
【授業計画と内容】											
科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点（京都大学・大阪大学連携、政策研究大学院大学、東京大学、一橋大学、九州大学）合同の合宿セミナー。各拠点およびゲスト講師による講義とともに、共同で問題分析や政策提言等の作成を行うグループワークを行う。夏期休職中に、2泊3日程度の合宿形式で行われる。本年度は8月28日～8月30日に、政策研究大学院大学での実施を予定している。尚、大阪大学にて合宿事前ワークショップを開催する。時期については追って説明する。											
【履修要件】											
プログラム1年目に履修することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
成果物・提出物により、総合的に判断する。											
【教科書】											
特になし											
【参考書等】											
（参考書） 特になし											
【授業外学習（予習・復習）等】											
適宜予習復習を求める。											
【その他（オフィスアワー等）】											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 ＜英訳＞	研究プロジェクト（政策） Research project				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司					
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 通年不定	曜時間	その他	授業 形態	実習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
本講義は、「政策のための科学」プログラムの必修科目の一つである。プログラム2年目に履修すること。											
【到達目標】											
公共的視点から科学技術と政策や社会をつなぐ活動や成果物の作成を行うことにより、自らの専攻分野を生かしつつ、プログラムで学んだ知識やスキルを活用する能力を獲得する。											
【授業計画と内容】											
科学技術イノベーション政策に関連する具体的なトピックと方法論を用いて、「政策のための科学」に関連する個人研究もしくは共同研究のプロジェクトを実施し、小論文・研究レポート（日英可）を作成する。それぞれの研究テーマや進捗に合わせ、プログラム関連教員による個別指導を中心に進める（プロジェクトの内容に関しては、各自の専門の学位論文に関連したもので可）。1年次に研究計画を策定し、テーマ発表会を行う。2年次に京都大・大阪大の合同発表会を実施する。時期については追って説明する。											
【履修要件】											
履修前に、所属研究科の指導教員、および、本科目の担当教員に、研究計画等について相談すること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
成果物・提出物により、総合的に判断する。											
【教科書】											
研究指導担当教員の指示による。											
【参考書等】											
（参考書） 研究指導担当教員の指示による。											
【授業外学習（予習・復習）等】											
適宜予習復習を求める。											
【その他（オフィスアワー等）】											
研究指導担当教員の指示による。											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 ＜英訳＞	政策のための研究方法論 (政策) Research Methods for Policy				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司 政策学専攻准教授 特任教授 Becker, Carl Bradley					
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 前期	曜時間	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
本講義は、「政策のための科学」プログラムのオリジナル科目の一つ（選択科目II：イシュー科目群）である。											
社会政策を研究するためには、社会学、心理学、科学史、政治経済などの学問体系を股がらざるを得ない。本演習では、それぞれの学問領域の研究手法論を土台に、情報の検索・収集・分析から、論理構造や政策作りまで、学会発表を含め、高度な論文の研究法と書き方を目指して指導する。本演習によって、院生は信憑性と注目度の高い情報を直ぐに探せ、自分の研究論文の先行研究として位置付けられるようになる。そして論文の論理的構築と標準的形式を理解して、研究論文や出版投稿論文の基礎知識を身に付ける。											
【到達目標】											
本演習によって、学生は信憑性と注目度の高い情報を直ぐに探せ、それらを自分の研究論文の先行研究として位置付けられるようになる。そして論文の論理的構築と標準的形式を理解して、卒業論文や出版論文の基礎知識を身に付ける。											
【授業計画と内容】											
下記の様な内容を毎週紹介し、それぞれに関する宿題を一緒に添削・訂正する： 第1回 04月11日 オリエンテーション：メモの取り方、学術的集中法等 第2回 04月18日 研究テーマの選び方・絞り方・目的と研究題目 第3回 04月25日 論文調の表現や注意点・中心的概念の定義の種類 第4回 05月02日 基礎文献の特定・確認・検索方法 第5回 05月09日 Cinii/Web of Science による有用記事+目的の明瞭化 第6回 05月16日 書評で注目される著書の検索 第7回 05月23日 被引用件数で雑誌記事を検索 第8回 05月30日 アブストラクトの使い方と書き方 第9回 06月06日 アウトライン・目次 論理構造の形成 第10回 06月13日 新聞記事・大宅壮一 (+文献表) 第11回 06月20日 アウトライン・目次の実例再検討 第12回 06月27日 英語と日本語の博論・非売品～政府白書から科研・財団報告書 第13回 07月04日 目次の最終構成・文献表作成確認 第14回 07月11日 総まとめ、宿題提出 第15回 07月18日 フィードバック											
【履修要件】											
論文作成は、教冊の本を読めば出来る作業ではなく、広範囲な文献収集を要するので、計画的な時間配分を心がけられる大学院生を期待する。											
政策のための研究方法論 (政策)(2)へ続く↓↓↓											

政策のための研究方法論 (政策)(2)											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
中間の提出：10%、学期末レポート試験：30%、毎回の出席と宿題提出：60%、と計算して評価する。 なお、4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
【教科書】											
授業中に紹介・配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 高橋昭男『仕事文の書き方』（岩波新書） 小笠原誠『読み書きの技法』（筑摩書房）											
【授業外学習（予習・復習）等】											
授業外学習としては、毎回、受講者の研究テーマに関する作文か、図書館やデータベースで資料に基づく調査か、いずれかの作業を必要とする。毎週提出された作文や資料は、次週に返却され、その積み重ねで成果が上がってゆく。またディスカッションの種にもなるので、その予習と提出は欠かせない。											
【その他（オフィスアワー等）】											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 「医療政策のELSI」(政策) <英語> ELSI in Health Policy		担当者所属・ 職名・氏名 医学研究科 教授 川上 浩司 保健医療課程センター 特任教授 Becker, Carl Bradley		医学研究科		教授		川上 浩司			
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
本講義は、「政策のための科学」プログラムのオリジナル科目の一つ(選択科目II:イシュー科目群)である。											
本講義では、倫理・法律・社会学(ELSI)の立場から高齢社会の問題等を文化論的に探求する。例えばインフォームド・コンセント(治療選択・自己決定権)、Truth-Telling(告知)、医療情報の公開・透明性・所有権、を出发点として、公共資源分配と医療保険制度の問題点を提起し、また医療倫理学の思考法の問題点も検討する。コンフリクトに出遭う時、狭い主観的な見地から、より多元・多様な見解・理解ができるようになることは、本授業の取り上げる問題解決のみならず、今後の政策検討に於いて有益なスキルになるとと思われる。											
[到達目標]											
マニュアルやルールブックによる絶対唯一の正解ではなく、その文化と状況に応じて最も相応しい倫理行動を探る、頭の訓練を繰り返す。コンフリクトに出遭う時、狭い主観的な見地から、より多元・多様な見解・理解ができるようになることは、本授業の取り上げる問題解決のみならず、今後の人生に於いても有益なスキルになるとと思われる。											
[授業計画と内容]											
下記の様な内容を毎週紹介し、それぞれに関する宿題と一緒に添削・訂正する。											
第1回 10月03日 倫理とは? 政策に於けるELSIとは? 自己紹介と生命倫理学の紹介											
第2回 10月10日 症例紹介とその分析法・ステークホルダー論											
第3回 10月17日 人口と医療福祉費配分問題											
第4回 10月24日 家庭内暴力・虐待											
第5回 11月07日 重大欠陥新生児											
第6回 11月14日 障害者福祉											
第7回 11月21日 致命的選択/優先順位											
第8回 11月28日 QALYs/医療政策											
第9回 12月05日 ACP・AD・POLSTと尊厳死・安楽死・自死											
第10回 12月12日 脳死・臓器移植											
第11回 12月19日 死別と悲嘆のケア											
第12回 12月26日 自己健康管理											
第13回 01月09日 動物実験・研究倫理とCOI											
第14回 01月16日 総まとめ											
第15回 01月23日 フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
----- 「医療政策のELSI」(政策) (2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----											

「医療政策のELSI」(政策) (2)											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点評価 出席40%、中間課題20%、期末課題40%											
[教科書]											
多くのビデオや参考資料を授業中に紹介する											
[参考書等]											
(参考書)											
[授業外学習(予習・復習)等]											
毎回、宿題を提出してもらい、前回の宿題を返却する。その積み重ねの過程によって、スキルが身に付くので、途中で休んだりすると、次の段階が分からなくなる。よって、毎回の出席と宿題提出が重要になる。											
(その他(オフィスアワー等))											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 科学技術コミュニケーション演習(政策) <英語> Science, Technology and Communication Seminar		担当者所属・ 職名・氏名 医学研究科 教授 川上 浩司		医学研究科		教授		川上 浩司			
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
本講義は「政策のための科学」プログラムの必修科目の1つ(連携必修科目)である。「政策のための科学」プログラムにおける研究プロジェクトを進めるうえで必要となる、問いの立て方、仮説検証に関する方法論、プレゼンテーションスキルの習得等を目的とする。あわせて、受講生におけるディスカッションを通じて、研究に関する批判的考察能力を涵養する。											
[到達目標]											
科学技術を巡る社会的課題を各分野における分析のフレームワークで捉え、政策分析手法によって論理的に論じられることを到達目標とする。受講生におけるディスカッションによって、実践的に能力の習得を目指す。											
[授業計画と内容]											
受講生は事前に発表等の準備を行うこと、また、ディスカッションには積極的に参加することを期待する。											
【予定・内容】 前期・後期に渡り、以下15回を予定する。具体的な日程は、講義開始前に連絡予定。											
◇前期 第1回 オリエンテーション・講義概要 第2回～第3回 問いの立て方-課題検討 課題:「政策のための科学」において取り組む研究プロジェクトのテーマの建て方と絞り方を一緒に検討する。 第4回～第7回 先行研究のレビュー 課題:研究プロジェクトにおける先行研究の収集方法、分析法、そしてそのレビューとなるプレゼンを用意する。											
◇後期 第8回～第11回 科学的政策分析の手法 課題:研究プロジェクトで用いる論理と分析手法を確認し合う。 第12回～第15回 効果的なプレゼンテーション術 課題:研究の状況をパワーポイントにまとめ、発表の準備を行う											
[履修要件]											
特になし											
----- 「科学技術コミュニケーション演習(政策) (2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----											

科学技術コミュニケーション演習(政策) (2)											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
中間(2-3回)の発表:計25%、期末発表:15%、毎回の出席と宿題提出:60%、と計算して評価する。なお、4回以上授業を欠席した場合、単位は認めない。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書)											
[授業外学習(予習・復習)等]											
特になし											
(その他(オフィスアワー等))											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

「グローバルヘルス学際融合ユニット」

教育プログラム 授業科目

授業科目名 <英訳>	社会起業とグローバルヘルス Social entrepreneurship and global health	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 木原 正博								
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	講義	使用 言語	英語
[授業の概要・目的]											
*この授業は、グローバルヘルス学際融合ユニットが提供する授業です。											
社会起業social entrepreneurshipとは、貧困、病気、非識字、環境破壊、人権侵害、汚職などの社会問題を解決し、より多くの人々によりよい生活を保証するために、市民が組織を作って行う活動のことを意味します。京都大学の「自由の学風」に則り、社会疫学分野では、「社会起業とグローバルヘルス」と題する、世界でも数少ない講義を開設することにしました。この講義では、コミュニティ、国家、世界など様々なレベルの、公衆衛生に関連する社会的問題を、これまでの常識を打ち破る発想で解決しようとする精神を醸成することを目的としています。受講者は、現在の世界的動向や科学的エビデンス、そして、社会起業を行うのに必要な、問題分析のスキルや、ビジネス原理に基づく持続可能な問題解決を導くスキルを学びます。こうしたスキルや原理は、これまでの公衆衛生では扱われてきませんでしたが、政策に影響を与え、資金を獲得し、持続的な社会改革をもたらすには不可欠なものです。											
[到達目標]											
(1)社会起業の学術的基礎を習得する。 (2)社会起業が、NGO、NPO、慈善事業、ビジネスセクターの起業とどのように異なるかを知る。 (3)社会起業に必要なビジネス分野の知識を習得する。 (4)海外もしくは国内の社会起業家とコネクションを作る。 (5)社会起業のスケープと学際性を理解し、その広い応用範囲を理解する。											
[授業計画と内容]											
後期水曜日4限目											
Oct.5 Introduction to Social Entrepreneurship and Public Health Oct.12 Implementing the concept of social Entrepreneurship Oct.19 Ethics of innovation Oct.26 An example of Social Entrepreneurship in Developing Countries (Technology innovation for better societies) Nov.2 An example of Social Entrepreneurship in Developed Countries (Aging Business) Nov.9 Social Entrepreneurship in Health (1): Health care Nov.16 Financial literacy Nov.30 Social Enterprise business planning (1): rationale, successful planning Dec.7 Social Enterprise business planning (2): business model Dec.14 Impact Analysis (1) Dec.21 Impact analysis (2) Jan.4 Inclusive design Jan. 11 Preparation session for the final presentation Jan 18 Field trip Jan 25 Final presentation											
その他の講義担当者											
社会起業とグローバルヘルス(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

社会起業とグローバルヘルス(2)											
Christina Al-saaidi (社会健康医学系専攻社会疫学分野)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
出席30%、グループワーク20%、最終発表50% (単位取得のためには、合計で60%以上の得点を得ていることが必要)。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) (1)David Bornstein, How to Change the World: Social Entrepreneurs and the power of New Ideas. Oxford University press, New York, 2007. (2)David Bornstein and Susan Davis: Social Entrepreneurship- What everyone needs to know. Oxford University press, New York, 2010.											
[授業外学習 (予習・復習) 等]											
予習・復習は必要なし											
[その他 (オフィスアワー等)]											
講義場所：医学研究科社会疫学分野セミナー室 (医学部先端科学研究棟2階204号室) 連絡先：4350											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	グローバルヘルス通論 Global health	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 木原 正博 医学研究科 講師 Pilar Suguimoto								
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	英語
[授業の概要・目的]											
*this is the course offered by the Global Health Interdisciplinary Unit (GHUI)											
This course includes a wide variety of classes to provide students with insight into the current challenges for global health. Students will be introduced to the socio-cultural, economic, political, and environmental factors that affect the health of populations globally. A series of guest speakers will be drawn from diverse fields to share their expertise.											
[到達目標]											
Gain an understanding of why tackling global health issues is such an important endeavor with the potential to reduce poverty, build stronger economies and promote peace.											
[授業計画と内容]											
後期水曜日3限目 医学部先端科学研究棟1階セミナー室											
(Tentative: Speaker and the order of the topics will be changed)											
Oct 3 Introduction: Why study global health? Speaker: Masahiro Kihara Professor, Department of Global Health and Socio-epidemiology School of Public Health, Kyoto University											
Oct 10 Health, Education, Poverty and the Economy Speaker: Megumi Kano, Technical Officer, Urban Health, WHO Centre for Health Development, Kobe											
Oct 17 Global Health Policy Speaker: Patou M. Musumari Assistant Professor, Department of Global Health and Socio-epidemiology School of Public Health, Kyoto University											
Oct 24 The Role of Innovation and Technology in Changing People's lives: An example of Social Entrepreneurship in Developing Countries (* Joint class with "Social Entrepreneurship and Public Health") Speaker: Toshihiro Nakamura, Co-Founder and CEO, Kopernik											
Oct 31 Noncommunicable diseases Speaker: Hemant Poudyal Assistant Professor, Department of Diabetes, Endocrinology and Nutrition Graduate School of Medicine and The Hakubi Center for Advanced Research, Kyoto University											
Nov 7 Public-Private Partnership in Global Health Speaker: BT Slingsby											
グローバルヘルス通論(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

グローバルヘルス通論(2)											
CEO, Global Health Innovative Technology Fund (GHIT)											
Nov 14 Global Women's and Children's Health Speaker: Rintaro Mori Director, Departments of Health Policy and of Clinical Epidemiology, National Center for Child Health and Development											
Nov 21 The environment and health Speaker: Kouji Harada Associate Professor, Health and Environmental Sciences School of Public Health Kyoto University											
Dec 5 Global Mental Health Speaker: Toshi A. Furukawa Professor, Department of Health Promotion and Human Behavior, School of Public Health Kyoto University											
Dec 12 Global Infectious Diseases Speaker: Teeranee Techasrivichien Assistant Professor, Department of Global Health and Socio-epidemiology School of Public Health Kyoto University											
Dec 19 Migration and Global Health Speaker: Wako Asato Associate Professor, Graduate School of Letters, Kyoto University											
Dec 26 Culture and Health Speaker: S. Pilar Suguimoto Junior Associate Professor, Medical Education Center, Graduate School of Medicine, Kyoto University											
Jan 9 Energy and Global Health Speaker: Hooman Farzaneh Associate Professor, Advanced Energy Generation Division Institute of Advanced Energy, Kyoto University											
Jan 16 Global Health and Aging Speaker: Kozo Matsubayashi Professor Emeritus, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University											
Jan 23 Report and Feedback											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
-Lectures, discussion -Attendance (30%) and final report (70%)											
グローバルヘルス通論(3)へ続く ↓ ↓ ↓											

グローバルヘルス通論(3)
【教科書】
使用しない There is no official textbook for this course
【参考書等】
(参考書) Skolnik, Richard 『Global Health 101 (3rd ed.)』 (Jones and Bartlett Publisher) Skolnik R (著), 木原 正 (監訳), 木原 雅 (監訳) 『グローバルヘルス：世界の健康と対処戦略の最新動向』 (メディカル・サイエンス・インターナショナル) Additional readings may be suggested when necessary
【授業外学習 (予習・復習) 等】
Not necessary
【その他 (オフィスアワー等)】
Students must be proficient in English Room: Small seminar room, 1st floor of the Science Frontier Laboratory, Medicine Campus Extension: 4350 (MK), 9323 (PS) *Please visit KULASIS to find out about office hours. ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

Course title <English>	社会起業とグローバルヘルス Social entrepreneurship and global health		Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Professor, KIHARA MASAHIRO	
Target year	1st year students or above	Number of credits	2	Course offered year/period	2018/Second semester
Day/period	Fri.4	Class style	Lecture	Language	English
[Outline and Purpose of the Course]					
*This is the course provided by Interdisciplinary Unit for Global Health					
Social entrepreneurship by definition is a process by which citizens build or transform institutions to advance solutions to social problems, such as poverty, illness, illiteracy, environmental destruction, human rights abuse and corruption in order to make life better for many. While embracing the liberal culture of Kyoto University, the Department of Global Health and Socio-epidemiology is introducing a 15-week Social Entrepreneurship and Public Health course. This course is basically targeting graduates enrolled in the School of Public Health who are passionate about creating positive change in the society. It will foster "out-of-the-box thinking" on solving social problems linked to Public Health at community, national or even global level. This course will further orient students to the field of social entrepreneurship by introducing them to current trends and scientific evidence from the field. Students will learn essential skills needed to be successful social entrepreneurs starting from analyzing an identified problem in the society to implementing sustainable solutions utilizing business principles. Such skills and principles are not currently present in public health courses yet essential to influence policy, mobilize funding and bring about sustainable social change. This course use "teaching by example", exposing students to real social enterprises to be analyzed and discussed with the founders of these enterprises.					
*Not all students enrolled in this course will be social entrepreneurs but, to the least, we expect to ignite the social enterprise way of thinking to every student. To the students that will eventually become social entrepreneurs; we hope to provide an opportunity for them to acquire the depth and breadth that they will need in their journey to make a difference in the lives of many.					
[Course Goals]					
To build a strong academic base for students passionate about social entrepreneurship. 1-To help students to understand social entrepreneurship and how it differs from NGOs, NPO, philanthropy and the business-sector definition of entrepreneurship. 2-To create a broad vision of social entrepreneurship and its multidisciplinary implications in diverse fields (like public health). 3-To help students to gain business literacy while thinking of public health solutions to current societal challenges. 4-To encourage students to make connections with local and international social entrepreneurs.					
[Course Schedule and Contents]					
Friday 4th session					
Oct.5 Introduction to Social Entrepreneurship and Public Health Oct.12 Implementing the concept of social Entrepreneurship Oct.19 Ethics of innovation Oct.26 An example of Social Entrepreneurship in Developing Countries (Technology innovation for better Continue to 社会起業とグローバルヘルス(2) ↓ ↓ ↓					

社会起業とグローバルヘルス(2)				
sities)				
Nov.2 An example of Social Entrepreneurship in Developed Countries (Aging Business) Nov.9 Social Entrepreneurship in Health (1): Health care Nov.16 Financial literacy Nov.30 Social Enterprise business planning (1): rationale, successful planning Dec.7 Social Enterprise business planning (2): business model Dec.14 Impact Analysis (1) Dec.21 Impact analysis (2) Jan.4 Inclusive design Jan. 11 Preparation session for the final presentation Jan 18 Field trip Jan 25 Final presentation				
[Class requirement]				
None				
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]				
30% attendance 50% final presentation 20% group work and business plan preparations				
[Textbook]				
Not used Lectures, videos, group work and discussions, case study and panel discussions. Materials that will be distributed at the time of each class.				
[Reference books, etc.]				
(Reference books) (1)David Bornstein, How to Change the World: Social Entrepreneurs and the power of New Ideas. Oxford University press, New York, 2007. (2)David Bornstein and Susan Davis: Social Entrepreneurship- What everyone needs to know. Oxford University press, New York, 2010.				
[Regarding studies out of class (preparation and review)]				
Lectures, videos, group work and discussions, Case study and panel discussions.				
(Others (office hour, etc.))				
-Students having passion to contribute in solving social problems as well as willingness to study in English will be welcome. Room: Seminar room of the Department of Global Health and Socio-epidemiology, 2nd floor of the Science Frontier laboratory, School of medicine TEL: 4350 *Please visit KULASIS to find out about office hours.				

Course title <English>	グローバルヘルス通論 Global health		Affiliated department, Job title, Name	Graduate School of Medicine Professor, KIHARA MASAHIRO Graduate School of Medicine Senior Lecturer, Sonia Pilar Sugumoto Watanabe	
Target year	1st year students or above	Number of credits	2	Course offered year/period	2018/Second semester
Day/period	Wed.3	Class style	Lecture	Language	English
[Outline and Purpose of the Course]					
*this is the course provided by the Interdisciplinary Unit for Global Health					
This course includes a wide variety of classes to provide students with insight into the current challenges for global health. Students will be introduced to the socio-cultural, economic, political, and environmental factors that affect the health of populations globally. We will also examine global health interventions to understand features of successful programs. A series of guest speakers will be drawn from diverse fields to share their expertise.					
[Course Goals]					
Gain an understanding of why tackling global health issues is such an important endeavor with the potential to reduce poverty, build stronger economies and promote peace.					
[Course Schedule and Contents]					
Wednesday 3rd session Seminar room, first floor, Bldg of Science Frontier Laboratories (Tentative: Speaker and the order of the topics will be changed)					
Oct 3 Introduction: Why study global health? Speaker: Masahiro Kihara Professor, Department of Global Health and Socio-epidemiology School of Public Health, Kyoto University					
Oct 10 Health, Education, Poverty and the Economy Speaker: Megumi Kano, Technical Officer, Urban Health, WHO Centre for Health Development, Kobe y					
Oct 17 Global Health Policy Speaker: Patou M. Musumari Assistant Professor, Department of Global Health and Socio-epidemiology School of Public Health, Kyoto University					
Oct 24 The Role of Innovation and Technology in Changing People's lives: An example of Social Entrepreneurship in Developing Countries (* Joint class with "Social Entrepreneurship and Public Health") Speaker: Toshihiro Nakamura, Co-Founder and CEO, Kopernik					
Oct 31 Noncommunicable diseases Speaker: Hemant Poudyal Assistant Professor, Department of Diabetes, Endocrinology and Nutrition Graduate School of Medicine and Continue to グローバルヘルス通論(2) ↓ ↓ ↓					

グローバルヘルス通論(2)				
The Hakubi Center for Advanced Research, Kyoto University				
Nov 7 Public-Private Partnership in Global Health Speaker: BT Shingsby CEO, Global Health Innovative Technology Fund (GHIT)				
Nov 14 Global Women's and Children's Health Speaker: Rintaro Mori Director, Departments of Health Policy and of Clinical Epidemiology, National Center for Child Health and Development				
Nov 21 The environment and health Speaker: Kouji Harada Associate Professor, Health and Environmental Sciences School of Public Health Kyoto University				
Dec 5 Global Mental Health Speaker: Toshi A. Furukawa Professor, Department of Health Promotion and Human Behavior, School of Public Health Kyoto University				
Dec 12 Global Infectious Diseases Speaker: Teeranee Techasrivichien Assistant Professor, Department of Global Health and Socio-epidemiology School of Public Health Kyoto University				
Dec 19 Migration and Global Health Speaker: Wako Asato Associate Professor, Graduate School of Letters, Kyoto University				
Dec 26 Culture and Health Speaker: S. Pilar Sugumoto Junior Associate Professor, Medical Education Center, Graduate School of Medicine, Kyoto University				
Jan 9 Energy and Global Health Speaker: Hooman Farzaneh Associate Professor, Advanced Energy Generation Division Institute of Advanced Energy, Kyoto University				
Jan 16 Global Health and Aging Speaker: Kozo Matsubayashi Professor Emeritus, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University				
Jan 23 Report and Feedback				
[Class requirement]				
None				
Continue to グローバルヘルス通論(3) ↓ ↓ ↓				

グローバルヘルス通論(3)
[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]
-Lectures, group work, discussion, case studies -Attendance (30%), and final examination or report (70%)
[Textbook]
Not used
[Reference books, etc.]
(Reference books) Skolnik, Richard 『Global Health 101 (3rd ed.)』 (Jones and Bartlett Publisher) Skolnik R (著), 木原 正 (監訳), 木原 雅 (監訳) 『グローバルヘルス：世界の健康と対処戦略の最新動向』 (メディカル・サイエンス・インターナショナル) There is no official textbook for this course. Instead, the course may use chapters from textbooks and readings from academic literature. Readings will be introduced when necessary
[Regarding studies out of class (preparation and review)]
Not necessary
(Others (office hour, etc.))
Students must be proficient in English Room: Seminar room, 1st floor of the Science Frontier laboratory, School of Medicine TEL: 4350 *Please visit KULASIS to find out about office hours.

